

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 19 号 (2013 年度)

KPMNH Yearbook

No. 19

2013.4 – 2014.3

Web版



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN

Nov. 2014

ごあいさつ

日頃より、当館の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
さて、昨年度（2013年度）の当館のあらゆる活動を、年報第19号としてまとめましたので、ご覧いただければ幸いです。

2013年度も当館の使命を果たすとともに、県民の方々に親しまれる開かれた博物館を目指して活動・運営することで、来館者をはじめ多くの方にご活用していただきました。それは館員だけでなせることではなく、博物館ボランティアや友の会のご協力や、館内で働かれている委託業者の皆さんのおかげです。

博物館の活動は、いまさら言うまでもなく資料収集・整理保管、調査研究、展示、そして教育普及です。当館も1995年の開館以来、その活動を続けてきています。本年報には、2013年度の各活動の結果を詳細に記載してあります。この年報を見れば、当館の活動のすべてを見ることができます。年々厳しくなる運営予算の中ですが、昨年度も創意工夫を凝らし活動してきました。特に記すべきことは、特別展「益田 一と日本の魚類学」を天皇陛下にご覧いただけたことです。自然史研究にご造詣の深い陛下にご来館いただけたことは、当館にとって大変光栄なことでした。

さて、最近の評価ばやりは博物館も例外ではありません。博物館の評価をする場合、どこの館でも入館者数を取り上げられます。数字が出るのでわかりやすいからでしょうが、しかし博物館の評価は入館者数だけで測ることはできません。博物館の根幹をなす標本や資料、図書・雑誌などの収蔵点数、調査研究活動の結果である論文や学会発表、それらを基にして開催される特別展や企画展と様々な講座や講演会、観察会、レファレンスなどの普及活動もあります。もちろん数だけでなく質も重要です。そして、それらの活動を支える管理運営などもすべて含めて博物館の評価となるべきです。年報には、その評価の基となる情報が記載されています。

博物館の基本的な活動は不変です。私たちは、自然の証拠となる資料を途切れることのないように収集し、保管し、研究し、展示、普及を行い、未来に継承していきます。

本年4月より斎藤靖二前館長より重責を引き継ぐこととなりました。今後も館員とともに、より魅力のある博物館を目指して活動していくつもりですので、皆さまでのご理解とご協力をお願いいたします。

2014年11月
神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 平田 大二

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源（DNA）を表すスパイラル（らせん）をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として

地球の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

ごあいさつ	1		
神奈川県立生命の星・地球博物館の使命	2		
シンボルマーク・ロゴタイプ	2		
I 沿革	4		
1. 沿革	4		
2. 2013 年度の主な出来事	5		
II 機能	6		
1. 運営管理機能	6		
1.1. 事業体系	6		
1.2. 組織	7		
1.3. 職員名簿	8		
1.4. 利用者	9		
1.5. 歳入歳出決算	9		
2. 情報発信機能	9		
2.1. 常設展示	9		
2.2. 特別展示	12		
2.3. 活動報告展およびその他の展示	14		
2.4. SEISA ミュージアムシアター	15		
2.5. ミューズ・フェスタ 2014	17		
3. シンクタンク機能	19		
3.1. 調査研究事業	19		
3.2. 研究発表会	20		
3.3. 研究助成金による研究	20		
3.4. 著作活動・学会発表等	21		
3.5. レファレンス件数	31		
3.6. 各種委員・役員・非常勤講師・その他	31		
3.7. 講師依頼等	34		
3.8. 学術交流	36		
3.9. 他施設・団体への協力	37		
3.10. 外部研究者の受け入れ	37		
3.11. 名誉館員	38		
4. データバンク機能	38		
4.1. 資料概況	38		
4.2. 図書資料収集状況	45		
4.3. 資料利用状況	46		
4.4. 資料燻蒸	47		
5. 学習支援機能	48		
5.1. 生涯学習への対応	48		
5.2. 学校教育への対応	54		
5.3. 博物館実習	57		
5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動	59		
5.5. 学習指導員による学習支援活動	59		
5.6. 博物館のボランティア活動	63		
5.7. 広報	66		
6. 刊行物	68		
6.1. 定期刊行物	68		
6.2. 刊行物販売状況	69		
7. 情報システム	70		
7.1. システムの概要	70		
7.2. サブシステムの紹介	71		
7.3. インターネットの利用	71		
7.4. 情報提供	72		
8. 連携機能	73		
8.1. 友の会	73		
8.2. サロン・ド・小田原	75		
8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	75		
8.4. 館内施設等の状況	77		
III 資料	79		
1. 条例・規則	79		
1.1. 神奈川県立の博物館条例	79		
1.2. 神奈川県立の博物館組織規則	80		
1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則	80		
2. 館年表	82		
2.1. 再編整備決定から開館まで	82		
2.2. 開館から 2013 年度末まで	82		
3. 統計資料	85		
3.1. 利用者状況	85		
3.2. 年度別利用者数の推移	86		
3.3. 特別展・企画展開催実績	87		
3.4. 資料登録実績	89		
3.5. ホームページアクセス実績	90		
3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績	90		
3.7. Fish Pix アクセス実績	90		
3.8. WESCAMS ミュージアムリレー実績	91		
3.9. 来館者アンケート	95		
4. 調査研究関連資料	96		
4.1. 研究成果	96		
4.2. 研究成果（外部資金助成・共同研究等）	105		
5. 施設概要	106		
5.1. 土地・建物	106		
5.2. 設備	107		
5.3. 面積表	109		
5.4. 平面図	110		
ご利用案内	112		

I 沿革

1. 沿革

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応大学名誉教授））から提言
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990 年	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10 月	建築基本設計着手
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10 月	第一期造成工事着手
1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994 年	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
	3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3 月 8 日	平成 6 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3 月 20 日	開館記念式典実施
	3 月 21 日	一般公開開始
	5 月 7 日	入館者 10 万人到達（41 日目）
	9 月 24 日	入館者 30 万人到達（158 日目）
1996 年	4 月	シンボルマーク製作
	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（321 日目）
1997 年	7 月 23 日	入館者 100 万人到達（705 日目）
1998 年	3 月 30 日	天皇陛下・皇后陛下行幸啓
	11 月 3 日	入館者 150 万人到達（1,090 日目）
2000 年	3 月 31 日	濱田隆士館長退任
	4 月 1 日	青木淳一館長就任
	8 月 6 日	入館者 200 万人到達（1,613 日目）
2001 年	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会を廃止
2002 年	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（2,206 日目）
2004 年	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（2,770 日目）
2006 年	3 月 31 日	青木淳一館長退任
	4 月 1 日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる。 斎藤靖二館長就任
	7 月 8 日	入館者 350 万人到達（3,409 日目）
2008 年	8 月 12 日	入館者 400 万人到達（4,062 日目）
2010 年	10 月 21 日	入館者 450 万人到達（4,863 日目）
2012 年	8 月 3 日	入館者 500 万人到達（5,183 日目）
2013 年	10 月 8 日	天皇陛下行幸
2014 年	1 月 13 日	入館者 550 万人到達（5,716 日目）
2014 年	3 月 31 日	斎藤靖二館長退任

2. 2013 年度の主な出来事

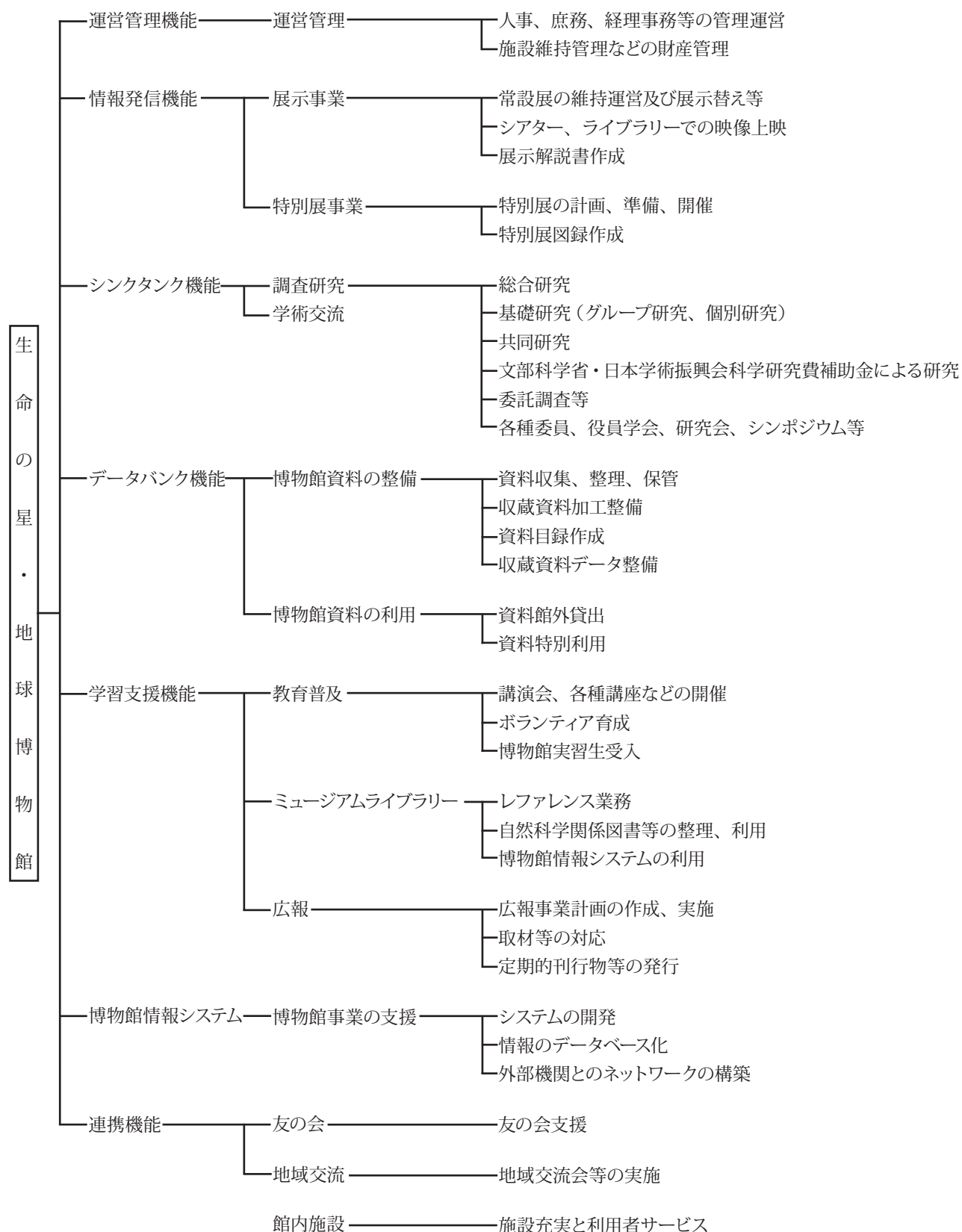
2013年	4月1日	定期人事異動
	4月20日～5月26日	企画展「学芸員の活動報告」
	6月15日	サロン・ド・小田原「真鶴の海の生物」
	6月17日～20日	燻蒸
	7月20日～11月4日	特別展「益田 一と日本の魚類学～魚類図鑑に生涯を捧げたDANDY～」
	7月21日～8月31日	夏休み期間中無休開館期間
	7月27日～8月17日	館長と話そう（夏休み期間中の毎週土曜日）
	8月3日	サロン・ド・小田原「益田 一さんとの思い出と魚類図鑑」
	9月10日	防災訓練
	9月28日	サロン・ド・小田原「虫と『向き合う』」
	10月8日	天皇陛下行幸（特別展天覧）
	11月30日	サロン・ド・小田原「クマの365日、クマと山」
	12月14日～2月23日	企画展「アンデスを越えて - 南米パタゴニアの火山地質調査から-」
2014年	2月1日	サロン・ド・小田原「アンデスを越えて」
	2月9日～23日	博物館ボランティア入門講座（3～5日間）
	3月15日・16日	ミューズ・フェスタ2014
	3月27日・28日	定期監査（平成25年度対象）
	3月22日～4月6日	子ども自然科学作品展

博物館の再編整備の決定以降、2013 年度までの出来事の
詳細に関しては、資料の項（82 ～ 84 ページ）に掲載した。

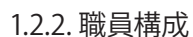
II 機能

1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2.1. 組織および分掌



指導員＝博物館学習指導員
再任用職員は常勤に含む
緊急雇用創出事業臨時特例基金事業費雇用の非常勤職員を除く

1.3. 職員名簿

掲載省略

1.4. 利用者

2013 年度の博物館利用者数について、利用内容ごとに延べ人数を集計した。詳細な利用者統計に関しては、個別に掲載(学芸員によるレファレンス対応数は 31 ページ、それ以外の利用者状況詳細は 85 ～ 86 ページ、開館以来の入館者実績は 86 ページ)。

◆博物館利用者 352,066 人

2013 年度の博物館総利用者数。「入館者」+「講座・観察会・講演会・研修等参加者」+「学芸員への質問・相談利用者」の合計(博物館外、開館時間外に利用された場合も含む)。

◆入館者 329,340 人 (1,101 人／開館日)

「常設展入場者」+「特別展・企画展入場者」+「ライブラリー利用者」の合計から重複を除いた入館者数。

◆ライブラリー利用者 97,463 人

ミュージアムライブラリーの利用者合計。書籍閲覧、学習指導員による学習支援、レファレンスなど。

◆常設展入場者 240,240 人 (803 人／開館日)

◆講座・観察会・研修等参加者 24,765 人

講座・観察会・講演会、研修・出前講座(館主催でないものを含む)、サロン・ド・小田原、ミュージズフェスタなどの参加者。

◆特別展・企画展等入場者 73,769 人

「特別展」、「企画展」を主とした、特別展示室入場者数。(詳細は 85 ページ参照。)

◆学芸員への質問・相談者 3,158 人

学芸員によるレファレンス対応数(来館・電話・FAX・手紙・E メールなどによる。マスコミ取材・企業・自治体からの質問・相談を含む。詳細は 31 ページ参照。)

1.5. 歳入歳出決算

平成 25 年度歳入

科目	金額(千円)	内訳
教育財産使用料	1,921	レストランほか 建物等使用料
博物館使用料	45,702	観覧料収入 常設展 42,736 特別展 2,966
受講料収入	205	県立機関活用講座受講料
立替収入	1,729	レストランほか 電気・ガス・水道
雑入	1,694	展示解説書等販売収入 ライブラリー複写代等
合計	51,251	

平成 25 年度歳出(人件費を含まず)

科目	金額(千円)	内訳
維持運営費	169,148	館の維持管理及び事業運営
展示事業費	13,237	総合案内業務 特別展の開催
調査研究事業費	1,530	総合研究・基礎研究 調査研究報告書の作成
資料整備費	2,982	博物館資料収集 収蔵展示資料修繕・加工
学習支援事業費	1,519	各種講座・講演会等の開催・図書等資料 整備・広報資料作成
県立機関活用講座 開催事業費	181	講座 開催
情報システム整備費	2,446	データ入力等
合計	191,043	

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」をテーマとして、46億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の営みの神秘性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもってわかりやすく展示している。

具体的には、4つのサブテーマおよびジャンボブックで構成する常設展示と、特定のテーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映する SEISA ミュージアムシアターなどで、来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールでは、地球の環境に生息していた生物を代表として、白亜紀の陸・海・空から、陸：恐竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラ、トウプクサーラ）をシンボルとして展示している。また、これらを展示しているステージでは、ガイダンス映像（上映時間：3分20秒）を繰り返し上映している。こ

の映像では、開館当時から出演者による手話によって、聴覚障害者への対応を行っているが、2006年7月より日本語字幕を追加した。

また、「記念撮影コーナー」として、ミュージアムシアター入り口付近にアラスカヒグマの剥製を2005年11月3日より展示している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の4つのサブテーマに分けて展示を行っている。

展示室1「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

展示室2「生命を考える」では、約4億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

展示室3「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製、植物模型などで展示している。

展示室4「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつづけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響をうけ変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2013年度の展示変更および更新

「生命を考える」展示室 陸上への進出「爬虫類（ワニ・ミズオオトカゲ）剥製の台座固定」

〔展示期間〕2014年1月16日～

〔展示概要〕剥製に手を触れて爬虫類の歯や鱗の形状を認識する。

〔展示資料〕ワニ、ミズオオトカゲの剥製。

〔担当〕松本涼子

「生命を考える」展示室 恐竜の時代「展示ケース内更新」

〔展示期間〕2014年3月9日～

〔展示概要〕以下の恐竜の歯11標本を展示し、触れるレプリカ6標本（下線）を併せて展示した。

〔担当〕大島光春

〔協力〕磯崎 誠（古生物ボランティア）

・カルカロドントサウルスの一種 *Carchalodontosaurus* sp. 竜盤目竜脚亜目カルカロドントサウルス科 モロッコ産

・ディプロドクスの一種 *Diplodocus* sp. 竜盤目竜脚亜目ディプロドクス科 アメリカ合衆国ワイオミング州モリソン層産

・ティラノサウルス・レックス *Tyrannosaurus rex* 竜盤目獣脚亜目ティラノサウルス科アメリカ合衆国モンタナ州ヘルクリーク層産

・パキケファロサウルス・ワイオミングエンシス

Pachycephalosaurus wyomingensis 鳥盤目堅頭下目パキケファロサウルス科 アメリカ合衆国サウスダコタ州ヘルクリーク層産

・ステゴサウルス・ステノプス *Stegosaurus stenops* 鳥盤目剣竜下目ステゴサウルス科 アメリカ合衆国コロラド州モリソン層産

・スピノサウルス・エジプトチャクス *Spinosaurus aegyptiacus* 竜盤目獣脚亜目スピノサウルス科 モロッコ産

・トリケラトプス・ホリヅス *Triceratops horridus* 鳥盤目角竜下目トリケラトプス科 アメリカ合衆国モンタナ州産

・ナノティラヌス・ランケンシス *Nanotyrannus lancensis* 竜盤目獣脚亜目ティラノサウルス科 アメリカ合衆国サウスダコタ州ヘルクリーク層

・ゴルゴサウルス・リブラツス *Gorgosaurus libratus* カナダアルバータ州ジュディスリバー層産

・ダスプレトサウルス・トロスス *Daspletosaurus trosus* アメリカ合衆国モンタナ州トゥーメディシン層産

・エウオプロケファルス・ツツス *Euoplocephalus tutus* 鳥盤目曲竜下目アンキロサウルス科 アメリカ合衆国モンタナ州ジュディスリバー層産

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。

第 17 巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(春の植物)』
[展示期間] 2013 年 2 月 22 日～2013 年 5 月 29 日
[展示内容] 春の田園は雑草のお花畑・春に咲く樹の花
原色標本：ホトケノザ・スズメノテッポウ・フキ・ヤマブ
キ・マメザクラ・ウワミズザクラほか
[担当] 勝山輝男・田中徳久・大西 亘
[協力] 植物ボランティア

第 17 巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(春の植物)』
[展示期間] 2013 年 5 月 29 日～2013 年 8 月 9 日
[展示内容] 空とぶたね(カエデとシデ)・装飾花をつけ
る花々
原色標本：オオイタヤメイゲツ・ハウチワカエデ・サワシ
バ・イヌシデ・ガクアジサイ・ツルアジサイ・ヤブデマリ・
ヤマボウシほか
[担当] 勝山輝男・田中徳久・大西 亘
[協力] 植物ボランティア

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館 2 階「ミュージアムライブラリー」前にある情報
コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連する
タイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供すること
を目的として設置されている。このコーナーには主に紙面
による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資
料による情報を提供する企画展示コーナーが設置されてい
る。

情報展示パネル

[展示内容] 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介
[展示更新] 随時
[担当] 博物館友の会広報部

企画展示コーナー

最長 3 カ月を目安に、最新の情報を提供することを目的と
して展示替えを行った。

海洋研究開発機構の紹介展示Ⅱ 東北地方太平洋沖地震調 査を中心に

[展示内容] 海洋研究開発機構の活動を紹介するパネル
展示とともに、東北地方太平洋沖地震に関連する調査・
研究や調査で得られた地下構造などを紹介した。
[展示期間] 2013 年 3 月 16 日～5 月 9 日
[展示資料] 海洋研究開発機構紹介パネル 1 点、東北
地方太平洋沖地震に関連する調査・研究一覧のパネル
展示、しんかい 6500 で見た深海底のパネル展示 1 点、
巨大地震を発生させた海底の変動の紹介パネル 1 点、
プレート境界断層の解明に関する調査紹介パネル 1 点、
調査で得られた地下断面図 1 点、「ちきゅう」模型 1 点
[担当] 海洋研究開発機構・山下浩之

第 17 巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(春の植物)』
[展示期間] 2013 年 8 月 9 日～2013 年 12 月 25 日
[展示内容] 秋を彩るキク科植物
原色標本：コウヤボウキ・アキノキリンソウ・ノハラアザ
ミ・タムラソウ・モリアザミほか
模型：ツワブキ・カワラノギク・タテヤマギク
[担当] 勝山輝男・田中徳久・大西 亘
[協力] 植物ボランティア

第 17 巻 神奈川の植物『四季のいろいろ(夏の植物)』
[展示期間] 2013 年 12 月 25 日～2014 年 4 月 4 日
[展示内容] 冬枯れの植物と木の実、草の実
原色標本：ツリバナ・エビヅル・ガマ・テイカカズラ
実物：ウバユリ・クズ・ホウノキ
[担当] 勝山輝男・田中徳久・大西 亘
[協力] 植物ボランティア

地質の日・国際博物館の日

[展示内容] 5 月 10 日が「地質の日」、18 日が「国際博
物館の日」であることを紹介するため、ポスター展示を
行った。
[展示期間] 2013 年 5 月 10 日～5 月 20 日
[展示資料] ポスター 3 点
[担当] 田口公則・大島光春

植物の"灰"がみせるやきもの

[展示内容] 植物の特徴を、やきものの釉薬(ゆうやく、
うぐすり)という視点で比較。陶研究会(箱根ジオパー
ク推進協議会員)による植物の種類・焼成温度で比較
した焼成実験結果を陶芸作品とともに展示。
[展示期間] 2013 年 6 月 21 日～7 月 22 日
[展示資料] 実験結果テストピースパネル、植物灰解説
パネル、植物灰資料、やきもの作例(壺、皿など)
[担当] 陶研究会・笠間友博

ホネ学入門

[展示内容] 骨を注意深く観察し様々な動物の骨を比
較することで、その動物がどんな運動に適しているのか、
あるいは進化の道筋を知る事ができる。頭骨を観察する
際にどこに着目すると、どんな事が分かるのかをクイズ
形式で紹介。
[展示期間] 2013 年 7 月 22 日～9 月 21 日
[展示資料] 頭骨に関する展示解説パネル 3 点、クイズ
パネル 3 点、インドガビアル頭骨 1 点、オオサンショウ
ウオ頭骨 1 点、カナダガン頭骨 1 点、ニホンウサギ 1
点、ティラノサウルス頭骨模型 2 点
[担当] 松本涼子

本小松石が魅せる焼き物の表情

〔展示内容〕 真鶴町で産する高級石材「本小松石」。この加工の際に出る切削屑を焼き物に利用できないか、陶研究会（箱根ジオパーク推進協議会）による実験とその結果としての焼き物を展示。

〔展示期間〕 2013 年 11 月 6 日～12 月 19 日

〔展示資料〕 本小松石標本、切削屑標本、実験結果小皿、釉薬混合実験結果パネル、解説パネル、やきもの作例（壺、抹茶碗、皿など）

〔担当〕 陶研究会・笠間友博

カニ館

〔展示内容〕 当館所蔵の甲殻類のコレクションを用いて多様なカニのハサミの運動機能を解説し、カニのハサミの魅力を紹介。多様なカニのハサミを比較しながら、その機能について考察を促す展示。

〔展示期間〕 2014 年 2 月 6 日～3 月 6 日

〔展示資料〕 カニのはさみと用途の関係解説パネル 1 点、カニってどんな生物なの？解説パネル 1 点、はさみを持

つ生物解説パネル 1 点、はさみの使い方解説パネル 3 点、乾燥標本（オオタスマニアガニノコギリガザミ、エンコウガニほか全 29 点）、液浸標本（シオマネキ、ヤシガニ）

〔担当〕 河合巧幾（名古屋大学修士課程）・佐藤武宏・松本涼子

いきもの探偵団

〔展示内容〕 身近な生き物たちが起こす事件を、探偵になって解決しよう！

「いつの間にかタンスの服に穴ぼこが…」どうやら犯人は私たちのすぐそばにいる生き物たちのようだ。どんな生き物なのか探ってみよう。

環境教育インタープリター集団「IP-egg」のみなさんによる参加体験型の展示。

〔展示期間〕 2014 年 3 月 8 日～4 月 6 日

〔展示資料〕 鳥・哺乳類の剥製（スズメ、キクイダタキ、ツバメ、アズマモグラ、ヒミズ、アカネズミ）アズマモグラの坑道

〔担当〕 IP-egg・広谷浩子・大島光春

2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2013 年度は特別展を 1 回、企画展を 1 回開催した。

2.2.1. 特別展

特別展 益田 一と日本の魚類学 ―魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY―

〔開催期間〕 2013 年 7 月 20 日（土）～11 月 4 日（月・振休） 97 日間

〔会場〕 特別展示室

〔後援〕 日本魚類学会、魚の会、伊豆海洋公園ダイビングセンター、いとう漁業協同組合富戸支所、東海大学出版会、アナン・インターナショナル、有限会社花林舎、月刊ダイバー、月刊マリンダイビング、神奈川新聞社

〔特別協力〕 荒俣 宏

〔協力〕 稲 英史、内野啓道、瓜生知史、遠藤広光、小野篤司、甲斐嘉晃、加藤 強、岸本多美子、鈴木敬宇、鈴木寿之、高瀬 歩、中坊徹次、波戸岡清峰、林 公義、牧野紘一、御宿昭彦、森田 稔、森田康弘、柳田満彦、横田雅臣、日本水中映像株式会社、新江ノ島水族館、東海大学海洋科学博物館、小田急グループ

〔展示担当〕 瀬能 宏、佐藤武宏、松本涼子

〔特別展実行委員会〕 瀬能 宏、新井田秀一、佐藤武宏、松本涼子、川井容子、阿部雅明、西田直永

〔特別展実行サポート〕 加藤ゆき、木村恭子

〔特別展外部運営委員〕 益田安規子、中村宏治、小林安雅

〔特別展ボランティア〕 高橋里恵、惣道敬子、林 弘章、柴田美奈子、星野和子、木村洋子、加賀玲子、当館魚

類ボランティアメンバー

〔展示項目と内容〕 益田 一氏（1921 ～ 2005）は、魚類の研究にダイビングや水中写真がとても役に立つことを日本で最初に気づいた人物です。益田氏の活動により、日本産魚類の分類や分布の研究は飛躍的な進歩を遂げました。また、益田氏は多数の図鑑を出版しましたが、中でも当時の皇太子殿下（現在の天皇陛下）を含む日本の魚類研究者の総力を結集し、氏が筆頭編者として纏め上げた「日本産魚類大図鑑」は世界に誇れる業績としても有名です。この特別展では、益田氏が日本の魚類学の進歩に果たした役割や、氏が活動の拠点とした相模湾で発見された魚類について、標本や写真などを使って紹介しました。

◎シンボル

益田氏が発見に貢献し、新科新属新種として記載されたホタテエソ標本を展示。

◎益田 一氏のあゆみ

生い立ちや経歴をパネルにより紹介。

◎益田 一氏と伊豆海洋公園

伊豆海洋公園の地理や地形、伊豆海洋公園の紹介パンフレットなどを展示。

◎大深度潜水と採集

大深度潜水による採集方法をパネルにより解説。

◎大深度潜水と採集

大深度潜水による採集風景を、ウェットスーツやタンク、

レギュレーターなど、実物の潜水器材を使って忠実に再現し、ジオラマ展示した。

◎相模湾の魚類相

相模湾の魚類相の日本における位置付けと、湾内の魚類相の地点間の違いをパネルで解説。

◎相模湾から発見された“新種”の魚たち

相模湾で近年発見された未記載の魚類 9 種をパネルと標本 (3 点) で紹介。

◎水中撮影

益田氏が実際に使用したニコノス II 型を含む水中カメラや水中ビデオ器材を展示。

◎標本撮影

益田氏が実際に使用したニコン FM2 を装着した標本撮影セットをジオラマ風に再現。

◎水槽撮影

水槽撮影セットをジオラマ風に再現し、益田氏の水槽撮影方法を解説。

◎益田 一氏撮影の標本写真を使った最初の図鑑

益田氏が考案した方法で撮影した標本写真を使った図鑑 2 点を展示。

◎益田 一氏写真コレクション

益田氏が図鑑作製等のために撮りためたポジフィルムの一部を展示。

◎展鱗 (鱗立)

虫ピンやトレイ、小ビニール袋、標本番号札など、展鱗に必要な小道具一式を展示し、展鱗の方法や展鱗の様子をパネルで紹介。

◎取材旅行

「日本産魚類図鑑」(益田 一他編、東海大学出版会、1984 年) 作製のために行った魚類の撮影旅行を記録した益田氏のビジネス手帳 5 点を展示。それらに基づき、当時の取材旅行の一端をパネルで紹介。

◎益田 一 氏の名前がついた魚

シマキツネベラ *Bodianus masudai*、アカイソハゼ *Eviota masudai*、ルソンベニテグリ *Foetorepus masudai*、アヤトリカクレエビ *Izucaris masudai* の標本を展示。

◎マスダオコゼ

マスダオコゼ *Cocotrous masudai* が益田氏に由来する名称ではないことを標本と資料により解説。

◎伊豆海洋公園魚類コレクション

伊豆海洋公園から当館へ移管された標本群を展示。

◎益田 一氏が報告した日本新産の魚

益田氏が日本新産として報告した魚類 5 種をパネルや論文別刷りで紹介。うち、標本 3 点を展示。

◎益田 一氏が発見に貢献した重要な魚

益田氏が発見に貢献した魚類の中でも特に魚類学上重要なもの 6 種をパネルや論文別刷り、標本で紹介。

◎益田 一氏が記載した新種の魚

益田氏が新種として記載した魚類 10 種をパネルや論文別刷り、標本で紹介。

◎魚類図鑑：南日本の沿岸魚

掲載種 1252 種すべてをカラー標本写真で収録した画期的な原色魚類図鑑「南日本の沿岸魚」(益田他編、東海大学出版会、1975 年刊) と、収録されている代表的な魚類 9 種の標本、当時の宣伝パンフレットなどを展示。

◎日本産魚類大図鑑

3200 種を収録した世界最大の原色魚類図鑑「日本産魚類大図鑑」(益田他編、東海大学出版会、1984 年刊) と、収録されている代表的な魚類 9 種、出版を祝う会の記念写真、当時の宣伝パンフレットなどを展示。

◎I. O. P. Diving News (伊豆海洋公園通信)

益田氏が発行者となって創刊された I. O. P. Diving News (伊豆海洋公園通信) 全 177 号を展示。

◎益田 一氏が製作したビデオ

益田氏が監督、もしくは氏が経営する会社に著作権のあるビデオ 7 点を展示。

◎益田 一氏が執筆した普及図書

益田氏の著書、編書、監修書の目録をパネルで紹介し、そのうち普及図書 21 点を展示。

◎世界の原色魚類図鑑

世界の代表的な原色魚類図鑑を展示。

- ・大博物学時代の図鑑 3 点
- ・カリブ海、南アメリカ 7 点
- ・ヨーロッパ、東部大西洋 5 点
- ・東部太平洋、北アメリカ 7 点
- ・マレーシア、インド洋 9 点
- ・オセアニア、中部太平洋 9 点
- ・フィリピン、インドネシア、オーストラリア北部 5 点
- ・中国、台湾、韓国 7 点

◎日本の原色魚類図鑑の歴史

日本の原色魚類図鑑の歴史をパネルと実物 (14 点) で紹介。

[展示解説書] 編集：瀬能 宏 表紙デザイン：惣道敬子 デザイン：佐藤武宏 制作：佐藤武宏、松本涼子、瀬能 宏 執筆：尼岡邦夫、荒賀忠一、荒俣 宏、ジェラルド・R・アレン、井田 齊、上野輝彌、奥野淳兒、落合 明、小野篤司、岸本浩和、ユージニ・クラーク、小林安雅、坂本一男、鈴木克美、須之部友基、瀬能 宏、中坊徹次、中村宏治、新井田秀一、波戸岡清峰、林 公義、星野和子、益田安規子、松浦啓一、寰島恭雄、キャサリン・ミュージック、山川 武、吉野哲夫、ジョン・E・ランドール 英文訳：松本涼子、佐藤武宏

[ポスター・ちらし・チケット] デザイン：惣道敬子

[ジオラマ製作指導] 相川 稔

[入場者数] 44,134 人

[関連行事]

◎第 1 回講演会 さかなクンとさかなの名前をおぼえよう! 平成 25 年 8 月 21 日 (水曜) 13 時～14 時 30 分 当館 SEISA ミュージアムシアター 講師：さかなクン (東京海洋大学客員准教授)

◎第 2 回講演会 海中散歩でひろったりボン ―益田 一

と伊豆・小笠原の意外な関係― 平成 25 年 9 月 15 日(日曜) 13 時～14 時 30 分 当館 SEISA ミュージアムシアター 講師：中山 千夏(作家)

◎第 3 回講演会 魚類図鑑の歴史をひもとく ―ルナールから益田 一まで― 平成 25 年 10 月 13 日(日曜) 13 時～14 時 30 分 当館 SEISA ミュージアムシアター 講師：荒俣 宏(作家)

◎サロン・ド・小田原 友の会共催 益田 一さんの思い出と魚類図鑑 平成 25 年 8 月 3 日(土曜) 17 時 30 分～18 時 30 分 当館講義室 話題提供：瀬能 宏(当館学芸員)

◎平成 25 年度魚の会第 1 回講演会 魚の会共催 日本魚学の系譜 ―田中茂穂博士の以前と以後― 平成 25 年 5 月 19 日(日曜) 14 時～15 時 30 分 当館講義室

講師：中坊徹次(京都大学総合博物館・京都大学大学院農学研究科教授)

◎平成 25 年度魚の会第 2 回講演会 魚の会共催 日本人魚類学者の系譜 ―田中茂穂から松原喜代松とその後― 平成 25 年 8 月 18 日(日曜) 14 時～15 時 30 分 当館講義室 講師：松浦啓一(国立科学博物館特任研究員)

◎平成 25 年度魚の会第 3 回講演会 魚の会共催 益田師匠との旅 平成 25 年 11 月 4 日(月曜・振休) 14 時 30 分～16 時 当館 SEISA ミュージアムシアター 講師：中村宏治(日本水中映像株式会社代表取締役社長)

◎博物館ちよこつと体験コーナー 魚めりえ 平成 25 年 7 月 21 日(日曜)、8 月 5 日(月曜)、8 月 6 日(火曜)、8 月 18 日(日曜)、8 月 19 日(月曜)、8 月 20 日(火曜)

2.2.2. 企画展

企画展 アンデスを越えて―南米パタゴニアの火山地質調査から

〔開催期間〕 2013 年 12 月 14 日～2014 年 2 月 23 日

開催日数は 55 日

〔会場〕 特別展示室

〔展示担当〕 平田大二

〔協力〕 安間 了、岩森 光、折橋裕二

〔展示項目と内容〕

なぜパタゴニアへ・アンデスを越えて・アンデスの火山・氷河地帯の火山・パタゴニアの火山・花崗岩の山・タイタオ半島・海洋プレートが溶けてできるマグマ・パタゴニアの火山と富士・箱根の火山・パタゴニアの砂・こぼれ話・

調査研究経過と成果

南米大陸のアンデス山脈は、環太平洋火山帯のひとつである。火山はアンデス山脈を越えて、パタゴニアの大平原にも存在する。この企画展では、南米大陸南部のアンデス山脈 からパタゴニア大平原にみられる火山の姿と地質・岩石、その周辺の自然を紹介した。なお、この企画展は、2000 年 1 月から開始された日本、チリ、アルゼンチン、ブラジルなどの研究者によるパタゴニア海外学術調査の研究成果の一部である。

〔展示点数〕 岩石、鉱物、砂等標本類 125 点。その他、研究成果論文、関係図書、地図、写真解説パネル等。

〔入場者数〕 14,921 人

2.3. 活動報告展およびその他の展示

特定の調査研究や資料収集に限らず、広く博物館活動を紹介し、また地域との連携協力の結果としての展示を、当館特別展示室を中心として行っている。

2.3.1. 活動報告展

博物館業務は、調査研究、資料収集、教育普及、展示など、多岐にわたっているが、展示を除いて、その内容を紹介する機会は少ない。そこで、年間の活動を報告する機会を設け、博物館活動、特に学芸員の業務への理解を深めてもらうことを目的として、活動報告展を実施している。

活動報告展(2012 年度の活動報告)

〔開催期間〕 2013 年 4 月 20 日(土)～5 月 26 日(日)

開催日数は 32 日

〔会場〕 特別展示室

〔入場者数〕 10,631 人

〔企画担当〕 大西亘

〔展示担当〕 新井一政・石浜佐栄子・大島光春・笠間友博・加藤ゆき・勝山輝男・荏部治紀・川島逸郎・小坂井千夏・佐藤武宏・瀬能 宏・田口公則・田中徳久・新井田秀一・平田大二・広谷浩子・山下浩之(五十音順)、外来研究員

〔内容〕 各学芸員が特に 1 つの事業を選んで紹介し、全体として、博物館活動、学芸員の業務への理解を深めてもらうことを目的として展示を行った。

ただし、個別研究の最終年度にあたっている学芸員については、その成果を発表することを必須とした。

また、博物館教育普及事業に関連して、博物館ちよこつと体験コーナーの活動報告を紹介する展示を行った。

1. 資料収集事業の紹介

「奥村コレクション」

2. 調査研究事業の紹介

「博物館周辺に生息する両生・爬虫類」「海洋コアを使って、こんな研究をしています。有孔虫から知る過去の日本海の環境変動」「岐阜県可児市の中新統中村層から 日本新産 *Plesiosorex* 属下顎骨化石の発見」「日本産アオスゲ類は何種ある? — 形態と分子系統に基づく分類学的整理 —」「タイトル未定(調査の様子と研究成果の紹介)」「松田町寄に産する田代石について」「スゲ属ヤガミスゲ節の帰化植物」「形」はいかに移り変わるのか? サラサヤンマの幼虫生長から.」「Q. ツキノワグマは1日にどのくらい活動するの?」「干潟のチゴガニのウェイビング行動」「なぜ大磯ではチョウセンハマグリのかどもがみつからないのか」「2種に分かれた日本のメダカ:標準和名の提唱と解説」「鎌倉天園、化学合成化石群集の貝殻密集層の産状」「神奈川

県の維管束植物相の特徴と変遷に関する研究 — 一次の「神奈川県植物誌」へ向けて—」「デジタル標高モデル (DEM) を用いた神奈川の地形解析」「丹沢・伊豆島弧衝突に伴う火成活動の時空的変遷」「博物館周辺の哺乳類の生息状況」「相模湾と房総沖の海底調査 KT-12-35 航海の報告」「富士火山、青木が原溶岩の地質学的・岩石学的研究」「クリ畑におけるウマノオバチとカミキリムシ 2 種 (ミヤマカミキリ, シロスジカミキリ) との関係」「逗子市神武寺の変形菌相」「小型哺乳類による巣穴の共同利用について」

3. 教育普及事業の紹介

「博物館における研究者なりきりプログラム ～食べる海洋コア編～」」「箱根ジオパーク火山実験報告」「ボランティアとともにつくり活用する鳥類標本」「ちよこっと体験コーナーの写真展示」

2.3.2. その他の展示

子ども自然科学作品展

〔開催期間〕 2014 年3月22日(土)～4月6日(日)

開催日数 16 日(2013 年度内は 10 日間)

〔会 場〕 1F 特別展示室

〔企画担当〕 高橋正彰(企画普及課)

〔展示担当〕 佐藤武宏(学芸部)、
博物館学習指導員(井上茂樹、飯淵進、磯崎和美、廣澤瀧男、西野宣雄)

〔内 容〕 児童・生徒の自然科学への関心を高め、その取り組みへの支援、奨励を目的に、自然科学分野における研究作品(夏休みの自由研究など)を当館に集めて展示した。募集対象を当博物館近隣の県西地区の小・中学校とし、出品作品の選考については、各校教諭の指導・協力を得た。集まった作品は、植物、動物など分野ごとに展示した。

出品作品の中には、意外性のある発想や着眼点にもとづいた研究や継続的な観察や調査によるもの、中には、市町や県の展覧会などで評価を受けたものや、精巧に模型や標本を作製したものもあり、さまざまな作品が寄せられた。感心しながら見入る大人や、自らの自由研究の参考にしようとする子どもの姿があった。

このような児童・生徒の取り組みに対して、博物館や学芸員が支援、奨励していく意味で、すべての作品には当館学芸員によるコメントを添えた。

また、「交流会」を設けて、出品した児童・生徒と学芸員が、質問や助言などを通して直接の交流を図った。なお、同日は、神奈川地学会、あしがらNST研究会共催の「神奈川の地学広場」が開かれ、相互に交流の幅が広がり、より有意義な時間となったようである。

この「子ども自然科学作品展」は開催期間が 16 日間と短い、今後も児童・生徒の自然科学への関心や取り組みを支援し、子どもたちの可能性を育てる、という博物館としての役割を果たす機会として取り組んでいきたい。

〔作 品〕 27 校 74 名の児童・生徒による 71 点の作品が寄せられた。平成 20 年度より募集対象・地域を小田原市内の小・中学校から県西地区の小・中学校に拡大しており、内訳は小田原市内の小学校 11 校 40 点、中学校 8 校 23 点、その他の地域の小学校 2 校 4 点、中学校 5 校 9 点となっている。分野別でみると、動物 16 点、昆虫 9 点、植物 29 点、菌類 3 点、地学 3 点、環境 5 点、その他 6 点であった。

2.4. SEISA ミュージアムシアター

展示の理解をより深めるために、200 インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像(番組)と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像(番組選べとクイズの回答をボタンで選ぶ)を上映している。また、学会や講演会開催時には主会場としても利用されている。なお、シアターの名称はネーミングライツパートナー制度により、2011 年 4 月 1 日から「SEISA ミュージアムシアター」となった。

2.4.1. シアターの概要

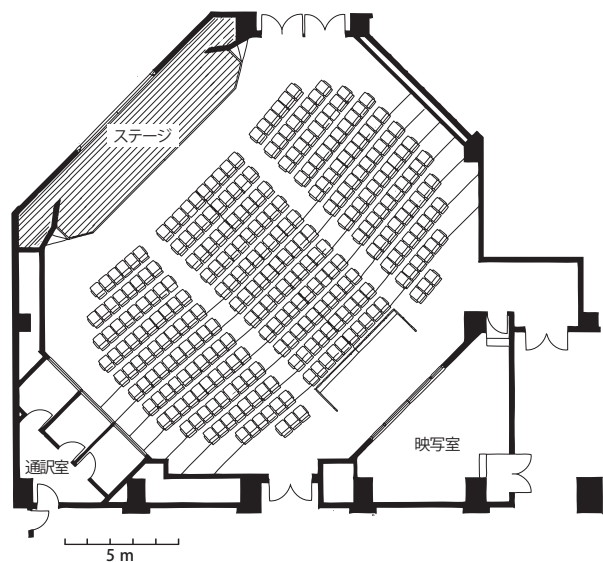
座席は 308 席。車椅子用のスペースは 5 席。中央部にある 115 席（車椅子用 5 席を含む）に、インタラクティブ・クイズ回答用の 5 選択押しボタンスイッチを設置している。

照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などを照らし出すためのスポット照明を用意している。

上映設備は、2013 年 7 月 2 日から 8 月 3 日にかけてリニューアル工事を実施し、映像等の搬出システムの更新および大型映像プロジェクターの設置を行った。学会、講演会時には、デジタル機器やパソコンなどをステージ上のコントロールパネルの接続し、簡単に操作することができる。

同時通訳用ブースを用意しており、国際的な催し物にも対応できる。同時通訳された内容は、ワイヤレス方式のレシーバーによって入場者に伝えられる。

シアター見取り図



2.4.2. シアターの上映番組

SEISA ミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を 3 本と、インタラクティブ・クイズ映像を 1 本の計 4 種類を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2 本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」で、いずれも上映時間は 15 分である。

「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

これらに加え、新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を製作し、2013 年 8 月 3 日から上映を行っている。温泉地として有名なこの地は、火山でもある。また、その地形の険しさから、古くから東西を結ぶ交通の難所としても知られている。さらに、日本を代表する自然として、江戸時代に訪れた外国人によって

世界に紹介されてきた。火山活動の激しさは、関東平野にも影響を及ぼすほど大規模なものだったとされている。このような箱根火山の生い立ちだけではなく、火山活動が生み出し、火山活動に強く影響を受けている自然とその環境を紹介した内容となっている。上映時間は 20 分である。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくといったストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」の 5 種類である。インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行っている。

なお、2013 年 7 月 3 日から 8 月 2 日までの間、上映装置（映像機器）のリニューアル工事により、すべての映像の上映を休止した。



インタラクティブクイズのコース別利用状況

テーマ 番号	テーマ	テーマごとの人気 (選択状況)		実際の上映テーマ		正答率		
		選択者数	選択者の割合	上映回数	上映割合	第1問	第2問	第3問
1	地球は生きている	3,584	14.28%	21	4.68%	33.33%	55.31%	83.38%
2	植物は変身の天才だ！	2,370	9.44%	5	1.11%	0.00%	88.46%	19.51%
3	魚のサバイバル	7,177	28.59%	192	42.76%	99.88%	97.27%	68.98%
4	動物の足跡捜査隊	6,552	26.10%	149	33.18%	34.36%	99.58%	39.21%
5	ヒトの謎を科学する	5,422	21.60%	82	18.26%	75.93%	94.55%	31.65%

※ ミューズフェスタ時はテーマ固定の特別編成で上映した。テーマ6についてはミューズフェスタ時のみの上映。

インタラクティブクイズ観覧者と参加者の関係

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
総入館者数	20,215	20,459	15,656	23,232	42,079	18,884	26,794	17,760	11,762	11,109	10,231	22,059	240,240
実施回数	42	42	29		81	35	41	36	33	34	30	46	449
観覧者	3,870	3,120	2,498		7,656	2,364	3,081	2,427	1,793	1,936	1,402	3,769	33,916
観覧率	19.1%	13.1%	16.0%		18.2%	12.5%	11.5%	13.7%	15.2%	17.4%	13.7%	17.1%	
クイズ参加者	3,081	2,678	2,089		6,368	1,970	2,619	2,100	1,682	1,736	1,270	3,102	28,695
参加率	79.6%	85.8%	83.6%		83.2%	83.3%	85.0%	86.5%	93.8%	89.7%	90.6%	82.3%	9,434,8057

参加率＝クイズ参加者数／インタラクティブ観覧者数

観覧率＝インタラクティブ観覧者数／総入館者数

7月はリニューアル工事のため、すべての上映プログラムを中止した。

2.4.3. シアターの上映回数

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ1回ずつ、計8回上映している。

学校休業期と重なる多客期（4月1日～7日、4月27日～5月5日、8月3日～9月1日、3月26日～30日）については、ハイビジョン映像を午前、午後それぞれ1回ずつ、インタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計9回の上映を行った。

シアター上映プログラム 2013年8月3日以降

	時 間	タイトル
通 常	9：30～ 9：45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10：00～10：15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10：30～10：50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11：30～11：50	インタラクティブ
	13：00～13：20	インタラクティブ
	14：00～14：15	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	14：30～14：45	生命の星・地球 生命の輪舞
	15：00～15：20	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
多客期	9：30～ 9：45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10：00～10：15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10：30～10：50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11：30～11：50	インタラクティブ
	12：30～12：50	インタラクティブ
	13：30～13：50	インタラクティブ
	14：30～14：45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	15：00～15：15	生命の星・地球 生命の輪舞
	15：30～15：50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

2.4.4. その他の利用

講演会に使用したり、学会などに会場を提供したりしている。シアターを講演会場などに使用している時は、ハイ

ビジョン映像をエントランスホールに置いたテレビジョンにて上映する。

2.5. ミューズ・フェスタ 2014

「開かれた博物館」としての活動の充実と一層の発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を2002年度から実施している。

2.5.1. 開催概要

[日時]

2014 年 3 月 15 日(土)、16 日(日) の 2 日間

[場所]

エントランスホール、SEISA ミュージアムシアター、特別展示室、講義室、他

[運営体制]

参加団体: 小田原市入生田自治会、生命の星・地球博物館

友の会、当博物館 他

[関連会議]

・開館記念日事業実行委員会

第 1 回 2013 年 9 月 19 日(木): 開催日程の確認、各団体の催事候補案提出依頼 等

第 2 回 2014 年 2 月 27 日(木): 当日の時間割、配置の確認 各団体の催事確認 等

2.5.2. 催し物等の概要

1. オープニングセレモニー 入生田祭囃子

(博物館・小田原市入生田自治会共催)

[日時] 2014 年 3 月 15 日(土) 9:30 ~ 10:00

[場所] エントランス・ホール

[内容] フェスタ 2014 の開催を祝って、地元の「入生田山神社子供祭囃子」のメンバーがお囃子を演奏

2. 童謡合唱 出演: クレヨンの森保育園(博物館主催)

[日時] 2014 年 3 月 15 日(土) 11:00 ~ 11:30

[場所] SEISA ミュージアム・シアター

[内容] クレヨンの森保育園の園児による童謡の合唱

3. オカリナコンサート 出演: オカリナ・アンサンブル『にじ』(博物館主催)

[日時] 2014 年 3 月 15 日(土) 12:00 ~ 13:00

[場所] エントランス・ホール

[内容] 土の笛・オカリナ、キーボード、ギター、パーカッションとで春にふさわしい曲を演奏

4. 小田原フィルハーモニー交響楽団(博物館主催)

[日時] 2014 年 3 月 15 日(土) 13:30 ~ 14:30

[場所] エントランス・ホール

[内容] 地元小田原の市民オーケストラ・メンバー有志による室内楽

5. モーニング・コンサート

出演: 大井室内合奏団(博物館主催)

[日時] 2014 年 3 月 16 日(日) 10:30 ~ 11:30

[場所] エントランス・ホール

[内容] 大井町を中心に県内で活動する「大井室内合奏団」によるコンサート

6. お昼休みミニ・コンサート(入生田自治会主催)

[日時] 2014 年 3 月 16 日(日) 11:50 ~ 13:00

[場所] SEISA ミュージアム・シアター

[内容] 地元のコーラスグループ「エーデルワイス」による合唱

7. アフタヌーン・コンサート

出演: ライトハウス・アンサンブル(博物館主催)

[日時] 2014 年 3 月 16 日(日) 13:15 ~ 14:00

[場所] エントランス・ホール

[内容] 江ノ島灯台の灯りように音楽で湘南を照らす、手作りのコンサート

8. 子ども自然科学ひろば

[日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日) 10:00 ~ 12:00・13:00 ~ 15:00

[場所] 特別展示室、講義室、実習実験室、博物館前庭

[内容] 随時実施して、誰でも気軽に参加できる楽しいプログラム

・「実物岩石図鑑をつくろう」

・「ミクロな世界を記念撮影」

・「昔の入生田写真展」

・「動物と仲良し」

・「昆虫の切り絵」

・「のぞいてみよう!ちっちゃな世界」

・「ミクロな貝化石をさがそう!」

・「友の会紹介コーナー」

9. 博士と学ぼう! 恐竜のヒミツ「V×R ダイナソー」(博物館主催・凸版印刷株式会社協力)

講師: 藤原慎一(名古屋大学博物館)・坂田雅章(凸版印刷株式会社)

[日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日) 14:00 ~ 14:30

[場所] SEISA ミュージアム・シアター

[内容] CG で甦った恐竜ティラノサウルスとトリケラトプスのヒミツを恐竜博士が解説

10. 出現!「V×R ダイナソー」(博物館主催・凸版印刷株式会社協力)

講師: 藤原慎一(名古屋大学博物館)

[日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日) 14:30 ~ 15:00

[場所] 常設展示室

[内容] 恐竜骨格の下に、AR 技術でタブレットに甦った恐竜ティラノサウルスとトリケラトプスが出現!

11. 折り紙ひろば(博物館主催)

[日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日) 10:00 ~ 12:00・13:00 ~ 15:00

[場所] 東側講義室

[内容] 学習指導員のアドバイスを受けながら恐竜折り紙を制作

12. クイズで GO! (博物館主催)

[日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日) 10:30 ~ 12:00・13:00 ~ 14:30

[場所] エントランスホール、常設展示室

- [内容] クイズに答えてスタンプを集めるイベント
13. からくり箱の不思議(博物館主催)
- [日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日) 10:30
～ 12:00・13:00～14:30
- [場所] 講義室
- [内容] 箱根細工を利用して自分自身の「からくり箱」を作る
14. 昔の入生田写真展(入生田自治会・博物館共催)
- [日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日) 10:30
～ 12:00・13:00～14:30
- [場所] 特別展示室
- [内容] 1963 年 4 月 15 日 山神神社祭礼の写真を紹介
15. 地元入生田物産コーナー(入生田自治会主催)
- [日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日) 10:00
～ 15:00
- [場所] 講義室

- [内容] 地元で採れた農作物の販売
16. 手作り民芸品コーナー(入生田自治会主催)
- [日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日) 10:00
～ 15:00
- [場所] 講義室
- [内容] 手作り民芸品の展示即売
17. ミュージアムショップ
- [日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日)
- [内容] 商品お買い上げの方にオリジナルグッズプレゼントの実施
18. レストラン「フォーレ」
- [日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日)
- [内容] 全メニュー 10% 引き、その場で当たるスピードくじの実施
19. ともしびショップ「喫茶あーす」
- [日時] 2014 年 3 月 15 日(土)・16 日(日)
- [内容] 手作りクッキーやサンドウィッチの販売

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館を支える学芸員は、県内はもとより、国内外のシンクタンクとしてさまざまな活動を行っている。ここでは、それらの活動を項目ごとに取りまとめた。基本的には当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。しかし、記録の困難性から取り上げなかった活動も多い。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要項に基づき、総合研究 2 テーマ、個別研究 20 テーマに関する研究を行った。以下「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

勝山輝男・広谷浩子・瀬能 宏・荻部治紀・佐藤武宏・
加藤ゆき：外来生物、とくに国内外来生物についての
調査研究

勝山輝男・田中徳久・大西 亘・神奈川県植物誌調査会：
最新版「神奈川県植物誌」の編纂・刊行のための植物
相調査

個別研究

田中徳久・勝山輝男・大西 亘：神奈川県の高木植物
相の特徴と変遷に関する研究 一次の「神奈川県植物
誌」へ向けて

個別研究

瀬能 宏：相模湾における沿岸魚類の分類および生物地
理学的研究

広谷 浩子：早川水系を中心としたカワネズミ
(*Chimarrogale platycephala*) の生息状況について

荻部治紀：神奈川県周辺のトンボ類における南方種の分
布拡大について2

佐藤武宏：チゴガニのシンクロナイズドウェイビングに対

する個体群密度の影響と同調性の評価について

加藤ゆき：シジュウカラガン(大型亜種)の移動実態と
生態に関する研究

渡辺恭平：日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究

勝山輝男：ネパール産スゲ属植物の分類学的研究

田中徳久：神奈川県の植生体系の再検討

大西 亘：海岸植物多様性の分布評価手法の開発と実践

折原貴道：イグチ目を主とするシクエストレート菌の分類、
進化、および系統地理学的研究

樽 創：下顎結合における線維性結合と骨性結合の臼歯
の摩耗形態に関する研究

大島光春：東アジアにおけるトガリネズミ類(真無盲腸類)
化石の分類学的研究

田口公則：伊豆、今井浜の白浜層群産貝類化石群集

平田大二：丹沢・伊豆地塊衝突帯と房総・三浦付加体に
みられる火成活動の時空変遷

笠間友博：三浦半島南部に分布する箱根東京テフラの研究

新井田秀一：デジタル標高モデル(DEM)や地球観測
衛星画像を用いた神奈川の地形解析

山下浩之：南フィリピン海・パレスペラ海盆における海洋コ
アコンプレックス形成末期に産する深成岩類の岩石学

的研究

石浜佐栄子：底生・浮遊性有孔虫の安定同位体組成に基づく日本海の古海洋環境の復元

松本涼子：“基盤の四肢動物～両生類”の捕食メカニズム

の多様性とその進化

大坪 奏：植物病原菌アオキオチバタケ *Marasmius aucubae* の生活環とアオキ落葉の分解における役割

3.2. 研究発表会

前項(3.1.)の調査研究事業に関して、その研究計画発表会を、2013年4月25日(木)に博物館会議室で開催した。

また、2013年度の研究成果については活動報告展2014年4月19日(土)から5月25日(日)まで開催された「学芸員の活動報告展」において展示し、発表した。研究成果の報告は本誌資料の項(96～105ページ)に掲載した。

3.3. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費助成金をはじめ、外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者(研究代表者を除く当館の分担者、連携研究者*または研究協力者**):研究テーマ」の順に掲載した。研究組織、研究内容と成果の詳細については、本誌資料の項(105ページ)に掲載した。

3.3.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究(S)

小川義和ほか(平田大二**): 知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究

基盤研究(A)

五島政一ほか(平田大二): 子どもの科学的リテラシーを育成する教育システムの開発に関する実証的研究

松本良ほか(石浜佐栄子): 表層型ガスハイドレート賦存域にみられる低速度異常とガス量のその場測定

基盤研究(B)

平田大二(斎藤靖二・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子): 地球システム相互作用の理解に基づく地球史学習プログラムの構築

基盤研究(C)

佐藤武宏(田口公則): 貝殻でつなぐ学校と博物館ー貝殻を利用した自然史学習プログラムの開発ー

田中徳久(勝山輝男・大西 亘*): 古瀬コレクションのメタデータベースと標本画像データベースの構築

勝山輝男(田中徳久・大西 亘): 博物館における市民が参加しての長期継続型植物相調査

瀬能 宏: 博物館における海洋環境変動の影響把握に寄与するダイバー撮影画像の情報化

大島光春(広谷浩子・田口公則・石浜佐栄子): 自然系博物館における「動く展示」・「動いて見る展示」の開発と新たな評価方法の試み

星野卓二ほか(勝山輝男): 分子系統に基づくスゲ属植物の生物地理学的研究

広谷浩子(加藤ゆき): 博物館展示における「ことば」の役割に関する研究ー情報量基準化の試みー

加藤ゆき(広谷浩子・大島光春): 誰もが楽しめる安全な展示手法の検討ー特に幼児と高齢者へ配慮した展示を目指してー

若手研究(B)

石浜佐栄子: 地層剥ぎ取り技法を用いた地球「現象」の実物標本化と博物館資料の新たな可能性

折原貴道: 島嶼における系統地理から探る、きのこ類の収斂的な地下生化の起源

特別研究員奨励費

小坂井千夏: ツキノワグマの生態研究の成果を活かす市民向け普及プログラムの開発

宮崎佑介: WEB上に散在する潜在的自然史資料の発掘とその活用

* 連携研究者

** 研究協力者

3.3.2. 各種助成金による研究

全国科学系博物館活動等助成

加藤ゆき（広谷浩子*）：博物館が教室へやってきたー
標本で学ぶ生きものの形と進化ー

公益財団法人発酵研究所一般研究助成

折原貴道：イグチ科シクエストレート菌未知系統の探索
と分類、および進化的・地理的起源の解明

新技術開発財団植物研究助成

村上雄秀（勝山輝男**）：伊豆半島における外来植物群
落の攪乱条件に対する植生学的評価

* 連携研究者

** 研究協力者

3.3.3. 共同研究・共同施設利用研究

水産技術センター相模湾試験場基礎研究

佐藤武宏：相模湾藤沢地域におけるチョウセンハマグリ
資源に関する調査研究

3.4. 著作活動・学会発表等

斎藤靖二（さいとう やすじ） 地学（地質学）

[論文]

斎藤靖二, 2013. 自然史標本の意義について. 化石, (93):
131-135.

斎藤靖二, 2013. 私たちの世界をひろげる博物館. 教科
研究 理科, (196): 4-5.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

斎藤靖二, 2014. 世界人名大辞典 岩波書店（地球科学
分担任執筆）.

斎藤靖二, 2012. 現代に生きる人への生涯教育. 日本
地球惑星科学連合大会 2012 大会ユニオンセッション
招待講演 幕張メッセ国際会議場.

広谷浩子（ひろたに ひろこ） 動物学（哺乳類）

[学会発表等]

広谷浩子, 2013 年 6 月 29 日. 小学生に人類進化を教え
る出張授業ー博物館の特性をいかした学校向け理科学
習プログラムの作成と実践. 全日本博物館学会第 39
回研究大会、明治大学.

瀬能 宏（せのう ひろし） 動物学（魚類）

[論文]

Murase, A., K. Nakashima and H. Senou, 2013.
Northernmost record of a blenny *Parenchelyurus
hepburni* (Snyder, 1908) (Perciformes: Blenniidae)
from Kii Peninsula, central Japan, with description
of the female coloration. Biogeography, 15: 79-83.

瀬能 宏, 2013. 相模湾から得られた日本最大級のメガ
マウスザメ. 板鰓類研究会報, (49): 18-20.

松沼瑞樹・瀬能 宏・本村浩之, 2013. 琉球列島から得
られた日本初記録のヨウジウオ科ヒメトゲウミヤッコ(新
称) *Halicampus spinirostris*. 魚類学雑誌, 60(2): 157-

161.

瀬能 宏・日比野友亮・山田文彦, 2014. 奄美群島徳之
島のアンキアライン洞窟から得られた日本初記録のイ
ワアナゴ科の稀種ウンブキアナゴ(新称). 神奈川県立
博物館研究報告(自然科学), (43): 1-6.

崎山直夫・瀬能 宏・安部 奏, 2014. 相模湾初記録と
なるチヒロザメ(メジロザメ目チヒロザメ科) について.
神奈川自然誌資料, (35): 35-40.

山田和彦・工藤孝浩・瀬能 宏, 2014. 三崎魚市場に水
揚げされた魚類ーXIX. 神奈川自然誌資料, (35): 41-
44.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

川口貴光・馬淵浩司・瀬能 宏, 2013. 明治神宮内の池
で確認された魚類. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内
総合調査委員会編, 鎮座百年記念第二次明治神宮境
内総合調査報告書, pp. 228-237. 明治神宮社務所, 東
京.

瀬能 宏, 2014. 中津干潟の魚類相と保全. 足利由紀子
編, 中津干潟レポート 2013, pp. 28-30. 特定非営利活
動法人水辺に遊ぶ会, 中津.

沖山宗雄・瀬能 宏, 2014. アカナマダ. 沖山宗雄編, 日
本産稚魚図鑑, 第二版, pp. 387-388. 東海大学出版会,
秦野; リュウグウノツカイ, *ibid.*, pp. 392-393.

木下 泉・瀬能 宏, 2014. ボラ科. 沖山宗雄編, 日本
産稚魚図鑑, 第二版, p. 523. 東海大学出版会, 秦野;
ボラ, *ibid.*, pp. 523-524; コボラ, *ibid.*, p. 525; オニボ
ラ, *ibid.*, pp. 526-527; タイワンメナダ, *ibid.*, pp. 527-
528; フウライボラ, *ibid.*, pp. 527-528; ワニグチボラ,
ibid., pp. 528-529.

瀬能 宏, 2014. カエルアンコウ科. 本村浩之・松浦啓
一編, 奄美群島最南端の島と論島の魚類, p. 68. 鹿児
島大学総合研究博物館, 鹿児島; ボラ科, *ibid.*, pp. 70-

- 75; イズハナダイ属, *ibid.*, pp. 159-161; ダテハゼ属, *ibid.*, pp. 492-493; オキナワハゼ属, *ibid.*, pp. 498-502; イトヒキハゼ属, *ibid.*, pp. 503-505; シノビハゼ属, *ibid.*, pp. 505-506; クロイトハゼ属, *ibid.*, pp. 542-544; ヤツシハゼ属, *ibid.*, p. 545; オオメワラスボ科, *ibid.*, p. 546; クロユリハゼ科, *ibid.*, pp. 546-549; カマス科, *ibid.*, p. 577.
- 瀬能 宏, 2014. 魚類. 東京都環境局自然環境部編, レッドデータブック東京 2014: 東京都の保護上重要な野生生物種(島しょ部) 解説版, pp. 354-376. 東京都環境局自然環境部, 東京.
- [普及的著作]
- 瀬能 宏, 2013. 毒棘は誰に通用するのか?. マリンダイビング, 45 (5) : 178.
- 瀬能 宏, 2013. 同定への道程. マリンダイビング, 45(7): 113.
- 瀬能 宏, 2013. サクラダイ. 自然科学のとりら, 19(2): 1.
- 瀬能 宏, 2013. 日本の原色魚類図鑑. 自然科学のとりら, 19 (2) : 4-5.
- 瀬能 宏監修, 2013. ポプラディア大図鑑 WONDA 魚. 223 pp. ポプラ社, 東京.
- 瀬能 宏・益田安規子, 2013. その生い立ちからダイビングとの出会いまで. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 益田 一と日本の魚類学: 魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY, pp. 4-7. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 瀬能 宏・中村宏治, 2013. 知られざる海中世界. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 益田 一と日本の魚類学: 魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY, pp. 11-22. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 瀬能 宏, 2013. 創造と経営の共演を目指して. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 益田 一と日本の魚類学: 魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY, pp. 28-29. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 益田 一氏の名前を持つ魚, *ibid.*, pp. 30-32; マスダオコゼ, *ibid.*, p. 33; 世界最大・最高・最新の魚類図鑑, *ibid.*, pp. 40-43; どさ回り, *ibid.*, pp. 99-100; 益田流魚市場の魚の撮影法, *ibid.*, pp. 101-102; 益田流水槽撮影法, *ibid.*, pp. 103-104; I. O. P. Diving News, *ibid.*, pp. 105-111; 伊豆海洋公園魚類標本コレクション, *ibid.*, pp. 112-114; 益田 一氏撮影の魚類写真コレクション, *ibid.*, pp. 115-116.
- 瀬能 宏・吉野哲夫, 2013. 魚類図鑑: 南日本の沿岸魚. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 益田 一と日本の魚類学: 魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY, pp. 37-39. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 瀬能 宏, 2013. 国内外来魚とは何か. 日本魚類学会自然保護委員会編, 見えない脅威 “国内外来魚”, pp. 3-18. 東海大学出版会, 秦野.
- 向井貴彦・鬼倉徳雄・瀬能 宏, 2013. 国内外来魚となつた絶滅危惧種. 日本魚類学会自然保護委員会編, 見えない脅威 “国内外来魚”, pp. 19-21. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏, 2013. 善意の放流が悪行に!?—神奈川県大井町における外来メダカ駆除事例. 日本魚類学会自然保護委員会編, 見えない脅威 “国内外来魚”, pp. 197-199. 東海大学出版会, 秦野.
- 淀 太我・向井貴彦・鬼倉徳雄・瀬能 宏, 2013. 用語解説. 日本魚類学会自然保護委員会編, 見えない脅威 “国内外来魚”, pp. 239-245. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏, 2013. 招かれざる魚. マリンダイビング, 45(9): 210.
- 瀬能 宏, 2013. わたしが選ぶ “この一冊” 『魚類図鑑: 南日本の沿岸魚』. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 17 (2) : 8.
- 瀬能 宏, 2013. 謎だらけの魚の謎を解く鍵. マリンダイビング, 45(11): 166.
- 瀬能 宏, 2013. 渋沢敬三による日本の魚類学への貢献. 渋沢史料館編, 図録祭魚洞祭, pp. 120-122. 渋沢史料館, 東京.
- 瀬能 宏監修, 2013. ネットイミノカサゴ, テングカワハギ, ヒメゴンベ, ハナビラクマノミ, アカスジウミタケハゼ, ヒカリイシモチ, シロオビイソハゼ, ピクチャレスク・ドラゴネット, アザハタ. No pagination in Palette 2013 Calendar, 株式会社大塚製薬工場.
- 瀬能 宏, 2013. ヒメツバメウオは温暖化の代弁者? マリンダイビング, 46 (1) : 151.
- 瀬能 宏, 2014. 人魚の財布の謎. マリンダイビング, 46(3): 153.
- [学会発表等]
- Shibukawa, K., T. Suzuki and H. Senou, 24 June 2013. Diversity of sand or sandy mud dwelling gobiine genera in brackish estuaries and adjacent areas in southern Japan. 9th Indo-Pacific Fish Conference, Okinawa Convention Center, Okinawa.
- 宮崎佑介・中江雅典・瀬能 宏, 2013 年 10 月 4 日～5 日. 北上川水系磐井川の 3 支流における潜在的な魚類の種プールと魚類相. 2013 年度日本魚類学会年会, 宮崎観光ホテル.
- 馬淵浩司・ソン ヨハン・武島弘彦・中井克樹・瀬能 宏・西田 睦, 2013 年 10 月 4 日. 日本在来コイのレフュージアとしての琵琶湖. 2013 年度日本魚類学会年会, 宮崎観光ホテル.
- Miyazaki, M., A. Murase, M. Shiina, K. Naoe, R. Nakashiro, J. Honda, J. Yamaide and H. Senou, 12-13 February 2014. Biological monitoring by general citizens via the Internet atlas of fishes and its bulletin board system. Asian Fish Biodiversity Conference 2014, Gurney Resort Hotel & Residences, Penang.
- 宮崎佑介・村瀬敦宣・椎名雅人・直江憲一・中城亮祐・

本多順一・山出潤一郎・瀬能 宏, 2014 年 3 月 16 日. インターネットコミュニティの外来魚類モニタリング機能. 日本生態学会第 61 回全国大会, 広島国際会議場.

苅部治紀 (かるべ はるき) 動物学 (昆虫類)

[論文]

Karube, H., 2013. Survey of the Vietnamese Chlorogomphidae (Odonata), with special reference to grouping. Tombo, 55: 13-43.

Hamalainen, M. & H. Karube, 2013. Description of *Anisopleura bipugio* sp. nov. from southern Vietnam (Odonata: Euphaeidae). Tombo, 55: 45-49.

Dijkstra, K-D. B., G. Bechly, S. M. Bybee, R. A. Dow, H. J. Dumont, G. Fleck, R. W. Garrison, M. Hämäläinen, V. J. Kalkman, H. Karube, M. L. May, A. G. Orr, D. R. Paulson, A. C. Rehn, G. Theischinger, J. W. H. Trueman, J. van Tol, N. von Ellenrieder & J. Ware. 2013. The classification and diversity of dragonflies and damselflies (Odonata). Zootaxa 3703 (1) :36-45.
苅部治紀・須田真一・梅田孝・林秀信, 2013. 伊豆諸島のトンボ相. Tombo, 55: 99-114.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

苅部治紀, 2013. 第 4 次レッドリストからみた日本産トンボ類の現状. (638) : 9-12.

苅部治紀, 2013. 酒匂平野のタイワンウチワヤンマの記録. 神奈川虫報, (180) : 40-41.

佐野真吾・苅部治紀, 2013. クロマメゲンゴロウを厚木市で採集. 神奈川虫報, (180) : 35-36.

渡辺恭平・苅部治紀・樽創, 2013. 神奈川県小田原市で体色が褐色のハラビロカマキリを採集. 神奈川虫報, (180) : 33.

横山透・吉田雅澄・苅部治紀, 2013. 北海道天塩川でナゴヤサナエ幼虫を採集. Aeschna, (49) : 43-44.

吉田雅澄・横山透・苅部治紀, 2013. 道北地方のエゾアカネの記録. Aeschna, (49) : 45-46

苅部治紀, 2013. 第 4 次レッドリストからみた日本産トンボ類の現状. 昆虫と自然, 48 (7) : 9-12.

苅部治紀, 2014. 伊豆諸島のトンボ相. 昆虫と自然, 49 (3) : 18-21.

[普及的著作等]

苅部治紀・川島逸郎, 2014. 奥村定一コレクション — 古い標本が語ってくれること —. 自然科学のとびら, 20 (1) : 4-5.

[学会発表等]

苅部治紀・北野忠・永幡嘉之・西原昇吾, 2013 年 11 月 23 日. 侵略的外来生物が水生甲虫類に及ぼす影響および対策の現状. 日本甲虫第 4 回大会・日本昆虫学会関東支部第 50 回大会合同大会, 東京農業大学厚木キャンパス.

苅部治紀, 2013 年 12 月 8 日. 神奈川県のトンボ相最近の

話題. 日本トンボ学会神奈川大会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

苅部治紀・北野忠・福井順治・土井亮介, 2014 年 3 月 18 日. 静岡県桶ヶ谷沼における侵略的外来種アメリカザリガニの侵入が水生昆虫類に及ぼした影響—爆発後 15 年間の記録—. 日本生態学会第 61 回大会, 広島国際会議場.

佐藤武宏 (さとう たけひろ) 動物学 (無脊椎動物)

[学会発表等]

田口公則・佐藤武宏, 2013 年 8 月 18 日. " ホタテガイの観察をふまえて化石を推する: 講座「貝殻のふしぎを調べようホタテの巻」の実践 ". 日本地学教育学会第 67 回全国大会大阪大会, 大阪教育大学天王寺キャンパス.

加藤ゆき (かとう ゆき) 動物学 (鳥類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

平田寛重・加藤ゆき, 2013. 希少種・逸出種・参考種. 日本野鳥の会神奈川支部編, 神奈川の鳥 2006-10. 日本野鳥の会神奈川支部, 川崎.

[学会発表等]

加藤ゆき・葉山久世・篠田授樹・石井 隆・池内俊, 2013 年 9 月 14 日. 山梨県河口湖での外来種カナダガンの全数捕獲と今後の対策について. 日本鳥学会 2013 年度大会, 名城大学.

渡辺恭平 (わたなべ きょうへい) 動物学 (昆虫類)

[論文]

Watanabe K. and K. Maeto, 2013. Review of the subgenus *Diblastomorpha* Förster, 1869, of the genus *Glypta* Gravenhorst, 1829 (Hymenoptera, Ichneumonida Ichneumonidae, Banchinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 19(1): 129-137.

Watanabe K. and K. Maeto, 2013. First description of male of the genus *Townesion* Kasparyan, 1993 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 19(1): 139-145.

Ito M., K. Watanabe and K. Maeto, 2013. A Review of *Metachorischizus unicolor* Uchida, 1928, with the First Description of Males (Hymenoptera, Ichneumonidae, Acaenitinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 19(1): 181-185.

Watanabe K., K. Konishi and G. F. Turrisi, 2013. Diversity of Aulacidae (Hymenoptera: Evanioidea) in the oceanic Ogasawara Islands (Japan), with description of a new species from Anijima Island. Zootaxa, 3736(2): 187-197.

Watanabe K., 2013. *Microleptes rectangulus* (Thomson, 1888) New to Honshu, Japan

- (Hymenoptera, Ichneumonidae, Microleptinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 19(2): 231-232.
- Watanabe K., 2013. New records of *Colpotrochia* (*Colpotrochia*) *interrupta* Momoi and *C. (C.) pilosa monticola* Momoi (Hymenoptera, Ichneumonidae, Metopiinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 19(2): 327-329.
- Watanabe K. and K. Maeto, 2014. Taxonomic status of the subgenus *Conoblasta* Förster 1869 of the genus *Glypta* Gravenhorst 1829 with revision of Japanese species (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae). Zootaxa 3755 (1): 1-32.
- Watanabe K. and K. Maeto, 2014. Revision of the genus *Apophua* Morley, 1913, from Japan (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae). Zootaxa 3784 (5): 501-527.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 渡辺恭平・菊部治紀・樽創, 2013. 小田原市で褐色型のハラビロカマキリを採集. 神奈川虫報(神奈川昆虫談話会会誌)(180): 33.
- 渡辺恭平, 2013. 日本産オオアメイロコンボウコマユバチ亜科 Xiphosellinae について. 神奈川虫報(神奈川昆虫談話会会誌)(180): 7-10.
- 渡辺恭平, 2013. 明治神宮のヒメバチ科, コマユバチ科およびヒラタタマバチ科. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書, pp. 348-352.
- 渡辺恭平, 2013. 日本産メンガタヒメバチ亜科(ヒメバチ科)に関する覚書 I: 日本産の属への検索表と *Acerataspis*, *Drepanoctonus*, *Metopius*, *Periope*, *Pseudometopius* の各属, 和名の見直し. 神奈川虫報(神奈川昆虫談話会会誌)(181): 15-31.
- 渡辺恭平・田埜正・黒川秀吉・室田忠男・野坂千津子, 2013. 福井県における寄生蜂の採集記録(その2). つねきばち(日本蜂類同好会誌)(23): 22-26.
- 渡辺恭平, 2013. 箱根でイタヤカミキリを採集. 神奈川虫報(神奈川昆虫談話会会誌)(182): 35.
- [普及的著作]
- 渡辺恭平, 2013. 欧州姫蜂コレクション三都物語～新たな出会いをもとめて②～. 花蝶風月(神奈川昆虫談話会連絡誌), 155: 4-9. (ロシア滞在②とスウェーデン滞在)
- 渡辺恭平, 2013. わたしの選ぶ”この一冊”「松村松年自伝」. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信 80号, 6.
- 渡辺恭平, 2013. スズメバチのあれこれ. 自然科学のとびら, 19(2): 2-3.
- 渡辺恭平, 2013. 欧州姫蜂コレクション三都物語～新たな出会いをもとめて③～. 花蝶風月(神奈川昆虫談話会連絡誌), 156: 8-11. (イギリス滞在)
- 渡辺恭平, 2014. 小笠原諸島から新種の寄生蜂を発見! 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 17(4): 1-2.
- [学会発表等]
- 渡辺恭平, 2013年9月16日. 小笠原諸島のヤセバチ上科およびツノヤセバチ上科(ハチ目), 特に兄島における多様性と保全の重要性について. 日本昆虫学会第73回大会(口頭発表) 北海道大学(札幌)
- 伊藤誠人・前藤薫・渡辺恭平, 2013年9月16日. ツマグロケンヒメバチとその近縁種をめぐる地理的変異と遺伝的関係の解明(ハチ目: ヒメバチ科). 日本昆虫学会第73回大会(口頭発表) 北海道大学(札幌)
- 松本涼子(まつもと りょうこ) 動物学(両生・爬虫類)
- [論文]
- Matsumoto, R., E. Buffetaut, F. Escuillie, S. Hervet and SE. Evans, 2013. New Material of the choristodere *Lazarussuchus* (Diapsida, Choristodera) from the Paleocene of France. Journal of Vertebrate Paleontology 33:319-339. *Peer-reviewed article.
- [普及的著作等]
- 松本涼子, 2013. コリストデラ類とはどんな動物? 「大恐竜展 ゴビ砂漠の驚異」国立科学博物館特別展図録, PP. 110-113.
- 松本涼子, 2013. 骨の形から読み解く脊椎動物の進化. 自然科学のとびら, 19(4): 26.
- [学会発表等]
- MASTUMOTO R. and SE. EVANS, October 2013. Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology in Los Angeles: Functional anatomy of neck in long-snouted Choristodera, *Champsosaurus* and *Simoedosaurus* (Reptilia: Diapsida) .
- 勝山輝男(かつやま てるお) 植物学(維管束植物)
- [論文]
- Yano, O., T. Katsuyama, H. Ikeda, M. F. Watsoson and K. R. Rajbahndari, 2013 (April) . Nomenclature and lectotypification of *Carex henryi* (*Cyperaceae*) with a new record from Nepal. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 63: 143-148.
- Tamura, M. N., N. S. Lee, T. Katsuyama and S. Fuse, 2013. Biosystematic Studies on the Family Tofieldiaceae IV. Taxonomy of *Tofieldia coccinea* in Japan and Korea Including a New Variety. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 64: 29-40.
- 勝山輝男・大西 亘・田中徳久, 2013. ツェンペリーが日本で採集したスゲ属植物. 莎草研究, (18): 15-26.
- 田中徳久・勝山輝男・大西 亘・木場英久, 2014. 古瀬 義氏採集の植物コレクションに含まれる基準標本. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (43): 33-62.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 勝山輝男, 2013. 箱根お玉ヶ池のタチヒメクグ. Flora

- Kanagawa, (76) : 908-909.
- 勝山輝男, 2013. 昨年の勉強会より—ツメクサ属の検索—, Flora Kanagawa, (76) : 907-908.
- 勝山輝男, 2013. イネ科の新帰化植物 *Nessella tenuissima* (Trin.) Barkworth イトハネガヤ (新称) . Flora Kanagawa, (77) : 915-916.
- [普及的著作等]
- 勝山輝男, 2013. 母の里健康地と入生田陣地跡, 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 17 (1): 7-8.
- 勝山輝男, 2013. 雄花をつけるセリ科植物, 横浜植物会会報 44 (3) : 1.
- 勝山輝男, 2013. 2013 年度前半の植物誌勉強会から, Flora Kanagawa, (77) : 921-922.
- 勝山輝男, 2014. ハコネシロカネソウ, 箱根を守る会会報 プナだより, (4) : 3.
- [学会発表等]
- 勝山輝男, ツェンベリーの持ち帰った日本産スゲ属植物, 2013 年 6 月 8 日, 第 24 回すげの会全国大会 (富山県高岡市)
- 田中徳久・勝山輝男・大西 亘・木場英久, 古瀬 義氏 採集の植物コレクションに含まれる基準標本, 2014 年 3 月 21 日 -22 日, 日本植物分類学会第 13 回大会 (熊本大学)
- 田中徳久 (たなか のりひさ) 植物学 (植物生態)
- [論文]
- 田中徳久, 2013. 各都道府県別の植物自然史研究の現状, 補遺 14. 神奈川県, 植物地理・分類研究, 60: 15.
- 勝山輝男・大西 亘・田中徳久, 2013. ツェンベリーが日本で採集したスゲ属植物, 莎草研究, (18) : 15-26.
- 田中徳久・勝山輝男・大西 亘・木場英久, 2014. 古瀬 義氏採集の植物コレクションに含まれる基準標本, 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 43: 33-63.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 鈴木照夫・水上真知子・田中徳久, 2013. こども植物園 2012 年の標本登録状況, 横浜植物会年報, (42) : 144-146. 横浜植物会, 横浜.
- 田中徳久, 2013. 「植物学者・牧野富太郎の足跡と今」への協力, 横浜植物会年報, (42) : 36-37. 横浜植物会, 横浜.
- 田中徳久, 2013. 写真「今泉山中のミスミソウ」顛末記, 横浜植物会年報, (42) : 38-40. 横浜植物会, 横浜.
- [学会発表等]
- 田中徳久・勝山輝男・大西 亘・木場英久, 古瀬 義氏 採集の植物コレクションに含まれる基準標本, 2014 年 3 月 21 日 -22 日, 日本植物分類学会第 13 回大会 (熊本大学)
- 大西 亘 (おおにし わたる) 植物学 (維管束植物)
- [論文]
- 勝山輝男・大西 亘・田中徳久, 2013. ツェンベリーが日本
- 本で採集したスゲ属植物, 莎草研究, (18) : 15-26
- 田中徳久・勝山輝男・大西 亘・木場英久, 2014. 古瀬 義氏採集の植物コレクションに含まれる基準標本, 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 43: 33-63.
- [普及的著作等]
- 大西 亘, 2013. 多様性展示が新しくなりました!, 自然科学のとびら, 19(4): 27.
- [学会発表等]
- 大西 亘, アオスゲ類とその近縁種の分子系統解析, 2013 年 6 月 8 日, 第 24 回すげの会全国大会 (富山大会), 高岡市福岡観光物産館.
- 田中徳久・勝山輝男・大西 亘・木場英久・古瀬 義氏 採集の植物コレクションに含まれる基準標本, 2014 年 3 月 21 日 -22 日, 日本植物分類学会第 13 回大会 (熊本大学)
- 折原貴道 (おりはら たかみち) 菌類学
- [論文]
- 保坂健太郎・井口潔・折原貴道, 2013. 明治神宮境内より採集された担子菌類, 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書, pp. 125-134.
- 折原貴道・岡田豊太郎・大宮司俊彦・高木望, 2014. 神奈川県におけるショウロの発生状況, 神奈川県立博物館研究報告, 43: 63-66.
- 矢野倫子・矢野清志・折原貴道・山本幸憲, 2014. 真鶴半島の変形菌相, 神奈川県立博物館研究報告 43: 67-71.
- [普及的著作等]
- 折原貴道, 2013. “新しい” 菌類分類体系ができるまで, くさびら (神奈川県キノコの会 会報), 35: 3-8.
- [学会発表等]
- 折原貴道・大前宗之・山本航平, 2013 年 4 月 20 日, イグチ科シクエストラート菌 *Chamonixia caespitosa* の日本における初記録と系統地理, 平成 25 年度日本菌学会関東支部年次大会, 日本大学薬学部, 千葉.
- Orihara T., T. Lebel, Z.-W. Ge, M.E. Smith, N. Maekawa, 2013 年 5 月 15 日. Phylogeny and systematics of the sequestrate basidiomycete genus, *Rossbeevera* and allies (Boletaceae, Boletales). Mycology Colloquium in the FUNNZ Foray, Matawai, Gisborne, New Zealand.
- 折原貴道・佐々木廣海・奈良一秀, 2013 年 6 月. コガネショウロタケの系統的位置, 日本菌学会第 57 回大会, 東京農業大学, 東京.
- Orihara T., M.E. Smith, 2013 年 8 月 19-23 日. Unique phylogenetic position of an African sequestrate fungus, *Octaviania ivoryana*, within Boletaceae (Boletales, Agaricomycotina). Asian Mycological Congress 2013 (AMC2013), China National Convention Center, Beijing, China.
- 矢野倫子・矢野清志・折原貴道・山本幸憲, 2014 年 3

月9日. 真鶴半島の変形菌相. 2014 年日本変形菌研究会大会, 大阪市立自然史博物館, 大阪.

樽 創 (たる はじめ) 古生物学 (哺乳類)

[論文]

Shimizu, Y., K. Ohishi, R. Suzuki, Y. Tajima, T. Yamada, Y. Kakizoe, T. Bando, Y. Fujise, H. Taru, T. Murayama and T. Maruyama, 2013. Amino Acid Sequence Variation of Signaling Lymphocyte Activation Molecule and Mortality Caused by Morbillivirus Infection in Cetaceans, *Microbiology and Immunology*, 57: 624-632.

鵜野 光・米田 穰・樽 創・甲能直樹, 2013. エナメル質アパタイトを用いた炭素および酸素安定同位体比分析: 化石哺乳類の生態復元にむけて. *化石*, 94: 33-43.

Endo, H., O. Hashimoto, H. Taru, K. Sugimuna, S. Fujiwara, T. Itou, H. Koie, M. Kitagawa and T. Sakai, 2013. Comparative morphological examinations of the cervical and thoracic vertebrae and related spinal nerves in the two-toed sloth. *Mammal Study*, 38(3): 217-224.

三井翔太・大泉 宏・樽 創, 2014. 相模湾に漂着したカマイルカおよびオガワコマッコウの胃内容物. *神奈川県博物館研究報告 (自然科学)*, 43: 7-21.

渡辺恭平・荻部治紀・樽 創, 2013. 神奈川県小田原市で体色が褐色のハラビロカマキリを採集. *神奈川県虫報*, 180: 33.

[普及的著作等]

アケボノゾウの会・青木敏子・青木至人・荒井良勝・岩下猛・小川恵美子・工藤浩平・近藤洋一・齋藤ひさ・杉田正男・関智子・瀬田富夫・竹下欣宏・竹田耕一・田辺智隆・樽 創・寺尾真純・長森英明・名取和香子・中山純子・西本直樹・早武基好・古久保斗志・間島信男・柳澤幹夫・吉澤健二・依田忠夫・渡辺正喜, 2013. 長野県東御市で行なわれている「アケボノゾウの会」の活動, *地学教育と科学運動* (69), 39-46, 2013-03-22, 地学団体研究会.

樽 創, 2014. イルカの前肢で見えてくるもの, *自然科学のとりば*, 20 (1): 7-8.

[学会発表等]

鵜野 光・樽 創・甲能直樹, 2013 年 6 月 29 日. デスモスチルスのエナメル質の成長線に沿った同位体分析に基づく生活史復元. 日本古生物学会熊本大学理学部.

植草康浩・小寺春人・樽 創・奥津健司・佐藤哲二, 2013 年 7 月 27 日. 鶴見大学会館, 鶴見大学歯学会第 39 回総会・第 77 回例会, オガワコマッコウ (鯨類) の発声器の構造と機能に関する予察的研究.

Uno, H., H. Taru and N. Kohno, 2013. Intra-tooth variation in multi-elementary isotope analyses along growth-lines to tooth enamel of *Desmostylus* (Mammalia: Afrotheria). 10. 30 SOCIETY OF VERTEBRATE PALEONTOLOGY OCTOBER/

NOVEMBER 2013 ABSTRACTS OF PAPERS 73 RD ANNUAL MEETING. Westin Bonaventure Hotel and Suites. Los Angeles, CA, USA

植草康浩・小寺春人・神宮潤一・樽 創・奥津健司・皆川智子・伊藤春香・古屋充子・徳武浩司・船坂徳子・鈴木美和・中村耕司・佐藤哲二, 2013 年 12 月 22 日. イロワケイルカの発声器官の構造に関する予察的研究. 神戸市立須磨海浜水族館. 勇魚会.

大島光春 (おおしま みつはる) 古生物学 (哺乳類)

藤岡換太郎・平田大二・大島光春・根本 卓・三森亮介・堀田桃子・野田智佳代・萱場うい子・高橋直樹・森 慎一・柴田健一郎・西川 徹・満澤巨彦および KO-OHO-O の会メンバー, 2014. 相模湾の海底地形・地質および生物の目視観察ー NT08-21 次航海ハイパードルフィン潜水調査報告ー. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, (43):73-97, 神奈川県立生命の星・地球博物館. 大島光春・加藤久佳, 2014. 千葉県富津市金谷の海岸に打ち上げられたイノシシ頭骨化石. *千葉県立中央博物館自然誌研究報告*. 13 (1): 57-61. 千葉県立中央博物館.

[普及的著作等]

大島光春, 2014. 鯨?河馬?海豚河馬???~鯨偶蹄目ってなんだ?! *自然科学のとりば*. 20 (1): 3.

[学会発表等]

石浜佐栄子・田口公則・大島光春, 2013 年 5 月 20 日. 「食べる海洋コア」を用いた海洋調査疑似体験プログラムの試み. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

田口公則・大島光春・門田真人, 2013 年 6 月 30 日. 地域文化のステークホルダー・拠点を創る出前展示の可能性ー秦野市で展開した戸川砥展を例としてー. 全日本博物館学会第 39 回研究大会, 明治大学駿河台キャンパス.

藤岡換太郎・森 慎一・柴田健一郎・高橋直樹・平田大二・大島光春・満澤巨彦・西川 徹・大橋みさき・KO OHO O の会, 2013 年 9 月 16 日. 相模湾から発見された新知見とその地質学的重要性ー玄武岩, 蛇紋岩, 海底地滑り, 海底谷充填堆積物ー. 日本地質学会第 120 回学術大会 (2013 仙台大会), 東北大学川内北キャンパス.

藤岡換太郎・森 慎一・柴田健一郎・高橋直樹・平田大二・大島光春・満澤巨彦・西川 徹・大橋みさき・KO OHO O の会, 2013 年 9 月 16 日. バイオジオパークとしての相模湾. 日本地質学会第 120 回学術大会 (2013 仙台大会), 東北大学川内北キャンパス.

田口公則・小林瑞穂・新山直子・坂井陽子・大島光春・斎藤靖二・内野 哲・飯澤直美, 2013 年 9 月 16 日. 「早坂文庫」: 交換抜き刷り資料コレクションの構築. 日本地質学会第 120 年学術大会 (2013 仙台大会), 東北大学川内北キャンパス.

田口公則 (たぐち きみのり) 古生物学 (貝類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田口公則, 2013. 実物の観察から法則を導き、観察にもとづき推測する学び—ホタテガイ貝殻の学習プログラム—. 初等理科教育, 47(9): 62-65.

田口公則, 2014. モノの理解を深めるための観察の積み重ね—アンモナイトでの実践—. 視覚障害教育ブックレット 3 学期号 ('13), 24: 6-11.

田口公則, 2014. [教材・教具] アンモナイトの“壁”を実感. 視覚障害教育ブックレット 3 学期号 ('13), 25: 口絵.

[普及的著作等]

田口公則, 2013. (43) 恐竜の体のつくりの観察. 下野 洋 編, 身近な自然を生かした理科授業—科学的な思考力・表現力を育てる—, pp. 128-129, 東洋館出版社, 文京区.

田口公則, 2013. (46) ホタテガイの形と生態の関係. 下野 洋 編, 身近な自然を生かした理科授業—科学的な思考力・表現力を育てる—, pp. 134-135, 東洋館出版社, 文京区.

田口公則, 2014. ヒオウギ. 自然科学のとびら, 20(1): 1.

田口公則, 2014. 鮮やかなヒオウギを配列して魅せる. 自然科学のとびら, 20(1): 2.

田口公則, 2014. ヨルダンの人と自然—砂漠に埋もれ保存された世界遺産・ペトラ遺跡(ペトラの民の文化遺産)から学ぶ—. 日本女子大学博物館学芸員課程年報, (12): 表紙.

[学会発表等]

石浜佐栄子・田口公則・大島光春, 2013 年 5 月 20 日. 「食べる海洋コア」を用いた海洋調査疑似体験プログラムの試み. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

田口公則・大島光春・門田真人, 2013 年 6 月 30 日. 地域文化のステーキホルダー・拠点を作る出前展示の可能性—秦野市で展開した戸川砥展を例として—. 全日本博物館学会第 39 回研究大会, 明治大学駿河台キャンパス.

田口公則・佐藤武宏, 2013 年 8 月 18 日. ホタテガイの観察をふまえて化石を推する: 講座「貝殻のふしぎを調べようホタテの巻」の実践. 日本地学教育学会第 67 回全国大会大阪大会, 大阪教育大学天王寺キャンパス.

田口公則・小林瑞穂・新山直子・坂井陽子・大島光春・斎藤靖二・内野 哲・飯澤直美, 2013 年 9 月 16 日. 「早坂文庫」: 交換抜き刷り資料コレクションの構築. 日本地質学会第 120 年学術大会 (2013 仙台大会), 東北大学川内北キャンパス.

田口公則, 2014 年 3 月 22 日. 今どきのツールで地形を楽しむ: 地図アプリの紹介. 神奈川地学会第 2 回神奈川の地学広場, 生命の星・地球博物館.

平田大二 (ひらた だいじ) 地学 (鉱物)

[論文]

藤岡換太郎・平田大二・大島光春・根本 卓・三森亮介・堀田桃子・野田智佳代・萱場うい子・高橋直樹・森 慎一・柴田健一郎・西川 徹・満澤巨彦および KO-OHO-O の会メンバー, 2014. 相模湾の海底地形・地質および生物の目視観察—NT08-21 次航海ハイパードルフィン潜水調査報告—. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (43): 73-97 神奈川県立生命の星・地球博物館.

Shinjoe H., Y. Orihashi, J. A. Naranjo, D. HIRATA, T. Hasenaka, T. Sano and R. Anma, 2013. Boron and other trace element constraints on the slab-derived component in Quaternary volcanic rocks from the Southern Volcanic Zone of the Andes. *Geochemical Journal*, 47(2) : 185-199.

Orihashi Y., R. Anma, A. Motoki, M. J. Haller, D. Hirata, H. Iwano, H. Sumino and V. A. Ramos, 2013. Evolution history of the crust underlying Cerro Pampa, Argentine Patagonia: Constraint from LA-ICPMS U-Pb ages for exotic zircons in the Mid-Miocene adakite. *Geochemical Journal*, 47(2) : 235 – 247.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

川手新一・平田大二, 2013. 自然災害からいのちを守る 科学. 岩波ジュニア新書, 230pp. 岩波書店.

[普及的著作]

平田大二, 2013. アンデスを越えて—パタゴニアの火山地質調査. 自然科学のとびら, 19(3): 31-32. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

平田大二, 2013. ジオパークで再発見する自然と歴史. マイウェイ, (89) :2-8. 公益財団法人はまぎん産業文化振興財団.

平田大二, 2013. 書評 藤岡換太郎: 海はどうしてできたのか—壮大なスケールの地球進化史. ブルーボックス (講談社). 地学雑誌, 122 (4):N31. 東京地学協会.

[学会発表等]

平田大二, 2013.8. 地域の自然と歴史の理解からはじめる自然災害教育をどう展開するか—神奈川県西湘地域を例に—. 平成 25 年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第 67 回全国大会大阪大会(大阪教育大学).

平田大二, 2013.9. 連続講座「地球史 46 億年もののがたり—常設展示室を活用した地球史学習プログラムの開発—. 日本地質学会第 120 回学術大会日本地質学会第 120 回学術大会 (東北大学).

藤岡換太郎・森 慎一・柴田健一郎・高橋直樹・平田大二・大島光春・満澤巨彦・西川 徹・大橋みさき・KO-OHO-O の会, 2013.9. 相模湾から発見された新知見とその地質学的重要性—玄武岩, 蛇紋岩, 海底地滑り, 海底谷充填堆積物—. 日本地質学会第 120 回学術大会 (東北大学).

藤岡換太郎・森 慎一・柴田健一郎・高橋直樹・平田大二・大島光春・満澤巨彦・西川 徹・大橋みさき・KO-OHO-O の会, 2013.9. バイオジオパークとしての相模

湾. 日本地質学会第 120 回学術大会 (東北大学).
平田大二・山下浩之・笠間友博, 2013 年 11 月 23 日. 箱根火山地域の中・下部地殻について～斑れい岩質岩片の岩石学的性質から～. 日本地質学会関東支部伊豆衝突帯地質研究サミット, 横浜国立大学.

新井田秀一 (にいだ しゅういち) 環境科学

[普及的著作]

新井田秀一, 2013. 宇宙から見た伊豆半島北部, 伊豆海洋公園周辺の地形, 相模トラフを中心とした海底地形鳥瞰図. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 益田一と日本の魚類学: 魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY, pp. 12-13. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
新井田秀一, 2014. 宇宙(そら)から見た水のふるさと～900 万人の暮らしを支える、相模川と酒匂川～. 水源環境保全・再生かながわ県民会議編, 支えよう! かながわの森と水, pp.2.7. 神奈川県環境農政局水・緑部水源環境保全課 調整グループ, 横浜.

[学会発表等]

笠間友博・新井田秀一・山本真土, 2013 年 9 月 15 日. 箱根ジオパーク拠点施設連携事業報告ー火山実験イベントと映像教材の作製. 日本地質学会 2013 年学術大会, 東北大学.

笠間友博 (かさま とむひろ) 地学 (火山)

[普及的著作]

笠間友博, 2013. 博物館周辺の身近な自然シリーズ 36 入生田陣地跡周辺の地学散歩. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 17(2), 1-2.

[学会発表等]

笠間友博, 2013 年 5 月 20 日. 廃油火山実験を使った富士山学習. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

笠間友博・新井田秀一・山本真土, 2013 年 9 月 15 日. 箱根ジオパーク拠点施設連携事業報告ー火山実験イベントと映像教材の作製. 日本地質学会 2013 年学術大会, 東北大学.

平田大二・山下浩之・笠間友博, 2013 年 11 月 23 日. 箱根火山地域の中・下部地殻について～斑れい岩質岩片の岩石学的性質から～. 日本地質学会関東支部伊豆衝突帯地質研究サミット, 横浜国立大学.

山下浩之 (やました ひろゆき) 地学 (岩石)

[論文]

古畑圭介・道林克禎・山下浩之, 2013. オマーンオフィオライトモホ遷移帯に発達した延性剪断帯におけるマフィック岩の全岩化学組成. 静岡大学地球科学研究報告, 40, 13-19.

石井輝秋・川村喜一郎・小林励司・濱本栄起・山下浩之・安川和孝・大田隼一郎・名取孝人・吉田尊智・原口悟・中村謙太郎・中野幸彦, 2013. 学術調査船淡青丸

KT12-35 研究航海の概要ー相模トラフ沿い沈み込み帯の構造と地震発生帯の関係の解明ー. 深田地質研究所年報, 14: 29-56.

[普及的著作]

山下浩之, 2013 年 7 月. 石材の供給源を地球化学的に推定する. 国立歴史民俗博物館 企画展図録 時代を作った技ー中世の生産革命, pp86-87.

山下浩之, 2013 年 7 月. 役に立つ? 箱根の土台 ～箱根火山の基盤岩. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 7 月 15 日.

山下浩之, 2013 年 8 月. 最初の噴火. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 8 月 15 日.

山下浩之, 2013 年 9 月. 富士山のような火山ではなかった?. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 9 月 15 日.

山下浩之, 2013 年 10 月. 姿を変えた箱根火山. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 10 月 15 日.

山下浩之, 2013 年 11 月. 大噴火の裏で. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 11 月 15 日.

山下浩之, 2013 年 12 月. 前期中央火口丘溶岩の活動. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 12 月 15 日.

山下浩之, 2014 年 1 月. 箱根火山史上最大の噴火. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 1 月 15 日.

山下浩之, 2014 年 2 月. 大規模山体崩壊. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 2 月 15 日.

山下浩之, 2014 年 3 月. 後期中央火口丘の形成. 箱根ジオパーク新聞 (あしがら新聞), 3 月 15 日.

[学会発表等]

小原泰彦・Jonathan E. Snow・道林克禎・Henry J.B. Dick・針金由美子・谷健一郎・Wendy Nelson・Matthew Loocke・Alessio Sanfilippo・石塚治・山下浩之・石井輝秋, 2013 年 5 月. 最近のゴジラメガムリオン研究に基づくフィリピン海の発達についての新しい考察. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

高須賀俊文・山下浩之・萬年一剛・藤本光一郎, 2013.5. 真鶴町で掘削されたボーリングコアに基づく火山層序の再検討. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

有馬 眞・大本 健太・R. Rakotondrzafy・N. O. T. Rakotonandrasana・M. A. Ranaivoson, 山下浩之, 2013 年 11 月 15 日. 南部マダガスカル, アンバトメナに産出するマグマ起源サフィリン. 第四回極域科学シンポジウム, 国立極地研究所.

平田大二・山下浩之・笠間友博, 2013 年 11 月 23 日. 箱根火山地域の中・下部地殻について～斑れい岩質岩片の岩石学的性質から～. 日本地質学会関東支部伊豆衝突帯地質研究サミット, 横浜国立大学.

Yamashita H., 2014 年 3 月 4 日. Petrogenesis of oxide gabbro from an oceanic core complex in the Parece Vela back arc basin, Philippine Sea. International Symposium "Gondwana and Island Arc: Past and

Present", Yokohama National University.

石浜佐栄子 (いしはま さえこ) 地学 (堆積学)

[論文]

Ishihama, S., T. Oi, S. Hasegawa and R. Matsumoto, 2014. Paleooceanographic changes of surface and deep water based on oxygen and carbon isotope records during the last 130 kyr identified in MD179 cores, off Joetsu, Japan Sea. *Journal of Asian Earth Sciences*, DOI information: 10.1016/j.jseas.2013.12.020.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子, 2014. 日本海東縁上越沖 (MD179-3312, 3304) および西津軽沖 (MD179-3326G) のコアに含まれる有孔虫殻の酸素・炭素同位体組成から見た日本海の海洋環境変動とハイドレート分解イベントの検出. 経済産業省表層メタンハイドレート資源量評価プロジェクト・平成 25 年度報告書.

[普及的著作]

石浜佐栄子, 2013. 博物館で、研究者なりきり体験 - 海洋コアを食べよう! -. *自然科学のとびら*, 19(3): 23-24.

[学会発表等]

角和善隆・中嶋健・富山隆将・町山栄章・石浜佐栄子・松本良, 2013 年 4 月 14 日. 最終氷期の日本海における流水の盛衰とその意義. 日本堆積学会 2013 年千葉大会, 千葉大学.

石浜佐栄子・田口公則・大島光春, 2013 年 5 月 20 日. 「食べる海洋コア」を用いた海洋調査疑似体験プログラムの試み. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

大井剛志・石浜佐栄子・秋葉文雄・須貝俊彦・角和善隆・長谷川四郎・松本良, 2013 年 5 月 22 日. 日本海西南部上越沖で採取された 2 本のピストンコア (MD179-3312 と MD179-3304) の堆積層序と生層序に基づく年代モデル. 日本地球惑星科学連合 2013 年大会, 幕張メッセ国際会議場.

石浜佐栄子・大井剛志・長谷川四郎・松本良, 2013 年 9 月 16 日. 日本海東縁における浮遊性・底生有孔虫殻の酸素・炭素同位体組成変動に基づく過去 13 万年の古海洋環境の復元. 日本地質学会第 120 年学術大会, 東北大学.

大坪 奏 (おおつば かなで)

[普及的著作]

大坪奏, 2013. 美味しい食べ物を作るカビ ～味噌蔵見学記～. *自然科学のとびら*, 19(3): 18-19.

日本学術振興会特別研究員

小坂井千夏 (こざかい ちなつ) 動物学 (哺乳類)

[論文]

Koike S, M. Soga, H. Enari, C. Kozakai and Y. Nemoto,

2013. Seasonal changes and altitudinal variation in deer fecal pellet decay. *European Journal of Wildlife Research* 59:765-768.

Koike S, M. Soga, Y. Nemoto and C. Kozakai, (online first) How are dung beetle species affected by deer population increases in a cool temperate forest ecosystem? *Journal of Zoology*.

[学会発表等]

Kozakai C, K. Yamazaki, Y. Nemoto, A. Nakajima, Y. Umemura, S. Koike, Y. Goto, S. Kasai, A. Abe, T. Masaki and K. Kaji, 20 Sep. 2013. Interesting fluctuation of daily activity budgets of Japanese black bears. 22nd International Association for Bear Research and Management. Provo, Utah.

小坂井千夏・近藤麻実・中村幸子・中下留美子・有本勲・伊藤哲治・後藤優介・間野勉, 2013 年 9 月 9 日. ミニシンポジウム: クマ類の保護管理は進んだか? ～課題を整理して次のステップへ～. 第 29 回日本霊長類学会・日本哺乳類学会 2013 年度合同大会, 岡山理科大学.

Koike S, S. Fujiwara, C. Kozakai, K. Yamazaki and K. Kaji, 20 Sep. 2013. Direct observation of bear myrmecophagy: When and how do bear eat ant?. 22nd International Association for Bear Research and Management. Provo, Utah.

Nemoto Y, A. Nakajima, C. Kozakai, S. Koike, K. Yamazaki and K. Kaji, 15-20 Sep. 2013. Influence of food resource on movement and habitat selection of Japanese black bear, in summer. 22nd International Association for Bear Research and Management. Provo, Utah.

根本唯・小坂井千夏・中島亜美・原口拓也・小池伸介・山崎晃司・梶光一, 2013 年 9 月 6-9 日. 秋期のツキノワグマの行動圏と集中利用域の生息選択の違い. 第 29 回日本霊長類学会・日本哺乳類学会 2013 年度合同大会, 岡山理科大学.

古坂志乃・小坂井千夏・根本唯・原口拓也・山崎晃司・小池伸介, 2014 年 3 月 16 日. 直接観察法によるツキノワグマの春の採食行動と採食物の栄養価の関係. 日本生態学会第 61 回全国大会, 広島国際会議場.

宮崎佑介 (みやざき ゆうすけ) 動物学 (魚類)

[論文]

村瀬敦宣・林田留美子・宮崎佑介, 2013. 屋久島の岩礁性海岸を利用した水圏環境教育の試み: 世界自然遺産の島における環境教育の意義. *臨床教科教育学会誌*, 13 (1): 129-141.

宮崎佑介・照井慧・海部健三・吉岡明良・鷲谷いづみ, 2013. 朱太川水系氾濫原の小規模な一時的水域の魚類相: 種多様性の要因と保全・再生への示唆. 保全生態学研究, 18: 55-68.

Miyazaki, Y., Y. Kano, Y. Tomiyama, C. Mitsuyuki and

- Z. A. Rashid, 2013. Ichthyofaunal assessment of the Gelami and Tinggi Rivers, Pahang River System, eastern Malay Peninsula, following construction of an adjacent building complex. *Check List: Journal of Species List and Distributions*, 9: 1035–1042.
- Yoshioka, A., Y. Miyazaki, Y. Sekizaki, S. Suda, T. Kadoya and I. Washitani, 2014. A “lost biodiversity” approach to revealing major anthropogenic threats to regional freshwater ecosystems. *Ecological Indicators*, 36: 348–355.
- Terui, A., Y. Miyazaki, A. Yoshioka, T. Kadoya, F. Jopp and I. Washitani, 2014. Dispersal of larvae of *Margaritifera laevis* by its host fish. *Freshwater Science*, 33: 112–123.
- [普及的著作]
- 宮崎佑介, 2013. わたしの選ぶ “この一冊” 『日本産魚類 検索 全種の同定 第三版』. 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会通信, 17(3): 8.
- [学会発表等]
- Terui, A., Y. Miyazaki, A. Yoshioka, K. Kadoya, F. Jopp and I. Washitani, 23 May 2013. Asymmetric dispersal of larvae of *Margaritifera laevis* by its host fish. Society for Freshwater Science 61st Annual Meeting, Florida, USA.
- Miyazaki, Y., A. Yoshioka and I. Washitani, 24 June 2013. Attempt to reconstruct the past fish fauna of the Shubuto River System, SW Hokkaido, Japan using museum specimens and interviews. 9th Indo-Pacific Fish Conference, Okinawa, Japan.
- Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, K. Naoe, R. Nakashiro, N. Miwa, J. Honda and J. Yamaide, 25 June 2013. Attempts to improve the Internet atlas of Japanese fishes from web 1.0 to web 2.0. 9th Indo-Pacific Fish Conference, Okinawa, Japan.
- Miyazaki, Y., A. Terui, A. Yoshioka and I. Washitani, 23 July 2013. A restoration and conservation agenda for the fishes of the Shubuto River System. 26th International Congress for Conservation Biology, Maryland, USA.
- Yoshioka, A., Y. Miyazaki, Y. Sekizaki, S. Suda, T. Kadoya and I. Washitani, 21 August 2013. A “lost biodiversity” approach to revealing major anthropogenic threats to regional freshwater ecosystems. 11th International Association for Ecology (INTECOL) Congress, London, UK.
- Terui, A., Y. Miyazaki, A. Yoshioka, K. Kadoya, F. Jopp and I. Washitani, 10 September 2013. Biased dispersal of larvae of *Margaritifera laevis* by its host fish. 43rd Annual Meeting of the Ecological Society of Germany, Austria and Switzerland (GfOe), Potsdam, Germany.
- 宮崎佑介・中江雅典・瀬能宏, 2013 年 10 月 5 日. 北上川水系磐井川の 3 支流域における潜在的な魚類の種プールと魚類相. 第 46 回日本魚類学会年会, 宮崎観光ホテル, 宮崎.
- Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, K. Naoe, R. Nakashiro, J. Honda, J. Yamaide and H. Senou, 13 February, 2014. Biological monitoring by general citizens via the Internet atlas of fishes and its bulletin board system. Asian Fish Biodiversity Conference 2014, Penang, Malaysia.
- Terui, A., Y. Miyazaki, A. Yoshioka, T. Kadoya, S. S. Matsuzaki, K. Kaifu and I. Washitani, 16 March, 2014. Riverine metapopulation dynamics of freshwater pearl mussel mediated by biotic and abiotic vectors. 日本生態学会第 61 回全国大会, 広島国際会議場, 広島.
- 宮崎佑介・村瀬敦宣・椎名雅人・直江憲一・中城亮祐・本多順一・山出潤一郎・瀬能宏, 2014 年 3 月 16 日. インターネットコミュニティーの外来魚類モニタリング機能. 日本生態学会第 61 回全国大会, 広島国際会議場, 広島.

3.5. レファレンス件数

2013年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に、問い合わせの手法によって分類し、表に示した。

レファレンス数

	植 物	菌 類	昆 虫	その他 動 物	魚 類	両生・ 爬虫類	鳥 類	哺乳類	古生物	地 学	地 球 環 境	計
来館	61	56	103	76	169	8	37	12	60	58	12	652
メール	80	90	456	84	915	10	93	15	62	25	12	1,842
電話	36	23	144	28	93	6	49	20	39	48	22	508
手紙/FAX	31	31	11	0	14	0	3	0	4	2	0	96
出張	4	6	24	13	3	4	1	3	1	1	0	60
計	212	206	738	201	1,194	28	183	50	166	134	46	3,158
同定総点数	721	376	5,312	530	5,440	21	126	0	72	301	19	13,178

マスコミに掲載された回数

新聞雑誌 掲載等	1	2	5	1	7	0	2	0	1	2	1	22
テレビ・ラ ジオ放送等	2	0	0	0	9	0	0	2	2	0	2	17

マスコミ等の問い合わせ元（掲載未確認のものを含む）

植物	神奈川新聞社／TV番組制作会社
菌類	テレビ朝日「モーニングバード」／NHK「モリゾー・キッコロ 森へいこうよ!」／朝日学生新聞／BS日テレ「中川翔子のマニアまにある」／八重山毎日新聞／上毛新聞社／テレビ朝日「いきなり! 黄金伝説。」
昆虫	共同通信：福井県の寄生蜂について／朝日新聞／タウンニュース／朝日小学生新聞／NHK／南海日々新聞
その他動物	日本テレビ「世界まるみえ! テレビ特捜部」／テレビ朝日「シルシルミシルさんデー」／読売新聞社（社会部）／NHK横浜放送局／TBSテレビ「朝ズバッ!」／神奈川県教育局総務課／真鶴町／神奈川県水産技術センター相模湾試験場／日本大学生物資源科学部資料館／藤沢市漁業協同組合／FMヨコハマ「Gift from the Earth」／NHK制作科学環境番組部／真鶴町広報誌「広報真鶴」／NHK教育テレビ「すイエんサー」／月刊「食生活」／BS-TBS「ニュース少年探偵団」／テレビ朝日「いきなり! 黄金伝説。」
魚類	読売KODOMO新聞／NHKエンタープライズ／NHKサイエンスZERO／BS-TBS「ニュース少年探偵団」／NHKワイルドライフ／さかなクン／講談社週刊フライデー／宝島社／TBSゴロウ・デラックス／NHK和歌山放送局／NHKワイルドライフ／NHK探検バクモン／毎日新聞社／朝日小学生新聞／産経新聞／テレビ神奈川／毎日新聞科学環境部／小田原ケーブルテレビ「デイリー小田原」／BSフジ「八木亜希子のおしゃべりミュージアム」／NHK BSプレミアム／NHK「特ダネ投稿DO画」／日本テレビ「世界の果てまでイッテQ!」／タウンニュース小田原支社／日本経済新聞／テレビ朝日「スーパーJチャンネル」／テレビ朝日「報道ステーション」／NHK「すイエんサー」／NHK「キッチンがゆく」／テレビ朝日／NHK BSプレミアム「体感! グレートネイチャー」／フジテレビ「スーパーニュース」／テレビ朝日「いきなり! 黄金伝説。」／神奈川新聞／週刊文春／日本テレビ「ZIP!」／Science View（共同テレビジョン）／共同テレビジョン／NHK函館放送局／NHK「ゆうどきネットワーク」／NHK「ダーウィンが来た!」／共同テレビ「NHK WORLD Science View」／日本テレビ「宝探しアドベンチャー 謎解きバトルTORE!」
鳥類	朝日新聞／山梨日日新聞
古生物	NHK-FM出演／日本テレビ／小学館／産経新聞
地学	JAMSTEC／豊橋市自然史博物館／奇跡体験! アンビリバーボー（フジテレビ）／NHKエンタープライズ／大日本図書／実業之日本社／神奈川新聞／番組制作会社／NHKBSプレミアム
地球環境	神奈川新聞「音声ガイド」／相模川ふれあい科学館リニューアル／神奈川新聞特集面

3.6. 各種委員・役員・非常勤講師・その他

委員・役員に関しては、「役職名（機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「役職名「科目名」（学校名）」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

斎藤靖二

〔委員・役員〕

文部科学省 科学技術・学術審議会 海洋開発分科会 深海掘削委員会 主査

名古屋大学総合博物館 外部評価委員会 委員(大学法人 名古屋大学)
東北大学学術資源研究公開センター・東北大学総合学術博物館 外部評価委員会 委員(大学法人 東北大学)
高知大学海洋コア総合研究センター運営協議会 委員(大学法人 高知大学)
地質図 JIS 改正原案作成委員会 委員長(独立行政法人 産業技術総合研究所)
国際地学オリンピック日本委員会 諮問委員(NPO 法人 国際地学オリンピック日本委員会)
ICOM(国際博物館会議)大会招致準備委員会 委員
東京地学協会 監事(公益社団法人 東京地学協会)
日本博物館協会 理事(公益財団法人 日本博物館協会)
日本博物館協会「博物館研究」編集委員会 委員長(公益財団法人 日本博物館協会)
日本博物館協会 棚橋賞選考委員会 委員長(公益財団法人 日本博物館協会)
全国科学博物館振興財団 評議員(一般財団法人 全国科学博物館振興財団)
野外自然博物館協会 評議員(財団法人 野外自然博物館協会)
国立科学博物館 契約監視委員会 委員(独立行政法人 国立科学博物館)
国立科学博物館 民間競争入札評価委員会 委員(独立行政法人 国立科学博物館)
国立科学博物館附属自然教育園環境問題特別委員会 委員(独立行政法人 国立科学博物館)
理数系学会教育問題連絡会 日本地球惑星科学連合担当委員
武田科学振興財団 理科教育振興奨励賞選考委員会 委員(公益財団法人 武田科学振興財団)
神奈川県博物館協会 理事(神奈川県博物館協会)

広谷浩子

[委員・役員]
小田原市郷土文化館協議会委員(小田原市教育委員会)
神奈川県鳥獣総合対策協議会サル対策専門部会委員(神奈川県環境農政部)
西湘地域鳥獣対策協議会委員(県西地域県政総合センター環境部)
大磯町郷土資料館運営委員(大磯町教育委員会)
[査読]
Mammal Study(日本哺乳類学会)
人と自然(兵庫県立人と自然の博物館研究紀要)
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」神奈川大学
桜美林大学非常勤講師(通年)「博物館バリアフリー実習1」「博物館バリアフリー実習2」桜美林大学
都留文化大学非常勤講師(前期)「博物館展示論」「博物館資料保存論」都留文化大学

瀬能 宏

[委員・役員]
日本魚類学会評議員(日本魚類学会)
日本魚類学会自然保護委員会副委員長(～2013年12月; 日本魚類学会)
日本魚類学会自然保護委員希少海産魚問題検討部会委員(2014年1月～; 日本魚類学会)
日本魚類学会標準和名検討委員会委員長(日本魚類学会)
日本生物地理学会評議員(日本生物地理学会)
平成25年度「第3次絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会」委員(環境省)
平成25年度海洋生物の希少性評価検討委員(環境省)
希少野生動植物種保存推進員(環境省)
全国的な自然史系標本セーフティネット構築のためのワーキンググループ委員(国立科学博物館)
[査読]
魚類学雑誌(日本魚類学会)

苅部治紀

[委員・役員]
日本トンボ学会副会長
日本トンボ学会自然保護委員会副委員長
WDA(世界トンボ協会)日本支部代表
日本甲虫学会自然保護委員
小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会委員
環境省小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議委員
環境省グリーンアノール対策ワーキンググループ委員
環境省小笠原ネズミ類対策検討会委員
林野庁小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会
林野庁小笠原諸島固有森林生態系修復事業アドバイザー
東京都賀島列島植生回復調査検討委員会委員
東京都父島外来樹木対策検討委員会委員
東京都北進線改修事業に係る専門家会議委員
東京都小曲地区道路改修事業に係る専門家会議委員
[査読] TOMBO(日本トンボ学会)

佐藤武宏

[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」神奈川大学

加藤ゆき

[委員・役員]
神奈川県鳥類目録編集委員会委員(日本野鳥の会神奈川支部)
神奈川県カワウ対策委員会委員(神奈川県水産課)
周南市ツル保護協議会委員(山口県周南市)

勝山輝男

[委員・役員]
絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会植物I

分科会委員（環境省）
稀少野生動植物種保存推進員（植物）（環境省）
愛知目標達成のための侵略的外来種リストの作成に向けた植物ワーキンググループ会合の検討委員（財団法人 自然環境研究センター・環境省）
特定外来生物等分類群専門家グループ会合（植物）検討委員（財団法人 自然環境研究センター・環境省）
平成 25 年度指定植物選定基準・方針等改訂検討会検討委員（財団法人 自然環境研究センター・環境省）
日本植物分類学会絶滅危惧植物検討委員会委員（日本植物分類学会）
河川水辺の国勢調査スクリーニング・グループ委員（植物）（財団法人リバーフロント整備センター）
丹沢大山自然再生委員会委員（丹沢大山自然再生委員会）
仙石原湿原保全管理検討委員会委員（環境省箱根自然環境事務所）
神奈川県生物多様性一次地域戦略検討委員会委員（神奈川県環境農政局 水・緑部 自然環境保全課）
神奈川県里地里山専門委員会委員（神奈川県環境農政局農政部農地保全課）
小田原市文化財保護委員（小田原市教育委員会）
史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会部委員（小田原市教育委員会）
湯河原町文化財保護委員長（湯河原町教育委員会）
熱海市文化財保護委員（熱海市教育委員会）
日本すげの会副会長（日本すげの会）
神奈川県植物誌調査会運営委員（神奈川県植物誌調査会）

田中徳久

〔委員・役員〕
神奈川県植物誌調査会運営委員（神奈川県植物誌調査会）
横浜植物会運営委員（横浜植物会）
神奈川県自然保護協会運営委員（神奈川県自然保護協会）
植生学会企画委員会委員（植生学会）
自然史学会連合博物館部会委員（自然史学会連合）
大和市文化財保護審議会委員（大和市）
大磯町環境審議会委員
寺家ふるさと村「四季の家」管理運営委員会委員
〔非常勤講師〕
横浜国立大学教育人間科学部非常勤講師（後期）「自然博物館学（博物館資料論）」 横浜国立大学
神奈川大学理学部非常勤講師（後期）「地域の自然史」 神奈川大学
桜美林大学非常勤講師（前期・集中）「野外安全管理」 桜美林大学

折原貴道

〔委員・役員〕
日本菌学会ニュースレター編集長
日本菌学会幹事（広報担当）

日本菌学会『菌類のパンフレット』作成ワーキンググループ
日本菌学会関東支部企画幹事（菌類観察会担当）
日本菌学会関東支部第 1 回勝本賞選考委員
〔査読〕
Fungal Diversity (Chinese Academy of Sciences, China)
Mycotaxon (Mycotaxon Ltd., USA)

樽 創

〔委員・役員〕
日本古生物学会行事係幹事（日本古生物学会）
日本哺乳類学会種名・標本委員会委員（日本哺乳類学会）
自然史学会連合運営委員（自然史学会連合）
神奈川地学会事務局（神奈川地学会）
〔非常勤講師〕
東京農業大学アロマセラピー学科非常勤講師（前期）「動物形態・分類学」

大島光春

〔査読〕
第四紀研究（日本第四紀学会）

田口公則

〔委員・役員〕
日本共生科学会学会誌編集委員（日本共生科学会）
日本地質学会選挙管理委員（日本地質学会）
神奈川地学会事務局（神奈川地学会）
〔非常勤講師〕
日本女子大学非常勤講師（前期）「博物館実習 A」

平田大二

〔委員・役員〕
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
箱根町（仮称）箱根火山学習センター基本設計検討会委員
小田原市市文化財審議会委員
川崎市立青少年科学館協議会委員
相模原市文化財審議会委員
地質の日事業推進委員会委員長
日本地質学会執行理事
日本地質学会日本地学オリンピック支援委員会委員
日本地学教育学会将来構想委員会委員
神奈川県立西湘高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営委員
玉川学園スーパーサイエンスハイスクール運営委員
教育自然学研究会世話人
日本大学文理学部地球システム科学科外部アドバイザー委員
神奈川県防災起爆剤研究会運営委員
〔非常勤講師〕
玉川大学農学部非常勤講師

新井田秀一

[委員・役員]

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

[非常勤講師]

日本大学生物資源科学部非常勤講師(後期集中)「博物館学各論」 日本大学生物資源科学部

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」 神奈川大学理学部

日本火山学会事業委員

日本火山学会学校教育委員

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」
神奈川大学理学部

山下浩之

[委員・役員]

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

笠間友博

[委員・役員]

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

神奈川地学会事務局(神奈川地学会)

日本地質学会理事

日本地質学会関東支部幹事長

日本地質学会火山部会教育普及委員

石浜佐栄子

[委員・役員]

明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所
客員研究員

神奈川地学会事務局(神奈川地学会)

3.7. 講師依頼等

当博物館学芸員への講師依頼等を、学芸員ごとに講演、講座などの内容(テーマ)、依頼元、開催場所、実施日について記載した。なお、学校(小・中・高・大・養護等)への対応については、「5. 2. 学校教育への対応」に記載した。

広谷浩子

広報真鶴「特集企画 真鶴半島物語」におけるレファレンス協力(真鶴町) 場所:当館(2013年7月23, 30日)

瀬能 宏

広報真鶴「特集企画 真鶴半島物語」におけるレファレンス協力(真鶴町) 場所:当館(2013年7月23日)

「酒匂川水系の魚から地域の自然を考える」(小田原市事業協会) 場所:小田原市立かもめ図書館(2013年7月29日)

渋沢敬三が日本の魚類学に果たした役割(渋沢史料館) 渋沢史料館(2013年10月19日)

「酒匂川水系の川魚の保全:“メダカ”の今から見えてくるものとは」(めだかサポーターの会) 場所:小田原市生涯学習センター(2013年12月21日)

苅部治紀

広報真鶴「特集企画 真鶴半島物語」におけるレファレンス協力(真鶴町) 場所:当館(2013年7月23日)

佐藤武宏

「水の生きものについて知ろう」(横浜和田愛児園) 場所:横浜和田愛児園(2013年6月27日)

「磯の生きもの学習」(目白ヶ丘幼稚園) 場所:目白ヶ丘幼稚園(2013年7月2日)

「磯の生き物観察 in 三浦半島」(NPO 法人 NAFA 子育て環境支援センター) 場所:三浦市小網代荒井浜(2013

年7月15日)

広報真鶴「特集企画 真鶴半島物語」におけるレファレンス協力(真鶴町) 場所:当館(2013年7月29日)

科学ヘジャンプ・イン・東京2013 ワークショップ「アンモナイトは巻き貝じゃないよ!」(科学ヘジャンプ・イン・東京実行委員会) 場所:筑波大学附属視覚特別支援学校(2013年10月20日)

「チゴガニ *Ilyoplax pusilla* のウェイピング行動とウェイピングを促進・抑制する要因」 場所:東京大学大学院理学系研究科(2013年11月19日)

加藤ゆき

広報真鶴「特集企画 真鶴半島物語」におけるレファレンス協力(真鶴町) 場所:当館(2013年7月30日)

渡辺恭平

「ヒメハルゼミ抜け殻鑑定士講習会」(NPO早雲寺ヒメハルゼミの会) 場所:早雲寺壺中軒(箱根町湯本)(2013年6月28日)

夏休み野外学習・生き物探検『昆虫編』(神奈川まじゅかい塾) 場所:鎌倉明月荘(2013年7月23日、8月20日)

『「箱根ジオパーク」北と南をつなぐ自然のみち 第3部「箱根の昆虫」』(おだわらシルバー大学16期卒業生の会) 場所:当館(2013年11月15日)

松本涼子

平成 25 年度国立科学博物館における特別展「大恐竜展～ゴビ砂漠の驚異～」:「アジアの淡水生爬虫類－ハート形の頭をしたコリストデラ類－」,「絶滅を生き延びた者 コリストデラ類」 場所:国立科学博物館特別展示室(2014 年 1 月 31 日;2 月 14 日)

平成 25 年度ユニコムプラザさがみはらにおける「オーサーズカフェ事業」:「両生爬虫類のはなし」(公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム) 場所:ユニコムプラザさがみはら(2014 年 3 月 22 日)

勝山輝男

自然科学教育「川の生物」講師(湯河原町教育委員会) 場所:湯河原町千歳川中川原橋周辺(2013 年 8 月 6 日)

相模の風土記講座『座間市の植物』:「谷戸田観察会～草木の調べ方、覚え方」(座間市立東地区文化センター) 場所:県立座間谷戸山公園(2013 年 11 月 27 日)

田中徳久

丹沢環境学習ネットワークスキルアップ研修会((公財) 神奈川県公園協会) 場所:神奈川県立秦野ビジターセンターおよび施設周辺(2013 年 9 月 9 日)

『「箱根ジオパーク」北と南をつなぐ自然のみち第2部「箱根の植物」』(おだわらシルバー大学 16 期卒業生の会) 場所:当館(2013 年 11 月 15 日)

海のミュージアム「冬の『お林』ネイチャーウォーク」(真鶴町立遠藤貝類博物館) 場所:真鶴半島「お林」(2013 年 12 月 1 日)

相模の風土記講座:「興味津々 博物館ウォッチング～植物の観察をより楽しく～」(座間市立東地区文化センター) 場所:当館(2013 年 12 月 4 日)

学ぼう!作ろう!食べよう!『水源の森の恵みを感じるツアー』(神奈川県西部広域行政協議会) 場所:当館(2013 年 12 月 14 日)

「2013 年植物界の話題・古瀬標本を訪ねて三千里－ヨーロッパ、アメリカ、中国の標本庫を訪ねて－」(横浜植物会) 場所:横浜市こども植物園(2013 年 12 月 22 日)
講義「箱根の植物」(箱根コミュニティ・カレッジ) 場所:当館(2014 年 2 月 22 日)

大西 亘

ワークショップ事業「春の自然ウォッチング～2013 春のこども探偵団」指導(藤沢市湘南台文化センターこども館) 場所:藤沢市湘南台文化センターこども館および引地川周辺(2013 年 4 月 21 日)

植物学講座「押し葉標本のつくりかた」(相模原市立博物館) 場所:相模原市立博物館(2013 年 5 月 25 日)

広報真鶴「特集企画 真鶴半島物語」におけるレファレンス協力(真鶴町) 場所:当館(2013 年 7 月 29 日)

お林ウォーキング「お林の自然」(専門的解説)(「真鶴フ

ェスティバル 1000 年の森」実行委員会) 場所:真鶴・お林展望公園(2013 年 9 月 14, 15 日)

真鶴町教養講座くすのきゼミ:テーマ「真鶴半島のお林と海岸の植物」(真鶴町教育委員会) 場所:真鶴半島(2013 年 11 月 8 日)

折原貴道

記念講演「地下生菌の進化と系統分類－イグチ科の菌を中心に－」(神奈川県キノコの会) 場所:平塚市博物館(2013 年 5 月 26 日)

「中高生のための菌類講座」(日本菌学会) 場所:当館(2013 年 7 月 27 日)

広報真鶴「特集企画 真鶴半島物語」におけるレファレンス協力(真鶴町) 場所:当館(2013 年 7 月 30 日)

秋の見学会 講演『菌類の多様性と形のふしぎ』(共催/NPO 法人くらしとバイオプラザ 21 日本科学協会) 場所:当館(2013 年 10 月 5 日)

2013 年度日本きのこ学会セミナー・菌類観察会 講演「南西諸島の地下生菌(シクエストレート菌)」 場所:ホテルグランビュー石垣、石垣島、沖縄本島(2013 年 10 月 30 日)

自然史講座「地下生菌から読み解くきのこの収斂進化」(群馬県立自然史博物館) 場所:群馬県立自然史博物館(2013 年 12 月 15 日)

講演「地下生菌から探る、きのこの形と系統の関係」(東京きのこ同好会) 場所:八王子市北野市民センター(2014 年 1 月 26 日)

講演会「きのこの収斂進化と分類－ベニタケ科地下生菌を例に－」(ベニタケ研究会) 場所:三重大学生物資源学部(2014 年 2 月 1 日)

大島光春

天然記念物指定記念事業「史跡旧相模川橋脚」(茅ヶ崎市教育委員会) 場所:神奈川県衛生研究所、史跡旧相模川橋脚(2013 年 9 月 1 日)

一般公開「相模湾の地質と生物」における展示・解説(独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)) 場所:JAMSTEC 横浜研究所(2013 年 10 月 12 日)

第 21 回文理学部桜麗祭ポスター展「ジオフェスティバル」外部評価委員(日本大学文理学部地球システム科学科) 場所:日本大学文理学部(2013 年 11 月 2 日)

田口公則

第2回ミュージアムさくら塾『戸川の「戸」は砥石の「と」～丹沢が作り川が運ぶ石～』(秦野市立桜土手古墳展示館) 場所:秦野市立桜土手古墳展示館(2013 年 8 月 24 日)

科学ヘジャンプ・イン・東京 2013 ワークショップ「アンモナイトは巻き貝じゃないよ!」(科学ヘジャンプ・イン・東京実行委員会) 場所:筑波大学附属視覚特別支援学校(2013 年 10 月 20 日)

「縄文海進地図」に係わる解説（神奈川県地球温暖化防止活動推進センター（NPO 法人かながわアジェンダ推進センター））場所：新都市プラザ（横浜駅東口横浜そごう・丸井前広場）（2014 年 1 月 27 日）

平田大二

『石ころ観察会』（二宮自然観察会）場所：二宮海岸、元町老人憩いの家（座談会）（2013 年 5 月 10 日）
第 42 回神奈川地学ハイキング、第 469 回埼玉地学ハイキング（地学団体研究会神奈川支部）場所：西丹沢—丹沢湖から白石沢まで（2013 年 6 月 9 日）
『「箱根ジオパーク」北と南をつなぐ自然のみち第 1 部「箱根の地形・地質」』（おだわらシルバー大学 16 期卒業生の会）場所：当館（2013 年 11 月 15 日）

新井田秀一

環境とみどりコース「身近な環境とみどり」ワークショップ（NPO かわさき市民アカデミー）場所：当館（2013 年 7 月 4 日）

笠間友博

「荻窪用水および周辺のジオサイトについて」（NPO 法人小田原ガイド協会）場所：荻窪用水沿道（2013 年 6 月 6 日）

真鶴町成人学級「真鶴半島の成り立ち」～地層から学ぶ～（真鶴町教育委員会・自治会連合会）場所：真鶴町民センター（2013 年 6 月 13 日）

広報真鶴「特集企画 真鶴半島物語」におけるレファレンス協力（真鶴町）場所：当館（2013 年 7 月 29 日）

家庭教育講座「箱根の火山について」（箱根町教育委員会）場所：当館（2013 年 8 月 25 日）

平成 25 年度真鶴町後期成人学級「真鶴町の石丁場から地層を学ぶ（フィールドワーク）」（共催／真鶴町教育委員会・真鶴町自治会連合会）場所：真鶴高山丁場（2013 年 10 月 18 日）

おおい自然園『火山灰を調べよう』（大井町教育委員会）場所：大井町山田メガソーラー建設地（2014 年 2 月 1 日）

山下浩之

講演と野外観察「箱根ジオパークについて」（歴史探訪シニアグループ）場所：当館、石垣山（2013 年 4 月 2 日）

『箱根ジオパークの魅力Ⅱ—箱根の山々の生い立ち』（「HAKONE 大学」箱根町教育委員会）場所：箱根町社会教育センター（2013 年 7 月 26 日）

伊東自然歴史案内人養成講座「伊豆半島の成り立ちと伊豆石に関する講義」（伊東市観光課）場所：当館（2013 年 8 月 28 日）

3.8. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会について、「それぞれの名称（担当者）」と、「実施日（場所）参加者数」について記載した。

神奈川県植物誌調査会総会（勝山輝男・田中徳久・大西亘）2013 年 4 月 7 日（日）講義室（約 60 名）

平成 24 年度魚の会総会・平成 25 年度魚の会第 1 回講演会（瀬能 宏）2013 年 5 月 19 日（日）講義室（71 名）

菌類懇話会例会（合同観察会）（折原貴道）2013 年 7 月 7 日（日）（実習実験室）18 名

平成 25 年度魚の会第 2 回講演会（瀬能 宏）2013 年 8 月 18 日（日）講義室（60 名）

2013 年度神奈川昆虫談話会第 3 回例会（苅部治紀・渡辺恭平）2013 年 8 月 25 日（日）講義室（46 名）

湘南地球科学の会第 159 回講演会（平田大二・大島光春・山下浩之）2013 年 9 月 7 日（土）講義室（参加者 40 名）

平成 25 年度魚の会第 3 回講演会（瀬能 宏）2013 年 11

月 4 日（月・振休）講義室（143 名）

2013 年度神奈川昆虫談話会第 5 回例会（苅部治紀・渡辺恭平）2013 年 12 月 1 日（日）講義室（53 名）

湘南地球科学の会第 163 回講演会（平田大二・大島光春・山下浩之）2014 年 1 月 18 日（土）講義室（25 名）

第 2 回海と命をめぐる公開講演会（独立行政法人海洋研究開発機構・BIOGEOS との共催）（折原貴道・平田大二）2014 年 2 月 9 日（土）SEISA ミュージアムシアター（78 名）

神奈川県防災起爆剤研究会講演会（平田大二）2014 年 3 月 23 日（土）SEISA ミュージアムシアター（150 名）

平成 25 年度魚の会第 4 会講演会（瀬能 宏）2014 年 2 月 23 日（日）講義室（18 名）

2014 年度神奈川昆虫談話会第 2 回例会（苅部治紀・渡辺恭平）2014 年 3 月 30 日（日）講義室（42 名）

3.9. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、「協力先」「企画名」「期間」協力内容(担当者)」を記載した。

箱根ジオパーク推進協議会総会(斎藤靖二・平田大二・笠間友博・新井田秀一・山下浩之) 2013 年 5 月 30 日、講義室。
箱根ジオパーク推進協議会幹事会(平田大二・笠間友博・山下浩之)、2013 年 4 月 27 日(金)、7 月 10 日(水)、8 月 30 日(金)、9 月 19 日(水)、11 月 1 日(金)、2014 年 1 月 10 日(金)、3 月 21 日(木)、講義室等。
箱根町火山学習センター(仮称) 展示打ち合わせ(平田大二) 2013 年 4 月 24 日(水)、7 月 31 日(水)、8 月 29 日(木)、9 月 11 日(水)、10 月 17 日(木)、11 月 27 日(水)、11 月 29 日(金)、12 月 18 日(水)、2013 年 1 月 15 日(水)、1 月 24 日(金)、1 月 30 日(木)、2 月 7 日(金)、2 月 12 日(水)、2 月 28 日(金) 会議室等。
神奈川県博物館協会「研修会講演」(平田大二) 2014 年 2 月 8 日(金) 神奈川県立歴史博物館。
川崎市青少年科学館協議会(平田大二) 2013 年 7 月 9 日(火)、10 月 31 日(木)、12 月 17 日(火)、2014 年 2 月 19 日(水) 川崎市青少年科学館。
小田原市文化財保護審議会(平田大二) 2013 年 7 月 12 日(金)、小田原市役所。
相模原市文化財保護審議会(平田大二) 2013 年 9 月 2 日(月)、2014 年 2 月 17 日(月) 相模原市内現地視察
神奈川県立西湘高校 SSH 運営委員会(平田大二) 2013 年 7 月 30 日(火)、研究発表会 10 月 18 日(金) 西湘高校。

玉川学園 SSH 運営委員会(平田大二) 2013 年 7 月 12 日(金)、2013 年 2 月 15 日(金) 玉川学園。
NPO 法人日本地学オリンピック委員会(平田大二) 国際地学オリンピック・2013 年アルゼンチン大会事前合宿最終合宿、2013 年 8 月 20 日(火)、21 日(水) 講義室。
一般社団法人海外産業人材育成協会(平田大二) 講演、2013 年 10 月 7 日(火) 神奈川県温泉地学研究所。
日本大学文理学部地球システム科学科授業評価(平田大二) 2012 年 7 月 9 日(月) 日本大学文理学部。
シベリアマンモス YUKA 展実行委員会(平田大二) 2013 年 5 月 22 日、10 月 7 日横浜植物防疫所、7 月 9 日(火) パシフィコ横浜。
教育自然学研究会講演会(平田大二) 2013 年 5 月 5 日 湘南国際村、研修会 9 月 28 日ワークショップ 渋沢、2014 年 1 月 25 日全体研究会 鎌倉女子大二階堂学舎。
国立科学博物館「大恐竜展 ゴビ砂漠の驚異」2013 年 10 月 26 日(土) ～ 2014 年 2 月 23 日(日) 展示協力(松本涼子)
国立科学博物館「大恐竜展 ゴビ砂漠の驚異」2014 年 1 月 31 日(土) ～ 2014 年 2 月 14 日(日) 講演(松本涼子)
湘南地球科学の会(平田大二・大島光春・山下浩之)
神奈川地学会(田口公則・笠間友博・樽 創・石浜佐栄子・平田大二)

3.10. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。今年度は日本学術振興会特別研究員 2 名、外来研究員 15 名を受け入れた。以下に「外部研究者氏名:研究テーマ(受け入れ担当者)」を掲載する。なお、今年度の研究成果に関しては、資料の項(99 ～ 105 ページ)に掲載した。

小坂井千夏(特別研究員):ツキノワグマの生態研究の成果を活かす市民向け普及プログラムの開発(広谷浩子)
宮崎佑介(特別研究員):WEB 上に散在する潜在的自然史資料の発掘とその活用(瀬能 宏)
若代彰路:西丹沢の森林・溪流生態系における哺乳類の研究(広谷浩子)
山口喜盛:神奈川県におけるコウモリ類の分布について(広谷浩子)
長谷川嘉則:酒匂川流域における両生類の分布調査(加藤 ゆき)
丸野内淳介:ウシガエルが消化していたカエルの解析、アメリカザリガニ生息地におけるアカハライモリの負傷状況の調査(加藤ゆき)
栗岩 薫:伊豆諸島一小笠原群島間における浅海性魚類

の生物地理学的研究(瀬能 宏)
須島充昭:神奈川県産 *Trichosia* 属(ハエ目、クロバネキノコバエ科)の分類学的研究(荻部治紀)
中村進一:神奈川県産 R D 種の蝶類の調査研究(荻部治紀)
佐野真吾:神奈川県におけるミズムシ科の生息状況(荻部治紀)
加賀玲子:ウマノオバチ (*Euurobracon yokahamae* Dalla Torre) の産卵行動について(2)(荻部治紀)
矢野倫子:本州中部の変形菌相の研究(折原貴道)
竹本周平:神奈川県産クロサイワイタケ目菌類に関する調査研究(折原貴道)
中島淳志:アオカビ属菌(広義)の天然基質(果実)における多様性と宿主選好性(折原貴道)
門田真人:丹沢山地と伊豆半島の中新統の石灰岩より産出

する化石群集から古環境を復元する(田口公則)
姉崎智子：神奈川県産のツキノワグマ頭骨の形態変異に関する研究(樽 創)

青木雄司:神奈川県におけるムササビの分布状況の変化(広谷浩子)

3.11. 名誉館員

博物館名誉館員称号授与要項に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として20年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員を名誉館員に認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名(認定年月日)」を以下に掲載する。

館長	生出智哉(2000年4月1日)
濱田隆士(2000年4月1日)(2011年1月19日逝去)	松島義章(2002年4月1日)
青木淳一(2006年4月1日)	中村一恵(2004年4月1日)
	今永 勇(2005年4月1日)
学芸員	奥野花代子(2009年3月31日)
高橋秀男(2000年4月1日)	山口佳秀(2012年3月30日)
村岡健作(2000年4月1日)	高桑正敏(2012年3月30日)
	新井一政(2013年3月31日)

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2014年3月31日現在の収蔵資料の登録実績は右表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料登録実績に関しては、資料の項(89ページ)に掲載した。

4.1.2. 購入資料

[魚類] 合計 55 点
世界の淡水魚類 55 点

[昆虫] 合計 210 点
世界のトンボコレクション 40 点
常設展示用の昆虫標本 170 点

[古生物] 合計 6 点
原始的長鼻類化石およびデスモスチルス化石 2 点
ネオパラドキシアの臼歯 1 点
恐竜(サウロルニトレステス)の爪 1 点
イルカ類頭骨化石 2 点

[地質・ボーリング] 合計 2 点
地層剥ぎ取り資料(津波堆積物) 2 点

[衛星画像] 合計 20 点
地球観測衛星 ASTER データ 20 点

収蔵資料の登録実績

分野	2012 年度までの登録数	2013 年度の登録数	合計
哺乳類	4,127	368	4,495
鳥類	2,462	102	2,564
魚類	34,730	1,301	36,031
魚類写真	124,709	13,280	137,989
昆虫	29,028	0	29,028
軟体動物	21,581	449	22,030
甲殻類	10,794	3,456	14,250
甲殻類細密画	439	36	475
両生・爬虫類	721	64	785
動物その他	66	0	66
維管束植物	248,715	6,899	255,614
コケ	9,366	0	9,366
菌類・地衣類	23,147	936	24,083
藻類	3,430	906	4,336
植物その他	254	0	254
植生	175	0	175
化石	12,308	368	12,676
岩石	6,216	160	6,376
鉱物	19,289	107	19,396
地質・ボーリング	2	0	2
衛星画像	938	60	998
衛星処理画像	145	8	153
景観画像	1,362	1,099	2,461
植物標本	0	183	183
合計	554,004	29,782	583,786

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2013 年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 点数（寄贈者（敬称略）」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄

贈資料をまとめ、代表する資料名、合計点数を記した。なお、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には掲載していない。

〔哺乳類〕 合計 313 点

検体寄贈

イタチ 1 点
イヌ 1 点
カマイルカ 1 点
タヌキ 1 点
ニホンザル 1 点
ニホンカモシカ 1 点
ニホンイノシシ 1 点
イタチ 1 点
クマネズミ 1 点
イタチほか 2 点
アライグマ 1 点
アナグマほか 33 点
アナグマほか 4 点
アナグマほか 48 点
ニホンザル 31 点
ニホンザル 9 点
オオカンガルー 1 点
カピバラほか 5 点
キリンほか 3 点
ホッキョクグマ 1 点
スナメリほか 10 点
スローロリス 8 点

標本寄贈

ツキノワグマほか 3 点
テン 1 点
トラほか 2 点
アカネズミほか 139 点
ライオン 1 点
ココノオビアルマジロ 1 点
ピューマ 1 点

〔鳥類〕 合計点 50 点

キジほか 3 点
オオミズナギドリ 1 点
ハシブトガラス 1 点
ハシブトガラスほか 16 点
キンクロハジロほか 4 点
アオサギほか 25 点

〔魚類〕 合計 1,211 点

コイ（飼育型）ほか 2 点
ギンザメほか 13 点

アブラハヤほか 14 点
オニオコゼ科未同定属未同定種ほか 31 点
シマガツオほか 3 点
カサゴ 2 点
スミツキアカタチほか 3 点
ミナミメダカ（地域型不明）ほか 2 点
タツノオトシゴ 7 点
トウヨシノボリ（型不明）ほか 43 点
アカアマダイほか 332 点
サヨリほか 3 点
アブラボウズ 3 点
ミツクリザメほか 2 点
ナガレミミズハゼほか 8 点
アオバラヨシノボリほか 9 点
アオノメハタほか 54 点
ミナミメダカ（地域型不明）4 点
イトフエフキほか 5 点
マンボウ 1 点
チョウジャゲング属近似属の1種1ほか 4 点
ヌエハゼ 10 点
オオガラスハゼほか 12 点
タマカエルウオ 2 点
ウルメイワシほか 36 点
ムシガレイ 1 点
ソコイワシほか 8 点
カワアナゴほか 15 点
ウンブキアナゴほか 3 点
アマゴ 6 点
アナハゼほか 2 点
ヨリメハゼ属の1種11 点
ツマジロオコゼ 1 点
アンフィロファス・キトリネルス × ビエヤ・シンスピラ 1 点
フトツノザメほか 2 点
ソコイトヨリほか 6 点
サケガシラ 1 点
イッテンサクラダイほか 5 点
アカゴチほか 6 点
ドジョウ 5 点
フタスジコバンハゼ 1 点
ハゼ科未同定属未同定種 1 点
アカグツほか 12 点

アイゴほか 112 点
ゲンゴロウブナほか 18 点
アユほか 2 点
ギンガメアジほか 9 点
ズナガアカボウ 1 点
スイトウハダカほか 4 点
アジ科未同定種ほか 5 点
アイゴほか 154 点
オアカムロほか 2 点
オオヨドシマドジョウほか 39 点
アカイサキほか 47 点
メガマウスザメ 1 点
キビナゴほか 11 点
オオカズナギほか 14 点
ニジマスほか 2 点
アオギス 33 点
アセウツボほか 41 点
ミナミメダカ（地域型不明） 1 点
ノテニア科未同定属未同定種 1 点
アカヒメジほか 28 点
カスミフグ × スジモヨウフグほか 2 点
アスティアナックス・ファスキアタス種群 2 点

[魚類写真] 合計 12,542 点

クロスロード・リーフゴビーほか 5 点
アゴアマダイ属未同定種ほか 27 点
クロアナゴ属の 1 種 1 点
イトフエフキ 1 点
キンメモドキほか 8 点
オニハゼ属未同定種ほか 8 点
ベニカエルアンコウほか 2 点
コイ 3 点
クマノミほか 12 点
カワビシャ 1 点
イスズミ属未同定種ほか 2 点
ハチビキ 1 点
ナメモンガラ属未同定種ほか 2 点
イトヒキベラ属未同定種ほか 5 点
ソウギョ 4 点
ナミマツカサほか 5 点
アズマハナダイ 1 点
オウゴンムラソイほか 4 点
イイジマダルマガレイ属未同定種ほか 5 点
ボウズコンニャク属未同定種 1 点
エイラクブカ 1 点
イソハゼ属未同定種 1 点
オステオキルス属未同定種ほか 5 点
アミメカワヨウジ 1 点
テッポウイシモチほか 2 点
フレンチ・エンゼルフィッシュ 1 点

アカゲツほか 5 点
ニゴイ 1 点
ミナミメダカ（地域型不明） 4 点
スミクイウオ属未同定種ほか 3 点
アオスジヤツシハゼほか 285 点
カタボシイワシほか 5 点
クロホシフエダイ 1 点
アカテンモチノウオほか 155 点
コリドラス・アエネウスほか 2 点
スジギンボ属未同定種 1 点
イトフエフキ 1 点
アオハナテンジクダイほか 13 点
ハス 1 点
バルドスポット・モノクル・ブリームほか 3 点
ナガレミミズハゼほか 8 点
コンテリボウズハゼほか 14 点
アオスジモンガラほか 243 点
アカツキハギほか 160 点
ヒュウガカサゴ 1 点
アルファスズメダイほか 2 点
イソハゼ属未同定種ほか 40 点
アカメハゼほか 16 点
ヒマワリスズメダイほか 65 点
オオクチユゴイ 3 点
イトフエフキほか 3 点
ヌエハゼ 2 点
イチモンスズメダイほか 13 点
ハクレン 1 点
オオクチバス 1 点
スジスズメダイ 1 点
ミナミハコフグ 1 点
ユウゼンほか 3 点
アジアコショウダイほか 2 点
アオチビキほか 296 点
イブリカマスほか 3 点
コミナトテンジクダイほか 2 点
アゴアマダイ属未同定種ほか 7 点
アイブリほか 16 点
クロダイほか 2 点
アカエイほか 2 点
フチドリハナダイ 1 点
アオモンギンボほか 18 点
トラウツボほか 5 点
トウシマコケギンボ 1 点
カモハラトラギス 1 点
オオウミウマほか 6 点
アカエソほか 58 点
カズナギ属未同定種 1 点
コクテンハギほか 2 点
アオノメハタほか 464 点
トンガリハゼ属未同定種ほか 2 点

スミウキゴリ 1 点
ウルメイワシほか 36 点
カゴシマオコゼ属の1種ほか 4 点
イトヒキハゼ属未定種 1 点
ポリプテルス・エンドリケリイ 1 点
ニシキハゼほか 2 点
ダルマガレイ属未定種ほか 27 点
アカブダイ 1 点
アオスジエビスほか 656 点
ウンブキアナゴ 4 点
アカスジウミタケハゼほか 28 点
セダカニセメギス 1 点
アゴアマダイ属未定種ほか 9 点
コイ 1 点
ホカケトラギス 1 点
サザナミフグ 1 点
イソハゼ属未定種ほか 40 点
オステオキルス・ビッタータスほか 72 点
マンボウ 7 点
ハナオコゼ 4 点
クロコショウダイほか 2 点
ボラ 1 点
サザレハゼ 1 点
アオギスほか 14 点
ワタカ 1 点
アカブダイ 1 点
ヒョットコオコゼ 1 点
アカメハゼほか 24 点
キホシスズメダイ近似種 1 点
イロブダイほか 12 点
アイナメほか 13 点
ソトイワシ 1 点
アゴハタ 1 点
アブラヤッコ属未定種ほか 10 点
アオスジモンガラほか 296 点
マルスベカサゴ 1 点
ヤツシハゼ属未定種 1 点
コロダイ 1 点
アオモンギンポほか 26 点
イトヒキペラ属の1種2ほか 6 点
アブオコゼほか 8 点
アカネキンチャクダイほか 2 点
シマウミスズメ 1 点
アブラヤッコ属未定種ほか 8 点
イロカエルアンコウほか 9 点
ヤリマンボウ 1 点
アサバホラアナゴほか 13 点
ムラサメハゼ 1 点
コクチフサカサゴ 1 点
コケギンポ属未定種ほか 3 点

イソハゼ属未定種ほか 14 点
クロヤナギハゼ 1 点
オグロペラほか 5 点
アジ科未定種ほか 43 点
シラタキペラダマシほか 7 点
カワビシャ 1 点
ヤジリエイ 1 点
ウメイロほか 3 点
イトヒキハゼ属未定種ほか 3 点
オオヒメほか 2 点
ヨダレカケ 1 点
ギギ 6 点
ウミタナゴほか 28 点
フエフキダイ属未定種ほか 2 点
アカマツカサ属未定種ほか 37 点
ギンブナほか 13 点
マンボウ 1 点
マダラギンポ 1 点
オオモンハタほか 8 点
キタマクラ 1 点
ヒュウガカサゴ 1 点
スズメダイ科未定種ほか 3 点
アワセイソハゼ属の1種1ほか 6 点
アイゴほか 5396 点
サケガシラ属未定種 1 点
ウツボ属未定種 1 点
オウゴンムラソイ 1 点
イトカケホオカギハゼほか 8 点
アカゴチ 1 点
コベンケイハゼほか 4 点
アヤコショウダイほか 19 点
ハゼ科未定属未定種 1 点
シシマイギンポほか 8 点
サークルド・ドラゴネット 3 点
オオモンハタほか 8 点
カスリカエルアンコウ 1 点
スパインチーク・アネモネフィッシュ 1 点
ベステル 1 点
アカホシイソハゼほか 5 点
パラタエニオフォルス・プレビス 1 点
レッド・ドラム 1 点
アカネキントキほか 8 点
クシフォフォルス・マキュラータス 2 点
アカボウズハゼほか 35 点
イゴダカホデリほか 14 点
メイキュウサザナミハギ 1 点
ボウズハゼ 1 点
オオヒメ 1 点
オキシケイリヌス・アレナタスほか 3 点
アミメウツボほか 22 点
セグロヘビギンポほか 5 点

イトヒキベラ属未同定種ほか 6 点
カズナギ属未同定種 1 点
オオウルマカサゴ 1 点
アミメフエダイほか 4 点
オオウルマカサゴほか 3 点
オオモンハタ 1 点
アシシロハゼ 1 点
イトヒキベラほか 3 点
オニベニハゼ 1 点
イトヒキサギほか 23 点
ヤリマンボウ 1 点
ネズヅボ科未同定属未同定種 1 点
ニセスズメ属未同定種 1 点
オオカズナギほか 3 点
ヨコフエダイ 1 点
オキナワベニハゼほか 4 点
アオモンギンボほか 16 点
イトヒキベラほか 16 点
マトウトラギス 1 点
イサリビハダカほか 13 点
カワビシャ 1 点
アカテンモチノウオほか 10 点
アオイソハゼほか 2057 点
タテガミカエルウオほか 259 点
アオモンギンボほか 100 点
アカントスフェックス・レウリニスほか 28 点
オキザヨリ 1 点
オオグチイシチビキほか 4 点
アカメバルほか 4 点
ツルグエ 1 点
ルリスズメダイ 1 点
アカササノハベラほか 18 点
エソムス・メタルリクス 1 点
ヒレナガヤッコ 1 点
イズオコゼ 1 点
カエルアンコウ科未同定属未同定種 1 点
アカントスフェックス・レウリニスほか 3 点
アカネキンチャクダイほか 3 点
スズメダイ科未同定種 1 点
ゴクラクハゼほか 3 点
イトカケホオカギハゼほか 23 点
モンツキカエルウオ 1 点
コケギンボ属未同定種ほか 4 点
カエルアンコウほか 3 点
キンギョハナダイほか 6 点
クモハゼほか 5 点
スキャロプト・トルペド・レイ 1 点
イレズミフエダイほか 2 点
キハッソク 1 点
イソカサゴほか 18 点
パウダーブルー・サージョンフィッシュ 1 点

イトヒキイワシ属未同定種ほか 13 点
アカハタほか 19 点
アカブダイほか 6 点
クモハゼほか 3 点
シコクスズメダイほか 2 点
カクレマノミ 1 点
カスミフグほか 10 点
オボロゲタテガミカエルウオ 2 点
イトカケホオカギハゼほか 29 点
アカオビハナダイほか 7 点
クサビフグほか 12 点
キリアナゴほか 2 点
ヤリマンボウ 1 点
オキイワシほか 617 点

[軟体動物] 合計 401 点

アオガイほか 387 点
カサガイほか 13 点
テナガダコ 1 点

[甲殻類] 合計 2,771 点

キトウガニ 1 点
パグルス・ベルンハルドウス 6 点
ヒメケブカツノガニ 2 点
ヒライソガニ 13 点
リオカルキヌス・ホルサトウス 3 点
スナホリガニほか 5 点
チチュウカイミドリガニほか 4 点
ヨーロッパミドリガニほか 4 点
スンダテルフサ・フィリピナ 2 点
ウモレオウギガニほか 14 点
ヒヅメオウギガニ 20 点
イッカククモガニ 2 点
アカイシモドキほか 9 点
ウチワエビほか 19 点
アマミナミサワガニほか 34 点
オオトガリガニほか 3 点
オーストンガニほか 6 点
スンダテルフサ・フィリピナ 6 点
ザリガニ 1 点
ツブトゲオウギガニほか 9 点
メガネカラッパ 1 点
スナホリガニほか 32 点
オウギガニ科・種未同定ほか 13 点
伊豆鳥島東方で採集されたカニ 1 点
クモガニ科・種未同定 4 点
アカホシコブシほか 39 点
アカエビほか 103 点
アカテガニほか 31 点
ウオノエ科・種未同定 5 点

オウギガニほか 8 点
徳之島で採集されたカニ 9 点
アカホシサンゴガニほか 15 点
イワオウギガニ 3 点
イボイチョウガニほか 15 点
ヘイケガニ 2 点
イバラエビ 1 点
アメリカザリガニほか 2 点
コノハガニ 1 点
コワタクズガニ 1 点
アカゲカムリほか 88 点
アサヒガニモドキ 1 点
カノコセビログガニほか 15 点
オオグソクムシ 1 点
ツブトゲオウギガニほか 86 点
ムツハホソウデガザミ 1 点
タマオウギガニほか 5 点
トゲアシガニほか 2 点
キンセンガニ 1 点
ツブヒメガザミ 3 点
アカイシガニほか 1702 点
ミミズクガニ 1 点
メガネカラッパ 2 点
コツノガニ 10 点
ウオノエ科・種未同定 1 点
イボカイカムリほか 5 点
サワガニ 1 点
カニのメガロパ幼生 1 点
静岡県沼津市旧戸田村で採集されたエビほか 8 点
モクズガニ 1 点
イボイチョウガニ 1 点
イソクズガニほか 9 点
キンセンガニほか 3 点
ヒライソガニ 40 点
ウオノエ科・種未同定 4 点
マクロビプス・ボルサトゥス 1 点
ヒメオウギガニモドキ 2 点
ニホンカムリほか 30 点
サワガニ 4 点
リュウキュウサワガニ 2 点
アカザエビほか 8 点
オウギガニ 2 点
ミツハキンセンモドキ 1 点
カランゲージョほか 5 点
サメハダオウギガニ 1 点
ツノガニ 1 点
カクレガニ科・種未同定 1 点
ヤマトトックリウミグモほか 3 点
オオシロピンノほか 3 点
ウオノエ科・種未同定 1 点

ヒラワタクズガニほか 3 点
アケウスほか 43 点
コモンガニ 3 点
カルマンガニ 2 点
ビロウドアワツブガニ 1 点
カノコオウギガニ 1 点
イッカククモガニ 4 点
イボイチョウガニ 3 点
クマドリオウギガニほか 27 点
メガネカラッパ 1 点
モクズガニ 2 点
オオツノクリガニ 2 点
アシズリツノガニほか 8 点
アカテガニほか 165 点

〔両生・爬虫類〕 合計 41 点

リュウキュウヤマガメ 1 点
カミツキガメ 1 点
アカウミガメ 2 点
ハコネサンショウウオ 1 点
ハコネサンショウウオほか 15 点
カミツキガメ 1 点
ニホンスッポン 2 点
アカハライモリ 2 点
アメリカアリゲーター 1 点
インドガビアルほか 12 点
カミツキガメ 1 点
カミツキガメ 1 点
ワニガメ 1 点

〔維管束〕 合計 6,530 点

〔菌類・地衣類〕 合計 788 点

Mycogone cervina Ditmar 3 点
ウツロイモタケほか 11 点
キヒダフウセンタケ 1 点
キノガサタケ 2 点
ホコリタケ属の一種 1 点
フミヅキタケ属ほか 3 点
ショウロ 2 点
フキサクラシメジ 1 点
ホウキタケ属の一種 1 点
シャグマアミガサタケ 1 点
ミヤマツバタケ属の一種 1 点
エツキクロコップタケ 1 点
アルボヴァ属の一種 1 点
ムラサキホコリ属の一種 1 点
クルミタケ属の一種 1 点
ヨシなまぐさ黒穂病菌ほか 2 点
オオシロカラカサタケほか 2 点
Sepedonium brunneum Pk. 1 点

ヤマブシタケ 1 点
 ニクハリタケ属の一種 1 点
 ショウロほか 5 点
 アヤメイグチ類似菌ほか 2 点
 カラカサタケ 1 点
 キッコウアワタケ近似種ほか 5 点
 キショウゲンジ 1 点
 オクヤマニガイグチ 1 点
 チチタケ属の一種 1 点
 チャワンタケ属ほか 4 点
Sphaerocreas pubescens Sacc. & Ellis 7 点
 ノボリリュウ 1 点
 アカツブタケほか 25 点
 カタホコリ属の一種ほか 12 点
 スギタケ属の一種ほか 2 点
 アミメニセショウロ 1 点
 スギヒラタケ 1 点
 クロハリタケ 1 点
 オニナラタケ 1 点
 クロサイワイタケ属の一種ほか 3 点
 アカメガシワ角斑病菌ほか 3 点
 イモムシヒモホコリ 1 点
 エノキタケ 1 点
 ウスベニイタチタケほか 3 点
 アミアシオニイグチ 1 点
Cladobotryum ramificans Tokiwa & okuda ほか 15 点
 タイコヒメツチグリほか 3 点
 オサムシタケ 1 点
 ミヤマオシロイタケ 1 点
Pestalotiopsis sp. ほか 2 点
 ビワの葉さび病菌 1 点
 オキナツエタケほか 3 点
 キノボリイグチほか 3 点
 ウツボホコリ属の一種ほか 2 点
 クサハツ近似種ほか 2 点
 オオホウライタケほか 2 点
 アオゾメタケほか 92 点
 アンズタケ属の一種ほか 23 点
 スギエダタケほか 2 点
 ニオイハリタケモドキ 1 点
 ハナホウキタケ 1 点
 ニカワハリタケ 1 点
 ウツボホコリ属の一種ほか 2 点
 シロウツボホコリほか 3 点
Mycogone cervina Ditmar 1 点
Chamonixia caespitosa Rolland 2 点
 ネズミツチダマタケ 2 点
 スギタケほか 2 点
 クロノボリリュウほか 7 点
 フジイロチャワンタケモドキ 1 点
 イロガワリ類似種ほか 12 点
 キノウエホネホコリ 1 点
 チカラシバ黒穂病菌 1 点
 ヒイロベニヒダタケほか 3 点
 アオカビ属の一種ほか 4 点
 クロチャワンタケ属ほか 59 点
Helvella sp. 1 点
 キチャワンタケ 1 点
 クロホコリタケ 1 点
 アイゾメツバタケ (青木仮称) ほか 3 点
 オクヤマニガイグチ近縁種 1 点
 スミゾメヤマイグチ類似種ほか 2 点
 ニガイグチモドキ 1 点
 イッポンシメジ属の一種ほか 21 点
 ホコリタケ属の一種 1 点
 ヒビワレシロハツ 1 点
 ウツロイモタケ 1 点
 シロウロコツルタケ 1 点
 スミゾメヤマイグチ 1 点
 シメジ属の一種ほか 2 点
 オオシロアリタケ属の一種ほか 2 点
 シロキツネノサカズキほか 66 点
 ハイイロイタチタケほか 11 点
 テングタケ属の一種 1 点
 チャ炭疽病菌 1 点
 オトメノカサ属の一種ほか 5 点
 クラカタホコリほか 5 点
 ノウタケ 1 点
 カンゾウタケ 1 点
 ホソエノヌカホコリ 1 点
 ウロコオクバタケほか 10 点
 ホテイシメジ 1 点
 ヒメカタホコリ 1 点
 サカズキホコリほか 3 点
 ガマガチフクロホコリ 1 点
 アオモジホコリほか 216 点
 アシナガアミホコリほか 29 点
 ムラサキホコリ属 sp.1 点
 シロクロハツほか 2 点
 ヒラフスベ 1 点
 アカヒダカラカサタケほか 6 点
Chalciporus piperatus ほか 2 点
 ステファノスポラ属の一種ほか 4 点
Entoloma hochstetteri 1 点
Rossbeevera bispore 1 点
Turmalinea chrysocarpa Orihara & Z.W. Ge, nom.
 ined. 1 点
 [藻類] 合計 906 点

アオサ属の1種ほか 906 点

[化石] 合計 22 点

ヒトデ 1 点

クジラ類(耳石) 5 点

Notophycis 属ほか 4 点

クジラの脊椎ほか 7 点

イノウエオットセイほか 3 点

アシカ類下顎ほか 1 点

ホラアナグマ 1 点

[岩石・火山灰・隕石・砂] 合計 141 点

神奈川県横浜市金沢区釜利谷西の砂 1 点

富山県中新川郡立山町芦嶮寺の砂ほか 2 点

パラオ共和国の砂 1 点

静岡県下田市柿崎の砂 1 点

アメリカ合衆国フロリダ州マイアミ市の砂ほか 2 点

岡山県岡山市東区犬島の砂ほか 2 点

神奈川県小田原市国府津の砂 1 点

沖縄県島尻郡座間味村阿嘉の砂ほか 3 点

神奈川県中郡大磯町大磯地先の砂ほか 53 点

埼玉県秩父郡小鹿野町長留の砂ほか 2 点

オーストラリア ケアンズ市の砂ほか 2 点

和歌山県西牟婁郡白浜町白浜の砂 1 点

神奈川県藤沢市辻堂西海岸の砂 1 点

愛媛県伊予市双海町上灘の砂ほか 6 点

静岡県伊東市宇佐美の砂 1 点

広島県廿日市市宮島町の砂 1 点

インドネシア共和国東ヌサ・トゥンガラ州の砂 1 点

ペルー共和国イカ県ケンチャ市の砂 1 点

神奈川県相模原市南区当麻の砂 1 点

アイスランド共和国の砂ほか 6 点

沖縄県宮古島市伊良部の砂ほか 6 点

鹿児島県奄美市の砂ほか 2 点

神奈川県横須賀市鴨居腰越の砂ほか 18 点

神奈川県小田原市早川の砂 1 点

沖縄県八重山郡竹富町西表舟浮の砂 2 点

秋田県山本郡八峰町八森の砂ほか 3 点

インドネシア共和国バリ島クタの砂ほか 4 点

チリ共和国アリの砂ほか 3 点

沖縄県国頭郡恩納村の砂 1 点

静岡県賀茂郡南伊豆町湊の砂ほか 6 点

神奈川県小田原市南町の砂 1 点

鹿児島県名瀬市長浜の砂ほか 4 点

アメリカ合衆国フロリダ州の砂 1 点

4.1.4. 採集その他による資料(新たに登録されたもの)

分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数	分野	登録数
哺乳類	55	甲殻類	685	菌類・地衣類	148	鉱物	107
鳥類	52	甲殻類細密画	36	藻類	0	地質・ボーリング	0
魚類	90	両生・爬虫類	23	植物その他	0	衛星画像	60
魚類写真	738	動物その他	0	植生	0	衛星処理画像	8
昆虫	0	維管束植物	369	化石	346	景観画像	1,099
軟体動物	48	コケ	0	岩石	19	植物標本	183
						合計	4,066

4.1.5. 既存資料の加工

[哺乳類]

哺乳類本剥製 2 点

[爬虫類]

カミツキガメ本剥製 1 点

[鳥類]

鳥類本剥製 6 点

4.2. 図書資料収集状況

2013 年度受入した和書の冊数は、購入が 55 冊、寄贈が 1563 冊、編入が 2 冊、管理換が 16 冊であった。

洋書については、購入が 0 冊、寄贈が 113 冊、編入が 0 冊であった。受入図書の合計は 1,749 冊である。そのほか CD-ROM の寄贈が 7 タイトルであった。

2013 年度受入図書資料数

2013 年度受入図書 (冊)					
	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	55	1,563	2	16	1,636
洋書	0	113	0	0	113
合計	55	1,676	2	16	1,749

2014 年 3 月 31 日現在の所蔵資料総数は次のとおりである。

2013 年度までの所蔵資料総数

分野	登録数
国内刊行図書	20,056 (冊)
国外刊行図書	3,648 (冊)
購入国内雑誌	14 (タイトル)
購入国外雑誌	12 (タイトル)
寄贈国内雑誌	2,880 (タイトル)
寄贈国外雑誌	591 (タイトル)
ビデオソフト	332 (巻)
CD-ROM	46 (タイトル)
マイクロフィルム	34 (リール)
合計	27,613 (点)

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 資料特別利用

博物館資料について、特に学術上の研究のため利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料利用を提供している。特別利用を受ける際は、特別利用承認申請書を提出し、承認を受け、博物館の資料を閲覧、計測、撮影、掲

載などの利用が可能である。

2013 年度について、特別利用の利用数は次のとおりである。

分野別の特別利用の件数

利用について通常の研究利用は「閲覧」とし、特に撮影を伴うものを「撮影」、データ解析を目的とするものを「解析」、「その他」には、学術発表利用（たとえば、学会等発表、論文発表での画像掲載等）を含めた。

標本：実物標本等、画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタル画像：デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像、属性データ：標本情報

種別			利用	閲覧		撮影		解析		その他		合計	
				件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
動物	哺乳類	標本			2	42						2	42
		画像							1	1	1	1	
	鳥類	標本										0	0
		画像										0	0
	両生・爬虫類	標本										0	0
		画像										0	0
	魚類	標本	575	608	27	27	63	71				665	706
		画像										0	0
		デジタル画像	4,979	5,601					8	22	4,987	5,623	
		属性	5	135,473							5	135,473	
	昆虫	標本										0	0
		画像							2	2	2	2	
	軟体動物・甲殻類・動物その他	標本										0	0
		画像										0	0
		デジタル画像										0	0
植物	標本	40	40								40	40	
	画像										0	0	
	属性					3	43,565			3	43,565		
菌類	標本	1	1								1	1	
	画像							1	6	1	6		
	属性										0	0	
古生物	標本	1	1	5	5						6	6	
	画像	1	1								1	1	
	デジタル画像										0	0	
地球環境	標本										0	0	
	画像										0	0	
	デジタル画像										0	0	
計			5,602	141,725	34	74	66	43,636	12	31	5,714	185,466	

4.3.2. 資料館外貸出

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を提供している。資料の貸出しを受ける際は、館外貸出承認申請書を提出し、承認を受け、博物館資料を借用利用することができる。主な利用は、展示、掲載・放映などである。

ただし、研究に関する利用であっても、館外貸出として申請のあったものは本項目の『その他の利用』に含めた。2013 年度について、館外貸出しの利用数は次のとおりである。

分野別の館外貸出の件数

標本：実物標本等、画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタル画像：デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像、属性データ：標本情報

種別			利用	展示		教材		掲載・放映		その他		合計	
				件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	10	75	7	76					17	151	
		画像									0	0	
	鳥類	標本			2	2					2	2	
		画像									0	0	
	両生類・爬虫類	標本	9	10							9	10	
		画像									0	0	
	魚類	標本	20	23							20	23	
		画像									0	0	
		デジタル画像	42	42	37	37	92	102			171	181	
		属性									0	0	
	昆虫	標本					5	5			5	5	
		画像									0	0	
	軟体動物・甲殻類・動物その他	標本	7	7					1	1	8	8	
		画像									0	0	
		デジタル画像					3	3			3	3	
植物		標本	18	18							18	18	
		画像									0	0	
		属性									0	0	
菌類		標本	15	24			7	17			22	41	
		画像									0	0	
		属性									0	0	
古生物		標本	37	51	8	96			1	2	46	149	
		画像			1	40					1	40	
		デジタル画像	9	9	1	1	3	3			13	13	
地球環境		標本	5	9	6	6			11	11	22	26	
		画像			1	1	5	5			6	6	
		デジタル画像			25	25	31	31	1	1	57	57	
博物館		デジタル画像					2	2			2	2	
計			172	268	88	284	148	168	14	15	422	735	

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために燻蒸を行った。

4.4.1. 資料標本の燻蒸について

1. 大収蔵庫の燻蒸

平成 25 年 6 月 17 日から 21 日まで、酸化プロピレンガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。これに伴い博物館展示室も、同期間閉館とした。

2. 燻蒸装置を使った燻蒸

標本製作室に設置されている燻蒸装置を使用し、酸化エチレンガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。鳥獣はく製や昆虫標本、植物標本、書籍など、16 回実施した。

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質をいかした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れたり支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、県民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施された講演会等の行事について、以下に記した。

自然科学講演会（博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	所属	定員	応募数	受講者数
特別展「魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY」 ～益田 一と日本の魚類学～ 関連行事 第1回講演会 「さかなクンとさかなの 名前をおぼえよう！」	8/21（水） 13:00～14:30	SEISAミュージ アムシアター	こども	さかなクン （東京海洋大学 客員准教授）	アナン・インターナ ショナル	270	897	264
第2回講演会 「海中散歩でひろったリボン」 益田 一と伊豆・小笠原の意外な関係	9/15（日） 13:00～14:30	SEISAミュージ アムシアター	一般	中山千夏 （作家）	有限会社 花林舎	270	163	118
第3回講演会 「魚類図鑑の歴史をひもとく」 ～ルナールから益田一まで～	10/13（日） 13:00～14:30	SEISAミュージ アムシアター	一般	荒俣 宏 （博物学者）		270	218	205
計							1,278	587

他の機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等）

講座名	実施日	実施場所	講師	所属	受講者数
日本地質学会共催 「地質の日」記念講演会 『かながわの地震と火山の災害を考える』 講演「M9 シンドロームと抗震力」 講演「箱根の火山活動と地震」	5/12 (日) 14:00～15:30	SEISA ミュージアム シアター	神沼克伊 吉田明夫	国立極地研究所・ 総合研究大学院大学名誉教授 静岡大学客員教授・ 神奈川県温泉地学研究所 前所長	98
魚の会 第1回講演会 「日本魚学の系譜－田中茂穂博士の以前と以後－」	5/19 (日) 14:00～15:30	講義室	中坊徹次	京都大学教授	71
魚の会 第2回講演会 「日本人魚類学者の系譜－田中茂穂から松原喜代松とその後－」	8/18 (日) 14:00～15:30	講義室	松浦啓一	国立科学博物館特任研究員	60
NM アンカー協会・SSL アンカー協会・ Q&S フレーム協会・箱根ジオパーク推進協議会共催研修会	10/9 (水) 14:00～16:00	SEISA ミュージアム シアター	山下 勝 中村三郎	(財)砂防・地すべり技術センター砂防部長 防衛大学名誉教授	?
魚の会 第3回講演会 「益田一さんの思い出 －益田師匠との旅－」	11/4(月振) 14:30～16:00	講義室	中村宏治	日本水中映像株式会社	143
神奈川水系保全協議会共催 「酒匂川水系の今と未来を考える集い」 基調講演 「酒匂川の生物の昔と今」 パネルディスカッション 「母なる川 酒匂川を守っていくために 私たちができること」	12/25 (水) 13:00～16:00	SEISA ミュージアム シアター	石原龍雄 加藤憲一 石原龍雄 篠本幸彦 高橋征人 鈴木勲生 新井 昇	箱根町立森のふれあい館 元館長 小田原市長 箱根町立森のふれあい館 元館長 酒匂川漁業協同組合代表理事組合長 小田原市漁業協同組合代表理事組合長 神奈川県流域海岸企画課 課長 小山町危機管理監	180
酒匂川水系の環境を考える会共催 第13回自然環境シンポジウム 『このままでいいのか!! 外来種問題 Part.1』 基調講演「日本における外来種問題 ～昆虫と小笠原諸島での事例～」 話題提供「外来種と相模湾の漁業」 「生活を脅かす哺乳動物たち ～神奈川県の実状と課題～」 「川の中はヨソモノだらけ ～神奈川県の実状と課題～」	2/16 (日) 13:00～16:30	SEISA ミュージアム シアター	苅部治紀 石戸谷博範 中山和也 勝呂尚之	当館主任学芸員 県水産技術センター相模湾試験場長 (公) 神奈川県獣医師会顧問 県環境農政局水・緑部水産課副技幹	145
JAMSTEC 共催 第2回海と命をめぐる公開講演会 『山のキノコ、海のキノコ』 ～菌類のつくる世界と多様な生き様～ 講演「陸に上がった菌類の多様化」 講演「菌類の未知なる多様性： 深海にもカビやキノコの仲間がいる?」	2/22 (土) 13:30～15:30	SEISA ミュージアム シアター	折原貴道 長野由梨子	当館学芸員 JAMSTEC 海洋・極限環境生物圏領域 研究員	78
魚の会 第4回講演会 「渋沢敬三と魚をめぐる世界」	2/23 (日) 14:00～15:30	講義室	永井美穂	渋沢資料館学芸員	18
神奈川県防災DB起爆剤研究会・県立 温泉地学研究所 共催 「いかに神奈川県の防災力を向上させていくか」を皆さんと考え、議論する シンポジウム 『これから起こりうる神奈川県の地震と 火山災害』 基調講演 「地震被害想定とは －首都直下地震被害想定を事例にして－」 パネルディスカッション 「備えよう! これからの神奈川の災害に 向けて」 (報告) ・神奈川の地震防災対策の歴史 ・神奈川の防災ボランティアの動向 ・箱根の火山と防災教育 ・最近の地震・火山活動	3/23 (日) 13:00～16:30	SEISA ミュージアム シアター	吉井博明 中川和之 杉原英和 植山利昭 平田大二 里村幹夫	東京経済大学教授 時事通信社(司会) 神奈川県危機管理対策課長 神奈川県災害ボランティアネットワーク 当館学芸部長 神奈川県立温泉地学研究所長	150
計					943

5.1.2. 講座等

専門的な内容の講座（要事前申し込み）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講者数
スゲ属植物～最近の話題～ [講義]	4/27 (土)	講義室	中学生～大人	勝山輝男	50	39	34
地球 46 億年ものごと ①地球誕生 いん石のはなし ②最初の海と陸 最古の岩石のはなし ③プレートテクトニクスのはなし ④地球の熱放出 火山のはなし ⑤地震のはなし ⑥元素の濃集 鉱物のはなし ⑦生命の誕生 最古の生命のはなし ⑧大気形成 酸素と二酸化炭素のはなし ⑨カンブリア大爆発と大量絶滅のはなし	4/28 (日) 5/26 (日) 6/30 (日) 9/29 (日) 10/27 (日) 11/24 (日) 12/22 (日) 1/26 (日) 2/23 (日)	講義室	中学生～大人	平田大二	30	43 54 83 48 46 42 44 39 50	25 38 66 41 38 34 34 34 43
菌学事始め～初級編～ [室内実習と野外観察]	5/18 (土) 5/19 (日)	実習実験室	高校生～大人	大坪 奏 折原貴道	20	25	実施せず 15
菌学事始め～中級編～ [室内実習と野外観察]	6/29 (土) 6/30 (日)	実習実験室	高校生～大人	折原貴道 大坪 奏	20	31	18 18
秋からの授業に役立つ 先生のための 標本活用講座 [講義と室内実習]	8/6 (火)	実習実験室	教員	広谷浩子 加藤ゆき 松本涼子	10	15	12
先生のための軟体動物講座 [講義と室内実習]	8/7 (水)	実習実験室	教員	佐藤武宏 田口公則	12	17	12
あなたのパソコンで地形を知る [室内実習]	8/9 (金)	実習実験室	高校生～大人・教員	新井田秀一	20	23	15
先生のための地層学入門 [室内実習と野外観察]	8/13 (火)	実習実験室 博物館周辺	教員	石浜佐栄子	10	13	10
鳥類標本作製講座～初級編～ [室内実習]	8/30 (金) 8/31 (土) 9/1 (日)	実習実験室	大学生～大人	加藤ゆき 広谷浩子	15	22	14 13 10
秋のイネ科植物 [室内実習と野外観察]	9/29 (日)	実習実験室と博物館 周辺	中学生～大人	田中徳久 勝山輝男 大西 亘	24	26	24
先生のための地層と化石入門 2013 [室内実習と野外観察]	11/9 (土) 11/10 (日)	実習実験室 谷ヶ周辺	教員	田口公則 大島光春	10	9	6 6
中学生火山講座 [野外観察]	12/21 (土)	真鶴半島	中学生とその保護者	笠間友博 山下浩之	25	25	11
魚をもっと知りたい人のための魚類学講座 [室内実習]	1/11 (土) 1/12 (日) 2/8 (土) 2/9 (日)	実習実験室	高校生～大人	瀬能 宏	10 10	17 18	9 8 6 6
計 12 講座	のべ 24 日				266	729	600

神奈川の自然を観察する講座（要事前申し込み）

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講者数
春の地形地質観察会 [野外観察]	5/3 (金・祝)	谷ヶ周辺 (山北町)	小学 4 年生～中学生 とその保護者	山下浩之 石浜佐栄子 平田大二	30	61	27
秋の地形地質観察会 [野外観察]	11/3 (日・祝)	河村城址周辺 (山北町)	小学 4 年生～大人	石浜佐栄子 山下浩之 笠間友博 新井田秀一	40	62	51
冬芽の観察 [野外観察]	1/18 (土)	城山 (湯河原町)	小学 4 年生～大人	勝山輝男 田中徳久 大西 亘	40	29	23
早春の地形地質観察会 [野外観察]	3/2 (日)	横須賀市・ 三浦市周辺	小学 4 年生～大人	笠間友博 石浜佐栄子 新井田秀一	40	56	雨天中止
計 4 講座	のべ 4 日				150	208	101

県立機関活用講座（一般の方を対象とした有料講座 要事前申し込み）

講座名・講義題目		実施日	時間帯	時間数	実施場所	対象者	講師	講師所属	定員	応募数	受講者数
地球史・生命史を解説する [講義]	講座概要	11/10(日)	11:00～12:00	5	講義室	高校生以上	平田大二	当館学芸部長	50	43	35
	コアを調べる話：Spring－8		13:00～15:00				館野繁彦	東京工業大学			
	マントルを調べる話：かんらん岩と「ちきゅう」のマントル掘削計画		15:00～17:00				阿部なつ江	JAMSTEC			
	海洋底に挑戦する話：深海の岩石を調べる	11/23	11:00～12:00	3			山下浩之	当館主任研究員			39
	大陸を調べる話	(土・祝)	13:00～15:00				山本伸次	東京大学			
	海洋底に挑戦する話：ガスハイドレードを調べる	11/30(土)	11:00～12:00	3			石浜佐栄子	当館学芸員			34
	太古の海洋と大気を調べる話		13:00～15:00				関根康人	東京大学・大気海洋研究所			
	火山を調べる話：	12/14(土)	1:00～12:00	3			笠間友博	当館主任研究員			37
	初期地球の環境と生命の共進化		13:00～15:00				山口耕生	東邦大学			
	陸と海の地形を調べる話：	12/21(土)	11:00～12:00	5			新井田秀一	当館主任学芸員			41
	付加体を調べる話：南海トラフの掘削計画		13:00～15:00				芦 寿一郎	東京大学			
	気候変動を調べる話：200 万年以降の気候		15:00～17:00				横山祐典	東京大学			
	地球はどのように調べられてきたか	1/19(日)	11:00～12:00	3			斎藤靖二	当館館長			41
	カンブリア大爆発を調べる話：生命進化の鍵		13:00～15:00				小宮 剛	東京大学			

5.1.3. 子ども自然科学ひろば

本事業は、文部科学省の「子ども居場所づくり新プラン」の一環として整備された、「全国科学系博物館における地域子ども教室推進事業」を館独自に引き継いだもので、子どもたちが自然について学習でき、自然への好奇心と理解を深め、自然について考える力をつける場を設置するものである。

今年度は、土・日曜日や夏休み期間中に行われる当館主

催の子ども向け講座と神奈川県立生命の星・地球博物館友の会主催講座、夏休みの自由研究を支援する催し物、学習指導員による「折り紙ひろば」によって構成。平成8年度に発足した神奈川県立生命の星・地球博物館友の会は、博物館の理念を理解し、博物館活動の支援や博物館を活用するとともに、会員相互の交流を目的としている。

土・日曜日に開催する小中学生向けの講座（要事前申し込み）＊「子ども自然科学ひろば」対象講座

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募者数	受講者数
磯の生きもののウォッチング ～真鶴岬で磯の動植物を観察しよう～ [野外観察]	4/14(日)	三ツ石海岸(真鶴町)	小学生とその保護者	佐藤武宏 田中徳久 大西 亘	40	121	42
	5/26(日)			佐藤武宏 田中徳久 加藤ゆき	40	247	37
春の里山の草花 [野外観察]	4/20(土)	新治市民の森(横浜市緑区)	小学生とその保護者 中学生～大学生	田中徳久 大西 亘 勝山輝男	40	33	17
あしがら化石ウォッチング [野外観察]	5/11(土)	谷ヶ周辺(山北町)	小学4年生～中学生 とその保護者	田口公則 大島光春	30	112	雨天中止
デジカメで地球生命展示を楽しもう [室内実習]	5/25(土)	講義室・展示室	小学4年生～中学生 とその保護者	田口公則 大島光春	15	1	実施せず
	2/22(土)				15	4	5
海辺の野鳥観察会 [野外観察]	7/6(土)	照ヶ崎海岸(大磯町)	未就学児～中学生と その保護者	広谷浩子 大西 亘	30	35	20
アンモナイトの壁をしらべよう [室内実習]	7/7(日)	講義室・展示室	小学4～6年生とそ の保護者	田口公則	15	33	13
川と用水路の生き物を調べよう [野外観察]	9/22(日)	酒匂川周辺(開成町)	小学生～大人	苅部治紀 瀬能 宏	25	76	16
植物図鑑の使い方 ～この木何の樹？気になる花しらべ～ [室内実習と野外観察]	10/5(土)	実習実験室 博物館周辺	小学4年生～大人	大西 亘	15	25	15
	10/6(日)						15
秋のきのこ観察講座 [室内実習と野外観察]	10/19(土)	早雲公園(箱根町)	小学4年生～大人	折原貴道 大坪 奏	20	21	19
動物ウォッチング ～動物のしぐさを観察しよう～ [野外観察]	10/26(土)	横浜市立野毛山動物園	小学生とその保護者	加藤ゆき 広谷浩子	20	26	雨天中止
計14講座	のべ16日				305	734	199

夏休みに開催する子ども向けの講座（要事前申し込み）＊「子ども自然科学ひろば」対象講座

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募者数	受講者数
貝がらのふしぎを調べよう ～ホタテの巻～〔室内実習〕	7/21(日)	実習実験室	小学4年生～大人	田口公則 佐藤武宏	12	18	16
貝がらのふしぎを調べよう ～アワビの巻～〔室内実習〕	7/28(日)	実習実験室	小学4年生～大人	佐藤武宏 田口公則	12	33	3
貝がらのふしぎを調べよう ～アサリの巻～〔室内実習〕	8/3(土)	実習実験室	小学4年生～大人	佐藤武宏	12	18	10
貝がらのふしぎを調べよう ～サザエの巻～〔室内実習〕	8/10(土)	実習実験室	小学4年生～大人	佐藤武宏	12	14	10
味噌作りの現場を見に行こう 〔講義と見学〕	7/31(水)	博物館と加藤兵 太郎商店(小田原)	小学生～中学生と その保護者	折原貴道 大坪 奏	15	60	14
身近なカビの実験と観察 〔室内実習〕	8/11(日)	実習実験室	小学生～中学生と その保護者	大坪 奏 折原貴道	20	104	16
サルからヒトへの進化を学ぶ 〔講義と室内実習〕	8/19(月)	実習実験室	小学4年生～中学生 とその保護者	広谷浩子	20	14	11
	8/20(火)				20	18	11
計7講座	のべ8日				123	279	91

博物館絵本のお話し会

講座名	実施日数	実施場所	対象者	担当者	定員	応募組数	参加者数	子どもの数
博物館絵本の お話し会	7/24(水)	ミュージアム	子どもと	新山直子	なし		18	12
	8/7(水)	ライブラリー	保護者	小林瑞穂			23	13
	8/21(水)						34	22
	8/28(水)						24	14
	のべ4日					0	99	61

夏休みの自由研究を支援する催し物

	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者数	子どもの数
夏休み 理科自由研究 なんでも相談コーナー	7月13日(土) ～31日(水)	ミュージアム ライブラリー	小・中学生	学習指導員	なし	45	26
	8月1日(木) ～20日(火)					89	52

折り紙ひろば

実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募組数	参加者数	子どもの数
折り紙ひろば①	4/7(日)	どなたでも	学習指導員	なし		174	86
折り紙ひろば②	5/5(日・祝)					219	109
折り紙ひろば③	6/2(日)					156	74
折り紙ひろば④	7/7(日)					172	81
折り紙ひろば⑤	8/4(日)					224	110
折り紙ひろば⑥	9/1(日)					171	82
折り紙ひろば⑦	10/6(日)					102	52
折り紙ひろば⑧	11/3(日・祝)					132	69
折り紙ひろば⑨	12/1(日)					117	55
折り紙ひろば⑩	1/5(日)					175	82
折り紙ひろば⑪	2/2(日)					261	124
折り紙ひろば⑫	3/2(日)					234	113
計12回	のべ12日					2,137	1,037

博物館ちよこっと体験コーナー

講座名	実施日数	実施場所	対象者	担当者	定員	参加者数	子どもの数
動物のぬり絵広場	4/2(火) ～2/1(土) 計21日	講義室	子どもと保護者	山崎一法 当麻 進 片野美知子 大坪 奏	なし	3,275	1,713
空飛ぶタネ	4/28(日) ～3/9(日) 計21日	講義室				2,579	1,304
いきものフェイスブック	4/6(土) ～3/8(土) 計21日	エントランス ホール ～展示室				2,530	1,264
けんぴきょうで大発見!	4/29(土) ～2/15(木) 計18日	講義室				3,727	1,889

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

生命の星・地球博物館検定	4/27 (土) ～ 3/21 (金) 計 21 日	講義室と展示室				2,779	1,380
生きもののパズル (3/23 (日)「万華鏡を作ろう」も実施)	11/24 (日) ～ 3/23 (日) 計 6 日	講義室				1,000	498
特別展関連：ハコフグの帽子を作ろう	8/21 (水) ～ 3/29 (土) 計 3 日	講義室				353	185
春休み企画：恐竜折り紙ひろば	3/30 (日) 計 1 日	講義室				407	199
夏休み企画：ムササビになろう!!	8/24 (土) 計 1 日	講義室		広谷浩子 加藤ゆき		119	64
計 9 講座	のべ 115 日					16,769	8,496

館長と話そう (当日受付)

講座名	実施日	実施場所	対象者	講 師	定員	応募組数	参加者数	子どもの数
館長と話そう	第 1 回	7 / 27 (土)	小中学生と保護者	斎藤靖二	各回 6 組	6	24	10
	第 2 回	8 / 3 (土)				シアターオープンで中止		
	第 3 回	8 / 10 (土)				6	19	8
	第 4 回	8 / 17 (土)				4	16	10
計 1 講座		のべ 3 日				16	59	28

神奈川県立生命の星・地球博物館友の会主催の行事

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	受講者数	子どもの数
よろずスタジオ [室内実習]			子どもとその保護者		なし		
「貝で遊ぼう」(貝類)	4/21 (日)	講義室		佐藤武宏		199	106
「昆虫の仲間 大集合」(昆虫)	5/19 (日)	講義室		苅部治紀 渡辺恭平		69	33
「葉脈標本をつくろう」(植物)	6/16 (日)	実習実験室		勝山輝男		134	75
「動物の足あとで遊ぼう」(動物)	9/15 (日)	講義室		広谷浩子		83	48
「菌類ってなんだ?」(菌類)	10/20 (日)	講義室		友の会講師		118	56
「どんぐりであそぼ!」(植物)	11/17 (日)	講義室		植物 G		74	38
「魚の標本をスケッチしよう」(魚類)	12/15 (日)	講義室		瀬能 宏		109	35
「砂と遊ぼう」(地学)	1/19 (日)	講義室		笠間友博		201	99
「アンモナイトのレプリカを作ろう」(古生物)	2/16 (日)	講義室		田口公則		98	42
箱根火山の火山灰を調べてみよう [室内実習]	8/2 (金)	実習実験室		笠間友博		289	142
いろいろ体験 [室内実習]	8/4 (日)	実習実験室		友の会講師		60	27
植物おもしろ発見ー森のクラフト 木の実・葉・枝で作ってみよう [室内実習]	8/14 (金)	実習実験室		友の会講師		122	60
計 12 講座	のべ 12 日					1,556	761

*「よろずスタジオ」は博物館との共催

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義への対応

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所（空欄は当館）
4/27（土）	博物館施設見学・収蔵庫見学	神奈川県立神奈川総合高等学校	大島光春	1	17	
5/23（木）	博物館見学（化石レプリカづくり）	東京都 青山小学校	田口公則			
5/30（木）	野外学習（フィールドワーク）	東京学芸大学附属大泉小学校	笠間友博	5	19	
6/2（土）	高校生に対する土壌動物の講義ならびに展示見学	滋賀県立河瀬高等学校	勝山輝男			
6/7（金）	火山実験の実演	東京都港区立南山小学校	笠間友博	6		
6/20（木）	特別支援学級キャンプ「箱根火山のなりたち」	箱根町立箱根の森小学校	笠間友博	1～6	5	畑宿甘酒茶屋
7/3（水）	SSH 理数実践「箱根ジオパーク」（ジオサイト見学）	神奈川県立西湘高等学校	平田大二	1～3	8	箱根
7/4（木）	前期集中授業「地学実験」当館見学および研修	東京海洋大学	平田大二		13	
7/6（土）	「地球科学野外実習Ⅰ」博物館見学実習	静岡大学理学部	佐藤武宏		48	
7/16（水）	SSH理数課題研究「丹沢地学研修」（野外研修）	神奈川県立西湘高等学校	平田大二	1	38	西丹沢（松田町～山北町）
7/19（金）	理科「科学と人間生活（科目）」特別講義	神奈川県立神奈川総合高等学校	笠間友博	1～3	23	県立神奈川総合高等学校
7/23（火）	SSHサイエンスツアー「生命の星・地球博物館における学習」	千葉県立長生高等学校	笠間友博	1	80	
7/23（火）	SSHサイエンスツアー「箱根外輪山における地学学習」	千葉県立長生高等学校	笠間友博	1	80	大観山展望台、山伏峠
7/23（火）	地理課題研究「県内地域調査ー箱根火山について」	県立湘南高等学校	平田大二	1	8	
7/24（水）	サマースクール「箱根火山の成り立ちを実験しよう」	箱根町立箱根の森小学校	笠間友博	1～6		
7/31（水）	夏季集中科目「環境フィールドワークB」箱根の地学	神奈川県立相模原青陵高等学校	笠間友博	1～3	10	箱根方面
8/3（土）	SSH地学野外実習「箱根火山を探る！」	埼玉県立熊谷高等学校	笠間友博	1～3	20	当館、大観山、長尾峠など
8/4（日）	SSH地学野外実習「箱根火山を探る！」	埼玉県立熊谷高等学校	笠間友博	1～3	20	湯河原、真鶴方面
8/6（火）	SSH防災博物館等研修「神奈川の大地を知る」	神奈川県立西湘高等学校	笠間友博	1～3	25	当館、石垣山一夜城
9/20（金）	理科校外学習「流れる水のはたらきを理解させるための実習」	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	5	35	
10/2（水）	水生昆虫観察会	南足柄市立向田小学校	荻部治紀	3	60	要定川と向田小学校
10/9（水）	理数科「サイエンスツアー」	千葉県立匝瑳高等学校	笠間友博	1	41	当館、箱根
10/10（木）						箱根ビジターC、大涌谷
10/11（金）	理科校外学習「昆虫の体のつくりを理解させるための実習」	函嶺白百合学園小学校	渡辺恭平	3	33	
10/18（金）	理科校外学習「地層のできかたを理解させるための実習と見学」	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	6	45	
10/18（金）	はだのエコスクール「体からわかる私たちの進化」	秦野市環境産業部環境保全課	広谷浩子 加藤ゆき	4	131	秦野市立南が丘小学校
10/22（火）	現地一日巡検「箱根火山の成り立ちを学ぶ」	自由学園初等部	山下浩之	6	35	箱根方面
10/28（月）	はだのエコスクール「はだのの砥石から地球を感じる」	秦野市環境産業部環境保全課	田口公則	5	4クラス	秦野市立南が丘小学校
10/31（木）	6年理科「土地のつくりと変化」第3次地層のでき方（火山のはたらき）	茅ヶ崎市立浜須賀小学校	笠間友博	6		茅ヶ崎市立浜須賀小学校
11/5（火）	出張授業「火山学者と富士山を作ろう」	三島市教育委員会	笠間友博	6		三島市立佐野小学校
11/12（火）	6年理科「火山学者と富士山をつくろう」	三島市教育委員会	笠間友博	6		三島市立北上小学校
11/19（火）	6年理科「火山学者と富士山をつくろう」	三島市教育委員会	笠間友博	6		三島市立坂小学校
11/25（月）	6年理科「大地のつくりと変化」	相模原市立鶴園小学校	笠間友博	6	62	相模原市立鶴園小学校
11/26（火）	～ミニ火山づくり～			6	62	
11/29（金）	6年理科「大地のつくりと変化」～ミニ火山づくり～	相模原市立南大野小学校	笠間友博	6		相模原市立南大野小学校
12/ 7（土）	教職課程学外研修	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏		30	
12/11（水）	博物館見学と箱根巡検	武蔵中学校	笠間友博 山下浩之	中1	174	当館および大観山、山伏峠、大涌谷
12/23（月）	ハワイ島研修事前学習「ハワイの火山・地質について」	神奈川大学附属高等学校	山下浩之	高2	20	
1/9（木）	学外実習：講義「外来生物が生態系に与える影響」	東海大学教養学部人間環境学科	荻部治紀	1～4	25	

（次ページへ続く）

(前ページより)

1/17 (金)	理科校外学習「人の体の作りと運動を理解させるための実習」	函嶺白百合学園小学校	広谷浩子	4	31	
1/22 (水)	環境科学「火山灰の講義と鉱物の観察実験」	神奈川県立生田高等学校	笠間友博	1	39	神奈川県立生田高等学校
2/1 (土)	専門科目「地質学」学外研修	桜美林大学リベラルアーツ学群	平田大二		9	
2/11 (火)	教養科目「自然探索実習」	自由学園最上学部	渡辺恭平	大1 ～3	20	
2/20 (木)	6年生理科 火山模型作り体験	真鶴町立まなづる小学校	笠間友博	6	49	湯河原町立吉浜小学校
3/6 (木)	出前授業「体からわかる私たちの進化」	小田原市立国府津小学校	広谷浩子	4	100	小田原市立国府津小学校
3/8 (土)	SSH理数実践「箱根ジオパーク」研修	神奈川県立西湘高等学校	笠間友博	1～2	8	箱根町～真鶴町
計					1,423	

5.2.2. 総合的な学習への対応

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数	場所（空欄は当館）
5/14 (火)	「体からわかる私たちの進化」	伊東市立東小学校	広谷浩子	5	46	伊東市立東小学校
5/31 (金)	「ミクロな貝化石がし」（ワークショップ）	伊東市立東小学校	田口公則	5	46	
6/18 (火)	「貝化石から分かる環境」	伊東市立東小学校	田口公則	5	46	伊東市立東小学校
7/11 (木)	はだのエコスクール「ミニ火山をつくろう」	秦野市環境産業部環境保全課	笠間友博	6	106	秦野市立南が丘小学校
7/17 (水)	研究・学術機関等訪問研修	神奈川県立大磯高等学校	山下浩之	高1		
10/8 (火)	「種について」	昭和女子大学附属昭和小学校	大西 亘	2	34	昭和女子大学附属昭和小学校
10/15 (木)	箱根ジオパーク出張講座「火山の形成について」	箱根町立湯本小学校	笠間友博	6		箱根町立湯本小学校
10/24 (木)	総合学習：選択講義（中止）	神奈川県立希望ヶ丘高等学校	大西 亘	高2	22	希望ヶ丘高等学校
10/25 (金)	「箱根の火山：火山の恵みと災害について」	函嶺白百合学園中学校	笠間友博	中1	18	一夜城公園（雨天時：当館）
11/8 (金)	総合学習：廃油を用いて火山のモデルをつくろう	東海大学附属翔洋高等学校	笠間友博	高2・3	40	同校化学実験室
12/4 (水)	総合学習：校外学習「地域再発見」	小田原市立城山中学校	広谷浩子	1	5	
12/7 (土)	総合学習：廃油を用いて火山のモデルをつくろう（ドリームサイエンス）	東海大学附属翔洋高等学校	笠間友博	一般		同校体育館
1/21 (火)	総合学習：「講座」第1回	小田原市立白山中学校	笠間友博	中1	31	
1/22 (水)	進路学習：「職場訪問」	小田原市立泉中学校	高橋正彰	中1	5	
2/4 (火)	「未来の夢」講座	神奈川県立大磯高等学校	折原貴道	高1・2	3	
2/4 (火)	総合学習：「講座」第2回	小田原市立白山中学校	笠間友博	中1	31	
計					433	

5.2.3. 職場体験学習

自分の進路を見つめ考える進路学習の中で、実際に職場で職業体験を行う機会として、近隣の中学校からの依頼が増えている。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数
11/ 7 (木)	中学生職場体験	開成町立文命中学校	高橋正彰 飯淵 進 渡辺恭平	2	3
11/ 8 (木)	中学生職場体験	小田原市立城山中学校	高橋正彰 廣澤瀧男 大島光春	2	3
11/12 (火) 11/13 (水) 11/14 (木)	中学生職場体験	小田原市立白山中学校	高橋正彰 広谷浩子 廣澤瀧男 新山直子 小林瑞穂	2	3
11/29 (金)	中学生職場体験	小田原市立国府津中学校	高橋正彰 田口公則 西野宣雄	2	1
12/ 6 (金)	中学生職場体験	小田原市立泉中学校	高橋正彰 田口公則 磯崎和美	2	3
1/24 (金)	中学生職場体験	小田原市立酒匂中学校	高橋正彰 松本涼子 廣澤瀧男	2	3
2/5 (水) 2/6 (木)	中学生職場体験	南足柄市立南足柄中学校	高橋正彰 佐藤武宏 西野宣雄 新山直子 小林瑞穂	2	3
2/18 (火) 2/19 (水)	中学生職場体験	神奈川県立相模原中等教育学校	高橋正彰 田中徳久 磯崎和美 新山直子 小林瑞穂	2	1
計					20

5.2.4. インターンシップの受け入れ

2002 年度より、高校生の就業体験実習を受け入れている。

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	学年	人数
7/23(火)・24(水)	インターンシップの受け入れ (県高校教育課)	県立厚木東高等学校 鶴見大学附属高等学校	高橋正彰	3	2
7/25(木)・26(金)	インターンシップの受け入れ (県高校教育課)	県立平塚商業高等学校 鎌倉女子大学高等部	高橋正彰	2	2
7/30(火)・31(水)	インターンシップの受け入れ (県西インターンシップ協議会)	県立小田原城北工業高等学校 県立小田原総合ビジネス高等学校	高橋正彰	2	3
8/1(木)・2(金)	インターンシップの受け入れ (函嶺白百合学園)	函嶺白百合学園高等学校	高橋正彰	2	3
8/13(火)・14(水)	インターンシップの受け入れ (県高校教育課)	県立住吉高等学校	高橋正彰	2	2
8/14(水)・15(木)	インターンシップの受け入れ (県高校教育課)	相模女子大学高等部	高橋正彰	2	2
8/15(木)・16(金)	インターンシップの受け入れ (県高校教育課)	県立小田原高等学校	高橋正彰	1	2
9/14(土)・15(日)	インターンシップの受け入れ (県高校教育課)	県立秦野曽屋高等学校	高橋正彰	2	3
10/22(火)	職業体験研修	県立相模原中等教育学校	高橋正彰	4	3
10/22(火)・23(水)	(「自己発見チャレンジ週間」)の受け入れ			4	3
計					25

5.2.5. 教員の各種研修の受け入れ

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	人数	場所(空欄は当館)
6/12(火)	実技研修「火山の噴火実験」	横浜市戸塚区小学校教育研究会理科研究会	笠間友博		横浜市立深谷小学校
7/24(水) 7/30(火) 31(水)	教職員 5年経験者 社会体験研修	神奈川県立海老名高等学校	高橋正彰	1	
7/25(木) 7/26(金) 7/27(土)	教職員 5年経験者 社会体験研修	神奈川県立秦野曽屋高等学校	高橋正彰	1	
7/29(月)	理科の授業づくり研修講座～博物館・研究所を訪ねて～ 講義・実習「生物分野の授業づくりに必要な基本技術」・「地学分野の授業づくりに必要な基本技術」	神奈川県立総合教育センター	田口公則 高橋正彰	21	
7/30(火)	夏季研修「バックヤードおよび常設・特別展見学」	茅ヶ崎・寒川地区小学校教育研究会理科部会	新井田秀一	18	
7/31(水) 8/2(木) 8/3(金)	教職員 5年経験者 社会体験研修	中井町立井ノ口小学校	高橋正彰	1	
8/2(金) 8/3(土) 8/4(日)	教職員10年経験者 社会体験研修	箱根町立湯本小学校	高橋正彰	1	
2013/8/6(火)	臨地研修会「展示見学・講義(地学分野)」	川崎市立中学校教育研究会理科部会	平田大二	27	
8/8(木) 8/9(金) 8/10(土)	教職員 5年経験者 社会体験研修	小田原市立千代中学校	高橋正彰	1	
8/20(水)	「箱根の火山の溶岩に関する講義」、「鉱物に関する講義」	足柄下郡教育会理科研究会	山下浩之	17	当館、早川
8/20(火)	厚木愛甲地区理科教育推進研究会「館内施設およびバックヤードの解説」	厚木愛甲地区理科教育推進研究会	大西 亘	14	
8/20(火) 8/21(水) 8/22(木)	教職員 5年経験者 社会体験研修	茅ヶ崎市立浜須賀中学校 県立小田原養護学校	高橋正彰	2	
8/22(木)	自然事象から学ぶための観察・実験の技能向上を目指す研修(見学会)	南足柄市教育研究会理科部会	田口公則	16	南足柄市立足柄台中学校 内山発電所北・酒匂川右岸 矢倉沢・定山林道(足柄古道)
8/26(月)	夏季研修会「流れる水のはたらき(5年単元)」研修(講義・現地学習)	秦野市小学校教育研究会理科部会	田口公則	30	秦野市立本町小学校, 四十八瀬川
8/26(月) 8/27(火)	教職員10年経験者 社会体験研修	県立平塚盲学校	高橋正彰	1	

(次ページへ続く)

(前ページより)

8/27 (火)	理科夏季研修会「箱根の地層・地形の観察」	小田原・足柄下地区中学校教育研究会	山下浩之		箱根方面(大観山～長尾峠～仙石原～大涌谷)
9/28 (土)	バックヤード見学・特別展見学・教材の情報交換	神奈川理科サークル	田口公則 石浜佐栄子	10	
10/23 (水)	神奈川県高等学校教科研究会理科部会：野外研修会「自然観察指導法」(植生遷移)	神奈川県高等学校教科研究会理科部会	田中徳久		当館、仙石原周辺
1/7 (火)	視覚障がい児童・生徒の当博物館利用に関わる視察・研修	埼玉県立塙保己一学園	広谷浩子 田口公則	9	
1/26 (日)	神奈川県高等学校教科研究会地理分科会：野外巡検 館企画展「アンデスを越えて」解説	神奈川県高等学校教科研究会地理分科会	平田大二	10	
3/12 (水)	山手学院中学校・高等学校理科教員：博物館研修(展示室・バックヤード見学)	山手学院中学校・高等学校	大西 亘	10	
計				190	

5.2.6. 各種研修の受け入れ

実施日	内容・演題等	依頼元	対応者	人数	場所(空欄は当館)
6/20 (木)	学習会「箱根火山の成り立ち」(特別支援学級キャンプ)	箱根町立箱根の森小学校	大西 亘 西野宣雄 片野美知子	10	甘酒茶屋(箱根町畑宿)
7/24 (水)	高校生によるバイオテクノロジー教室「シランの無菌播種」	神奈川県立中央農業高等学校草花部	大西 亘 西野宣雄 片野美知子	12	
8/14 (水)	高校生によるコサージュ教室「コチョウランのコサージュ作り」	神奈川県立中央農業高等学校草花部	大西 亘 西野宣雄 片野美知子	12	
11/9 (土)	自然科学部校外活動「海老名の大地に影響を与えた富士火山の活動と生い立ちを学ぶ」	海老名市立海老名中学校	笠間友博		富士山河口湖口(5合目)
12/23 (月)	「相模湾の海浜生物及び海洋生物等の化石から昔の相模湾の様子を知る」	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	田口公則	20	
12/27 (金)	理科部地学班：「大磯丘陵における火山灰層露頭の調査と調査方法の習得」	神奈川県立西湘高等学校理科部地学班	笠間友博	3	平塚市土屋周辺
3/1 (土)	科学部：「三葉虫同定の仕方等の講習」	大磯町立大磯中学校科学部	田口公則	20	
3/23 (日)	西湘科学研究発表会記念講演「県西地域の哺乳類の現況」	西湘地区科学振興委員会	広谷浩子	70	
計				147	

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館実務実習

当博物館では自然系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。今年度は10大学から20名の実習生を受け入れた(表)。

実習は、企画情報部企画普及課が担当する2日間と学芸部が担当する7日間の実習からなり、その詳細は以下のとおりであった。

実習日と主な実習内容

全員共通実習(2日間) 担当：企画普及課職員

〔期日〕8月1日(木)・2日(金)

〔内容〕開講のあいさつ、オリエンテーション、館長講話、学芸部長・企画情報部長による館の概要・展示内容・研究状況などのガイダンス、講話、常設展示・特別展示の概要解説と見学、バックヤード施設見学、課題「展示の何をみるか」

グループ別実習(7日間)：学芸各グループ担当

動物グループ(6名)

〔担当〕広谷浩子・佐藤武宏・加藤ゆき・松本涼子

〔期間〕8月4日(日)～6日(火)・10日(土)～14日(水)

〔内容〕動物の分類・学名に関するレクチャー、標本整理(ラベル貼り付け、収蔵庫への配架)。

魚類グループ(2名)

〔担当〕瀬能 宏

〔期間〕8月4日(日)・6日(火)～7日(水)・9日(金)～12日(月)

〔内容〕魚類標本の製作、標本ラベルの取り付け、講座の補助。

昆虫グループ (2 名)
[担当] 荻部治紀・渡辺恭平
[期間] 8 月 22 日(木)～25 日(日)・27 日(火)～29 日(木)
[内容] 昆虫標本の製作、標本ラベルの取り付け、データベース作成、講座の補助。
植物グループ (1 名)
[担当] 勝山輝男・田中徳久・大西 亘
[期間] 8 月 5 日(月)～9 日(金)・13 日(火)～14 日(水)
[内容] 標本整理、ジャンボブック展示の更新作業。
地球環境グループ (4 名)
[担当] 平田大二・新井田秀一・笠間友博・山下浩之・石浜 佐栄子
[期間] 8 月 6 日(火)～9 日(金)・12 日(月)～16 日(金)
[内容] 標本整理、講座の補助。
古生物グループ (5 名)

[担当] 大島光春・田口公則
[期間] 8 月 8 日(木)～10 日(土)・12 日(月)～15 日(木)
[内容] 標本整理、講座の補助。

博物館実務実習受け入れ状況

大学・学部等	人数
神奈川工科大学応用バイオ科学部	2
神奈川大学・理学部	3
首都大学東京・都市教養学部	1
筑波大学・生命環境学群	1
帝京科学大学・生命環境学部	2
東京海洋大学・海洋生物資源学科	1
日本大学・生物資源科学部	4
日本大学・文理学部	3
横浜国立大学・教育人間科学部	2
琉球大学・理学部	1
計	20

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わずこの実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。この実習は企画情報部企画普及課が担当し、大学側の希望がある場合にはそれぞれの専門分野の学芸員が担当する。

今年度は 8 大学 12 件 337 名の見学実習を受け入れた。

博物館見学実習受け入れ状況

実施日	大学名	人数	担当
6/ 2 (日)	日本大学生物資源科学部	46	新井田秀一
6/ 7 (金)	明治大学	11	田口公則
6/ 8 (土)	桜美林大学	12	佐藤武宏
7/11 (木)	神奈川大学	25	佐藤武宏
7/13 (金)	都留文科大学	40	広谷浩子
9/20 (土)	創価大学工学部環境共生工学科	56	田口公則 広谷浩子
7/31 (水) 8/ 1 (木)	日本女子大学	8	田口公則
10/ 26 (土)	桜美林大学	12	佐藤武宏
11/ 16 (土)	神奈川大学	32	佐藤武宏
12/ 1 (日)	東海大学海洋学部	32	新井田秀一
12/ 7 (日)	日本大学生物資源科学部 (教職課程)	34	佐藤武宏
12/ 15 (日)	東海大学海洋学部	29	新井田秀一
合計		337	

5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を生かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。2013年度のライブラリー利用者は97,463人で、1日平均利用者数は326人であった。電話や文書による資料の問い合わせが6件あり、また有料ではあるがコピーサービスも行っており、延べ344件の申込があった。

ミュージアムライブラリー月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	26	21	27	31	24	26	25	23	23	23	25	299
利用者数	8,912	8,001	7,294	11,244	16,855	7,371	8,539	6,477	4,992	4,756	4,769	8,253	97,463
平均利用者数	356	308	347	416	544	307	328	259	217	207	207	330	326

5.5. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、県民の皆さんにより身近で開かれた博物館、学校との連携をはかる博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体で様々な事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして5名の学習指導員（再任用・非常勤）を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を生かし、児童・生徒をはじめ一般の方々からのレファレンスに関する業務や自由研究のアドバイスなどの学習支援、また学校をはじめ各種諸団体利用者に対する展示物のガイダンスなど、来館者へのサービスに関する業務を行っている。

5.5.1 学習支援・レファレンス業務

学習指導員は学習指導員室に常駐し、さまざまな相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスを行ったり、設定された課題解決のためにその筋道を示したりする学習支援を行っている。この

ほか、来館者のレファレンス受付や、博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。

5.5.2 団体利用者へのサービス

[団体利用の申込受付]

学習指導員は、団体利用者からの電話、FAX、直接の来館等に対応し、予約の申し込みを受け付けている。地域や年齢など来館される方々は多岐にわたっている。

[下見見学への対応]

事前に下見のために来館した団体に対しては、施設を含む館内の見どころ等を説明するほか、希望者には博物館の展示を紹介したビデオ映像の貸し出しも行っている。

この下見見学の多くは学校関係者や、障害のある方々の施設・団体である。

[ガイダンスサービス]

ガイダンスを希望した団体には所要時間20～30分程度で、学習指導員が展示室の構成やおもな展示物の説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介し、また利用にあたっての注意事項について説明をしている。本年度の利用状況は以下のとおりである。

月別ガイダンス対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
件数	28	37	38	45	25	32	60	24	19	21	25	34	388	32
人数	2,459	1,992	2,256	2,529	931	1,987	3,525	1,210	945	814	987	1,403	21,038	1,753

5.5.3. 団体利用状況

2013年度の団体入館利用は1,463団体、人数は74,214人で、入館者全体の329,340人に対する割合は22.5%になる。団体利用の中で、学校関係団体830団体、55,761人、この数字は全団体の57.3%、全団体人数の

75.1%になる。

特に、小学校の占める割合は学校関係団体人数の69.8%になる。種別による利用状況および地域別の利用状況は下記図表の通りである。

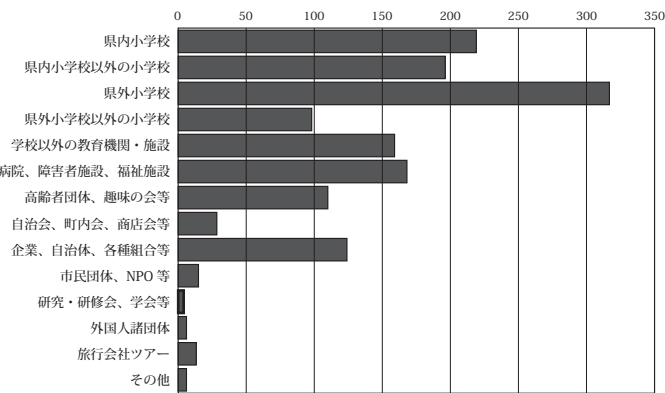
種別利用状況(団体数)

月別種別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	割合
1	県内小学校	20	16	18	20	2	18	50	32	18	11	12	2	219	15.0%
2	県内小学校以外の学校	5	19	9	35	18	11	17	11	9	9	21	32	196	13.4%
3	県外小学校	4	52	25	20	1	34	127	35	14	3	1	1	317	21.7%
4	県外小学校以外の学校	9	7	7	12	7	8	9	9	7	2	7	14	98	6.7%
5	学校以外の教育機関・施設	10	4	13	27	38	3	3	13	6	3	5	34	159	10.9%
6	病院、障害者施設、福祉施設	7	12	18	16	8	13	29	25	6	8	6	20	168	11.5%
7	高齢者団体、趣味の会等	7	8	13	8	2	8	23	14	2	5	6	14	110	7.5%
8	自治会、町内会、商店会等	0	1	2	1	0	4	6	5	2	0	4	3	28	1.9%
9	企業、自治体、各種組合等	3	13	8	18	8	10	19	11	8	8	8	10	124	8.5%
10	市民団体、NPO等	1	1	2	3	0	0	3	1	1	1	1	1	15	1.0%
11	研究・研修会、学会等	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	4	0.3%
12	外国人諸団体	1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	1	6	0.4%
13	旅行会社ツアー	2	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	7	13	0.9%
14	その他	1	0	0	1	2	0	0	1	0	1	0	0	6	0.4%
学校(種別1～4)合計		38	94	59	87	28	71	203	87	48	25	41	49	830	56.7%
全体合計		70	133	115	162	91	110	286	157	76	52	72	139	1,463	100%

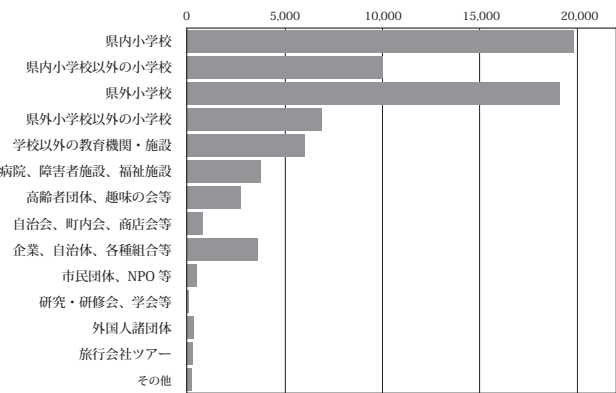
種別利用状況(人数)

月別種別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	割合
1	県内小学校	2,296	1,511	1,591	2,094	94	1,794	4,585	2,941	1,292	772	796	30	19,796	26.7%
2	県内小学校以外の学校	485	1,825	729	2,191	599	420	656	313	205	276	806	1,487	9,992	13.5%
3	県外小学校	414	3,304	1,775	1,290	75	2,202	6,709	1,868	1,160	249	34	25	19,105	25.7%
4	県外小学校以外の学校	1,699	988	420	766	111	265	1,083	819	186	46	115	370	6,868	9.3%
5	学校以外の教育機関・施設	192	92	352	1,094	1,443	88	91	437	181	59	447	1,560	6,036	8.1%
6	病院、障害者施設、福祉施設	169	230	334	314	189	430	549	555	138	110	264	527	3,809	5.1%
7	高齢者団体、趣味の会等	129	186	358	175	45	165	555	345	39	216	137	418	2,768	3.7%
8	自治会、町内会、商店会等	0	41	111	36	0	108	184	130	45	0	77	67	799	1.1%
9	企業、自治体、各種組合等	76	649	259	547	204	213	580	287	158	194	195	259	3,621	4.9%
10	市民団体、NPO等	22	17	17	191	0	0	139	24	20	20	10	15	475	0.6%
11	研究・研修会、学会等	0	0	0	28	31	0	0	0	28	0	0	0	87	0.1%
12	外国人諸団体	84	0	0	0	54	0	0	0	96	67	0	24	325	0.4%
13	旅行会社ツアー	111	0	0	0	15	34	0	0	11	0	21	126	318	0.4%
14	その他	12	0	0	39	127	0	0	9	0	28	0	0	215	0.3%
学校(種別1～4)合計		4,894	7,628	4,515	6,341	879	4,681	13,033	5,941	2,843	1,343	1,751	1,912	55,761	75.1%
全体合計		5,689	8,843	5,946	8,765	2,987	5,719	15,131	7,728	3,559	2,037	2,902	4,908	74,214	100.0%

(団体数)



(団体種別利用人数)



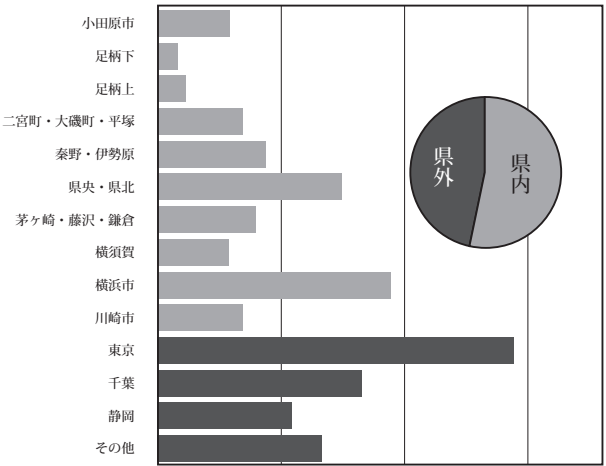
月別地区別利用状況(団体数)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	割合
地 区															
1	小田原市	5	9	7	3	6	8	16	12	5	8	7	12	98	6.7%
2	足柄下	0	4	3	2	2	1	3	0	3	3	3	0	24	1.6%
3	足柄上	0	1	2	2	0	2	5	5	4	1	0	2	24	1.6%
4	二宮・大磯・平塚	3	3	7	7	3	2	11	5	1	4	1	14	61	4.2%
5	秦野・伊勢原	16	7	6	9	4	4	9	7	2	5	13	12	94	6.4%
6	県央・県北	10	11	4	6	11	5	30	21	8	4	2	15	127	8.7%
7	茅ヶ崎・藤沢・鎌倉	4	4	5	14	7	1	8	7	3	3	11	7	74	5.1%
8	横須賀	0	6	3	4	6	5	5	8	1	3	1	1	43	2.9%
9	横浜市	2	9	16	33	18	18	20	11	9	3	5	15	159	10.9%
10	川崎市	0	3	2	10	3	2	2	7	6	4	7	4	50	3.4%
11	東京	14	30	30	42	17	36	29	19	7	7	12	24	267	18.3%
12	千葉	2	13	5	3	0	12	104	22	14	0	4	5	184	12.6%
13	静岡	7	10	10	18	9	2	15	12	7	4	6	18	118	8.1%
14	その他	7	23	15	9	5	12	29	21	6	3	0	10	140	9.6%
	神奈川県合計	40	57	55	90	60	48	109	83	42	38	50	82	754	51.5%
	全 体 合 計	70	133	115	162	91	110	286	157	76	52	72	139	1,463	100.0%

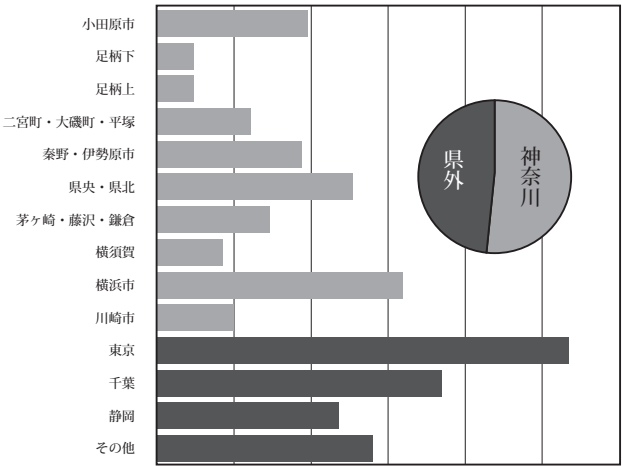
月別地区別利用状況(人数)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	割合
地 区															
1	小田原市	103	434	262	45	106	372	325	314	113	264	226	333	2,897	3.9%
2	足柄下	0	228	153	53	32	18	96	0	38	69	87	0	774	1.0%
3	足柄上	0	10	94	44	0	53	275	362	135	73	0	62	1,108	1.5%
4	二宮・大磯・平塚	298	192	649	692	48	119	702	157	28	118	15	417	3,435	4.6%
5	秦野・伊勢原	1,328	415	148	291	56	269	244	271	51	186	513	592	4,364	5.9%
6	県央・県北	788	918	102	254	296	201	2,589	1,238	408	148	37	455	7,434	10.0%
7	茅ヶ崎・藤沢・鎌倉	578	366	153	640	227	157	563	500	72	23	392	230	3,901	5.3%
8	横須賀	0	418	291	285	370	385	366	504	32	93	65	28	2,837	3.8%
9	横浜市	38	879	1,067	2,533	686	1,098	1,093	712	258	42	169	814	9,389	12.7%
10	川崎市	0	60	58	683	104	84	42	288	798	398	634	259	3,408	4.6%
11	東京	1,061	2,491	1,693	2,012	629	1,634	1,917	1,013	321	441	568	621	14,401	19.4%
12	千葉	33	661	194	164	0	428	4,732	879	872	0	62	202	8,227	11.1%
13	静岡	896	781	261	631	273	82	852	554	244	105	134	596	5,409	7.3%
14	その他	566	990	821	438	160	819	1,335	936	189	77	0	299	6,630	8.9%
	神奈川県合計	3,133	3,920	2,977	5,520	1,925	2,756	6,295	4,346	1,933	1,414	2,138	3,190	39,547	53.3%
	全 体 合 計	5,689	8,843	5,946	8,765	2,987	5,719	15,131	7,728	3,559	2,037	2,902	4,908	74,214	100.0%

(団体数)



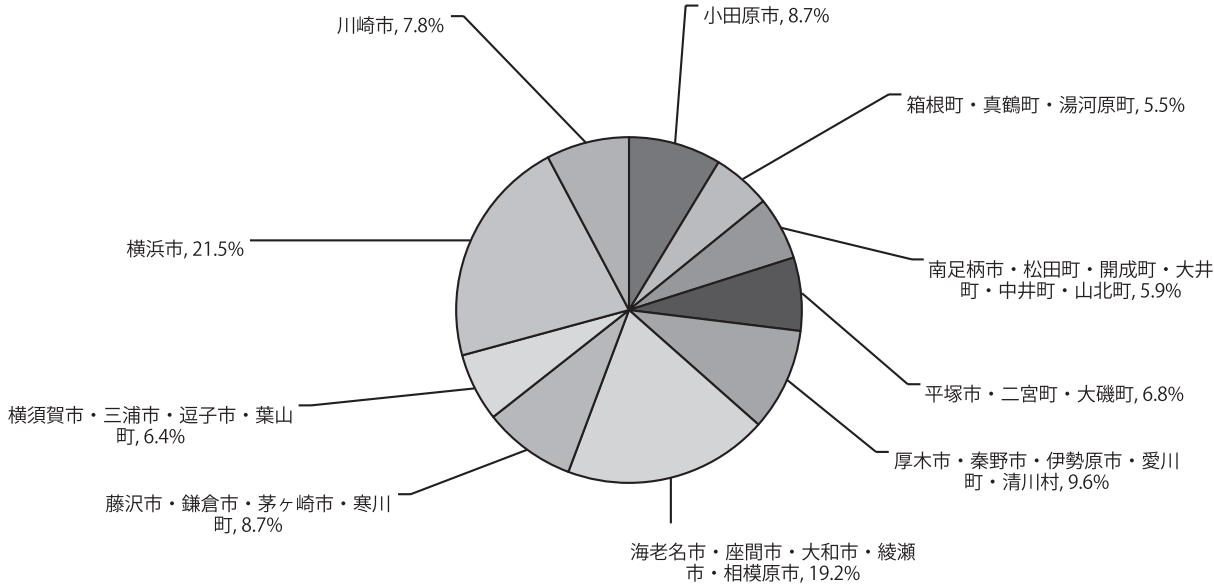
(団体種別利用人数)



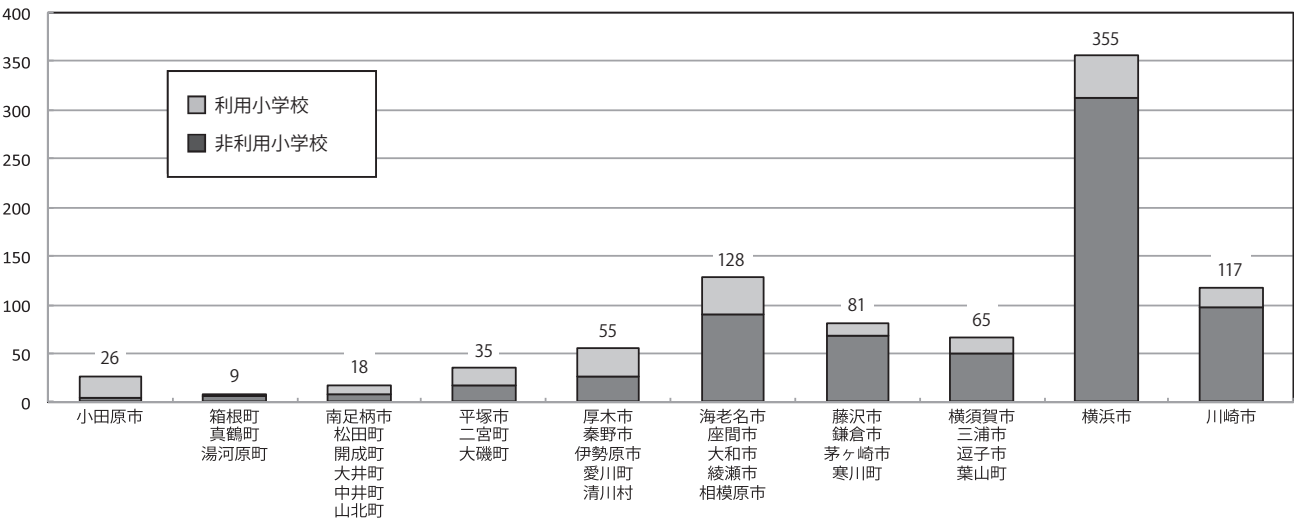
県内地区別学校利用状況

地区 No	構成市町村	小 学 校				小 学 校 以 外 の 学 校						全校種	
		小学校 利用数	地区内 小学校 数	地区内 利用率	地区別 利用率	中学 利用数	高校 利用数	大学 利用数	各種支 援学校	保育園 幼稚園	地区別 利用率	合 計	地区別 利用率
1	小田原市	19	26	73.1%	8.7%	1	5	0	3	15	17.8%	43	10.4%
2	箱根町・真鶴町・湯河原町	12	9	133.3%	5.5%	2	0	0	0	4	1.9%	18	4.3%
3	南足柄市・松田町・開成町・大井町・中井町・山北町	13	18	72.2%	5.9%	0	0	0	0	4	4.2%	17	4.1%
4	平塚市・二宮町・大磯町	15	35	42.9%	6.8%	1	2	7	3	13	12.1%	41	9.9%
5	厚木市・秦野市・伊勢原市・愛川町・清川村	21	55	38.2%	9.6%	4	3	1	3	20	15.0%	52	12.6%
6	海老名市・座間市・大和市・綾瀬市・相模原市	42	129	32.6%	19.2%	4	3	0	1	15	12.6%	65	15.7%
7	藤沢市・鎌倉市・茅ヶ崎市・寒川町	19	81	23.5%	8.7%	8	2	4	1	7	8.4%	41	9.9%
8	横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町	14	65	21.5%	6.4%	4	0	1	2	6	6.1%	27	6.5%
9	横浜市	47	355	13.2%	21.5%	7	8	2	2	14	19.2%	80	19.3%
10	川崎市	17	117	14.5%	7.8%	3	0	0	0	10	2.8%	30	7.2%
合 計		219	890	24.6%	100.0%	34	23	15	15	108	100.0%	414	100.0%
校種別利用率		52.9%				8.2%	5.6%	3.6%	3.6%	26.1%			

県内小学校の地区別利用数の割合

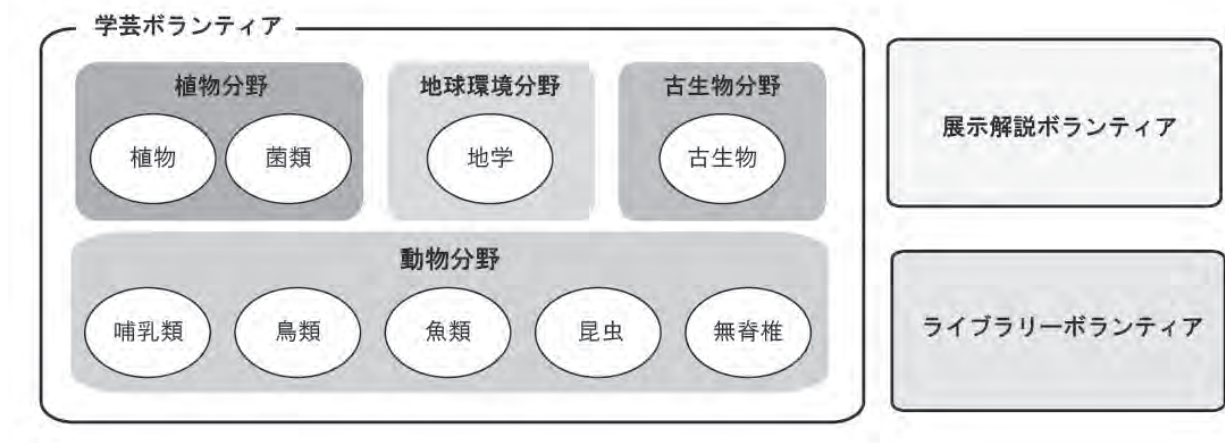


地区別の学校総数に対する利用数の割合



5.6. 博物館のボランティア活動

神奈川県立生命の星・地球博物館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示準備、調査研究、展示解説等さまざまである。登録には職員推薦（随時）あるいは入門講座の受講（年一回開催）の二つの方法がある。活動分野は大きく「学芸ボランティア」「ライブラリーボランティア」「展示解説ボランティア」に分かれており、希望する分野に登録し活動する。年度単位の登録で、希望により更新できる。



5.6.1. 学芸ボランティア

各分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の収集、整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。分野により標本作製の手法や手順は異なり、専門的な技術や知識を習

得する場ともなっている。この他にも、特別展などの展示制作補助、講座や観察会の補助などを通じて博物館を支えている。担当学芸員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.2. ライブラリーボランティア

さまざまな専門書や一般向け図書を収蔵するミュージアムライブラリーで、図書の整理・装備（ラベル・透明カバー

貼り等）や補修等の活動を行っている。担当職員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.3. 展示解説ボランティア

各自の都合の良い日に来館し、得意な展示分野についての案内や解説を行っている（スポット解説）。視覚障がい者の方の誘導や、展示ラベルへの点字シールの製作・貼付などの活動も行う（誘導・案内）。制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

当分野は「学芸ボランティア」「館運営ボランティア」の登録者から希望を募り 2002 年度から始まった活動である。2004 年度からはボランティア入門講座でも展示解説分野を設置し、講座修了者が活動に加わっている。

5.6.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数と活動状況は下表のとおりである。

2013 年度「博物館ボランティア」登録人数

	登録数		
	計	男性	女性
実人数 ※	311	150	161
1) 学芸ボランティア	285	136	149
2) ライブラリーボランティア	6	0	6
3) 展示解説ボランティア	48	27	21
合計 (1 ～ 3 ののべ人数)	339	163	176

※ 複数のボランティア分野に重複登録している人を除いた実人数を示した。

2013 年度「博物館ボランティア」登録者の分野別登録者の内訳と活動状況

分野			登録数 (のべ人数)			活動状況 (のべ人数)												
			計	男性	女性	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学芸	植物	植 物	35	7	28	420	33	37	27	40	35	23	37	42	22	40	46	38
		菌 類	41	20	21	423	12	39	43	36	28	51	40	26	33	38	23	54
	動物	哺乳類	27	11	16	119	6	6	8	6	8	5	7	14	17	13	15	14
		魚 類	61	32	29	374	30	35	35	40	33	33	29	30	24	40	17	28
		昆 虫	20	15	5	237	20	43	29	15	9	11	14	15	29	21	15	16
		軟体・甲殻類	4	2	2	59	4	4	2	6	6	5	5	5	6	4	6	6
		鳥 類	24	12	12	156	13	16	12	18	9	20	17	14	5	8	8	16
	地球環境	地 学	42	24	18	700	65	46	39	65	58	65	46	78	42	65	46	85
		古生物	49	22	27	385	40	43	32	31	29	26	29	38	25	22	32	38
	合計		303	145	158	2,873	223	269	227	257	215	239	224	262	203	251	208	295
ライブラリー			6	0	6	21	1	1	1	0	1	1	0	0	3	1	10	2
展示解説	展示解説(スポット解説)		42	26	16	405	42	43	30	33	30	32	29	38	30	30	32	36
	展示解説 (誘導・案内)		12	4	8	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計		54	30	24	407	42	43	30	35	30	32	29	38	30	30	32	36

「博物館ボランティア」延べ活動人数 3,301 名

5.6.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、円滑に参加していただくための入門講座を開催している。全体講義のほかに分野別の実習があり、受講後、翌年度からのボランティアに登録し活動していただく。2013 年度の実施内容は表のとおりである。

[日時] 2014 年 2 月 9 日(日) ～ 2 月 23 日(日) までの間の 2 ～ 4 日間(分野別の講座が 1 ～ 3 日間)

[講座定員] 学芸 9 分野 34 名、展示解説 10 名、ライブラリ 3 名 計 47 名

[実施分野] 学芸 8 分野 21 名、展示解説 8 名、ライブラリ 1 名 計 30 名(のべ人数)

講座日程

共通	時間	内容	定員	申込受入	受講	修了	登録
2 月 9 日	10:00 ～ 10:20	開会、概要説明、博物館紹介 DVD (バックヤード編) 鑑賞	47	46	28	26	26
	10:20 ～ 11:00	館長講義「自然史博物館の活動」					
	11:00 ～ 12:00	展示室見学					
	13:00 ～ 14:00	バックヤード見学					
	14:00 ～ 15:00	各担当者紹介、分野別質疑応答等					
分野別	分野	内容	定員	申込受入	受講	修了	登録
2月11～ 23日の1～ 3日間	維管束植物 19, 21 日	標本作製・配架	5	3	3	2	2
	菌類 13, 18 日	標本作製、標本・資料整理、野外実習	5	0	-	-	-
	魚類 22 日	標本整理	3	8	6	5	5
	昆虫 15, 16, 22 日いずれ か 1 日	標本作製・整理	3	2	1	0	-
	昆虫 DB 作成 5, 16, 22 日いずれか 1 日	標本整理、情報システムへのデータ登録	3	2	1	1	1
	哺乳類 18, 20 日	標本整理	3	5	4	4	4
	無脊椎動物(貝・カニ) 16 日	資料保管の概要、標本・文献整理、ワークショップ準備	3	1	0	-	-
	古生物 19, 22 日, 23 日 午前	標本(火山灰等) 整理	5	8	4	4	4
	古生物文献 21 日	展示内容のレポート作成、解説実習	4	3	2	1	1
	展示解説 11 日, 23 日午 前, 及びその間の 1 日間	解説実習	10	12	8	8	8
	ライブラリ 15, 18, 23 日 いずれか半日	図書整理、図書保存箱の作成	3	4	1	1	1
共通	時間	内容					
2 月 23 日	13:00 ～ 14:30	学芸員からの活動成果紹介「博物館ボランティアの活動紹介」 佐藤学芸員・広谷学芸員					
	14:30 ～ 15:20	活動状況と体験談 植物分野から 堀池さん 古生物分野から 末長さん ライブラリー分野から 溝道さん					
	15:20 ～ 15:30	登録に関する事務連絡、登録時の注意事項の配布、質疑応答、閉会					

※ 共通日程 1 日目が荒天だったため、申込人数に比べて受講人数は大きく減少した。

※ 2 分野の実習受講を希望する方が 2 名いたため、分野別人数の合計(のべ人数)と、共通講座の人数(実人数)は一部異なっている。

5.7. 広報

博物館広報活動は、広く館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを広く告知し、来館・参加を呼びかけることを目的としている。

2013 年度の広報活動は、前年度に引き続き催し物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供を行った。

5.7.1. 広報印刷物の作成・配布

主な広報として、特別展・観察会・講演会など 1 年間の各種催し物を告知するため「催物案内」、特別展・企画展開催に合わせポスターとチラシ、「子ども自然科学ひろば」のチラシ等を下記の表のとおり作成・配布した。

また、緊急雇用創出事業臨時特例基金を活用し、スタンプラリー台紙うちわ、ポケットティッシュを配布した他、鉄道・バスに車内広告を掲出した。

ポスター・チラシ作成状況

月	印刷物名	仕様(規格、印刷、色数)	部数	主な配布先	件数
6	特別展「益田一と日本の魚類学～魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY」ポスター	① B1 判(小田急帯付)、館内簡易印刷② B2 判、オフセット印刷、4 色刷り	① 40 ② 3,000	① H ② A,C,D,E,F,I	4,000
	特別展「益田一と日本の魚類学～魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY」チラシ	A4 判、オフセット印刷、表面 4 色・裏面 1 色刷り	70,000	A,B,C,D,E,F,G,H,I,J,L	
	「子ども自然科学ひろば 2013 年夏(小学生用、中学生用)」チラシ	小学生用① A3 判② B4 判、中学生用③ A3 判④ B4 判、館内簡易印刷、①③片面 2 色刷り②④片面 1 色刷り(2 種)	①②各 1,200 ③ 650 ④ 430	I	
9	「子ども自然科学ひろば 2013 年秋」チラシ	① A3 判② B4 判、館内簡易印刷、①片面 2 色刷り②片面 1 色刷り	① 1,500 ② 1,300	I	75
11	企画展「アンデスを越えてー南米パタゴニアの火山地質調査からー」ポスター	① B1 判(小田急帯付)、館内簡易印刷② A1 判 オフセット印刷、4 色刷り③ B1 判館内簡易印刷	① 40 ② 2,350	① H ② A,C,D,E,F,J,K ③ L	4,000
	企画展「アンデスを越えてー南米パタゴニアの火山地質調査からー」チラシ	A4 判、オフセット印刷、表面 4 色・裏面 1 色刷り	35,000	A,B,C,D,E,F,G,H,I,K	
12	「子ども自然科学ひろば 2013 ～ 2014 年冬」チラシ	① A3 判② B4 判、館内簡易印刷、①片面 2 色刷り②片面 1 色刷り	① 1,550 ② 1,300	I	75
2	「ミュージ・フェスタ 2014」チラシ	A4 判、オフセット印刷、片面 4 色刷り	35,000	H	2,050
3	「子ども自然科学ひろば 2014 年春(小学生用、中学生用)」チラシ	小学生用① A3 判② B4 判、中学生用③ A3 判④ B4 判、当日受付イベント案内⑤ A4 判、館内簡易印刷、①③片面 2 色刷り②④片面 1 色刷り⑤両面 2 色刷り(3 種)	① 1,000 ② 880 ③ 550 ④ 400	I	75
	「催物案内」	A3 判、両面 1 色刷り、オフセット印刷	41,000	A,B,C,D,E,F,G,H,I,J,L	

主な配布先の凡例。
A: 県内小・中・高校等； B: 県外(東京・静岡)小・中・高校等； C: 県内図書館； D: 県内公民館・地区センター； E: 博物館園； F: 県市町村情報提供窓口； G: マスメディア； H: 小田急電鉄、箱根登山鉄道； I: 足柄上・下地区公立小・中学校； J: 横浜銀行； K: 郵便局； L: コンビニエンスストア、百貨店、大手スーパーマーケット

特別展チラシ(表面)
特別展「益田一と日本の魚類学～魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY」



企画展チラシ(表面)
企画展「アンデスを越えてー南米パタゴニアの火山地質調査からー」



うちわ
新作映像公開記念スタンプラリー台紙うちわ(表面)



交通広告
緊急雇用創出事業特例基金を活用した車内広告

緊急雇用創出事業臨時特例基金を活用した広報事業の状況

実施日	事業内容	主な配布場所等
7月29日～8月28日	県内及び都内交通機関へのポスター広告掲示 キャッチコピー「知らない地球がここにある」	〈掲載場所及び期間〉 小田急線全線 中吊りポスター広告 〔8月2日～6日、8月16日～20日〕 箱根登山バス まど上広告 〔7月29日～8月28日〕
8月3日	新作映像公開記念セレモニーの実施	
7月18日～9月1日	新作映像公開記念スタンプラリーの実施及びス タンプラリー台紙うちわの配布 総計 35,000 枚	〈主な配布場所〉 （直接配布）駅前街頭配布及びイベント会場での配布 79 箇所 （駅設置）小田急線 70 駅・大涌谷駅
9月7日～1月31日	広報用ポケットティッシュを直接配布 総計 26,950 部	〈主な配布場所〉 （直接配布）駅前街頭配布及びイベント会場での配布 47 箇所

5.7.2. マスメディア等への情報提供

博物館の行う各種催し物の案内は、地元の小田原記者クラブへ定期的に提供している。また、当館は観光地箱根・小田原エリアにあるため、旅行情報誌やアミューズメント情報誌などに無償で施設紹介されており、非常に恵まれた環境にある。これら情報誌とは定期的に情報の更新を行っている。

特別展や企画展といった企画展示の話題は、マスメディアで取り上げられる率が高いため、小田原記者クラブ以外にケーブルテレビ、コミュニティFM局など中小のメディア

向けにも情報提供する一方、前日に内覧会を催すなど様々なかたちで広報展開を図った。

この1年間の紹介記事件数は、確認したものだけでも191件あった。その内訳は、新聞48件、雑誌・図書類29件、広報紙・情報紙53件、テレビ7件、ラジオ10件、ウェブサイト等インターネット35件、その他8件である。これは掲載社からの連絡に基づくもので、実際の記事件数はこの数倍にのぼると思われる。特に、ウェブサイトでの掲載頻度に関しては未知数である。

5.7.3. 他施設での広報活動

夏休み思い出広場

〔場所〕 湘南モールフィル（茅ヶ崎市）

〔日時〕 8月3日（土）・4日（日）

〔内容〕

ワークショップ開催

- ・折り紙ひろば（3日）
- ・アンモナイトのレプリカづくり（4日）
- ・博物館の広報物配布

〔担当〕

片野美知子・木村恭子・井上茂樹・
大坪奏・田口公則・

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)」43 号を刊行した。本誌は、国内外の研究機関、大学、博物館等に配布している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川県自然誌資料」第 35 号を刊行した。本誌は国内の主な研究機関 (一部海外を含む)、大学、博物館、学会、研究会、同好会等に配布している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年 4 回発行した。一般利用者向けに博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。また、同じ内容をホームページ <<http://nh.kanagawa-museum.jp/tobira/index.html>> で紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」18 号 (2012 年度) を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 研究報告

[号数] 43 号

[発行日] 2014 年 2 月 28 日

[発行部数] 1,000 部

[編集担当] 山下浩之・渡辺恭平

[内容]

動物学

原著論文

瀬能 宏・日比野友亮・山田文彦：アンキアライン洞窟から得られた日本初記録のイワアナゴ科の稀種ウンブキアナゴ (新称)

三井翔太・大泉 宏・樽 創：相模湾に漂着したカマイルカおよびオガワコマッコウの胃内容物

中村一恵：ニホンオオカミとアカオオカミの起源と種分化に関する考察

植物学

原著論文

田中徳久・勝山輝男・大西 亘・木場英久：古瀬 義氏採集の植物コレクションに含まれる基準標本

短報

折原貴道・岡田豊太郎・大宮司俊彦・高木 望：神奈川県におけるショウロの発生状況

資料

矢野倫子・矢野清志・折原貴道・山本幸憲：真鶴半島の変形菌相

その他

資料

藤岡換太郎・平田大二・大島光春・根本 卓・三森亮介・堀田桃子・野田智佳代・萱場うい子・高橋直樹・森 慎一・柴田健一郎・西川 徹・満澤巨彦 および KO-OHO-O の会メンバー：相模湾の海底地形・地質および生物の目視観察ー NT08-21 次航海ハイパードルフィン潜水調査報告ー

6.1.2. 神奈川自然誌資料

[号数] 35 号

[発行日] 2014 年 2 月 28 日

[発行部数] 700 部

[編集担当] 田口公則・渡辺恭平

[内容]

小嶋紀行：希少種ササバギンランの生育環境特性：横須賀市久里浜におけるマテバシイ植林の事例

倉持敦子・倉持卓司：三浦半島の潮間帯より採集されたクロヒメウミウシ (軟体動物門, 腹足綱, 頭楯目, ウズムシウミウシ科)

植田育男：関東地方および周辺地域における外来種ミドリイガイの分布

北嶋 円・伊藤寿茂・岩崎猛朗・富永早希・佐野真奈美・植田育男・村石健一・萩原清司：江の島の潮間帯ヤドカリ類相

富永早希・萩原清司：江の島におけるシワセビロガニの記録

松尾香菜子・西 栄二郎：神奈川県 of 都市近郊に産するセミ科 6 種における脱皮殻形態の定量化

崎山直夫・瀬能 宏・安部 奏：相模湾初記録となるチヒロザメ (メジロザメ目チヒロザメ科) について

山田和彦・工藤孝浩・瀬能 宏：三崎魚市場に水揚げされた魚類 - XIX

石川英和・長縄今日子：丹沢山地におけるツキノワグマの

シイ・カン類の堅果の利用について
清水海渡・松山龍太：神奈川県における約 50 年ぶりとなる
キクガシラコウモリの確認

太田勝也・飯嶋一浩：秦野市におけるノスリの繁殖記録
一寸木 肇： 2013 年冬季に大井町で観察されたヤツガ
シラ

6.1.3. 自然科学のとびら

自然科学のとびら 19 巻 2 号通巻 73 号

〔発行日〕 2013 年 6 月 15 日

〔編集担当〕 大島光春

〔内容〕

瀬能 宏：表紙「サクラダイ」
渡辺恭平：「スズメバチのあれこれ」
瀬能 宏：「日本の原色魚類図鑑」
金幸 隆：「相模湾沿岸の津波堆積物の調査」

自然科学のとびら 19 巻 3 号通巻 74 号

〔発行日〕 2013 年 9 月 15 日

〔編集担当〕 大島光春

〔内容〕

藤岡換太郎・KO-OHO-O の会：表紙「深海の造形の
砂 渦巻く溶岩 ハイパードルフィンにて撮影」
大坪 奏「美味しい食べ物を作るカビ～味噌蔵見学
記～」
藤岡換太郎・KO-OHO-O の会：「相模湾のバイオ・ジオ・
ダイバーシティ～ KO-OHO-O 航海の成果～」
小林瑞穂：ライブラリー通信「海辺の漂着物ハンドブッ
ク」
石浜佐栄子：「博物館で、研究者なりきり体験～海洋コ
アを食べよう!～」

自然科学のとびら 19 巻 4 号通巻 75 号

〔発行日〕 2013 年 12 月 15 日

〔編集担当〕 大島光春

〔内容〕

崎山直夫：表紙「相模湾に現れたゴマフアザラシ」
松本涼子：「骨の形から読み解く脊椎動物の進化」
大西 亘：「多様性展示が新しくなりました!」
熊澤伸宏：「ナンヨウボウズハゼ属の雌を水中で見分け
よう」
新山直子：ライブラリー通信「ある日のレファレンス記
録」
平田大二：「アンデスを越えて—パタゴニアの火山地質
調査—」

自然科学のとびら 20 巻 1 号通巻 76 号

〔発行日〕 2014 年 3 月 15 日

〔編集担当〕 大島光春

〔内容〕

田口公則：表紙「ヒオウギ」
田口公則：「鮮やかなヒオウギを配列して魅せる」
大島光春：「鯨? 海豚? 河馬? 海豚河馬? ～鯨偶蹄目っ
てなんだ?!」
苅部治紀・川島逸郎「奥村定一昆虫コレクション —
古い標本が語ってくれること—」
小林瑞穂：ライブラリー通信「科学しかけえほん」
樽 創「イルカの前肢で見えてくるもの」

6.1.4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

〔号数〕 18 号

〔発行日〕 2013 年 10 月 25 日

〔発行部数〕 500 部

〔編集担当〕 星野 進・笠間友博・大西 亘

〔内容〕

沿革・事業報告（運営管理機能・情報発信機能・シンク
タンク機能・データバンク機能・学習支援機能・刊行物・
情報システム・連携機能）・資料

6.2. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数
展示解説書	1,500	164
地球 SOS	500	21
絶滅した生物	500	25
貝からの伝言	500	29
櫻井コレクションの魅力	400	17
日本の魚学・水産学事始め	1,000	23
オオカミとその仲間たち	1,100	20
カニの姿	1,200	19
神奈川県植物誌 2001	9,800	43

刊行物名	単価	販売部数
展示案内 生命あふれる不思議な星	420	0
化石どうぶつ園	1,100	16
神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006	2,000	22
読みもの ナウマンゾウがいた!	800	10
樹洞	1,000	14
日本列島 20 億年 その生き立ちを探る	1,000	48
水生昆虫大百科	1,000	47
大空の覇者 トンボ	1,200	86
益田一と日本の魚類学	1,400	425
計		1,023

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、当博物館が目指す以下のような新しい博物館を支えるシステムとして整備されることとなった。

- ・高度情報化における自然・文化の情報センター
- ・映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- ・他の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

上記の3システムは、1995年度より稼動している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」の2つのサブシステムにより構成され、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱であるところの資料の収集・管理、研究、展示活動を支援する。

なお、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせに対しては、当初、別のサブシステムが計画されていたが、現在はインターネットの普及により博物館のホームページをもって代替運用している。

当システムは当博物館と県立歴史博物館が共同で開発を行い、2000年度および2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントマシンのWindows Updateが効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。2010年度および2011年度の機器更新では、最新のOSとセキュリティ対策ソフトにより安全で快適なシステムが構築されている。2014年3月31日現在の、博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-TによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名	メモリ	数量	備考
		使用OS・ソフト等	ディスク容量		
CPU ルーム	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX300 S6	16GB	1	収蔵資料管理システム(管理部)
		RedHat Linux ES5.5	450GB×4 (RAID5)		
	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX300 S6	16GB	1	収蔵資料管理システム (データ部)
		RedHat Linux ES5.5	146GB×2 (RAID1)		
	展示情報サーバ	富士通 PRIMERGY RX300 S6	4GB	1	展示情報システムの管理
		RedHat Linux ES5.5	146GB×2 (RAID1)		
	WEB サーバ	富士通 PRIMERGY RX300 S6	4GB	1	ホームページの管理
		RedHat Linux ES5.5	146GB×2 (RAID1)		
	Mail サーバ	富士通 PRIMERGY RX300 S6	4GB	1	メール情報の管理
		RedHat Linux ES5.5	146GB×2 (RAID1)		
ミュージアム ライブラリー	来館者用端末	富士通 ESPRIMO D530/A	2GB	4	展示情報システムの閲覧など
		Windows 7 Professional	160GB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D530/A 他	2GB	3	
		Windows 7 Professional 他	160GB		
研究室・ バックヤード	研究用 WS	富士通 CELSIUS W480 他	4GB	2	衛星画像処理や分布図の作成 など
		Windows 7 Professional 他	500GB		
	画像入力用	富士通 CELSIUS W510	4GB	1	
		Windows 7 Professional	500GB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D530/A 他	4GB	40	
		Windows 7 Professional 他	160GB		

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

収蔵資料管理システムでは、これまで分野や個人ごとにカードやパソコン等で個別に管理されていた収蔵資料情報を、サーバと呼ばれるコンピュータで一元管理するとともに、資料の画像情報の管理も行う。このサブシステムは博物館情報システムの中核となるシステムであり、資料の受入からラベル等の印刷やダウンロードまでをカバーできる。

当サブシステムは、『神奈川県植物誌 1988』および『神奈川県植物誌 2001』の証拠標本を含む『維管束植物データベース』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真を属性情報とともにデータベース化した『魚類写真資料データベース』など、約 20 のデータベースから構成され、館外資料の情報を格納するデータベースも準備されている。2003 年度より、書籍（図書・雑誌）についても収蔵資料管理システムで取り扱われている。その登録状況を右表に示した。

またこれらの情報は、研究への利用はもちろん、一部ではあるがミュージアムライブラリーで公開されている。なお情報提供の項（72 ページ）の表に示したように、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

7.2.2. 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への欲求を持つ利用者に対して、研究に基づく博物館独自の新鮮な情報

収蔵資料管理システムの登録実績

分野	2012 年度までの登録数	2013 年度の登録数	計
哺乳類	4,127	368	4,495
鳥類	2,462	102	2,564
魚類	34,730	1,301	36,031
魚類写真	124,709	13,280	137,989
昆虫	29,028	0	29,028
軟体動物	21,581	449	22,030
甲殻類	10,794	3,456	14,250
甲殻類細密画	439	36	475
両生・爬虫類	721	64	785
動物その他	66	0	66
維管束植物	248,715	6,899	255,614
コケ	9,366	0	9,366
菌類・地衣類	23,147	936	24,083
藻類	3,430	906	4,336
植物その他	254	0	254
植生	175	0	175
化石	12,308	368	12,676
岩石	6,216	160	6,376
鉱物	19,289	107	19,396
地質・ボーリング	2	0	2
衛星画像	938	60	998
衛星処理画像	145	8	153
景観画像	1,362	1,099	2,461
植物標本	0	183	183
合計	554,004	29,782	583,786
図書	19,718	1,756	21,474
雑誌	3,389	50	3,439
合計	23,107	1,806	24,913

を、検索システムにより分かりやすく提供している。この他に、神奈川県立歴史博物館が作成提供している「画像でみる歴史と文化」、「収蔵品コレクション」も閲覧が可能。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、218 種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、2,969 種の画像や解説文を提供する。
	チョウ	神奈川に生息するチョウ、110 種の画像や解説文を提供する。
	トンボ	神奈川に生息するトンボ、89 種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329 種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、82 種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126 種の画像や解説文を提供する。
	関東ローム層	神奈川の主要な火山灰層、1,013 点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164 種の画像や解説文を提供する。
酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画	空撮	神奈川の空から見た景観写真を 715 枚、うち学芸員のおすすめ写真を 55 枚解説と共に提供する。
	酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画	酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660 種の画像を提供する。
	日本で見られる恐竜	国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリで所蔵している図書 21,200 冊、雑誌 3,371 タイトルが検索できるように提供している。

7.3. インターネットの利用

7.3.1. ホームページ

小田原市と共同で 1995 年 10 月より開設していた Web サイト（ホームページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006 年 2 月より博物館独自の運用に切り替えた。2012 年 9 月には利用者が使いやすく、また博物館の魅力が伝わるようホームページのデザインを大幅に改良した。ホームページでは博物館に関する様々な情報を提供しているが、そのトップページへのアクセス数を示したのが下の表である。

1997 年度以降のアクセス実績に関しては、資料の項（90 ページ）に掲載した。

月別 Web トップページカウント数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
件数	30,638	30,730	28,123	37,580	52,015	32,025	30,821	23,088	23,275	26,068	22,090	33,406	369,859	30,821.6

7.3.2. 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館と連携し、当館所蔵の魚類画像資料の検索サイト「魚類写真資料データベース」とその英語版である「FishPix」をそれぞれ 2001 年と 2003 年より運用している。近年では毎年約 5,000 件の画像資料を追加している。

2004 年度以降のそれぞれのページへのアクセス実績（画像ダウンロード数は含まない）に関しては、資料の項（90 ページ）に掲載した。

連携して情報を公開している Web ページ

タイトル (HP アドレス)	概 要	年間アクセス件数
魚類写真資料データベース http://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/	魚類 89,195 件の画像を提供している。 研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	1,979,047 件
FishPix http://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類写真資料データベースの英語版として、魚類 81,785 件の画像を提供している。	2,657,156 件

7.4. 情報提供

7.4.1. 他サイトへの情報提供

当館が積極的に関わり情報を提供している Web サイトについて表にまとめた。

博物館の情報を公開している Web ページ

タイトル (HP アドレス)	概 要	提供件数
Terra [地球] の資料館 http://www1.tecnet.or.jp/index01.html	固定型データベースとして、地球のからくり・神奈川の大い・地球地学紀行、増殖型データベースとして、身近な自然史・砂の自然史を公開。	約 2,500 件

7.4.2. GBIF への情報提供

GBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数は GBIF 全体では 2014 年 4 月現在 4 億 3 千万件以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データ整備事業では、S-Net (サイエンスミュージアムネット) として国立科学博物館経由で GBIF に提供されたデータが国内向けに公開されている。

2006 年度より、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携をはかり、自然史標本情報の整備を行うなどを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員会」が設置されている。2013 年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全 4 館、全体で 73,500 件の自然史標本情報の提供を行った。

2013 年度自然史標本データベース神奈川委員会参加館

大磯町郷土資料館
相模原市立博物館
真鶴町立遠藤貝類博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの 2013 年度標本情報提供数

コレクション名	提供件数
維管束植物・藻類・蘚苔類標本	15,000 件
魚類標本	2,000 件
魚類写真資料データベース	23,000 件
軟体動物標本	3,000 件
昆虫標本	20,054 件
哺乳類標本	300 件
鳥類標本	200 件
菌類標本 (変形菌標本を含む)	2,000 件
合計	65,554 件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 友の会

「生命の星・地球博物館友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に 1996 年度に発足した。

8.1.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営され、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開した。また、ミューズ・フェスタ 2014 (17~19 ページ参照) に参加したり、博物館との共催でサロン・ド・小田原 (5 回、75 ページ参照) を行った。

事務局

1. 総会を 2013 年 4 月 14 日 (日) に行った。
2. 役員会 6 回実施し、以下の事項を検討し、実施した。
 - 1) 友の会運営について
 - 2) 会員への発送作業等について
 - 3) 総会及びイベントについて
 - 4) ミューズフェスタ 2014 について

広報部

1. 会報「友の会通信」を 4 回 (通巻 80 ~ 83 号) 発行
2. 友の会 HP、ブログの管理および運営
3. 友の会年間行事一覧表作成・配布
4. ツイッター (@kpmtomo) による情報提供
5. 「自然科学のとびら・友の会版」発行 4 回 (通巻 73 ~ 76 号)

企画部

友の会が主催する観察会や講座を企画し、それらが円滑に実施できるように博物館側との調整を行い、以下の講座を実施し、延べ 47 講座、2410 名が参加した。(別表のとおり)

観察会・講座等

行事名	開催日	実施場所	対象者	講師	所属	定員	参加者数
総会イベント「身近なジオパーク自然観察会」	4/14 (日)	博物館から一夜城	子どもから大人まで	笠間・渡辺	当館学芸員	無し	21
よろずスタジオ (館と共催)「貝で遊ぼう」	4/21 (日)	講義室東側	子どもから大人まで	佐藤	当館学芸員	無し	199
地話懇話会「オマーン漫遊記」	4/24 (水)	講義室または巡検地	大人	山下	当館学芸員	無し	27
植物観察会「三つ峠にスマイルを訪ねる」	4/26 (金)	三つ峠方面	大人	勝山	当館学芸員	40	34
静岡県小山町のテフラ巡検	4/27 (土)	静岡県小山町	大人	笠間	当館学芸員	30	27
渋沢丘陵地形観察会 大磯丘陵北西部の風景を読み解く	5/1 (水)	秦野市渋沢～大井町高尾	大人	笠間	当館学芸員	30	42
樹木観察基礎講座「ユズリハとアカメガシワ」	5/12 (日)	実習実験室	中学生以上	八田洋章	国立科学博物館	25	12
よろずスタジオ (館と共催)「昆虫の仲間大集合！」	5/19 (日)	講義室東側	子どもから大人まで	渡辺	当館学芸員	無し	69
「箱根火山を俯瞰する」～外輪山・平山断層・中央火口丘・プレート境界～	6/1 (土)	南足柄市内山方面	大人の方	蛸子・山下	友の会・当館学芸員	30	21
出前講座「土の中の虫ウォッチング」	6/2 (日)	茅ヶ崎市堤清水谷	子どもから大人まで	矢野清・倫子	当館友の会	無し	10
「地学の原体験」～しましま地形を親に行こう～	6/8 (土)	神奈川県城ヶ島周辺	子どもとその保護者	笠間	当館学芸員	20 組	中止
第 105 回サロン・ド・小田原「真鶴の海の生物」	6/15 (土)	講義室東側・レストラン	大人	山本真土	遠藤貝類博物館	無し	44
よろずスタジオ (館と共催)「葉脈標本をつくろう！」	6/16 (日)	講義室東側	子どもから大人まで	勝山・佐々木	当館学芸員・友の会	無し	134

(前ページより)

植物観察会「高峰高原の植物」	6/25 (火) 6/26 (水)	長野県高峰高原	大人	勝山	当館学芸員	40	36
地話懇話会「温泉の話」	6/26 (水)	講義室または巡検地	子どもから大人まで	菊川城司	温泉地学研究所	無し	17
土の中の虫ウォッチング ダンゴムシと仲間たち	7/6 (土)	博物館周辺と実習実験室	子どもとその保護者	皆越ようせい	土壤動物学会	25	26
樹木観察基礎講座「リョウブの花の観察」	7/14 (日)	横浜こども植物園	中学生以上	八田洋章	国立科学博物館	25	15
子ども自然科学ひろば「箱根火山の火山灰を調べてみよう」	8/2 (金)	実習実験室	子どもから大人まで	笠間	当館学芸員	無し	289
第106回サロン・ド・小田原「益田一さんとの思い出と魚類図鑑」	8/3 (土)	講義室東側・レストラン	大人	瀬能	当館学芸員	無し	68
子ども自然科学ひろば「いろいろな体験」	8/4 (日)	実習実験室	子どもとその保護者	小田部家邦	プランクトン研究家	無し	68
子ども自然科学ひろば「植物おもしろ発見」	8/14 (水)	実習実験室	子どもとその保護者	勝山・佐々木	当館学芸員・友の会	無し	60
よろずスタジオ(館と共催)「動物の足跡であそぼ!」	9/15 (日)	講義室東側	子どもから大人まで	広谷	当館学芸員	無し	93
河原の石から神奈川の地質と成り立ちを探索①早川編(連続講座)	9/21 (土)	午前実習実験室 午後早川	子どもから大人まで	蛭子・山下	友の会・当館学芸員	30	29
樹木観察基礎講座「マメ亜科とジャケツイバラ亜科」	9/23 (月)	横浜こども植物園	中学生以上	八田洋章	国立科学博物館	25	中止
地話懇話会「三浦半島の東京軽石」	9/25 (水)	講義室西側	子どもから大人まで	笠間	当館学芸員	無し	18
植物観察会「箱根の秋を歩く」	9/27 (金)	箱根町お玉が池方面	大人	勝山	当館学芸員	40	33
第107回サロン・ド・小田原「虫と『向き合う』」	9/28 (土)	講義室東側	大人	川島逸郎	昆虫・生物画家	無し	54
河原の石から神奈川の地質と成り立ちを探索②多摩川編(連続講座)	10/12 (土)	川崎市中野島	子どもから大人まで	蛭子・山下	友の会・当館学芸員	30	25
昆虫の細密画を描こう	10/13 (日) 10/20 (日)	実習実験室	大人の方	川島逸郎	昆虫・生物画家	15	12
植物観察会「里山ウォッチング」	10/19 (土)	秦野市頭高山	大人・子どもとその保護者	勝山	当館学芸員	40	37
よろずスタジオ(館と共催)「菌類ってなんだ?」	10/20 (日)	講義室東側	子どもから大人まで	菌事勉強会	当館友の会	無し	118
河原の石から神奈川の地質と成り立ちを探索③相模川編(連続講座)	11/2 (土)	相模川 雨天時博物館講義室	子どもから大人まで	蛭子・山下	友の会・当館学芸員	30	28
大人のための自然不思議発見講座「地下生菌の不思議」	11/16 (土)	実習実験室	大人の方	折原	当館学芸員	15	11
よろずスタジオ(館と共催)「ドングリであそぼ!」	11/17 (日)	講義室東側	子どもから大人まで	勝山・佐々木	当館学芸員・友の会	無し	74
樹木観察基礎講座「ナワシログミの花の解剖」	11/24 (日)	横浜こども植物園	中学生以上	八田洋章	国立科学博物館	25	14
地話懇話会「中津層群の礫はどこから来たか」	11/27 (水)	講義室東側	子どもから大人まで	河尻清和	相模原市立博物館	無し	15
河原の石から神奈川の地質と成り立ちを探索④酒匂川編(連続講座)	11/30 (土)	酒匂川 雨天時実習実験室	子どもから大人まで	蛭子・山下	友の会・当館学芸員	30	25
第108回サロン・ド・小田原「クマの365日、クマと山」	11/30 (土)	講義室東側	大人	小坂井千夏	日本学術振興会	無し	54
よろずスタジオ(館と共催)「魚を観察しよう」	12/15 (日)	講義室東側	子どもから大人まで	瀬能	当館学芸員	無し	109
樹木観察基礎講座「ロウバイの花の不思議」	1/19 (日)	横浜こども植物園	中学生以上	八田洋章	国立科学博物館	25	15
よろずスタジオ(館と共催)「砂と遊ぼう」	1/19 (日)	講義室東側	子どもから大人まで	笠間	当館学芸員	無し	201
地話懇話会「箱根火山の研究と箱根ジオパーク」	1/22 (水)	講義室東側	子どもから大人まで	青山朋史	箱根町	無し	20
第109回サロン・ド・小田原「アンデスを越えて」	2/1 (土)	講義室東側	大人	平田	当館学芸員	無し	55
地図を楽しもう	2/2 (日)	博物館とその周辺	子どもから大人まで	新井田	当館学芸員	20	7
植物スケッチ教室	2/13 (木)	実習実験室	大人	山田	当館友の会	24	24
よろずスタジオ(館と共催)「アンモナイトのレプリカを作ろう」	2/16 (日)	講義室東側	子どもから大人まで	田口	当館学芸員	無し	98
地話懇話会「箱根火山から伊豆衝突帯北縁にかけての地殻構造」	3/26 (水)	講義室東側	子どもから大人まで	行竹洋平	温泉地学研究所	無し	22

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、友の会との共催による講演・交流会からなる集いの1つ。従来の講演会や茶話会とは異なり、第1部の話題提供（講演）、第2部の交流会を併せて「サロン」と位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように参加者と話題提供者の交流が深まることを期待している。

第105回サロン・ド・小田原「真鶴の海の生物」

〔開催日〕 2013年6月15日（土曜日）

〔話題提供〕 山本真土氏（真鶴町立遠藤貝類博物館学芸員）

〔会場〕 生命の星・地球博物館講義室及びレストラン

〔参加者数〕 第1部講演 44名、第2部交流会 27名

〔交流会〕 真鶴町立遠藤貝類博物館サポーターズ抹茶、真鶴火山実験紹介、真鶴半島写真観察など

〔会場〕 生命の星・地球博物館講義室及びレストラン

〔参加者数〕 第1部講演 54名、第2部交流会 26名

〔交流会〕 川島さんの作品スライドショーなど

第106回サロン・ド・小田原「益田 一さんとの思い出と魚類図鑑」

〔開催日〕 2013年8月3日（土曜日）

〔話題提供〕 瀬能 宏（当館学芸員）

〔会場〕 生命の星・地球博物館講義室及びレストラン

〔参加者数〕 第1部講演 68名、第2部交流会 34名

〔交流会〕 展示室写真パネル紹介、特別展協力者のご紹介など

〔展示解説〕 講演前に特別展の展示解説を実施

第108回サロン・ド・小田原「クマの365日、クマと山」

〔開催日〕 2013年11月30日（土曜日）

〔話題提供〕 小坂井千夏氏（日本学術振興会特別研究員 RPD）

〔会場〕 生命の星・地球博物館講義室及びレストラン

〔参加者数〕 第1部講演 45名、第2部交流会 17名

〔交流会〕 話題提供者を囲んでの質疑応答など

第109回サロン・ド・小田原「アンデスを越えて」

〔開催日〕 2014年2月1日（土曜日）

〔話題提供〕 平田大二（当館学芸員）・折橋裕二氏（東大地震研究所）

〔会場〕 生命の星・地球博物館講義室及びレストラン

〔参加者数〕 第1部講演 55名、第2部交流会 28名

〔交流会〕 話題提供者を囲んでの交流会

〔展示解説〕 講演前に企画展の展示解説を実施



第108回サロン・ド・小田原（交流会）



第109回サロン・ド・小田原（講演）



第109回サロン・ド・小田原（展示解説）

8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会（WESKAMS）

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」と当館のよびかけのもとに1996年7月に発足し、現在の加盟館園は56施設になる。会の愛称をWEST KANAGAWA MUSEUMSを略して「WESKAMS（ウエスカムズ）」と名付け、その事務局を当館においている。

WESKAMSの目的を達成させるための事業について、協議・検討する場として館園長・協力会員会議を年2回開催している。

また、WESKAMSに加盟する、ミュージアム施設が連携し、情報交換・相互理解のために互いの施設を訪問・見学する企画を、学習支援と地域文化発展に寄与するため、1997年10月から「ミュージアム・リレー」として一般に開放している。毎月1回、持ち回りで各施設の協力を得て特色を活かした特別な企画や、学芸員、専門スタッフによる分かりやすい解説が一般参加者に好評を博している。

会議の開催

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
9/13 (金)	館園長・協力会員会議 (第 35 回)	ポーラ美術館	15 館園 25 名 協力会員 3 名
2/28 (金)	館園長・協力会員会議 (第 36 回)	生命の星・地球博物館	19 館園 27 名 協力会員 2 名

ミュージアムリレー

開催日・開催場所	内 容	一般	高校生	関係者
第 187 走 平成 25 年 4 月 19 日 (金) ①町立湯河原美術館 ②MOA美術館	①特別展「淡彩の魅力～湯河原の風景」、常設館を解説により鑑賞。前年度の1月開催から時期が近かったため参加者が少なく課題。 ②所蔵企画展「《湯女図》と初期風俗画展」の見どころについて能楽堂にてセミナー。その後質疑応答を交えながら自由に展示室を鑑賞。	6 名		2 名
		15 名		3 名
第 188 走 平成 25 年 5 月 17 日 (金) ①箱根美術館 ②箱根写真美術館 ③箱根強羅公園	①富士見亭にて講義等を受けた後、3 グループに分かれ、通常非公開の石楽園をはじめ各施設や展示品を解説により見学。 ②常設展を拡大し、企画展示室でも富士山作品が展示され、館長の解説により鑑賞。 ③熱帯植物館、ブーゲンビレア館、白雲洞茶苑や強羅公園の中心となっている噴水庭園を解説で見学。	28 名	35 名 時間差	11 名
		28 名	35 名 時間差	11 名
		28 名	35 名 時間差	11 名
第 189 走 平成 25 年 6 月 7 日 (金) ①箱根・芦ノ湖成川美術館 ②箱根駅伝ミュージアム ③箱根町立箱根関所	①館の成り立ちや、コレクションの内容や日本画について解説後、作家との交流や作品が描かれた背景などの裏話も交えながらの解説により鑑賞。 ②第 1 回大会から今年の第 88 回大会までの写真、駅伝の歴史、時代の変遷やエピソードなど解説。 ③解説により一般公開部分と非公開の施設など見学。開催時期を例年と変えたためか参加者多数。	40 名		14 名
		16 名	43 名 時間差	11 名
		17 名	43 名 時間差	11 名
第 190 走 平成 25 年 7 月 10 日 (水) ①箱根ガラスの森美術館 ②箱根ビジターセンター	①館長挨拶の後一般参加者 3 班と関係者に分けて解説により鑑賞。関係者班は情報交換の場となった。 ②解説により、特別展「知っていますか? 外来生物～箱根の自然は今～」で生体展示を含めた外来生物に関する展示を観覧、野外の観察路を散策。	66 名		10 名
		25 名		8 名
第 191 走 平成 25 年 8 月 23 日 (金) ①箱根町立箱根湿生花園 ②神奈川県立生命の星・地球博物館	①会議室で講話後、2 グループに分けて解説により見学。実施時期を変更したため多くの参加者があった。 ②魚類の特別展を解説により見学。	22 名		5 名
		24 名		3 名
第 192 走 平成 25 年 9 月 13 日 (金) ①彫刻の森美術館 ②ポーラ美術館	①「Happy Animal Party 洪易－Hung Yi－展」を解説により観覧。作品工程や、題材となっている動物や開運シンボルについて資料で紹介。 ②国立西洋美術館との共同企画「モネ、風景をみる眼 10 世紀フランス風景画の革新」について、講堂にて映像を使って解説。その後自由見学。	22 名		8 名
		60 名		20 名
第 193 走 平成 25 年 10 月 17 日 (木) ①真鶴アートミュージアム ②真鶴町立中川一政美術館 ③真鶴町立遠藤貝類博物館	①特別企画展示「こけしと伊万里 近代絵画と共に」を解説により見学。その後、自由に館内を見学。 中川一政の生涯や展示内容について説明。その後、主に館内のテーマ展示「幻の中期作品」について解説を聞きながら、各展示室を見学。 概要説明後、解説により常設展示および企画展「Exhibition of Shell Art～貝細工の世界～」見学。	28 名		5 名
		31 名		4 名
		25 名		8 名
第 194 走 平成 25 年 11 月 15 日 (金) ①箱根町立郷土資料館 ②小田原城 ③小田原文学館	①『バス、天下の険をいく～箱根の自動車 100 年～』を解説により見学。当時の貴重な資料を展示し、箱根の道路開発とバス運行の歴史を紹介。 ②小田原城天守閣特別展を解説により見学。御用米曲輪の遺跡発掘について解説後、城の衰退と復旧、近年の整備の様子などの展示写真を解説。 ③『辻村伊助 アルプスに挑んだ小田原の登山家』を解説により見学、その後常設展示を自由に 2 グループごとに交替で見学。雨のために展示室内のみでの見学となった。	11 名		6 名
		25 名		5 名
		21 名		6 名

(次ページへ続く)

(前ページより)

第195走 平成25年12月17日(火) ①箱根ラリック美術館 ②星の王子さまミュージアム 箱根サン＝テグジュペリ	①概要説明の後、2グループに分かれ解説により展示室を見学。作品の変遷や作品の思想などを交えながら解説。その後自由見学。	30名		10名
	②一般参加者2グループと、関係者1グループで解説により見学。館園関係者は情報交換会終了後、17時よりプロジェクションマッピング鑑賞。	17名		11名
第196走 平成26年1月24日(金) ①松永記念館 ②人間国宝美術館	①庭園で概要説明のあと、記念館本館を解説により見学。松永自筆の書やゆかりの品々などからその事績を紹介。その後「老櫟荘」と別館を見学。	14名		8名
	②特別展『珠玉の人形たちー4人の巨匠ー平田郷陽・堀柳女・鹿児島壽蔵・野口園生』を解説により見学。人間国宝が作ったお茶碗でお抹茶をいただいた。	11名		7名
第197走 平成26年2月28日(金) ①小田原フラワーガーデン ②鈴廣のかまぼこ博物館	①寒い日が続いたため梅園の多くの種類の花を一時に見ることが出来、温室では県内最大級、藤棚仕立てのヒスイカズラが参加者に好評だった。	17名		6名
	②かまぼこちくわの手作り体験を行い、その後かまぼこの歴史や板絵ギャラリーを解説で見学。	6名		7名
第198走 平成26年3月26日(水) ①すどう美術館 ②小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	①自由観覧の後、講話で現代美術の見方等を紹介。企画のセレクション展の絵を解説。	11名		4名
	②館の概要説明後、尊徳についてのビデオ鑑賞と館内見学。周辺の捨苗栽培地跡、善栄寺、生家等見学。	7名		4名
参加合計		651名	191名	219名

8.4. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

ミュージアムショップ(1階)

生涯学習施設としての博物館におけるミュージアムショップなので、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、中国遼寧省やアメリカ・ユタ州の化石、アメジスト、水晶、メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。また、特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトにあわせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思って頂けるような空間づくりを実施している。

レストラン「フォーレ」(3階)

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」を癒し、

者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドイッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、老若男女に対応できる品揃えとなっている。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多く混雑するが、夏季期間中にテラスの部分を利用した野外席を用意し、混雑の緩和を図っている。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色をだすため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ「あーす」(1階)

「ともしびショップ」は、障害者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障害者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では4店目にあたる。

ショップ「あーす」は来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。



ミュージアムショップ



レストラン「フォーレ」



ともしびショップ「あーす」

III 資料

1. 条例・規則

1.1. 神奈川県立の博物館条例

神奈川県立の博物館条例

昭和 41 年 10 月 7 日
条例 43 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名称	位置	目的
神奈川県立歴史博物館	横浜市 中区 南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市 入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 前 2 項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

- (1) 教育委員会が開催する行事に参加する者
- (2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。)第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表

において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りではない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第 8 条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。
- (3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表(第 4 条関係)

	区分	個人	20 人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20 歳以上 65 歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1 人につき 300 円	1 人につき 250 円
	20 歳未満の者(高校生を除く。)	同 200 円	同 150 円
	65 歳以上の者 高校生	同 100 円	同 100 円
神奈川県立生命の星・地球博物館	20 歳以上 65 歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1 人につき 520 円	1 人につき 410 円
	20 歳未満の者(高校生を除く。)	同 300 円	同 200 円
	65 歳以上の者 高校生	同 100 円	同 100 円

備考 1 学生とは、法第 1 条に規定する大学及び高等専門学校、法第 124 条に規定する専修学校並びに法第 134 条第 1 項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第 1 条に規定する小学校、中学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

1.2. 神奈川県立の博物館組織規則

神奈川県立の博物館組織規則

昭和 41 年 11 月 18 日
教育委員会規則第 10 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第 2 条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第 3 条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関すること。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- (4) 人事に関すること。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- (6) 予算の経理に関すること。
- (7) 観覧料の徴収に関すること。
- (8) 物品の調達及び処分に関すること。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
- (10) その他他部課の主管に属しないこと。

(企画普及課の事務)

第 5 条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第 6 条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第 7 条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第 8 条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和 41 年 11 月 18 日
教育委員会規則第 9 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第 2 条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和 41 年神奈川県条例第 43 号。以下「条例」という。)第 4 条第 2 項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第 5 条の規定により観覧料を減免すること。
- (3) 条例第 6 条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。

- (4) 条例第 7 条の規定により利用を承認すること。
- (5) 条例第 8 条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第 3 条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規程する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名称	開館時間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第5条 教育長は、博物館に展示している博物館資料を観覧するため、条例第4条の規定により観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文

部科学大臣の指定した博物館に相当する施設

- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館

- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館

- (4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校

- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であっても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行うことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

2. 館年表

2.1. 再編整備決定から開館まで

1986 年		4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定	10 月	第一期造成工事着手 建築実施設計着手 展示実施設計着手
1988 年		1992 年	
7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応大学名誉教授））から提言	6 月	第二期造成工事着手
1989 年		8 月	博物館情報システム開発プロポーザル実施 博物館情報システム開発調査設計着手
3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定 神奈川県立自然系博物館（仮称）展示計画策定	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置	1993 年	
11 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集委員会（委員長：上田誠也（東京大学名誉教授））発足	4 月	博物館情報システム開発着手
12 月	展示設計プロポーザル実施 展示基本設計着手	6 月	第三期造成工事着手
1990 年		1994 年	
2 月	建築設計プロポーザル実施 建築調査設計着手	6 月	第四期造成工事着手
3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる 神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集計画策定 博物館情報システム整備計画策定	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工 神奈川県立博物館条例一部改正
9 月	博物館情報システム実施計画策定	1995 年	
10 月	建築基本設計着手	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
1991 年		3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得	3 月 20 日	開館記念式典実施
		3 月 21 日	一般公開開始

2.2. 開館から 2013 年度末まで

1995 年		1996 年	
3 月 21 日	一般公開開始	2 月 28 日	1995 年度第 2 回神奈川県博物館協議会（当館）
4 月 29 日	開館記念講演会「地球を歩いてみませんか」濱田隆士・中 雄一	3 月 1 日	特別展「中津層出土のサル化石」（5 月 12 日まで）
5 月 7 日	入館者 10 万人到達（開館 41 日目）	3 月 20 日	開館 1 周年記念講演会「自然史（誌）系博物館の位置づけ」沼田 眞・中川志郎・濱田隆士
6 月 22 日	紺綬褒章の伝達式（櫻井都美子・小泉明裕）	4 月	シンボルマーク製作
9 月 6 日	ジブチ共和国大統領ご視察	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（開館 321 日目）
9 月 24 日	入館者 30 万人到達（開館 158 日目）	6 月 1 日	学習指導員による団体サービス（ガイダンス）充実
10 月 7 日	特別展「チョウとガの世界」（11 月 26 日まで）	6 月 8 日	「新収集資料展」（6 月 23 日まで）
11 月 4 日	日本鱗翅学会創立 50 周年記念大会（11 月 5 日まで）	7 月 20 日	特別展「追われる生きものたち」（9 月 23 日まで）
11 月 10 日	1995 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）	9 月	ガイダンスビデオ製作
		10 月 24 日	1996 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
		12 月 20 日	「ゆく年くる年展」（1 月 31 日まで）

1997 年

- 3 月 1 日 エントランスガイダンス開始
- 3 月 1 日 特別展「櫻井コレクションの魅力」(5 月 11 日まで)
- 3 月 12 日 1996 年度第 2 回神奈川県博物館協議会 3 月 20 日 開館 2 周年記念講演会「3 年目を迎える博物館の新しい活動・博物館をこんなふうを利用してみませんか」浜口哲一・濱田隆士
- バリアフリー音声ガイドサービス開始
- 3 月 21 日 日本植物分類学会第 27 回大会(3 月 23 日まで)
- 7 月 20 日 特別展「地球再発見」(11 月 3 日まで)
- 7 月 23 日 入館者 100 万人到達(開館 705 日目)
- 11 月 12 日 1997 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
- 11 月 15 日 日本鞘翅学会第 10 回記念大会(11 月 16 日まで)
- 12 月 20 日 「ゆく年くる年展」(1 月 31 日まで)

1998 年

- 1 月 30 日 日本古生物学会 1998 年年会(2 月 1 日まで)
- 2 月 1 日 特別展「フランチ・ヒルゲンドルフ展」(3 月 31 日まで)
- 3 月 12 日 1997 年度第 2 回神奈川県博物館協議会
- 3 月 21 日 開館 3 周年記念事業「生命の星・地球フェスタ '98」(3 月 29 日まで)
- 3 月 30 日 天皇陛下・皇后陛下下行幸啓
- 4 月 4 日 日本動物分類学会第 34 回大会(4 月 5 日まで)
- 4 月 25 日 企画展「植物画で観る山の花」(5 月 24 日まで)
- 7 月 18 日 特別展「オオカミとその仲間たち」(9 月 27 日まで)
- 8 月 26 日 日本第四紀学会 1998 年大会(8 月 28 日まで)
- 9 月 12 日 中国遼寧省友好代表団来館
- 10 月 24 日 企画展「ふれる彫刻展 Part 2」(11 月 23 日まで)
- 10 月 29 日 1998 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
- 11 月 3 日 入館者 150 万人到達(開館 1,090 日目)
- 12 月 12 日 「新収集資料展」(1 月 10 日まで)

1999 年

- 1 月 30 日 特別展「カニの姿」(3 月 31 日まで)
- 3 月 19 日 1998 年度第 2 回神奈川県博物館協議会
- 3 月 20 日 「トーキングサイン・ガイドシステム」発表会
- 4 月 24 日 企画展「北アルプスの四季」(5 月 30 日まで)
- 7 月 17 日 特別展「海から生まれた神奈川」開催(9 月 5 日まで)
- 8 月 4 日 中国科学院南京地質古生物学研究所所長ほか視察
- 10 月 1 日 特別展「のぞいてみよう!5 億年前の海」(11 月 28 日まで)
- 11 月 6 日 日本蜻蛉学会大会(11 月 7 日まで)
- 11 月 12 日 天皇陛下ご在位 10 周年慶祝事業 無料公開
- 11 月 14 日 みなかんネットワーク大会
- 11 月 25 日 1999 年度第 1 回神奈川県博物館協議会
- 11 月 27 日 常設展示化石標本 3 点の盗難を確認
- 12 月 9 日 常設展示化石標本 10 点の盗難を確認
- 12 月 11 日 企画展「カラー魚拓の世界」(1 月 16 日まで)

2000 年

- 3 月 18 日 開館 5 周年記念 活動報告展「開かれた博物館をめざして」(5 月 14 日まで)
- 3 月 20 日 開館 5 周年記念講演会「博物館は宝の山!」
- 3 月 23 日 Xu Daosheng (湖北省博物館)・Jang, Sang-Hoon (韓国国立中央博物館) ほか視察
- 3 月 31 日 濱田隆士館長退任

- 4 月 1 日 青木淳一館長就任
- 5 月 13 日 日本土壌動物学会第 23 回大会(5 月 14 日まで)
- 7 月 15 日 特別展「サルがいて、ヒトがいて」(9 月 3 日まで)
- 8 月 6 日 入館者 200 万人到達(開館 1,613 日目)
- 9 月 23 日 企画展「切手で語る魚類の世界」(11 月 5 日まで)
- 10 月 6 日 2000 年度日本魚類学会年会(10 月 9 日まで)
- 10 月 15 日 200 万人達成記念展示「写真コンテスト応募作品」
- 11 月 30 日 2000 年度第 1 回神奈川県博物館協議会

2001 年

- 2 月 10 日 特別展「ふしぎ大陸 南極展」(4 月 8 日まで)
- 3 月 20 日 開館 6 周年記念講演会「自然史(誌)を楽しむ～いま箱根の自然は～」
- 3 月 27 日 2000 年度第 2 回神奈川県博物館協議会
- 3 月 27 日 神奈川県博物館協議会協議会を廃止
- 4 月 15 日 青木淳一館長が南方熊楠賞を受賞
- 7 月 20 日 特別展「神奈川の植物・その 10 余年の変化」(9 月 16 日まで)
- 10 月 19 日 中国遼寧省職員視察
- 10 月 20 日 特別展「地球を見る～宇宙からみた神奈川」(12 月 16 日まで)
- 11 月 9 日 ミュージアム・リレー第 50 走達成記念講演会
- 11 月 22 日 ミュージアム・リレー第 50 走達成記念シンポジウム
- 11 月 23 日 日本蜻蛉学会(11 月 25 日まで)

2002 年

- 1 月 4 日 企画展「地球の息吹・富士彩彩」(1 月 27 日まで)
- 2 月 16 日 企画展「みんなの手づくり恐竜展」(3 月 17 日まで)
- 2 月 21 日 博物館課題研究会「博物館のめざすべき方向」
- 3 月 19 日 箱根フリーパス対象施設に参加
- 3 月 21 日 開館 7 周年記念シンポジウム「蝕まれるかながわの生物」
- 4 月 27 日 「新収集資料展」(6 月 2 日まで)
- 7 月 19 日 入館者 250 万人到達(開館 2,206 日目)
- 250 万人達成感謝ウィーク
- 7 月 20 日 特別展「人と大地と」(9 月 29 日まで)
- 7 月 21 日 「自然を楽しむみち」案内板贈呈式
- 12 月 7 日 特別展「ザ・シャーク」(3 月 2 日まで)

2003 年

- 1 月 30 日 博物館課題研究会「博物館の独立行政法人化の動きと現状について」
- 3 月 11 日 全国科学博物館協議会総会(3 月 12 日まで)
- 3 月 21 日 ミューズ・フェスタ 2003(3 月 22 日まで)
- 3 月 28 日 青木淳一館長が小田原城下町大使に就任
- 4 月 26 日 企画展「活動報告展・学芸員のお仕事」(6 月 8 日まで)
- 7 月 19 日 特別展「侵略とかく乱のはてに」(9 月 15 日まで)
- 7 月 20 日 夏休み期間中、17 時 30 分まで開館時間延長(8 月 31 日まで)
- 8 月 2 日 日本蘚苔類学会(8 月 3 日まで)
- 8 月 12 日 教育委員視察
- 10 月 25 日 松沢成文知事来館
- 11 月 1 日 特別展「丹沢の自然」(1 月 25 日まで)

2004 年

- 3 月 9 日 博物館課題研究会「博物館評価の現状とその事例について」

3月20日 ミューズ・フェスタ 2004 (3月21日まで)
4月24日 企画展「きのこアート展」(6月6日まで)
5月25日 入館者 300 万人到達 (開館 3,770 日目)
7月17日 特別展 東洋のガラパゴス 小笠原(10月31日まで)
7月21日 夏休み期間中、17 時 30 分まで開館時間延長 (8 月 31 日まで)
11月20日 日本鞘翅学会第 17 回大会 (11 月 21 日まで)
12月18日 企画展「+2℃の世界」(2 月 27 日まで)

2005 年

3月 8日 博物館課題研究会「指定管理者制度とその導入の動向について」
3月20日 ミューズ・フェスタ 2005 (3月21日まで)
4月 1日 「博物館 10 年の歩み」(4月10日まで)
4月29日 「収蔵資料展」(5月29日まで)
7月16日 特別展「化石どうぶつ園」(11 月 6 日まで)
7月18日 夏休み中無休開館期間 (8 月 29 日まで)
12月10日 企画展「丹沢～むかし・今・あした～」(2月12日まで)

2006 年

1月14日 ミュージアム・リレー第 100 走達成記念行事 (1 月 15 日まで)
3月23日 博物館課題研究会「指定管理者の指定を受けて」
3月18日 ミューズ・フェスタ 2006 (3月19日まで)
3月18日 「マイミュージアム・みんなの活動報告・マイミュージアム写真展」(4月10日まで)
3月31日 青木淳一館長退任
4月 1日 管理部と経理課が廃止され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる。
齋藤靖二館長就任
4月29日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月28日まで)
7月 8日 入館者 350 万人到達 (開館 3,409 日目)
7月15日 特別展「ふしぎな生きもの 菌類 ～動物?植物?それとも?～」(11 月 5 日まで)
7月17日 夏休み中無休開館期間 (8 月 28 日まで)
11月12日 自然史学会連合講演会「教科書で学べない自然史」
12月 9日 企画展「パノラマにつぼん」(2 月 25 日まで)

2007 年

2月28日 全国科学博物館協議会理事会総会
3月17日 ミューズ・フェスタ 2007 (3月18日まで)
3月17日 活動報告展「みんなの活動報告展」(5月6日まで)
3月30日 博物館課題研究会
7月21日 特別展「ナウマンゾウがいた!～温暖期の神奈川～」(11 月 4 日まで)
7月21日 夏休み中無休開館期間 (8 月 31 日まで)
12月 8日 企画展「日本最後の秘境南硫黄島」(2 月 24 日まで)

2008 年

3月11日 博物館課題研究会
3月15日 ミューズ・フェスタ 2008 (3月16日まで)
3月22日 子ども自然科学作品展 (4 月 6 日まで)
4月19日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月18日まで)
7月19日 特別展「箱根火山いま証される噴火の歴史」(11 月 9 日まで)
7月19日 夏休み中無休開館期間 (8 月 31 日まで)

8月12日 入館者 400 万人到達 (開館 4,062 日目)
12月 6日 企画展「46 億年 地球のしごと～地質写真家が見た世界の地形～」(2 月 22 日まで)

2009 年

3月10日 博物館課題研究会「展示照明の現状と課題」
3月14日 ミューズ・フェスタ 2009 (3月15日まで)
3月20日 子ども自然科学作品展 (4 月 5 日まで)
4月18日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月31日まで)
7月18日 特別展「木の洞をのぞいてみたら～樹洞の生きものたち～」(11 月 8 日まで)
7月20日 夏休み中無休開館期間 (8 月 31 日まで)
12月 5日 企画展「押葉 古瀬 義植物標本コレクション」(2 月 21 日まで)

2010 年

3月13日 ミューズ・フェスタ 2010 (3月14日まで)
3月20日 子ども自然科学作品展 (4 月 4 日まで)
4月17日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月30日まで)
7月18日 特別展「日本列島 20 億年の生い立ちを探る」(11 月 7 日まで)
7月20日 夏休み中無休開館期間 (8 月 31 日まで)
10月21日 入館者 450 万人到達 (開館 4,863 日目)
12月11日 企画展「日本最初の植物同好会 横浜植物会の 100 年」(2 月 27 日まで)

2011 年

3月13日 ミューズ・フェスタ 2011 (東日本大震災により中止)
3月19日 子ども自然科学作品展 (4 月 3 日まで)
4月16日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月29日まで)
7月16日 特別展「およげ! ゲンゴロウくん～水辺に生きる虫たち～」(11 月 6 日まで)
7月18日 夏休み中無休開館期間 (8 月 31 日まで)
12月10日 企画展「箱根ジオパークをめざして箱根・小田原・真鶴・湯河原の再発見!」(2 月 26 日まで)

2012 年

3月17日 ミューズ・フェスタ 2012 (3月18日まで)
3月24日 子ども自然科学作品展 (4 月 8 日まで)
4月21日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月27日まで)
7月14日 特別展「大空の覇者一大トンボ展」(11月4日まで)
7月21日 夏休み中無休開館期間 (8 月 31 日まで)
8月 3日 入館者 500 万人到達 (開館 5,183 日目)
12月15日 企画展「博物館の標本工房」(2 月 24 日まで)

2013 年

3月16日 ミューズ・フェスタ 2013 (3月17日まで)
3月23日 子ども自然科学作品展 (4 月 7 日まで)
4月20日 活動報告展「学芸員の活動報告展」(5月26日まで)
7月20日 特別展「益田一と日本の魚類学」(11 月 4 日まで)
10月 8日 天皇陛下行幸 (特別展天覧)
12月14日 企画展「アンデスを越えて」(2 月 23 日まで)

2014 年

1月13日 入館者 550 万人到達 (開館 5,716 日目)
3月15日 ミューズ・フェスタ 2014 (3月16日まで)
3月31日 齋藤館長退任

3. 統計資料

3.1. 利用者状況

3.1.1. 常設展示室の入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開館日数		25	26	21	27	31	24	26	25	23	23	23	25
有料入場者数	成年個人	4,599	3,762	3,162	4,842	11,247	4,178	3,633	2,957	2,398	2,795	1,983	4,875
	未成年・学生個人	115	181	124	92	482	404	213	117	133	103	238	368
	高校生	161	83	49	135	641	74	56	42	81	66	79	466
	65歳以上	1,703	1,452	1,389	1,590	3,329	1,197	2,151	1,678	985	1,041	994	1,894
	成年団体	118	1,104	561	523	192	85	368	268	139	490	334	628
	未成年・学生団体	0	103	3	5	30	33	0	3	53	6	30	18
	成年割引	2,285	2,213	1,778	2,760	6,456	2,720	2,059	1,989	1,705	1,629	1,691	2,827
	未成年・学生割引	37	58	43	51	274	245	45	64	88	59	185	407
小計		9,018	8,956	7,109	9,998	22,651	8,936	8,525	7,118	5,582	6,189	5,534	11,483
無料入場者数	園児	170	606	335	1,787	1,410	1,162	982	935	1,126	1,554	1,632	4,275
	小学生	7,225	7,518	5,459	8,359	13,965	6,380	13,362	6,721	3,391	2,383	1,914	3,474
	中学生	1,028	1,820	921	498	1,031	283	556	155	337	176	148	630
	障害者	647	542	474	574	1,216	669	487	679	297	291	301	760
	その他	2,127	1,017	1,358	2,016	1,806	1,454	2,882	2,152	1,029	516	702	1,437
	小計	11,197	11,503	8,547	13,234	19,428	9,948	18,269	10,642	6,180	4,920	4,697	10,576
合計		20,215	20,459	15,656	23,232	42,079	18,884	26,794	17,760	11,762	11,109	10,231	22,059
1日平均(人)		808.6	786.9	745.5	860.4	1,357.4	786.8	1,030.5	710.4	511.4	483.0	444.8	882.4
前年比(%)		109.6	87.1	102.3	102.1	113.0	94.3	103.6	86.7	121.8	89.6	67.6	101.4

(下表へ続く)

(上表の続き)		2013 年度				一般公開開始からの累計 *		
月		計	1 日平均	構成比 (%)	前年比 (%)	入場者	1 日平均(%)	構成比 (%)
開館日数		299						
有料入館者数	成年個人	50,431	168.7	21.0	77.3	1,691,914	292.8	32.0
	未成年・学生個人	2,570	8.6	1.1	80.6	62,563	10.8	1.2
	高校生	1,933	6.5	0.8	95.2	8,417	1.5	0.2
	65 歳以上	19,403	64.9	8.1	95.2	93,634	16.2	1.8
	成年団体	4,810	16.1	2.0	156.3	163,990	28.4	3.1
	未成年・学生団体	284	0.9	0.1	230.9	6,531	1.1	0.1
	成年割引	30,112	100.7	12.5	184.6	87,703	15.2	1.6
	未成年・学生割引	1,556	5.2	0.6	139.6	6,890	1.2	0.1
	小計	111,099	371.6	46.2	99.6	2,121,642	367.2	40.1
無料入館者数	園児	15,974	53.4	6.7	73.7	426,394	73.8	8.1
	小学生	80,151	268.1	33.4	109.5	1,404,259	243.0	26.6
	中学生	7,583	25.4	3.2	69.2	243,594	42.2	4.6
	障害者	6,937	23.2	2.9	90.5	148,355	25.7	2.8
	その他	18,496	61.9	7.6	105.5	943,227	163.2	17.8
	小計	129,141	431.9	53.8	98.6	3,165,829	547.9	59.9
合計		240,240	803.5	100.0	99.1	5,287,471	915.1	100.0
1 日平均 (人)		803.5	(*) 1995 年 3 月 21 日から 5,479 日開館。					
前年比 (%)		100.5						

*1995 年 3 月 21 日から 5,778 日開館。

2013 年度記録

最高入館者数： 3,935 人 3 月 30 日(日)

最低入館者数： 189 人 12 月 20 日(金)

3.1.2. 特別展示室入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
有 料	成年				1,370	6,212	2,443	1,995	672					12,692
	未成年・学生				26	334	450	115	27					952
	高校生				23	270	28	23	5					349
	65歳以上				346	1,504	432	622	114					3,018
	小計				1,765	8,320	3,353	2,755	818					17,011
無料		5,075	7,101	0	3,223	9,476	4,888	8,083	1,453	4,044	6,448	4,429	2,538	56,758
合計		5,075	7,101		4,988	17,796	8,241	10,838	2,271	4,044	6,448	4,429	2,538	73,769

3.1.3. 講座・観覧会・研修等参加者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座・講演会	1,640	1,763	1,599	1,913	4,061	1,931	1,597	1,771	2,005	1,704	1,386	1,694	23,064
サロン・ド・小田原	21		44		68	54		45					232
研修・実習・学校	17	65	69	297	117	54	143	48	393	105	71	90	1,469
合計	1,678	1,828	1,712	2,210	4,246	2,039	1,740	1,864	2,398	1,809	1,457	1,784	24,765

- ・「講座・講演会」には、博物館主催または共催の講座や講演会、友の会主催または共催の講座や講演会などの参加者。
- ・「研修・実習・学校」には、職場体験研修、新採用研修、博物館実習や、学校の課外活動などの人数。
- ・利用人数は、実際に利用した人数（延べ人数）によって算出している（3日間の講座で各日40人参加した場合、120人と算出）。

3.2. 年度別利用者数の推移

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
開館日数	10	297	301	301	299	298	301	307	307	303	299	305	309	311
利用者数														
入館者数														
常設展入場者数	24,374	453,210	393,932	377,187	349,425	295,118	270,166	254,478	267,625	268,851	242,368	234,012	241,549	232,650
特別展示室入場者数		42,951	109,851	98,825	96,573	77,239	77,058	67,397	105,344	108,259	107,992	117,014	108,588	113,682
ライブラリー利用者数						129,726	117,747	100,307	103,086	104,128	89,973	94,166	97,399	97,072
講座・観覧会・研修等参加者		2,381	2,402	1,683	1,708	1,943	6,634	2,962	2,136	3,280	5,561	9,291	7,863	8,328
学芸員レファレンス件数														

（下表へ続く）

（上表の続き）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013
開館日数	308	306	304	308	305	299
利用者数		306,563	299,089	344,294	355,803	352,066
入館者数	311,740	293,778	289,560	323,873	334,695	329,340
常設展入場者数	232,046	217,690	208,682	241,344	242,524	240,240
特別展示室入場者数	98,305	113,284	82,631	113,601	112,793	73,769
ライブラリー利用者数	92,465	87,370	82,840	90,131	95,337	97,463
講座・観覧会・研修等参加者	8,572	10,344	6,817	16,827	18,294	20,121
学芸員レファレンス件数		2,441	2,712	3,594	2,814	3,158

3.3. 特別展・企画展開催実績

年度	種別	タイトル	開期	日数	入館者		
					有料	無料	計
1995	特別展	チョウとガの世界	1995 年 10 月 7 日～11 月 26 日	41	3,247	13,655	16,902
1996	特別展	日本最古の霊長類・中津層出土のサル化石	1996 年 3 月 1 日～5 月 12 日	63	—	94,566	94,566
	企画展	新収資料展	1996 年 6 月 8 日～6 月 23 日	13	—	10,501	10,501
	特別展	追われる生きものたち	1996 年 7 月 20 日～9 月 23 日	58	19,011	33,475	52,486
	企画展	文化財保護ポスター展	1996 年 12 月 5 日～12 月 15 日	10	—	1,471	1,471
	企画展	ゆく年くる年展	1996 年 12 月 20 日～1997 年 1 月 31 日	30	—	10,194	10,194
	特別展	櫻井コレクションの魅力 —偉大なアマチュア自然科学者の軌跡—	1997 年 3 月 1 日～5 月 11 日	61	—	40,848	40,848
1997	企画展	ふれる彫刻 100 展	1997 年 5 月 23 日～6 月 22 日	25	—	—	—
	特別展	地球再発見—新しい地球像をもとめて—	1997 年 7 月 20 日～11 月 3 日	92	18,033	46,886	64,919
	企画展	文化財保護ポスター展	1997 年 12 月 6 日～12 月 14 日	8	—	—	—
	企画展	新収集資料展	1997 年 11 月 15 日～11 月 24 日	9	—	6,374	6,374
	企画展	ゆく年くる年展	1997 年 12 月 20 日～1998 年 1 月 11 日	12	—	2,997	2,997
	特別展	日本の魚学・水産学事始め —フランチ・ヒルゲンドルフ展—	1998 年 2 月 1 日～3 月 31 日	48	1,557	7,398	8,955
	企画展	植物画で観る山の花—小林政紘作品集より—	1998 年 4 月 25 日～5 月 24 日	26	—	13,375	13,375
1998	特別展	オオカミとその仲間たち—イヌ科動物の世界—	1998 年 7 月 18 日～9 月 27 日	61	17,714	30,588	48,302
	企画展	ふれる彫刻 Part 2 —地球の心を彫る！	1998 年 10 月 24 日～11 月 23 日	26	—	14,316	14,316
	企画展	新収集資料展	1998 年 12 月 12 日～1999 年 1 月 10 日	12	—	4,168	4,168
	特別展	カニの姿—酒井コレクションから—	1999 年 1 月 30 日～3 月 31 日	51	3,746	14,228	17,974
1999	企画展	北アルプスの四季—岳をめぐるて	1999 年 4 月 24 日～5 月 30 日	32	—	15,119	15,119
	特別展	海から生まれた神奈川 —伊豆・小笠原弧の形成と活断層—	1999 年 7 月 17 日～9 月 5 日	43	8,585	16,807	25,392
	特別展	のぞいてみよう！5 億年前の海 —三葉虫が見た世界—	1999 年 10 月 1 日～11 月 28 日	49	4,690	21,470	26,160
	企画展	カラー魚拓の世界	1999 年 12 月 11 日～2000 年 1 月 16 日	24	—	6,082	6,082
	企画展	平成 11 年度活動報告展 開かれた博物館をめざして —生命の星・地球博物館の 5 年間の歩み—	2000 年 3 月 18 日～5 月 14 日	52	—	17,647	17,647
	特別展	サルがいて、ヒトがいて —野生動物との共存を考える—	2000 年 7 月 15 日～9 月 3 日	43	9,949	24,359	34,308
2000	企画展	切手で語る魚類の世界	2000 年 9 月 23 日～11 月 5 日	42	—	11,797	11,797
	企画展	田中茂穂博士と魚学研究ゆかりの品々	2000 年 10 月 7 日～10 月 8 日	2	—	600	600
	特別展	ふしぎ大陸 南極展	2001 年 2 月 10 日～4 月 8 日	49	2,141	11,643	13,784
	特別展	神奈川の植物 その 10 余年の変化	2001 年 7 月 20 日～9 月 16 日	51	6,197	10,886	17,083
2001	特別展	地球を見る～宇宙から見た神奈川～	2001 年 10 月 20 日～12 月 16 日	50	6,511	13,628	20,139
	企画展	地球の息吹 富士彩々	2002 年 1 月 4 日～1 月 27 日	22	—	7,708	7,708
	企画展	みんなの手づくり恐竜展	2002 年 2 月 16 日～3 月 17 日	25	—	14,003	14,003
	企画展	神奈川の自然を蝕む移入生物たち	2002 年 3 月 21 日～4 月 21 日	26	—	13,029	13,029
2002	企画展	新収資料展	2002 年 4 月 27 日～6 月 2 日	34	—	3,363	3,363
	特別展	人と大地と— Wonderful Earth —	2002 年 7 月 20 日～9 月 29 日	64	12,891	23,674	36,565
	特別展	ザ・シャーク ～鯨の進化と適応・ケースコレクションより～	2002 年 12 月 7 日～2003 年 3 月 2 日	68	11,840	19,211	31,051
	企画展	日本の自然にヘラクレスはいらない —移入昆虫がもたらす諸問題を考える—	2003 年 3 月 21 日～4 月 6 日	17	—	9,442	9,442
2003	企画展	友の会活動報告および活動紹介展					
	企画展	活動報告展—学芸員のお仕事	2003 年 4 月 26 日～6 月 8 日	38	—	18,711	18,711
	特別展	侵略とかく乱のはてに—未来へつなげる自然とは—	2003 年 7 月 19 日～9 月 15 日	51	14,109	25,477	39,586
	特別展	丹沢の自然	2003 年 11 月 1 日～2004 年 1 月 25 日	69	6,186	11,376	17,562
	企画展	きらわれものだよ、全員集合！ —きらわれものたちの意外な素顔—	2004 年 3 月 20 日～4 月 4 日	14	—	8,263	8,263
	企画展	博物館友の会活動報告および活動紹介展					
2004	企画展	活動報告展—学芸員の腕自慢	2004 年 4 月 24 日～6 月 6 日	33	—	28,714	28,714
	企画展	きのこアート展					
	特別展	東洋のガラパゴス 小笠原 —固有生物の魅力とその危機—	2004 年 7 月 17 日～10 月 31 日	93	17,602	31,862	49,464
	企画展	+2℃の世界～縄文時代に見る地球温暖化～	2004 年 12 月 18 日～2005 年 2 月 27 日	56	—	23,669	23,669
	企画展	博物館 10 年の歩み・友の会活動紹介	2005 年 3 月 20 日～4 月 10 日	20	—	5,180	5,180
	企画展	収蔵資料展	2005 年 4 月 29 日～5 月 29 日	26	—	15,925	15,925
2005 (続く)	特別展	化石どうぶつ園—北アメリカ漸新世の哺乳類—	2005 年 7 月 16 日～11 月 6 日	105	22,243	54,988	77,231

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

年度	種別	タイトル	開期	日数	入館者		
					有料	無料	計
2005	企画展	丹沢～むかし・今・あした～	2005 年 12 月 10 日～2006 年 2 月 12 日	51	—	14,785	14,785
(続き)	企画展	マイミュージアム・みんなの活動報告展	2006 年 3 月 18 日～4 月 9 日	19	—	9,997	9,997
2006		・マイミュージアム写真展					
	企画展	学芸員の活動報告展	2006 年 4 月 29 日～5 月 28 日	26	—	12,716	12,716
	特別展	ふしぎな生きもの菌類—動物?植物?それとも?—	2006 年 7 月 15 日～11 月 5 日	106	18,408	54,099	72,507
	企画展	パノラマにつぼん 地球観測衛星の魅力	2006 年 12 月 9 日～2007 年 2 月 25 日	64	—	15,939	15,939
	企画展	みんなの活動報告展	2007 年 3 月 17 日～5 月 6 日	45	—	16,883	16,883
2007	特別展	ナウマンゾウがいた! ～温暖期の神奈川～	2007 年 7 月 21 日～11 月 4 日	100	20,016	57,007	77,023
	企画展	日本最後の秘境 南硫黄島	2007 年 12 月 8 日～2008 年 2 月 24 日	65	—	24,476	24,476
2008	企画展	学芸員の活動報告展	2008 年 4 月 19 日～5 月 18 日	27	—	15,041	15,041
	特別展	箱根火山 いま証される噴火の歴史	2008 年 7 月 19 日～11 月 19 日	106	20,312	44,001	64,313
	企画展	46 億年 地球の仕事 ～地質写真家がみた世界の地形～	2008 年 12 月 6 日～2009 年 2 月 22 日	62	—	14,954	14,954
2009	企画展	学芸員の活動報告展	2009 年 4 月 18 日～5 月 31 日	37	—	16,352	16,352
	特別展	木の洞をのぞいてみたら～樹洞の生きものたち～	2009 年 7 月 18 日～11 月 8 日	105	19,109	84,418	103,527
	企画展	押し集 古瀬 義 植物標本コレクション	2009 年 12 月 5 日～2010 年 2 月 21 日	60	—	9,553	9,553
2010	企画展	学芸員の活動報告展	2010 年 4 月 17 日～5 月 30 日	37	—	16,135	16,135
	特別展	日本列島 20 億年その生い立ちを探る	2010 年 7 月 17 日～11 月 7 日	104	19,727	33,939	53,666
	企画展	日本最初の植物同好会	2010 年 12 月 11 日～2011 年 2 月 27 日	63	—	10,132	10,132
2011	企画展	学芸員の活動報告展	2011 年 4 月 16 日～5 月 29 日	38	—	18,560	18,560
	特別展	およげ! ゲンゴロウくん～水辺に生きる虫たち～	2011 年 7 月 16 日～11 月 6 日	104	18,183	52,723	70,906
	企画展	箱根ジオパークをめざして	2011 年 12 月 10 日～2012 年 2 月 26 日	63	—	17,204	17,204
2012	企画展	学芸員の活動報告展	2012 年 4 月 21 日～5 月 27 日	321	—	14,210	14,210
	特別展	大トンボ展 大空の覇者	2012 年 7 月 14 日～11 月 4 日	103	23,070	42,666	65,736
	企画展	博物館の標本工房	2012 年 12 月 15 日～2013 年 2 月 24 日	56	—	28,574	28,574
2013	企画展	学芸員の活動報告展	2013 年 4 月 20 日～5 月 26 日	32	—	10,631	10,631
	特別展	益田 一と日本の魚類学	2013 年 7 月 20 日～11 月 4 日	97	16,964	27,170	44,134
	企画展	アンデスを越えて	2013 年 12 月 14 日～2014 年 2 月 23 日	56	—	14,921	14,921

3.4. 資料登録実績

分野	1994 年度	1995 年度	1996 年度	1997 年度	1998 年度	1999 年度	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度
哺乳類		1,432	65	1	0	0	0	417	170	8
鳥類										
魚類		846	733	3,108	1,621	640	428	1,343	1,722	879
魚類写真	1345	* 6,248	3,492	5,364	6,005	6,440	7,110	3,402	7,211	13,361
昆虫		26,839	817	742	623	6	0	0	0	0
軟体動物		3,390	1	114	705	2,616	0	36	147	9
甲殻類		0	0	0	4,218	0	12	0	0	0
甲殻類細密画										
両生・爬虫類										
動物その他		0	0	0	28	4	2	11	0	0
維管束植物		167,334	2,310	4,003	4,494	5,352	3,754	0	1,333	1,281
コケ		2,670	14	83	6	7	61	0	0	0
菌類・地衣類		0	2	459	218	1,717	1,001	0	0	0
藻類										
植物その他		0	0	5	0	0	2	0	0	0
植生									10	40
化石		2,220	3,477	21	594	2,304	0	72	24	3
岩石		0	492	259	52	32	0	0	1,173	128
鉱物		181	0	92	0	0	0	0	1,472	0
地質・ボーリング		1	0	0	0	0	0	0	0	0
衛星画像										401
衛星処理画像										
景観画像										
小計	1,345	211,161	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262	16,110
図書										11,355
雑誌										2,730
小計										14,085
計	1,345	211,161	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262	30,195

* 1995 年度の魚類写真の登録件数は、1994 年度の登録件数と分割して掲載したため、年報第 13 号までの数値とは異なる。

分野	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	合計
哺乳類		64	194	634	482	178	616	460	286	368	4,495
鳥類	21	4	149	212	281	76	209	434	196	102	2,564
魚類	1,635	2,583	3,127	2,377	2,207	2,908	1,981	2,325	4,267	1,301	36,031
魚類写真	3780	813	1,986	6,253	4,990	4,025	5,148	14,248	23,488	13,280	137,989
昆虫	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	29,028
軟体動物	93	12	397	136	314	4,626	4,165	3,228	1,592	499	22,030
甲殻類	15	439	559	1,520	1,237	231	471	315	1,777	3,456	14,250
甲殻類細密画		6	142	152	0	48	26	33	32	36	475
両生・爬虫類					4	644	53	19	1	63	785
動物その他	0	0	0	8	3	0	0	0	10	0	66
維管束植物	1,507	1,981	9,879	10,136	13,677	5,429	6,975	5,528	3,742	6,899	255,614
コケ	0	0	0	0	0	0	0	0	6,525	0	9,366
菌類・地衣類	0	0	0	0	0	13,174	1,415	4,565	596	936	24,083
藻類					2,062	0	0	0	1,368	906	4,336
植物その他	0	0	0	0	0	0	0	0	247	0	254
植生	64	0	58	0	0	0	0	0	3	0	175
化石	0	86	1	17	19	1,331	650	617	872	368	12,676
岩石	0	434	0	0	1,008	2,266	0	172	200	160	6,376
鉱物	0	5	11,061	0	0	0	4,297	1,956	225	107	19,396
地質・ボーリング	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
衛星画像	0	27	0	234	81	36	0	135	24	60	798
衛星処理画像			70	42	17	0	7	6	3	8	153
景観画像			378	983	0	0	0	1	0	1,099	2,461
小計	7,115	6,455	28,002	22,704	26,382	34,972	26,013	34,042	45,454	29,599	583,603
図書	886	772	900	970	1,299	531	564	643	1,798	1,756	21,474
雑誌	95	51	58	107	57	140	62	55	34	50	3,439
小計	981	823	958	1,077	1,356	671	626	698	1,832	1,806	24,913
計	8,096	7,278	28,960	23,781	27,738	35,643	26,639	34,740	47,286	31,405	608,516

3.5. ホームページアクセス実績

月\年度	1994 年度	1995 年度	1996 年度	1997 年度	1998 年度	1999 年度	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度
4 月				186	1,237	2,574	3,549	*	7,541	11,979
5 月				282	1,916	2,908	4,954	5,211	8,468	11,848
6 月				441	1,598	2,885	4,709	5,852	*	14,055
7 月				655	1,807	2,334	4,836	8,717	9,025	16,531
8 月				774	1,847	4,083	6,514	*	15,503	20,083
9 月				683	1,960	3,197	5,412	*	11,642	12,989
10 月				497	1,784	3,070	6,496	7,801	9,031	14,232
11 月				513	1,721	3,137	5,280	8,632	7,231	11,960
12 月				582	1,648	3,116	4,486	6,154	7,414	9,984
1 月				919	1,913	3,781	6,052	7068	11,210	11,551
2 月				834	1,954	3,623	6,053	6,471	12,125	9,583
3 月				1,136	2,413	3,845	5,878	5,319	11,185	9,405
計				7,502	21,798	38,553	64,219	61,225	110,375	154,200
1 日平均				20.55	59.72	105.34	175.94	223.45	329.48	421.31

* 2001 年 4・8・9 月と 2002 年 6 月はマシントラブルのためカウントできなかった。

月\年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	計
4 月	11,071	15,489	15,131	15,404	17,371	13,374	16,955	18,753	20,579	30,638	
5 月	13,215	11,870	15,950	16,176	18,322	16,241	19,934	20,808	20,810	30,730	
6 月	15,225	14,086	12,910	14,200	15,401	14,482	15,831	15,776	18,604	28,123	
7 月	14,975	14,781	16,799	19,207	18,089	19,499	24,539	21,778	23,117	37,580	
8 月	16,654	19,838	22,899	25,040	26,442	23,293	28,580	29,898	29,693	52,015	
9 月	13,885	13,081	17,050	17,456	16,232	17,184	18,018	20,824	22,709	32,025	
10 月	13,843	14,690	17,037	18,089	16,157	16,240	18,271	18,950	24,982	30,821	
11 月	12,685	10,995	13,615	14,307	13,131	13,204	16,226	14,737	22,138	23,088	
12 月	11,129	9,720	11,474	12,054	11,249	11,230	12,869	13,721	24,483	23,275	
1 月	12,471	12,993	14,008	15,464	13,281	16,388	15,582	15,953	26,583	26,068	
2 月	11,680	11,580	13,607	14,965	12,386	15,478	15,641	15,864	27,069	22,090	
3 月	10,523	13,494	13,934	16,465	14,377	19,352	14,884	21,436	30,926	33,406	
計	157,356	162,617	184,414	198,827	192,438	195,965	217,330	228,498	291,693	369,859	2,656,869
1 日平均	431.11	445.53	505.24	543.24	527.23	536.89	595.42	624.31	799.16	1,013.31	

3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績

月\年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	計
4 月	47,255	46,780	45,922	57,539	137,916	150,817	220,043	99,695	166,484	162,602	
5 月	74,039	104,956	58,909	71,761	150,828	195,644	240,523	118,998	153,868	313,999	
6 月	91,066	69,723	122,279	78,758	178,587	200,873	263,042	120,450	144,236	212,569	
7 月	67,637	70,072	69,243	81,354	159,772	234,499	515,252	109,688	134,806	152,539	
8 月	83,478	65,143	88,351	74,106	176,301	253,014	432,478	268,450	148,590	177,790	
9 月	73,094	62,263	67,073	124,548	181,762	264,911	184,433	85,334	285,293	82,260	
10 月	75,888	58,384	72,178	80,681	181,160	229,439	149,227	127,688	225,939	154,416	
11 月	96,733	52,493	119,373	67,337	210,195	204,631	228,696	153,279	221,528	149,742	
12 月	62,898	46,019	183,592	59,725	176,321	224,470	297,112	150,850	294,780	225,794	
1 月	71,109	51,530	131,002	74,547	189,893	189,218	253,132	148,606	218,061	123,939	
2 月	52,646	50,628	57,062	89,859	180,884	192,874	121,448	140,702	255,931	117,098	
3 月	52,297	69,560	92,281	135,013	167,672	209,858	152,091	159,317	125,164	106,299	
計	848,140	747,551	1,107,265	995,228	2,091,291	2,550,248	3,057,477	1,683,057	2,374,680	1,979,047	17,433,984
1 日平均	2,323.67	2,048.08	3,033.60	2,719.20	5,729.56	6,986.98	8,376.65	4,598.52	6,505.97	5,422.05	

3.7. FishPix のアクセス実績

月\年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	計
4 月	2,582	3,628	6,025	23,322	93,407	198,882	196,525	118,641	270,626	180,127	
5 月	1,815	3,241	19,151	20,875	97,873	190,396	196,359	135,441	160,802	430,334	
6 月	1,632	2,847	26,860	11,711	105,304	193,091	296,704	135,375	179,240	192,540	
7 月	2,256	3,085	5,211	36,591	105,263	245,872	859,781	95,507	205,817	299,288	
8 月	2,325	3,552	6,187	17,546	72,746	243,776	634,275	119,911	155,855	351,893	
9 月	2,594	11,439	11,383	13,313	99,085	256,904	260,201	36,732	341,199	55,493	
10 月	3,014	12,151	5,025	13,082	111,006	168,057	103,445	102,937	188,278	202,531	
11 月	1,886	19,552	31,976	12,701	152,864	203,718	130,073	191,063	272,550	234,042	
12 月	2,023	11,909	115,316	15,835	138,370	224,076	258,017	163,636	172,266	350,115	
1 月	2,977	10,533	77,525	27,230	159,608	199,485	368,860	146,540	244,346	134,166	
2 月	2,845	6,826	11,527	35,556	243,747	177,801	75,224	238,617	325,167	132,751	
3 月	3,843	22,504	48,529	103,001	332,195	215,838	166,420	314,119	102,502	93,876	
計	29,792	111,267	364,715	330,763	1,711,468	2,517,896	3,545,884	1,798,519	2,618,648	2,657,156	15,686,108
1 日平均	81.62	304.84	999.22	903.72	4,688.95	6,898.35	9,714.75	4,913.99	7,174.38	7,279.88	

3.8. WESCAMS ミュージアム・リレー開催記録 第1走～第198走 (参加者の→は各走開催中の人数動向)

開催回(走) 平成年/月/日	開催場所	参加人数(名)		
		一般	関係者	高校生
第1走 9/10/17(金)	生命の星・地球博物館	59	21	30
第2走 9/11/7(金)	箱根美術館⇒強羅公園	32	26	30
第3走 9/12/3(水)	足柄森林公園・丸太の森⇒南足柄市郷土資料館	47	13	0
第4走 10/1/28(水)	Antique Museum・江戸民具街道	22	20	30
第5走 10/2/25(水)	小田原フラワーガーデン	60	16	30
第6走 10/3/11(水)	箱根武士の里美術館	38	20	30
第7走 10/4/3(金)	箱根ガラスの森美術館	29	27	20
第8走 10/5/27(水)	箱根町立箱根湿生花園	26	21	30
第9走 10/6/17(水)	生命の星・地球博物館⇒神奈川県温泉地学研究所	29	29	90
第10走 10/7/8(水)	箱根美術館⇒強羅公園	39	27	58
第11走 10/8/26(水)	箱根町立大涌谷自然科学館	12	21	28
第12走 10/9/30(水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	14	11	28
第13走 10/10/14(水)	遠藤貝類博物館	15	16	30
第14走 10/11/13(金)	箱根町立郷土資料館	13	13	70
第15走 10/12/2(水)	本間寄木美術館	13	20	60
第16走 11/1/20(水)	生命の星・地球博物館	21	20	70
第17走 11/2/3(水)	小田原城天守閣と歴史見聞館	17	15	22
第18走 11/3/23(火)	鈴廣のかまぼこ博物館	17	15	22
第19走 11/4/16(金)	MOA美術館(熱海市)	150	25	100
第20走 11/5/26(水)	箱根美術館⇒強羅公園	92	26	50
第21走 11/6/29(火)	箱根ガラスの森美術館	28	15	50
第22走 11/7/22(木)	生命の星・地球博物館	47	10	38
第23走 11/8/25(水)	箱根町立箱根湿生花園⇒箱根武士の里美術館	25	30	20
第24走 11/9/22(水)	彫刻の森美術館	14	19	40
第25走 11/10/21(木)	遠藤貝類博物館	12	16	50
第26走 11/11/19(金)	足柄森林公園・丸太の森⇒南足柄市郷土資料館	20	18	160
第27走 11/12/9(木)	箱根芦ノ湖成川美術館	23	18	50
第28走 12/1/19(水)	本間寄木美術館	10	18	50
第29走 12/2/24(木)	小田原市郷土文化館	31	28	60
第30走 12/3/30(木)	生命の星・地球博物館	42	30	20
第31走 12/4/18(火)	Antique Museum・江戸民具街道	68	25	53
第32走 12/5/19(金)	パール下中記念館	22	15	23
第33走 12/6/7(水)	箱根美術館⇒強羅公園	46	20	67
第34走 12/7/13(木)	箱根ガラスの森美術館	18	13	56
第35走 12/8/23(水)	生命の星・地球博物館⇒神奈川県温泉地学研究所	88	27	21
第36走 12/9/13(水)	報徳博物館	27	17	16
第37走 12/10/12(木)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴サボテンランド⇒遠藤貝類博物館	10	21	60
第38走 12/11/2(木)	箱根町立郷土資料館	25	10	60
第39走 12/12/8(金)	箱根ビクターセンター⇒箱根町立大涌谷自然科学館	17	16	60
第40走 13/1/25(木)	生命の星・地球博物館	56	29	160
第41走 13/2/22(木)	鈴廣のかまぼこ博物館	2	13	30
第42走 13/3/23(金)	彫刻の森美術館	5	16	30
第43走 13/4/13(金)	箱根武士の里美術館	5	20	30
第44走 13/5/16(水)	箱根☆サン＝テグジュペリ星の王子さまミュージアム	0	16	60
第45走 13/6/8(金)	湯河原ゆかりの美術館	5	16	60
第46走 13/7/19(木)	小田原市郷土文化館分館「松永記念館」と「老櫓荘」	30	17	30
第47走 13/8/30(木)	彫刻の森美術館(昼・夜2回開催)	20→30	23→23	30→0
第48走 13/9/27(木)	Antique Museum・江戸民具街道	20	16	30
第49走 13/10/12(金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴サボテンランド⇒遠藤貝類博物館	7	26	60
第50走 13/11/9(金)	生命の星・地球博物館	32	24	0
第51走 13/12/7(金)	箱根ベゴニア園⇒オルゴールの小さな博物館・箱根⇒箱根おもちゃ博物館	50	16	30
第52走 14/1/25(金)	箱根芦ノ湖成川美術館	35	18	30
第53走 14/2/15(金)	小田原フラワーガーデン	56	25	60
第54走 14/3/22(金)	小田原城天守閣小田原動物園	15	11	8
第55走 14/4/14(日)	MOA美術館	3	15	0
第56走 14/5/16(木)	箱根ガラスの森美術館	11	21	14
第57走 14/6/14(金)	箱根ビクターセンター	17	15	42
第58走 14/7/12(金)	松田山ハーブ館・ハーブガーデン⇒松田町自然館	10	12	16
第59走 14/8/23(金)	彫刻の森美術館	15	26	0
第60走 14/9/13(金)	生命の星・地球博物館	31	15	20
第61走 14/10/18(金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴サボテンランド⇒遠藤貝類博物館	9	22	0
第62走 14/11/1(金)	箱根町立郷土資料館	25	20	0
第63走 14/12/12(木)	箱根園水族館	8	20	50

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

第 65 走	15/ 2/14 (金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	20	22	60
第 66 走	15/ 3/14 (金)	湯河原ゆかりの美術館	6	6	10
第 67 走	15/ 4/11 (金)	箱根芦ノ湖成川美術館	10	15	0
第 68 走	15/ 5/15 (木)	Antique Museum・江戸民具街道	27	18	45
第 69 走	15/ 6/ 6 (金)	生命の星・地球博物館⇒鈴廣のかまぼこ博物館	10	16	40
第 70 走	15/ 7/25 (金)	小田原城天守閣⇒小田原城ミュージーゼ	20	19	13
第 71 走	15/ 8/ 8 (金)	MOA 美術館	17	17	0
第 72 走	15/ 9/30 (火)	ポーラ美術館	63	23	0
第 73 走	15/10/30 (木)	箱根町立郷土資料館	52	13	0
第 74 走	15/11/18 (金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴サボテンランド⇒遠藤貝類博物館	37	22	40
第 75 走	15/12/11 (木)	箱根園水族館	10	11	30
第 76 走	16/ 1/16 (金)	生命の星・地球博物館⇒本間寄木美術館	16	18	15
第 77 走	16/ 2/20 (金)	小田原市尊徳記念館	15	11	40
第 78 走	16/ 3/18 (木)	彫刻の森美術館	13	17	5
第 79 走	16/ 4/16 (金)	箱根武士の里美術館⇒箱根町立箱根混生花園	26	19	40
第 80 走	16/ 5/ 9 (日)	箱根美術館⇒強羅公園⇒箱根写真美術館	43	19	0
第 81 走	16/ 6/15 (火)	箱根ガラスの森美術館	20	21	30
第 82 走	16/ 7/ 2 (金)	ポーラ美術館	61	22	15
第 83 走	16/ 8/20 (金)	生命の星・地球博物館	23	25	5
第 84 走	16/ 9/ 3 (金)	小田原城天守閣	14	11	0
第 85 走	16/10/15 (金)	真鶴町立中川一政美術館⇒遠藤貝類博物館	20	18	38
第 86 走	16/11/12 (金)	箱根町立郷土資料館⇒小田急箱根ベゴニア園⇒箱根おもちゃ博物館⇒オルゴールの小さな博物館・箱根	17	16	0
第 87 走	16/12/10 (金)	MOA 美術館	37	10	30
第 88 走	17/ 1/14 (金)	箱根園水族館⇒箱根芦ノ湖成川美術館	17→29	10→17	20→0
第 89 走	17/ 2/25 (金)	小田原フラワーガーデン	36	15	22
第 90 走	17/ 3/17 (木)	彫刻の森美術館	44	25	0
第 91 走	17/ 4/15 (金)	湯河原ゆかりの美術館	28	12	0
第 92 走	17/ 5/18 (水)	箱根武士の里美術館⇒箱根町立箱根温生花園	15→23	10→11	40→40
第 93 走	17/ 6/10 (金)	ポーラ美術館	70	29	40
第 94 走	17/ 7/ 6 (水)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒強羅公園	39→39→39	35→35→35	40→40→40
第 95 走	17/ 8/29 (月)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	20→27	10→23	0
第 96 走	17/ 9/28 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館	75	16	10
第 97 走	17/10/12 (水)	真鶴町立中川一政美術館⇒遠藤貝類博物館	33→33	24→24	50→50
第 98 走	17/11/29 (火)	箱根園水族館	30	13	40
第 99 走	17/12/ 8 (木)	箱根町立関所資料館⇒箱根駅伝ミュージアム	28→28	14→14	40→40
第100 走	18/1/14 (土)	箱根ガラスの森美術館	82	33	10
第101 走	18/2/10 (金)	小田原城天守閣⇒小田原城ミュージーゼ	25→25	22→22	
第102 走	18/3/17 (金)	小田原市尊徳記念館	35	17	32
第103 走	18/4/21 (金)	ポーラ美術館	73	19	68
第104 走	18/5/10 (水)	箱根駅伝ミュージアム⇒函嶺・ふる里集蔵館	6→24	9→20	
第105 走	18/6/17 (土)	小田原フラワーガーデン	25	13	
第106 走	18/7/6 (木)	箱根武士の里美術館⇒箱根町立箱根湿生花園	12→15	7→11	60→60
第107 走	18/8/31 (木)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	15→15	7→17	0→30
第108 走	18/9/22 (金)	箱根芦之湯フラワーセンター⇒周辺史跡の見学	25→25	11→11	60→60
第109 走	18/10/13 (金)	MOA 美術館	53	15	45
第110 走	18/11/10 (金)	真鶴町立中川一政美術館⇒遠藤貝類博物館	38→38	14→12	45→0
第111 走	18/12/8 (金)	ガラスの森美術館	30	14	26
第112 走	19/1/19 (金)	箱根園水族館	24	20	34
第113 走	19/2/23 (金)	箱根ラリック美術館	62	13	40
第114 走	19/3/9 (金)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒強羅公園	36→36→36	19→19→19	70→70→70
第115 走	19/4/13 (金)	箱根武士の里美術館⇒ポーラ美術館	13→35	5→15	30→60
第116 走	19/5/16 (水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター⇒周辺史跡の見学	26→26	11→11	45→45
第117 走	19/6/29 (金)	鈴廣のかまぼこ博物館⇒湯河原町立湯河原美術館	22→22	12→12	60→60
第118 走	19/7/13 (金)	箱根ガラスの森美術館	41	32	27
第119 走	19/8/28 (火)	箱根町立箱根関所⇒箱根駅伝ミュージアム	20→20	7→5	7→9
第120 走	19/9/8 (土)	生命の星・地球博物館	29	31	12
第121 走	19/10/26 (金)	箱根町立箱根湿生花園⇒彫刻の森美術館	30→38	5→9	40→40
第122 走	19/11/13 (火)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町海の学校	20→20	12→9	33→33
第123 走	19/12/7 (金)	箱根ベゴニア園⇒箱根写真美術館⇒強羅公園	20→20→20	13→13→13	30→30→30
第124 走	20/1/18 (金)	箱根園水族館⇒箱根・芦ノ湖成川美術館	14→37	8→9	34→34
第125 走	20/2/15 (金)	小田原フラワーガーデン⇒小田原市尊徳記念館及び周辺史跡	14→37	8→9	34→34
第126 走	20/3/19 (水)	本間寄木美術館⇒小田原城、小田原市郷土文化館	27→10	9→7	17→17
第127 走	20/4/23 (水)	箱根武士の里美術館⇒ポーラ美術館	12→40	5→13	0
第128 走	20/5/21 (水)	箱根美術館⇒強羅公園	30→30	12→10	64→65

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

第129走	20/6/24(火)	湯河原町立湯河原美術館⇒MOA美術館	14→38	13→14	64→64
第130走	20/7/15(火)	彫刻の森美術館⇒箱根ガラスの森美術館	24→24	12→26	60→60
第131走	20/8/29(火)	玉村豊男ライフアートミュージアム⇒箱根神社宝物殿⇒箱根駅伝ミュージアム	13→7→1	10→8→7	0
第132走	20/9/16(火)	箱根町立箱根関所⇒箱根町立箱根芦之湯フラワースセンター	3→4	11→8	50→50
第133走	20/10/29(水)	箱根ラリック美術館⇒箱根町立箱根湿生花園	58→39	22→19	0
第134走	20/11/7(金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町海の学校	16→10	14→11	60→60
第135走	20/12/10(水)	小田急箱根ベゴニア園⇒箱根トイミュージアム	9→10	11→14	40→40
第136走	21/1/30(金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	7→16	5→14	33→33
第137走	21/2/17(火)	小田原フラワーガーデン⇒小田原市尊徳記念館及び周辺史跡見学	23→22	22→21	50→50
第138走	21/3/19(木)	松永記念館⇒小田原城天守閣・小田原市郷土文化館	35→35	8→11	12→12
第139走	21/4/21(火)	箱根町立箱根湿生花園⇒ポーラ美術館	18→39	5→10	0
第140走	21/5/15(金)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	17→17→17	23→27→27	0
第141走	21/6/12(金)	小田原フラワーガーデン⇒松永記念館	12→10	11→15	0
第142走	21/7/17(金)	箱根町立箱根芦之湯フラワースセンター⇒箱根ガラスの森美術館	15→44	5→12	0
第143走	21/8/28(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム⇒箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	16→17→10	10→9→10	0
第144走	21/9/29(火)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町海の学校	16→13	6→3	0
		彫刻の森美術館⇒箱根ビジターセンター	17→9	5→11	39→0
第146走	21/11/27(金)	箱根町立郷土資料館⇒小田急箱根ベゴニア園	3→2	4→6	0
第147走	21/12/11(金)	箱根ラリック美術館⇒箱根芦ノ湖成川美術館	64→33	9→10	0→31
第148走	22/1/29(金)	湯河原町立湯河原美術館⇒MOA美術館	12→31	11→11	0→30
第149走	22/2/5(金)	小田原城天守閣および小田原市郷土文化館⇒小田原市尊徳記念館とその周辺の史跡	17→13	4→4	39→43
第150走	22/3/5(金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	9→14	5→5	0
第151走	22/4/27(火)	彫刻の森美術館	11	6	0
第152走	22/5/18(火)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
第153走	22/6/8(火)	箱根ガラスの森美術館	31	12	0
第154走	22/7/2(金)	箱根町立箱根湿生花園⇒箱根町立芦之湯フラワースセンターとその周辺散策	20→13	12→6	0
第155走	22/8/27(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム⇒箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	5→3→3	8→8→6	0
第156走	22/9/17(金)	箱根ビジターセンター⇒ポーラ美術館	11→60	7→12	0
第157走	22/10/15(金)	真鶴町立遠藤貝類博物館⇒真鶴町立中川一政美術館	22→25	10→12	43→43
第158走	22/11/12(金)	箱根町立郷土資料館⇒小田原市郷土文化館⇒小田原城	19→21	6→6	0
第159走	22/12/10(金)	箱根ラリック美術館⇒星の王子さまミュージアム	43→44	9→10	0
第160走	23/1/16(日)	小田原フラワーガーデン⇒小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	5→6	3→6	0
第161走	23/2/18(金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	6→9	9→14	44→44
第162走	23/3/4(金)	鈴廣のかまぼこ博物館⇒小田原市松永記念館	5→4	3→3	0
第163走	23/4/27(水)	すどう美術館⇒小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→8	9→5	50→50
第164走	23/5/17(火)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
第165走	23/6/8(水)	箱根ガラスの森美術館⇒小田原城	23→9	8→4	47→0
第166走	23/7/8(金)	箱根町立箱根湿生花園⇒ポーラ美術館	13→63	7→27	0
第167走	23/8/24(木)	松永記念館⇒箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	12→1→3	4→6→7	0
第168走	23/9/3(土)	彫刻の森美術館⇒箱根ビジターセンター	10→6	6→5	0
第169走	23/10/14(金)	真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町立遠藤貝類博物館	30→23	6→7	47
第170走	23/11/18(金)	箱根町立郷土資料館	5	2	39
第171走	23/12/16(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館⇒箱根ラリック美術館⇒星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	50→65→17	5→9→4	0
第172走	24/1/20(金)	町立湯河原美術館⇒MOA美術館	16→13	4→4	0
第173走	24/2/3(金)	小田原フラワーガーデン⇒鈴廣のかまぼこ博物館	6→6	3→2	0
第174走	24/3/2(金)	本間寄木美術館⇒生命の星・地球博物館	7→11	3→10	0
第175走	24/4/20(金)	小田原市郷土文化館⇒彫刻の森美術館	14→5	5→3	0
第176走	24/5/18(金)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	26→26→26	7→7→7	0
第177走	24/6/21(木)	箱根マイセンアンティーク美術館⇒町立箱根芦之湯フラワースセンターとその周辺散策	24→8	3→3	0
第178走	24/7/6(水)	箱根町立箱根湿生花園⇒ポーラ美術館	26→55	4→4	0
第179走	24/8/23(木)	箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	7→11	3→3	0
第180走	24/9/5(水)	箱根ビジターセンター⇒箱根ガラスの森美術館	13→31	4→14	0→40
第181走	24/10/17(水)	真鶴アートミュージアム⇒真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町立遠藤貝類博物館	7→7→7	7→6→6	0→42→42
第182走	24/11/15(木)	小田原城⇒箱根町立郷土資料館	22→1	4→4	0
第183走	24/12/13(木)	箱根ラリック美術館⇒星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	34→14	4→3	40→40
第184走	25/1/17(木)	人間国宝美術館⇒町立湯河原美術館	18→9	5→5	0
第185走	25/2/6(水)	小田原フラワーガーデン⇒すどう美術館⇒小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	6→15→7	4→3→4	0
第186走	25/3/1(金)	江戸民具街道⇒生命の星・地球博物館	11→9	13→9	0
第187走	25/4/19(金)	町立湯河原美術館⇒MOA美術館	6→15	2→3	0
第188走	25/5/17(金)	箱根美術館⇒箱根写真美術館⇒箱根強羅公園	28→28→28	11→11→11	35→35→35

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

第 189 走	25/6/7 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館⇒箱根駅伝ミュージアム⇒箱根町立箱根関所	40→16→17	14→11→11	0→43→43
第 190 走	25/7/10 (水)	箱根ガラスの森美術館⇒箱根ビクターセンター	66→25	10→8	0
第 191 走	25/8/23 (金)	箱根町立箱根湿生花園⇒生命の星・地球博物館	22→24	5→3	0
第 192 走	25/9/13 (金)	彫刻の森美術館⇒ポーラ美術館	22→60	8→20	0
第 193 走	25/10/17 (木)	真鶴アートミュージアム⇒真鶴町立中川一政美術館⇒真鶴町立遠藤貝類博物館	28→31→25	5→4→8	0
第 194 走	25/11/15 (金)	箱根町立郷土資料館⇒小田原城⇒小田原文学館	11→25→21	6→5→6	0
第 195 走	25/12/17 (火)	箱根ラリック美術館⇒星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	30→17	10→11	0
第 196 走	26/1/24 (金)	松永記念館⇒人間国宝美術館	14→11	8→7	0
第 197 走	26/2/28 (金)	小田原フラワーガーデン⇒鈴廣のかまぼこ博物館	17→6	6→7	0
第 198 走	26/3/26 (水)	すどう美術館⇒小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→7	4→4	0

3.9. 来館者アンケート

来館者を対象にアンケートを実施した。その結果を示す（自由意見は省略）。

[調査方法]

1 階エントランスホールに机を設置し、アンケート用紙を配架するほか、博物館ちよこっと体験コーナー参加者に用紙を配布し、項目選択および自由記述により実施した。

[調査期間と時間]

平成 25 年 8 月 3 日（土） から 8 月 11 日（日） まで（9 時

から 16 時 30 分まで）

[回答者数]

224 人

[調査項目]

年代／同伴者／居住地／来館目的／音声ガイドシステムの利用状況／ミュージアムシアターの映像の鑑賞状況／博物館ホームページの利用状況 など

3.9.1. アンケート結果

性別

女性	136
男性	82
無記名	4
重複記入	2

年代

幼稚園	2
小学生	73
中学生	11
高校生	2
大学生	6
20 歳代	3
30 歳代	64
40 歳代	35
50 歳代	9
60 歳代	12
70 歳以上	3
重複記入	2
無回答	2

だれと来館されましたか？

ひとりで	6
友達と	29
家族と	152
そのほか	37

来館は何回目ですか？

初めて	103
2 回目	46
3 ～ 5 回目	40
6 ～ 10 回目	15
11 回以上	20

おすまいは？

無回答	5
小田原市	41
県内	123
横浜市	26
藤沢市	15
川崎市	12
平塚市	12
秦野市	8
大磯町	5
相模原市	5
茅ヶ崎市	4
横須賀市	4
座間市	3
葉山町	3
南足柄市	3
厚木市	2
開成町	2
中井町	2
真鶴町	2
綾瀬市	1
伊勢原市	1
海老名市	1
大井町	1
鎌倉市	1
逗子市	1
二宮町	1
箱根町	1
山北町	1
大和市	1
湯河原町	1
市町村名無回答	4
県外	55
東京都	30
埼玉県	4
静岡県	4
千葉県	3
京都府	2
群馬県	2
栃木県	2
山梨県	2
茨城県	1
愛媛県	1
大阪府	1
長野県	1
福島県	1
北海道	1

来館の目的（複数回答可）

常設展	128
特別展	21
新映像	14
イベント	33
ライブラリー	6
そのほか	50
無回答	8

来館のきっかけ（複数回答可）

ポスター・チラシ	37
県のたより	8
ホームページ	45
ツイッター・ブログ	3
メールマガジン	2
テレビ	3
ラジオ	4
新聞	1
雑誌	4
知人	46
そのほか	79
無回答	13

音声ガイドについて

使った	28
使わなかった	177
使えなかった	10
無回答	9

使った感想

おもしろかった	23
つまらなかった	4
内容が難しかった	10
使い方が難しかった	1
そのほか	3

使わなかった理由

持っていない	28
気が付かなかった	59
時間がなかった	17
おもしろくなさそうだった	7
使い方が難しそうだった	22
そのほか	15

使えなかった症状

読み取り機能がなかった	3
音声が出ない	4
読み取り方法がわからない	1
そのほか	1

SEISA ミュージアムシアターについて（複数回答可）

見た	116
怪人ネイチャーランド	75
躍動する大地	42
生命の輪舞	42
生命の旅立ち	24

見なかった	108
見たいプログラムがなかった	4
時間が合わなかった	16
場所が分からなかった	6
満員で入れなかった	2
そのほか	11

感想

とてもおもしろかった	44
おもしろかった	52
どちらともいえない	8
つまらなかった	1
そのほか	2

ホームページについて

ご覧になりましたか？

見た	99
見なかった	84
見つからなかった	1
無回答	40

必要な情報は見つかりましたか？

見つかった	89
見つからなかった	10

イメージは？

イメージ通り	50
イメージと少し	11
全く違う	3

検索機器は？（複数回答あり）

PC	68
携帯	4
スマートフォン	24
タブレット	1

貸し出し用の機器の希望

希望する	86
希望しない	11
わからない	36

4. 調査研究関係資料

4.1. 研究成果

外来生物、とくに国内外来生物についての調査研究
研究の種類] 総合研究

[研究期間] 2011～2013 年度（3年計画の3年目）

[研究担当者] 勝山輝男・広谷浩子・瀬能 宏・苅部治紀・
佐藤武宏・加藤ゆき

[研究内容]

当館では、平成 15 年に特別展「侵略とかく乱のはてに
—未来につなげる自然とは—」を開催して以来、さまざま
な機会を通じて外来生物問題に積極的に取り組んできた。
前回の特別展から10年余りを経て、外来種問題の様々な
事例が蓄積されて、より身近な問題として注目されるよう
になってきた。外来生物は種数も個体数も急増し、その結果、
生物学的リスクが高くなっている。中でも、国内外来生物
は、地域の生物多様性を著しく損なっている、しばしば
その認知自体が困難であり、メディアも含めて一般に周知さ
れていないのが現状である。

外来生物に関わるさまざまな問題を新たな側面からとらえ
て事例収集を行い、公表することは、非常に意義深いもの
と考えられる。本研究の目的は、平成26年度の特別展
を通して、生物多様性を損なう外来生物への啓発を高める
ために、必要な事例を収集・分析することにあった。3年
にわたる研究期間中に、各人が蓄積してきた、外来生物に
関わる事例を整理した。基本的には、データの整理や文
献整理などを行なったが、事例の不足する分野については、
引き続き調査を行なって、データを収集した。

その結果、とくに国内外来生物については、たとえば、
以下のような知見が明らかにされた。

昆虫の事例として、東京湾埋立地において、リュウキュ
ウハナムグリの大量発生を確認した。また、同所において、
シラホシハナムグリなど東京都本土部や区部では、絶滅な
いし絶滅危惧Ⅰ類に選定されている種も多数確認された。
鳥類の事例としては、ヤマドリは日本固有種であり、形態
によって5亜種に分類されているが、狩猟を目的とした放
鳥に際し、亜種を考慮せずに放鳥を繰り返した結果、九州
に生息するコシジロヤマドリ以外の4亜種間で交雑が確認
された。さらに、本来生息していなかった北海道への狩猟
を目的とした導入、定着も確認された。哺乳類の事例として、
本来ニホンザルが生息していなかった鹿児島県薩摩川内市
の小島において、複数個体の観察事例が寄せられた。

調査結果は、平成 26 年度夏季に開催する特別展「どう
する?どうなる!外来生物」での展示および展示解説書に
おいて詳しく紹介すると共に、個々のメンバーが論文にまと
めて、公表する予定である。

イグチ目を主とするシクエ相模湾における沿岸魚類の
分類および生物地理学的研究

[研究の種類] 博物館基礎研究（個別研究）

[研究期間] 2011～2013 年度（3年計画の3年目）

[研究担当者] 瀬能 宏

[研究内容]

相模湾の魚類は、2006 年に 45 目 249 科 1517 種が目
録化され、黒潮流域各地の沿岸魚類相との比較から、同
湾は黒潮の影響を強く受けつつも暖温帯区に分類されるこ
とが明らかにされた。しかしながら、同湾からはその後も
未記載種を含む新産種が追加されつつあり、魚類相は未
解明の部分を残している。また、湾内の沿岸魚類相は一様
ではなく、海流や水温はもちろん、岩礁、砂底、藻場とい
った底質環境、湾内での地理的な位置によってそれぞれ異
なると予想されるが、各地点間の比較研究は行われていな
い。本研究は 2006 年の目録以降の情報を集約し、相模
湾内の沿岸魚類の多様性を分類学および生物地理学的な
視点から解明することを目的として実施した。

魚類相の把握には、神奈川県立生命の星・地球博物館
の魚類写真資料データベースに登録された画像の他、同館
に蓄積されつつある魚類標本、既存の文献を用いた。その
結果、タイワンマトイシモチ（テンジクダイ科）やウミシ
ョウブハゼ（ハゼ科）など、2006 年の目録以降、少なくと
も 95 種以上の新産種が確認された。新産種には黒潮によ
って卵稚仔の時に輸送されてくるサンゴ礁性魚類が多く含
まれるが、マサカリテングハギ（ニザダイ科）の出現により、
成魚サイズでの分散事例の存在が示唆された。また、ハタ
科のイズハナダイ属やミナミハナダイ属、ハゼ科のアワセ
イソハゼ属やシマイソハゼ属、ゲンゲ科の未確定属などに未
記載種が発見された。ハゼ科のベニハゼ属やスズメダイ科
のスズメダイ属には、未記載の可能性が高いが写真記録の
みで、標本が得られていないものもある。

相模湾の 12 地点における沿岸魚類相についてクラスタ
ー分析（距離尺度：ユークリッド距離；要約手法：UPGMA
法）を行った結果、伊豆海洋公園と伊豆大島のクラスタ
ーと、その他の 10 地点からなるクラスタに大きく 2 分した。
これらを分ける要因として、伊豆海洋公園と伊豆大島は急
深な地形と沖合水の影響を受けやすいことで共通すること
に加えて、いずれの地点も 2 月の表層平均水温がサンゴ礁
性魚類の低温致死限界である約 15℃に近い等温線付近に
あることとの関連が考えられる。現在、伊豆海洋公園や伊
豆大島においてサンゴ礁性魚類が越冬する事例はほとんど
確認されていないが、今後 2 月の平均水温が 1℃以上上昇
すれば、同地の魚類相は大きく変化するかも知れない。

神奈川県周辺のトンボ類における南方種の分布拡大
について

[研究の種類] 博物館基礎研究（個別研究）

〔研究期間〕 2012～2013 年度（2年計画の2年目）

〔研究担当者〕 荻部治紀

〔研究内容〕

本研究着手時点で神奈川県内での急速な分布拡大が予測されたホソミイトンボ（一般に水質の良い丘陵地の池や水田に生息）については、定着の初期（県西部のごく一部の地域）から急速に分布が拡散して中部にまで及んでいく様相を捉えることが出来た。とくに表丹沢では、2010 年頃までは確認地域はわずかであったが、この数年は春先の最普通種といえるまでに多産するようになっている。また、当初限られたビオトープなどで見られたものが、最近では田植え後の水田や、越冬前に山麓部などで確認することが容易な状況になっている。

現状は、分布拡散の初期から中期にさしかかったと思われる、2012 年以降では、それまで何度調査しても確認できなかった大磯丘陵や湘南地域の茅ヶ崎市、大磯町、中井町、などでも散発的に記録された。県北部でも旧相模湖町の池で昨年初めて確認された。これらの記録から、中西部では、本種が生息可能な丘陵部の小池では、ほぼ全域に拡散したと言える。また県東部では、未だ確認例は少ないが、横浜市の数例、三浦半島基部などで記録が出始めており、県内全域に拡散するのは、時間の問題ではないかと思われるほどの状況にある。

今後、各地域で「核」となる産地が確立していくにつれて、さらに分布の拡散が促進される可能性が高く、引き続き調査を継続する予定である。

なお、1990 年代までに東海地方まで急速に分布を拡大したタイワンウチワヤンマについては、神奈川県では横浜市における記録以降は確実な報告例がなかったが、2011 年に大井町での 1 匹の確認につづき、2011 年に記録された小田原城で 2012、2013 と連続して複数が記録され、県下で初めての定着地と見なせる状況にある。

なお、これまでの成果については、短報のほか、日本トンボ学会大会にて報告しており、2012 年に当館で開催された国際トンボ学会議でも発表を行っている。

シジュウカラガン（大型亜種）の移動実態と生態に関する研究

〔研究の種類〕 博物館基礎研究（個別研究）

〔研究期間〕 2011～2013 年度（3年計画の3年目）

〔研究担当者〕 加藤ゆき

〔研究内容〕

シジュウカラガン *Branta canadensis* は北米大陸、アリューシャン列島、ヨーロッパ西部に分布するカモの仲間、10 亜種以上が知られている。亜種によって羽色や体サイズが異なっており、日本には、亜種シジュウカラガン (*B. c. leucopareia*) と亜種ヒメシジュウカラガン (*B. c. minima*) の 2 亜種が冬鳥として自然渡来している。このほか、飼育施設などからの逸出と思われる大型のシジュウカラガン（亜種不明）が静岡県、山梨県、神奈川県、千葉県などで記録されており、一部地域では繁殖も確認されている。

今回は山梨県河口湖及び静岡県田貫湖周辺地域で、シジュウカラガン（大型亜種）の移動実態と生態を把握することを目的として、生体を捕獲し標識を装着、追跡調査を行った。また、シジュウカラガン（大型亜種）の標識情報や生態的知見をチラシのまとめ、学校や宿泊施設、観光施設などを通じて配布し、目撃情報の提供をお願いした。

山梨県では 18 羽に首輪を装着し、追跡を行った。結果、河口湖をおもな生息場所としているが山中湖との往来があること、河口湖の周辺にある田んぼや畑、保養施設の庭に侵入し、稲穂や芝生を食害していること、大量のフンによる衛生的な問題を引き起こしていることが明らかとなった。繁殖は 4 月から 5 月にかけて、営巣は、河口湖鵜ノ島や湖面に突き出た岩礁、人工漁礁行っており、一腹卵数は 4.5 個 (N = 10)、採集した卵の有精卵率は 86.8% (N = 38) であった。

静岡県では、12 羽に首輪・足環を装着し、追跡を行った。結果、主に田貫湖をねぐらとして利用し、日中は湖周辺のキャンプ場や大学実習施設、ゴルフ場、畜産試験場など広範囲に移動、草地で採食している実態が明らかになった。キャンプ場では芝生の食害や大量のフンによる衛生上の問題が、畜産試験場の草地での食害が確認された。繁殖は河口湖よりも早く 3 月下旬から 4 月にかけて行い、営巣は、田貫湖や大学実習施設などにある湖沼の小島やゴルフ場の池のほとりで確認した。ゴルフ場の例を除いて、いずれも陸からのアクセスができない場所であった。一腹卵数は 3.8 個 (N=4)、採集した卵の有精卵率は 7.6% (N = 13) であった。

また、観察結果及び情報提供により、2012 年 4 月現在、国内の生息数は約 100 羽、内訳として静岡県と山梨県で各 50 羽程度が定着していると推測された。両地域間の交流は確認されていなかったが、2013 年春季に田貫湖で 2012 年に生まれた標識個体が河口湖へ移動、そのまま定着したため、地域間の交流の可能性が示唆された。

ニュージーランドでは、1905 年に 50 羽ほどのカナダガンを狩猟のために導入したところ、2006 年には約 50,000 羽にまで増えた事例がある。日本でもこのような事例が起きる可能性が高い。そのため、現在、調査協力者らと、生体捕獲による生息数抑制や擬卵交換による新たな個体の増加を防ぐ試みをすすめている。今後は、現在、まとまった個体数が生息している田貫湖を対象地域として、さらなる生息数抑制および生息地の拡散を防ぐための調査、検討を行う予定である。

ネパール産スゲ属植物の分類学的研究

〔研究の種類〕 博物館基礎研究（個別研究）

〔研究期間〕 2011～2013 年度（3年計画の3年目）

〔研究担当者〕 勝山輝男

〔研究内容〕

ネパールの維管束植物については、Hara et al. (1978-1982) や Shrestha and Sutton (2000) などの植物目録が

出版されているが、詳細な記載文や図版のある植物誌はまだ出版されていない。ネパール王立科学技術アカデミー、東京大学、ロンドン自然史博物館、エジンバラ王立植物園が中心になり、2002年に編集委員会が発足し、Flora of Nepal 全10巻の出版が決められた。現在、Vol.3 (モクレン科～バラ科) が2011年に出版されている。Flora of Nepal, Vol.9に掲載予定のカヤツリグサ科スゲ属植物のリストを作成し、その形態を整理し、分布情報を集めることを目的に研究を行った。尚、最近の分子分類学的な研究により、ヒゲハリスゲ属 (*Kobresia* Willd.) もスゲ属植物に含めるのが妥当であるとの結果が出ている。含まれる種が多く、学名の整理に時間がかかるため、ヒゲハリスゲ属は別属として扱われることが多いが、いずれ、スゲ属とは合一される可能性が高い。そこで、本研究では途中からヒゲハリスゲ属も含めることとした。

東京大学や京都大学に収蔵されている、ネパール産標本を調べ、形態や分布情報を収集し、2010年にはエジンバラ王立植物園の標本庫でネパール産スゲ属植物標本の写真撮影を行った。また、ヒマラヤ植物研究会 (代表 東京大学 池田 博) では毎年、ヒマラヤ地域に植物調査隊を派遣し、新たな植物標本を収集するとともに、これまでに採集された未同定標本についても、標本整理会を開いて、その同定作業を進めてきた。これらの作業を通して、ネパール産のスゲ属植物80種、ヒゲハリスゲ属植物26種が標本ベースで確認された。

Carex condensata Nees, *Carex jakiana* Boott, *Carex longipes* D. Don var. *nepalensis* (Spreng.) Boott, *Carex remota* L. subsp. *stewartii* Kukkonen, *Kobresia clarkeana* (Kuk.) Kuk., *Kobresia filicina* (C.B. Clarke) C.B. Clarke の6種はネパール新産として *Newslette of Himalayan Botany* No.45 に報告した。また、*Carex henryi* (C.B. Clarke) K.T. Fu については Yano et al. (2013) において、ネパール新産報告と同時にレクトタイプの選定を行った。

今後は、このリストをもとに Flora of Nepal のスゲ属およびヒゲハリスゲ属植物部分のドラフト作成を目指す。

イグチ目を主とするシクエストレート菌の分類、進化、および系統地理学的研究

〔研究の種類〕 博物館基礎研究 (個別研究)

〔研究期間〕 2011～2013年度 (3年計画の3年目)

〔研究担当者〕 折原貴道

〔研究内容〕

目的: シクエストレート菌 (トリュフを始めとした、胞子を能動的に射出しない被実性のきのこを形成する菌類) は担子菌・子囊菌の両門の多くの系統で収斂的に多様化しているグループである。中でも、担子菌類のイグチ目はシクエストレート菌の多様性が特に高く、これらの菌の多様性や進化プロセスを探る上で重要なグループである。本研究では、特にイグチ目イグチ科を主な対象に、形態的・生態的特徴および複数 DNA 領域を用いた分子系統解析結果

を基に、これらの菌の分類および系統関係の解明を試みた。さらに、解析により新たに見出された系統における形態形質の進化や系統地理についての発展的考察を試みた。方法: イグチ科のシクエストレート菌と地上生イグチ類を国内外でサンプリングし、子実体組織から核およびミトコンドリア DNA 計5領域 (nuc-ITS/LSU rDNA, EF-1 α , mt-SSU rDNA, ATP6) のシーケンスを得た。各領域の単独もしくは結合データセットから、ベイズ推定および最尤法による系統樹および NeighborNet 法による系統ネットワークを作成した。一部のデータセットについては Mesquite v. 2.75 (Maddison & Maddison, 2011) を用いて子実体形態の祖先形質推定を行った。同時に、対象としたシクエストレート菌の形態学的検討を常法に従い行った。

結果・考察: これまで全世界から約15種、国内からはわずか1種が知られていたホシミノタマタケ属 (*Octaviania*) を対象に、日本国内の標本を中心に系統分類学的検討を行った。その結果、国内から12の種レベルの系統が新たに見いだされ、そのうち11の系統を新種として発表した。また、本属内に3つのクレードが含まれることが明らかになり、2つの新亜属を設立したほか、北米産の1種に対して新置換名を提案した (Orihara et al., *Persoonia* 28: 85?112, 2012)。また、ホシミノタマタケ属と同じく地上生のヤマイグチ属菌に近縁なシクエストレート菌の属である *Rossbeevera* T. Lebel & Orihara を新たに設立し、本属菌として3新種1新組み合わせをこれまでに提案した (Lebel et al., *Fungal Diversity* 52: 49?71, 73, 2012; Orihara et al., *Mycotaxon* 120: 139?147, 2012)。さらに、これまでに行った複数の系統解析により、上記分類群の他に、5つの属レベルの未知系統、1つの日本新産属、およびそれらに伴う複数の種・亜種レベルの未知系統がイグチ科内で確認された。上記6つの属レベルの系統は互いに単系統ではなく、イグチ型の菌からシクエストレート菌へと並行進化したものであると考えられた。現在、これらの菌についても系統学的・分類学的検討を進めているところである。

南フィリピン海パレスベラ海盆における海洋コアコンプレックス形成末期に産する深成岩類の岩石学的研究

〔研究の種類〕 博物館基礎研究 (個別研究)

〔研究期間〕 2012～2013年度 (2年計画の2年目)

〔研究担当者〕 山下浩之

〔研究内容〕

ゴジラメガマリオンに産する斑れい岩類の岩石学的研究は2003年度より開始した。2012～2013年度は活動末期に生成した斑れい岩類に焦点を絞り、記載岩石学的、鉱物学的、地球化学的特徴を明らかにした。これにより、ゴジラメガマリオンの斑れい岩類に関する岩石学的記載はほぼ完了し、すべての成果をまとめるとともに、斑れい岩類の生成過程を解明し、学位論文として横浜国立大学環境情報学府に提出した。本報告では、2012～2013年度で実施した、ゴジラメガマリオンの活動末期に生成した斑

れい岩類（生成年代は 8.4Ma; Tani et al., in preparation）についての岩石学的研究成果を報告する。

【記載岩石学的特徴】ゴジラメガムリオンの斑れい岩類は、トロクトライト、カンラン石斑れい岩、斑れい岩、ホルンブレンド輝石斑れい岩、輝石ホルンブレンド斑れい岩、ホルンブレンド斑れい岩、トロニウム岩に区分され、この順に初生的であった。ゴジラメガムリオンの活動初期はより初生的な、活動の後期では分化した斑れい岩が多く見られたが、今回の対象である活動末期ではホルンブレンド輝石斑れい岩などのやや初生的な斑れい岩類が再び確認された。

【鉱物学的特徴】斑れい岩類に含まれる斜長石の An 値は、同じ種類の斑れい岩であっても、活動初期で高く、年代を経るにつれ徐々に低くなる傾向が見られたが、活動末期では再び高くなる傾向が見られた。この解釈として、活動の末期で再びマグマ量が増えたことが予測された。

【斑れい岩類の生成】熱力学計算に基づく結晶分化作用モデル化プログラム“MELTS”を用いて斑れい岩類の生成過程を考察した。その結果、活動末期では、玄武岩組成に H₂O を 0.02 wt.% 加えた組成の 1120 °C 程度の crystal accumulation で輝石ホルンブレンド斑れい岩が生成し、その残液、もしくは H₂O を 0.5 wt.% 加えた組成の残液でホルンブレンド輝石斑れい岩および輝石ホルンブレンド斑れい岩が生成することが判明した。

【形成史に関する議論】活動末期の斑れい岩類は、斜長石の An 値が活動の中期とほぼ同じであること、記載岩石学的にやや初生的な斑れい岩を産することで特徴づけられる。この解釈として、活動の末期ではメルト量が増え、火成活動が活発化した可能性が高い。以上をまとめると、ゴジラメガムリオンは、メルト量が徐々に欠乏して終焉を迎えるのではなく、最後に火成活動が活発化して終焉を迎えたと考えられる。

底生・浮遊性有孔虫の安定同位体組成に基づく日本海の古海洋環境の復元

【研究の種類】博物館基礎研究（個別研究）

【研究期間】2012～2013 年度（2 年計画の 2 年目）

【研究担当者】石浜佐栄子

【研究内容】

日本海は周囲を浅い海峡で囲まれていることから、第四紀後半には汎世界的な海水準変動の影響によって、劇的な海洋環境の変化を受けている。特に最終氷期極相期（LGM）には、約 120 m にもおよぶ海水準の低下によって日本海がほぼ閉塞され、表層水の低塩分化による鉛直循環の停止と底層の強還元環境化が起こったと推定されている。現在の日本海は、対馬暖流の流入と、対馬暖流を起源とする日本海独自の底層水（日本海固有水）の存在が特徴的であるが、過去の海水準変動はこの対馬暖流の強弱や日本海固有水の形成にも影響を及ぼしてきたと考えられる。

有孔虫は、水塊の変化を反映して群集が変化し、また殻の炭酸カルシウム中に当時の海水組成の情報を記録し

ていることから、海洋環境の復元に有効である。これまで、日本海における有孔虫殻の同位体比に関する研究は数多く行われてきたが、最終氷期以降の変動に焦点を当てた研究事例が多く、10 年以上の長期にわたって底生・浮遊性有孔虫の双方を対象に研究を行った事例はあまりない。また従来の研究では、最終氷期極相期（LGM）に相当する TL2 層に底生有孔虫は産出しないとされ、同位体比の報告も存在しなかった。近年では、メタン湧出域でわずかに産出する TL2 層中の底生有孔虫から負の同位体比異常が報告され、大規模なメタン湧出やハイドレートの分解イベントとの関連も示唆されているものの（竹内ほか, 2007; 中川ほか 2009; 鈴木, 2010）、詳細はまだ明らかになっていない。

今回、日本海東縁の上越沖および西津軽沖の 3 本のコア（MD179-3312, 3304, 3326G; 2010 に行われた MD179 Japan Sea Hydrates cruise において採取）に含まれる浮遊性・底生有孔虫殻の酸素・炭素同位体組成変動から、過去 13 万年にわたる長期的な表層および底層の環境変動を復元した。これまでほとんど報告例がなかった LGM における底生有孔虫殻の同位体組成についても、水深 325 m（MD179-3326G）と 896 m（MD179-3304）の 2 地点で変動を明らかにすることができた。日本海では、海水準変動に伴って対馬暖流や東シナ海沿岸水・沖合水の流入の強度が変化し、それに伴って日本海固有水の形成や鉛直循環が影響を受け、表層および底層環境が変動してきたことが分かった。また、メタン湧出域に特徴的な底生有孔虫 *Rutherfordoide cornuta* の存在や、有孔虫殻の短期的な炭素同位体比の負異常から、LGM 周辺の時期には短期的なメタン放出イベントが起こった可能性が示唆された。なお成果の一部については、Ishihama et al., 2014 (Journal of Asian Earth Sciences, doi: 10.1016/j.jseas.2013.12.020.) において発表済である。

神奈川県におけるコウモリ類の分布について

【研究の種類】外来研究員による研究

【研究期間】2013 年度（1 年計画）

【研究担当者】山口喜盛

【研究内容】

丹沢山地の札掛と足柄山地の大雄山、他県では山梨県の奥秩父で調査を実施した。

調査にはハーブトラップとカスミ網を使用し、捕獲した個体は種を同定、計測して放野した。捕獲調査は環境省と神奈川県および山梨県より許可を得て行った。

結果は、札掛ではコテングコウモリとコキクガシラコウモリ、大雄山ではモリアブラコウモリ、ユビナガコウモリ、ヒナコウモリを確認した。札掛はコテングコウモリが頻繁に捕獲されたが、コキクガシラコウモリは 1 頭だけの記録であった。他の種も生息している可能性があるため、今後も調査を続けていきたい。モリアブラコウモリは環境省レッドリスト絶滅危惧 I B 類に指定されており、神奈川県では過去に箱根で 1 例あるのみの希少種。今回は 3 月に複数

頭を捕獲したため、当地が集団越冬地になっている可能性が高い。確認例がきわめて少ない種なので、今後も調査を続けていきたい。ヒナコウモリは一晩に 25 頭捕獲されることもあり、多数生息しているものと思われる。

奥秩父ではコウモリ類の垂直分布を明らかにするため、標高 500m 付近から 2400m 付近で捕獲調査を行った。ヒメホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、モモジロコウモリ、コテングコウモリが記録された。今後もデータの蓄積を進めたい。

酒匂川流域における両生類の分布調査

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1 年計画）

〔研究担当者〕 長谷川嘉則

〔研究内容〕

私は過去数年間に於いて、酒匂川流域におけるトウキョウダルマガエル集団またはツチガエル集団の形質を調べるために分布調査を行ってきた。その結果、ツチガエルにおいては数地点に於いて生息が確認出来たが、個体数の多い集団を見つけることは出来なかった。また、トウキョウダルマガエルについては静岡県駿東郡においては数地点に於いて生息個体数の多い地点を確認出来たが、酒匂川流域においては平野部から最上流域に至るまで一箇所も生息を確認することが出来なかった（長谷川、2010, 2011, 2012, 2013）。つまり、酒匂川流域において形態計量形質を調べられるような集団を確認出来ていない。そこで、本地域においては、両生類の生息調査を行い、生息場所を記録に残しておく事が最優先事項であると考え、分布調査を継続して行なっている。

2013 年 7 月上旬に調査を行い、目視および鳴き声による確認を行った。その結果、アマガエル、ツチガエルの新たな生息地を確認した。

1. 1. 秦野市落合の水田 — アマガエル多数、ツチガエル、
2. 2. 秦野市堀西の水田 — アマガエル多数、

また、本調査は水田の両生類の調査を目的としているので、カジガエルについては生息域を丹念に調べてはいないのだが、調査中に

1. 3. 南足柄市酒匂川上流において、カジガエルについて目視および鳴き声によって、個体を 5 匹確認する事が出来た。本種は本調査での初めての確認である。

以下の地点では、昨年と同種の両生類を確認出来た。

1. 4. 中井町藤沢の水田 — アマガエル多数、ツチガエル、

今年は、初めてカジガエルを確認、ツチガエルの新たな生息地点を確認出来た。しかし、トウキョウダルマガエルは本年においても一個体も確認することが出来なかった。引き続き調査を行い、個体数の動向や、新たな生息地点の記録を行っていく。

ウシガエルが消化していたカエルの解析

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1 年計画）

〔研究担当者〕 丸野内淳介

〔研究内容〕

広島県東広島市の広島大学構内に生息するウシガエルから採集した胃内容物の一部に含まれるカエルのうち、頭胴部の残る 2 個体は肩甲骨の形態からニホンアカガエルと考えられた。検索表は下記のようになるか検討している。

- (1) 肩甲骨の内側、鎖骨との接合部の背側が

①二又している。 → ニホンアマガエル

②二又しない。 → (2) へ

- (2) 肩甲骨の両端、鎖骨と上肩甲骨との接合部の幅は肩甲骨全長の

① 1/4 程度。 → シュレーゲルアオガエル

② 1/3 程度。 → (3) へ

- (3) 肩甲骨は軟骨の部分が

①多い。 → ヌマガエル、トノサマガエル幼体

②少ない。 → (4) へ

- (4) 肩甲骨の後縁部の湾曲が

①大きい。 → トノサマガエル成体

②小さい。 → ニホンアカガエル

アメリカザリガニ生息地におけるアカハライモリの負傷状況の調査

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1 年計画）

〔研究担当者〕 丸野内淳介

〔研究内容〕

2012 年にアメリカザリガニの生息情報を得た広島県のアカハライモリの生息地で 2012 年 12 月 30 日の夜間にアカハライモリとアメリカザリガニを採集し、アメリカザリガニが生息していなかった時期の状況と比較した。

採集されたアメリカザリガニは成体 20 個体、幼体 5 個体であった。採集されたアカハライモリは雄 33 個体中 31 個体 (93.9%)、雌 11 個体中 8 個体 (72.7%) が頭部、四肢、尾部のいずれかを負傷していた。また、採集中にアカハライモリの死体を食っているアメリカザリガニを目撃した。

これに対し、アメリカザリガニが生息していなかった 2001 年 12 月の採集調査では、負傷に基づくと考えられる身体の異常はアカハライモリの雄 198 個体中 6 個体 (3.0%)、雌 46 個体中 0 個体 (0.0%) で見られた。

アメリカザリガニの存在によりアカハライモリの負傷率が増加するものと考えられた。

伊豆諸島—小笠原群島間における浅海性魚類の生物地理学的研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1 年計画）

〔研究担当者〕 栗岩 薫

〔研究内容〕

南北に長く伸びる日本周辺海域の浅海性魚類相は世界的に見ても特異である。その理由は、沿岸を流れるいくつかの海流によって寒帯・温帯・亜熱帯および熱帯性という

異なる起源をもつ種群が併存すること、そして内海である日本海、開けた太平洋、大陸棚上の琉球列島、一度も大陸と陸続きになったことのない海洋島など、多様な地理的環境が存在することにある。こうした南日本の浅海性魚類の多様性を知る上で重要な海域の一つが、伊豆諸島から小笠原群島にかけての海域である。この海域では、北部では本州沿岸を東進してきた強大な黒潮が大蛇行し、フィリピンや琉球列島から亜熱帯・熱帯性魚類を、本州沿岸から温帯性魚類をそれぞれ運んでくる一方、南部ではマリアナ弧から伊豆・小笠原弧を経由して太平洋上の魚類が移住・分散してくると考えられている。この海域の魚類相は、伊豆大島、八丈島、小笠原で詳細な報告があるものの、約 713km にもおよぶ八丈島 - 小笠原間の海域については空白のままであった。

本研究では、1) 伊豆諸島と小笠原群島間に存在する無人島群、豆南諸島の魚類相を初めて明らかにすること、2) ハタ科アカハタを用いた生物地理学的研究を行うこと、この二つから、当該海域の浅海性魚類の多様性を明らかにすることを目指した。

1) 豆南諸島の魚類相については、過去(2010 年および 2012 年)に行った二度の採集調査の結果をまとめ、調査で得られた 11 目 46 科 88 属 139 種 430 個体の標本について精査・同定を行い、標本写真(186 点)および調査の際に撮影した水中写真(99 点)を魚類写真資料データベースに登録した。現在、魚類相をまとめた論文を準備中である(Kuriwa, K., H. Arihara, S.N. Chiba, S. Kato, H. Senou and K. Matsuura, in prep.)。

2) アカハタを用いた生物地理学的研究では、mtDNA の cytochrome b 遺伝子および調節領域を含む約 2 kbp の配列を用いた系統解析および集団遺伝学的解析から、遺伝的に大きく分化した三つの種内系統、日本周辺海域を含む西部太平洋域に広く分布する“西部太平洋”系統・日本周辺海域で更新世に分化したと推定される“日本”系統・小笠原から高頻度で検出される未解明の系統、が存在することが明らかとなった。伊豆・小笠原海域では、南北両方向の分散・移住が推定され、その原因として、当該海域における黒潮の大蛇行に起因する仔稚魚の分散、伊豆・小笠原弧を伝っての移住が考えられた。これらの結果を論文にまとめ、国際誌に受理された(Kuriwa, K., S.N. Chiba, H. Motomura and K. Matsuura, 2014)。

神奈川県 RD 種の蝶類に関する調査研究—RD 種のうちのクロツバメシジミ、キマダラモドキの生息確認をする—

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度(1 年計画)

〔研究担当者〕 中村進一

〔研究内容〕

神奈川県内における蝶類のうち、RD 種(レッドデータ種)に選定されている種について、神奈川県内における寄主植物の確認など生態調査を行うとともに、生息状態の

現状把握に努め、その衰亡の要因について調査している。

なお、本研究の目的の 1 つであった神奈川県内の RD 種の選定については、2006 年に発行された「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」において、中村・高桑の連名で公表済みである。今後も、レッドデータブックの改訂を視野に入れて調査を進めたい。

2008 年前半に RD 種の 1 種クロツバメシジミの生息地が環境悪化との情報を得、視察に向かった。唯一、生息が近年まで確認されている地でも、植生の遷移により、被圧が原因と思われる食草となるツメレンゲの衰退が目立ちこのままではクロツの生息が危ぶまれる状況であった。

保全方法の一つにツメレンゲ自生地周囲の雑木の枝払い、周辺の背丈の高い草取りを行うこととし、その許可を管理する土木事務所に許可申請を行った。結果、2008 年 9 月 9 日に現地(ツメレンゲ生息地)で事務所関係者複数人と会い、目的と作業方法の説明をした。了解を得たので、10 月 26 日作業協力者と私の 2 人で前出の作業をし、ツメレンゲの育成助成をした。

結果、ツメレンゲの株は大きく育ち、株数も増えて、2009 年 4 月には、その自生地でクロツバメシジミの姿が確認された。しかし、その後、経過は芳しくなく 2009 年夏以降から 2010 年には私自身は確認していない。ツメレンゲも除々に大きな株は減り、株も全体に少なくなっている。これが、現在の状況で、まずは生息を確認することと環境整備をもう一度見直すこととし、昨年(2013 年)の春季と秋季に数回、当地を訪れ発生状況の確認作業をしたが、確認できなかった。

つぎに、本県では山梨県との県境付近にのみ生息するキマダラモドキの生息環境が近年悪化しているとの情報を得たので、その生息地の視察と環境整備を計画することとした。昨年(2013 年)は、該当種の確認ができていないので、今年は早急に生息確認をすることしたい。

神奈川県 RD 種の蝶類に関する調査研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2012 年度(1 年計画)

〔研究担当者〕 中村進一

〔研究内容〕

神奈川県内における蝶類のうち、RD 種(レッドデータ種)に選定されている種について、神奈川県内における寄主植物の確認など生態調査を行うとともに、生息状態の現状把握に努め、その衰亡の要因について調査する。これまでの研究で横浜市内における状況はほぼ把握できた(中村、2001、神奈川県報、(133): 1-53; 2003、神奈川県報、(144): 1-14)ので、今後は横浜市以外の地域を中心に調査を進めたい。

なお、本研究の目的の 1 つであった神奈川県内の RD 種の選定については、2006 年に発行された「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」において、中村・高桑の連名で公表済みである。今後も、レッドデータブックの改訂を視野に入れて調査を進めたい。つぎに、2008 年前半

に RD 種の 1 種クロツバメシジミの生息地が環境悪化との情報を得、視察に向かった。唯一、生息が近年まで確認されている地でも、食草となるツメレンゲの衰退が目立ちこのままではクロツの生息が危ぶまれるので、まずは食草保全をすることを思いついた。保全方法の一つにツメレンゲ自生地周囲の環境保全のため、雑木の枝払い、周辺の背丈の高い草取りを行うこととし、その許可を管理する土木事務所に許可申請を行った。結果、2008 年 9 月 9 日に現地（ツメレンゲ生息地）で事務所関係者複数人と会い、目的と作業方法の説明をし、了解を得たので、10 月 26 日作業協力者と私の 2 人で前出の作業をし、ツメレンゲの育成の作業を実施して助成をした。結果、ツメレンゲの株は大きく育ち、株数も増えて、2009 年 4 月には、その自生地でクロツの姿が確認された。しかし、その後、経過は芳しくなく 2009 年夏以降から 2010 年には私自信は確認していない。ツメレンゲも除々に大きな株は減り、株も全体に少なくなっている。それでも 2012 年には僅かな個体が確認されたが、発生時期に必ず確認される訳ではなく、危機的な個体群によって継続されていると考えられ絶滅危惧 I A 類のランクは変更できない。今後とも、その経過を継続的に観察しつつ、本種の確認に専念したいと思っている。

つぎに、本県では山梨県との県境付近にのみ生息するキマダラモドキの生息環境が近年悪化（雑木、灌木の繁茂により、林内空間の消失）しているとの情報を得たので、その生息地の視察と環境整備を早急に計画して、まずは、生息確認をすることを目的としたい。上記以外の絶滅危惧 I A ～ I B 類、情報不足種のホシチャバネセセリ、スジグロチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、ヒメシロチョウ、ムモンアカシジミ、キマダラツバメシジミ、シルビアシジミ、ホシミスジ、オオミスジなどは近年、生息を確認する情報がないので、視察を含め、聞き取り調査も実施したい。

ウマノオバチ (*Euurobracon yokahamae*) の産卵行動について (2)

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1 年計画）

〔研究担当者〕 加賀玲子

〔研究内容〕

・背景・目的

ウマノオバチ（馬尾蜂）*Euurobracon Yokahamae* は♀は 10 cm を超える産卵管を持ち、その特異な形態から古くから日本人の目を引く虫であった。しかしながら、詳しい生態は不明で、生活史、寄主についてもまだまだ未解明な部分が多い。本研究ではこれまで、本種の産卵方法について報告してきた。

「ウマノオバチの一産卵行動」加賀，2009 月刊むし (460) : 26-28, 「ウマノオバチの産卵行動」ポスター発表（日本動物行動学会 2011 : 慶応大学 加賀・日下部）

また、本種の寄主について、調査している栽培クリを害するカミキリムシに対しては、これまで言われてきたシロ

スジカミキリではなく、ミヤマカミキリであることを報告している。

これら 2 種カミキリムシは、幼虫の食行動が異なり、産卵選択木も異なる傾向にある。シロスジカミキリは直径 10 ～ 20 cm ほどの比較的若い樹勢の高い木を選択することが多く、産卵時に♀が樹皮及び形成層を傷つける産卵加工を行うことにより、木の治癒作用を引き出し、過剰に作られた形成層等の栄養価の高い部位を幼虫が摂食する。治癒作用により、産卵加工された部分は塞がり、周りの樹皮もしっかりしていることから、幹上から産卵管を突き立てる産卵方法ではなく、本体が寄主となる幼虫の坑道の中に侵入して行き、坑道内で反転して、産卵管先端部を寄主坑道内に残す産卵行動をとるウマノオバチにとって、シロスジカミキリはウマノオバチの寄主にはなり得ないと推測される。これに対しミヤマカミキリは直径 20 cm 以上の樹勢が高くない木を選択することが多く、幼虫は樹皮下と木部への穿孔を繰り返す。その結果、樹皮下に空間を作り、また、栽培クリの性質上、樹齢を重ねることにより、樹皮に割れ目や隙間を生じ、結果的にウマノオバチが寄主の坑道へ侵入することを容易にしている。

「シロスジカミキリの産卵加工の意味と幼虫の栄養摂取：シロスジマハは偉かった」（日本応用動物学会 2012 : 近畿大学 加賀・日下部・岩田）

「クリ畑において同所的に生息するミヤマカミキリとシロスジカミキリの動態と加害様式」（日本昆虫学会 2012 : 玉川大学 日下部・加賀）

「クリ畑におけるウマノオバチの産卵行動とその寄主について」（日本昆虫学会 2012 : 玉川大学 加賀・日下部）

本年度はクリ畑における、2 種カミキリムシの加害状況を木の太さと本数について計測・調査し、時間の経過によりどのように変化して行くかを観察する資料とした。またカミキリムシの生息状況の変化により、今後ウマノオバチの産卵・発生状況の変化を観察することにした。

・調査地・方法

8 月下旬奈野市・弘法山、名古屋のクリ畑において 110 本余りのクリの木に対して、地上高 30 cm の幹周りの太さと 2 種カミキリムシ幼虫の加害状況を記録した。カミキリムシ 2 種については、幼虫が木屑を排出しているもののみを判断の対象とし、シロスジカミキリの古い産卵加工痕などは対象外とした。なお、排出される木屑の形状により、2 種の区別は容易である。

・結果・考察

シロスジカミキリとミヤマカミキリの加害状況について、太さ（幹周り）と本数を「2 標本コロモゴロフ・スミルノフ検定」にかけた結果、同一母集団からの任意抽出集団であることが 5% で棄却された（未発表）。

このことにより、シロスジカミキリとミヤマカミキリは産卵選択木の条件が異なる傾向があることが確認され、クリ畑は、時間の経過により、シロスジカミキリ優勢の畑→シロスジカミキリとミヤマカミキリの同樹的生息→ミヤマカミキリのみ生息する畑へと変わって行くことが予想される。さ

らに、近年の農家の高齢化、省労力化に伴い、手入れや植え替えがなされず、放置されるクリ畑が増え、枝折れや枯れた木が増え、ミヤマカミキリも生息できない環境へと変化する可能性もある。

「ウマノオバチは横浜の名前はついていて、神奈川県では既にほぼ幻のハチである」（長瀬博彦，2004. ハチ目（アリ科を除く）. 神奈川昆虫談話会編，神奈川昆虫誌，pp. 1241-1326. 神奈川昆虫談話会，小田原）と言われた本種が2005年以降、クリ畑での目撃例が増えた要因として、本種の寄主であるミヤマカミキリの、自然林から人為的環境であるクリ畑への侵入があると思われる。今後、寄主となるミヤマカミキリの生息状況とともに、ウマノオバチの生息状況も変わって行くものと予想され、継続的に調査していく必要があると思われる。

引き続き、いろいろな角度から本種の産卵行動・生態の解明に迫りたい。

本州中部の変形菌相の研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1年計画）

〔研究担当者〕 矢野倫子

〔研究内容〕

本研究では、本州中部の特に採集記録が少ない石川県と静岡県に重点を置いて、変形菌相の調査を行っている。富士山では世界文化遺産に登録されたことによって、登山道以外の森林にも入り込む観光客が増えた。放置されるゴミ等も増えており、今後の自然環境の悪化が懸念され、現環境下での調査が急がれる。平成 22 年から 25 年までの表富士調査（静岡県側）では、低標高地ではあまり見ることが出来ない稀産種が多く確認された。今後は、いまだ確認出来ていない雪解け時季に発生する好雪性変形菌に焦点をあてた調査をし、平成 22 年からの採集記録と合わせて報告したい。

また神奈川県内各地での調査も徐々に進めており、真鶴半島では平成 24 年から 25 年にかけて計 5 回調査を行い、15 属 25 種（原生粘菌を除く）を確認した。その結果をまとめた論文「真鶴半島の変形菌相」は、神奈川県立博物館研究報告（自然科学）43 号に掲載された。この論文内容について、平成 26 年 3 月 9 日、日本変形菌研究会大阪研究大会（於：大阪市立自然史博物館）においてポスター発表を行った。平成 25 年度に行った調査は以下の通りである。

平成 25 年度の調査

1. 石川県産変形菌調査：平成 21 年からの能登、加賀地方の調査に続き、白山地方・津幡地方において平成 25 年 5 月から 9 月にかけて、計 5 回調査を行った。
2. 表富士変形菌調査：平成 22 年からの調査に続き、須走登山口、富士宮登山口などで平成 25 年 3 月から 11 月にかけて計 8 回調査を行った。
3. 静岡県天城山周辺国有林にて平成 25 年 7 月から 11 月にかけて計 5 回調査を行った。

4. 真鶴半島にて平成 25 年 7 月から 9 月まで 3 回調査を行った。

神奈川県産クロサイワイタケ目菌類に関する調査研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1年計画）

〔研究担当者〕 竹本周平

〔研究内容〕

クロサイワイタケ目クロサイワイタケ科カタツブタケ属所属の白紋羽病菌 (*Rosellinia necatrix*) に酷似した神奈川県産の未記載種について、詳細に分類学的検討を加えた。単一の子のう殻を含む球形で平滑な子座を、発達した菌糸層の上に形成する点などから、本種はカタツブタケ属のなかでも *Rosellinia* 亜属に所属することを明らかにした。類縁菌を交えた系統解析の結果、本種が *R. necatrix* に非常に近縁であることのほか、本種や *R. necatrix* などの植物病原性で分生子柄束型のアナモルフをもつ種群の単系統性が示された。

果実に生息するシンネマ形成性新規アオカビ類の探索

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1年計画）

〔研究担当者〕 中島淳志

〔研究内容〕

アオカビ類 (*Penicillium*, *Talaromyces*) にはペニシリンなど有用な二次代謝産物を産生する種が含まれることから、従来盛んに探索が行われてきた。しかし、その分離源は土壤にほぼ限られており、自然界での生態に着目した探索は意外にも皆無に近かった。これまでの研究で、植物の果実には、土壤由来の菌株では稀な、シンネマ（分生子柄束）という特殊な構造を形成するアオカビ類が多く見られる傾向が窺えた。本年度の研究では、特にミカン類の果実にシンネマを形成するアオカビ類に着目してサンプリングを行い、未知種の探索を試みた。

小田原市、横須賀市、京都府宮津市などでミカン、ナツミカン、キンカンなどの果実にシンネマを形成したアオカビ類を採集し、分離培養してコロニーの性状および顕微鏡的形質の形態学的検討を行うとともに、核 rDNA ITS 領域の塩基配列を決定した。

形態および DNA の相同性検索の結果に基づき、得られた 7 菌株のうち 4 菌株を *Penicillium italicum*、残りの 3 菌株を *Talaromyces cecidicola* と同定した。後者は米国に分布し、虫こぶに特異的に発生する種として知られているが、本研究では夏季に、腐朽が進んだミカンとキンカンの果実に多数の発生が確認された。本種のシンネマに関しては、果実の種類や寒天培地の種類によって形態が大きく変化し、顕著な屈光性を示すなど、未報告の現象が観察された。今後は、さらに広範な植物種の果実について、宿主ごとの種の多様性や偏りについての知見を蓄積すると

もに、シンネマの形態と生態的意義の関連性の解明を目指したい。

丹沢山地と伊豆半島の中新世の石灰岩より産出する化石群集から古環境を復元する

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1 年計画）

〔研究担当者〕 門田真人

〔研究内容〕

伊豆半島について

・伊豆松崎町の石灰岩より産出する熱帯性生物化石中に新種サザエ類化石 3 種を見出して共同研究（元中京学院大教授・富田進博士）しその成果を日本古生物学会誌にタイトル「Turbo (Gastropoda: Turbinidae) fossils from the Middle Miocene of Izu Peninsula, central Japan, including the description of three new species」で投稿した。受理されて Paleontological Research(Tomida & Kadota) (H26 年 4 月発行号) に掲載予定である。

・H24 年度に実施した「松崎町江奈石灰岩から産出する造礁サンゴ化石群」調査と上記巻貝類などを中心とした化石の特別展を 2 回開催した。

1. 西伊豆町堂ヶ島の加山雄三ミュージアムにて「熱帯の海から来た伊豆半島」―化石が語る大地の動き―を 3 月 29 日～5 月 6 日開催、伊豆化石研究会の協力を得て約 50 点の化石を展示した。静岡新聞、NHK 静岡テレビでニュース報道された。

2. 平塚市博物館において特別展「南の海で生まれた伊豆半島の化石」―太古の昔は熱帯の火山島だった!―を 10 月 8 日～11 月 24 日開催した。伊豆市と平塚市が友好都市関係にあり共催した。化石と岩石約 100 点を展示した。1 と 2 は伊豆半島ジオパーク推進機構など多くの後援を頂いて実施した。

3. 伊東市城ヶ崎海岸の大型タイドプール「大淀」に棲息する造礁サンゴについて地元ジオパークガイド協会と協力して調査を実施、5 種類を確認した。真冬には海水温 13 度まで下がる環境で 50 年以上にわたり存在する小さな群生は夏には海水浴で使用している。夏休みに第 1 回目のシュノーリングサンゴ探訪会を開催して 15 人の子供たちと保護者が参加した。

4. 西伊豆町と松崎町の山中に新たに石灰岩が露頭で見つかり伊豆化石研究会の協力を得て調査中である。サンゴ、

有孔虫、熱帯種サザエなどが見つかっているところから湯ヶ島層由来と考えられる。

丹沢山地について

・近年増加した局地的集中豪雨禍が箱根～丹沢にかけて頻発している。かつて存在し巡検案内に紹介した地学的遺産が観察不可能になって行く。それらのうち 5 カ所を重点的に探訪点検、状況によっては有志による整備対象として活動した。その活動に伴って新たに重要な露頭が見つかり、良い岩石、化石標本も採集できている。

神奈川の地学的観察サイトとしての確保を検討して行きたい。

神奈川県産ツキノワグマ頭骨の形態変異に関する研究

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1 年計画）

〔研究担当者〕 姉崎智子

〔研究内容〕

本研究は、神奈川県産ツキノワグマ頭骨の相対成長と形態変異を明らかにすることを目的とする。平成 24 年度は、神奈川県産のツキノワグマ頭骨 2 体より歯根のある小白歯を採取し、レプリカを作成した上で、セメント質年輪査定法により、ツキノワグマの年齢査定を実施した。その結果、KPM-NF1004217 は、3 歳、KPM-NF1004218 は 5 歳と査定された。また、KPM-NF1004486、KPM-NF1004421、KPM-NF1002706 よりそれぞれ小白歯を採取し、年齢査定の準備を行っている。頭骨の計測を行うとともに、群馬県産のツキノワグマとの比較を行う。

神奈川県におけるムササビの分布状況の変化

〔研究の種類〕 外来研究員による研究

〔研究期間〕 2013 年度（1 年計画）

〔研究担当者〕 青木雄司

〔研究内容〕

2003 年から 2005 年にかけて神奈川県内のムササビ分布を調査し、「神奈川県におけるムササビの分布」として発表した。

調査から約 10 年後に経ち、ムササビ分布（特にムササビ分布の最前線）がどのように変化したのかを調査する。

平成 25 年度は、文献調査および調査計画作りを行った。

4.2. 研究成果（外部資金助成・共同研究等）

博物館が教室へやってきたー標本で学ぶ生きものの形と進化ー

〔助成金の種類〕平成 25 年度全国科学系博物館活動等助成

〔課題番号〕13109

〔研究期間〕2013 年度（単年計画）

〔研究組織〕加藤ゆき(研究代表者)・広谷浩子(研究分担者)

〔研究内容・成果〕

小中学校の理科では生きものの形のしくみや進化を学ぶ単元がある。実際の標本を使って解説すると、イメージを抱きやすくなり、より分かりやすい授業を進めることができると考えられる。しかし、学校では解説用の標本を用意することがむずかしいため、標本を多数収蔵している自然史系博物館がその点を支援することは大変重要と考える。

本研究は、標本を使った出張授業、教師用授業テキスト・教材の作成、貸出標本セットの充実を図ること、そしてそれらを活用した効果的な支援の形を探り、学校との連携を強めることを目的として実施した。

夏季に実施した教員を対象の講座では、実際に標本を利用した授業案を受講生に提示し、その問題点や応用的活用について検討を行い、授業用テキストを試作した。

次の段階として、学芸員による小学校での出張授業を行った。これは、小学 4 年生での学習単元「ヒトの体のつくりと運動」の授業が終了する 10 月初旬から 1 月初旬にかけて行った。実施校は秦野市立南ヶ丘小学校、伊東市立伊東小学校、箱根町 私立函嶺白百合学園初等部の 3 校で、授業用テキストにもとづいて、標本を提示しながらすすめた。

この出張授業の結果をもとに、授業内容を見直し、教員自身による授業展開が可能なようにテキストを作成した。テキストは生徒用と教員用のものを用意し、生徒用のものについては授業時に配布できるよう印刷をした。教員用のものについては、DVD で用意したほか、希望者には博物館でカラー印刷をしたものを配布した。また、講座や授業時に教員から強く要望のあった貸出用の哺乳類の頭骨セットを整備した。

5. 施設概要

5.1. 土地・建物

[土地概要]		
	本館	連絡橋 EV 棟
所在地	小田原市入生田 499 番地	
敷地面積	22,460.90 m ²	153.60 m ²
地目	宅地	宅地
用途	無指定（一部住居地域）	住居地域
建ぺい率	70%（住居 60%）	60%
容積率	400%（住居 200%）	200%
現況	国道一号線と早川とはさまれ、交通の便、自然環境ともに恵まれた位置	
[建物概要]		
	本館	連絡橋 EV 棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り	鉄筋コンクリート造り
規模	地下 1 階地上 4 階建て	地上 2 階建て
建築面積	8,218.11 m ²	30.97 m ²
延床面積	19,020.14 m ² (地下駐車場 4,800.14 m ² 含む)	43.86 m ²
最高高さ	23.25 m	
[各階別面積]		
	面積	主要室
地下 1 階	5,852.14 m ²	駐車場・機械室等
1 階	7,427.00 m ²	エントランスホール・SEISA ミュージアムシアター・常設展示室・特別展示室・収蔵庫・講義室等
2 階	2,166.00 m ²	ミュージアムライブラリー・事務部門等
3 階	3,017.00 m ²	常設展示室・ジャンボブック展示室・レストラン・実習実験室等
4 階	506.00 m ²	機械室等
塔屋	52.00 m ²	
合計	19,020.14 m ²	
[用途別面積]（本館）		
エントランススペース	984.00 m ²	
展示スペース	5,075.00 m ²	
学習スペース	867.00 m ²	
収蔵スペース	1,433.00 m ²	
研究スペース	804.00 m ²	
管理・その他	5,057.00 m ²	
地下駐車場	4,800.14 m ²	
合計	19,020.14 m ²	

[建物仕上げ] 外部（本館）	
外部仕上げ	
屋根	(勾配屋根) カラーステンレス (陸屋根) アスファルト防水下地押えコンクリート
外壁	御影石ジェットバーナー仕上げ・二丁掛け磁器質タイル及びカラーアルミタイル張り
建具	カラーアルミサッシ・ステンレスサッシ・スチールサッシ
[建物仕上げ] 内部（本館・主な箇所のみ）	
エントランスホール	
床	御影石ジェットバーナー仕上げパターン張り
壁	大理石本磨き及びカラーアルミパネル張り
天井	カラーアルミ吸音パネル
展示室	
床	カーペットタイル敷
壁	PB下地ガラスクロスEP
天井	メッシュ天井
シアター	
床	カーペットタイル敷
壁	銘木練付けCL及び有孔ケイカル板張り
天井	繊維強化石膏ボード貼り
収蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ下地エポキシ樹脂塗り
壁	コンクリート下地吹きつけコート
天井	デッキプレートOP
[設計・施工]（本館）	
設計	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)丹青社
造成	中野設計工務(株)
施工監理	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)日本科学技術振興財団
造成	中野設計工務(株)
施工	
建築	清水・小田急・渡辺・田中特定建設工事共同企業体
電気	東芝プラント・安部・増子特定建設工事共同企業体
空調	トーヨー理研・ナミレイ・新陽特定建設工事共同企業体
衛生	ダイセツ・トウカイ特定建設工事共同企業体
昇降機	(株)日立製作所
展示	(株)丹青社
造成	(株)杉山組・(株)若林組・箱根建設(株)・(株)加藤組 (株)吉沢組・日本鋼管工事(株)・(株)秋山組
外構	土谷建設(株)、(有) 菊原建設
植栽	(株)加藤造園・(有) 深谷造園・栄立造園土木・緑栄造園 土木特定建設工事共同企業体
工事期間	
建築工事	平成 4 年 10 月 10 日～平成 6 年 12 月 20 日
展示工事	平成 4 年 10 月 10 日～平成 7 年 3 月 1 日
[設計・施工]（連絡橋 EV 棟）	
設計・施工	中野設計工務株式会社
建築	内田建設(株)
電気	(有) 昭栄社
昇降機	日本オーチスエレベーター(株)

5.2. 設備

5.2.1. 一般設備

[電気設備]		
電設 備	受配	受電電圧 3 相 3 線式 6.6kV 50Hz
	変圧器容量	2,175kVA (乾式モールド形)
	進相コンデンサー	327kvar
	高圧母線	5 系統
	低圧幹線	98 系統
自家発電設備	原動機	ガスタービンエンジン 360PS (48,738rpm)
	発電機	ブラシなし交流発電機 300kVA Pf0.8 (1,500rpm)
	起動方式	直流電動機起動式
太陽光発電設備	出力電気方式	三相3線式 210V
	公称出力	7.5KW
	システム構成	系統連携型
蓄電池設備	種類	シール形ポケット式アルカリ電池
	公称電圧	103.2V (86 セル)
	容量	350Ah (5 時間率)
	用途	受配電機器操作用・非常灯用
電話設備	交換機	デジタル交換機
	局線容量	16 回線 (12 回線実装)
	内線容量	160 回線 (144 回線実装)
電気時計設備	親時計	水晶発振式 (出力 2 回線)
	子時計	
	アナログ式	29 台
	デジタル式	5 台
ソーラー時計		1 台
駐車場管理設備	地下駐車場の満・空車表示	1 式
その他	身障者警報呼出表示装置・避雷針設備・ インターホン設備・テレビ共聴設備	
[空調設備]		
空調方式	中央式 定風量 (CAV) 単一ダクト方式	
	中央式 各階ゾーンユニット方式+2 管式 FC ユニット併用方式	
	パッケージ式個別空調方式 (特殊用途室)	
熱源機器	ガス吸収冷温水機 200RT	3 台
空調機等	ユニット型空調機	16 台
	ファンコイルユニット	50 台
	ビルマルチエアコン	38 台
	パッケージエアコン	7 台
換気設備	第 1 種及び第 3 種	給気ファン 7 台 排気ファン 43 台
自動制御設備	中央監視装置 1 式	
[衛生設備]		
受水槽	75 t	
雨水槽	300 t	
中水槽	28 t	
中水処理装置	5t/h 1 台	1 台
加圧給水 ポンプユニット	540 ℓ/min	1 組 (上水用)
加圧給水 ポンプユニット	1,470 ℓ/min	1 組 (中水用)
汚水ポンプ	300 ℓ/min	2 台
雑排水ポンプ	300 ℓ/min	2 台
雨水ポンプ	1,000 ℓ/min	6 台
雨水ポンプ	200 ℓ/min	2 台
湧水ポンプ	200 ℓ/min	2 台
ガス設備		
地下 1 階に都市ガス (13A) を引き込み、ガス吸収冷温水機 レストラン、ともしびショップ等に供給		

[昇降機設備]		
1 号機	乗用(展望用車椅子仕様)	B1F, 1F, 2F, 3F 停止
	13 人乗り 45 m/min (電動式)	
2 号機	乗用(車椅子仕様)	B1F, 1F, 3F 停止
	11 人乗り 60 m/min (油圧式)	
3 号機	乗用(車椅子仕様)	1F, 3F 停止
	11 人乗り 60 m/min (油圧式)	
4 号機	荷物用	1F, 2F, 3F 停止
	3,000 kg 30 m/min (油圧式)	
連絡橋	乗用(車椅子仕様)	1F, 2F 停止
	11 人乗り 45 m/min (油圧式)	
エスカ	(1200 型・車椅子兼用)	1F ~ 3F
レーター	30 m/min (電動式)	
[防災設備]		
自動火災報知設備		
	受信機 P 型 1 級	70 回線
	防災連動制御盤	40 回線
	熱感知器・煙感知器 1 式	
消火設備		
	屋内消火栓 40 箇所	
	屋内消火ポンプユニット	140 ℓ/min 1 台
	屋外消火栓 6 箇所	
	屋外消火ポンプユニット	700 ℓ/min 1 台
	泡消火設備(地下 1 階駐車場)	
	薬剂量	600 ℓ
	泡ヘッド	696 個
	泡消化ポンプユニット	1,120 ℓ/min 1 台
	移動式粉末消火器(駐車場他)	9 台
	連結散水設備(地下 1 階部分) ヘッド数	12 個
	誘導灯設備(避難口・通路・階段)	165 台
ガス漏れ警報器 検知器	12 個 受信機 1 台	
非常用・業務用放送設備(非常用電源内蔵)		
	電力増幅器	360W 2 台
	電力増幅器	120W 2 台
	スピーカー	232 個
排煙設備		
	排煙機(廊下系統)	15,800 m ³ /h 1 台
	排煙機(一般系統)	38,000 m ³ /h 1 台
ITV 設備		
	本館監視用	固定カメラ 8 台
		可動カメラ 8 台
		モニターテレビ 17 型 4 台×2 箇所
	連絡橋 EV 監視用	固定カメラ 3 台
		モニターテレビ 14 型 3 台×2 箇所
[その他の設備]		
自動扉設備		
	エントランスホール等の出入口に設置 8 台	
自動散水設備(人工地盤植栽部分の灌水用)		
	東側前庭 8 系統・3 階テラス 11 系統	
カスケード設備(人工滝)		
	間口 24m 高さ 3m 水量 2.5 m ³ /min 照明付き	

5.2.2. 研究設備

[大型標本製作室]		
品名	型番（メーカー）	数量
ロケットリマー（岩石粉碎機）	(IWAMOTO)	1台
ジョークラッシャー（岩石粉碎機）	2002-EX（吉田製作所）	1台
大型岩石カッター（自動送り）	SC-14（ニチカ）	2台
中型岩石カッター	MC-442（マルトー）	1台
小型岩石カッター	MC-100（マルトー）	1台
旋盤	FS450A（TOYOAS）	1台
超音波洗浄器	B-62（Brainson）	1台
ふるい震とう器	NVS-200（C.M.T.）	1台
岩石研磨回転台	RP-5（マルトー）	2台
卓上帯のこ台	(PROXXON)	1台
遊星ボッド型ボールミル	LA-P04（伊藤製作所）	1台
解剖台		1台
[標本製作室]		
品名	型番（メーカー）	数量
マイクロカッター	MC-201（マルトー）	1台
自動メノウ乳鉢	(日本地科学社)	1台
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optipphoto2-Pol（ニコン）	1式
撮影装置付き双眼実体顕微鏡	SZH-10（オリンパス）	1式
プレパラップ（岩石薄片作成装置）	MG-300（マルトー）	1台
プランボール（精密研磨台）	Planopol-V（Struers）	1台
ディスコプラン（岩石切断研磨装置）	Discoplan-TS（Struers）	1式
エポバック（岩石試料作成用真空装置）	Epovac（Struers）	1式
真空装置	G-50S（真空機工）	1式
自動染色装置	DRS-601（サクラ精機）	1台
ミクロトーム	HM340（カールツァイス）	1台
パラフィン伸展器	PS-52（サクラ精機）	1台
パラフィン溶融機	(アルプ)	1台
荷重計測器	FGS-50V-L（日本電産シンボ）	1式
デジタルフォースゲージ	FGX-R20, FGC-10（日本電産シンボ）	2台
デジタルマイクロスコープ	VHX-900（キーエンス）	1台
透過型/反射式微分干涉顕微鏡	BX50-33-DIC、BX51（オリンパス）	2台
位相差顕微鏡	BX50-33-PHD（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	SZX12（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	SZ61-1（オリンパス）	5台
デジタル顕微鏡撮影装置	DP-12（オリンパス）	1台
実体顕微鏡および描画装置セット	SMZ-10A（ニコン）	1式
ツルグレン装置	B-1（伊原電子工業）	1台
植物標本乾燥機	(入江製作所)	1台
燐蒸器	(特許理化興業)	1台
ドラフト	(ダルトン)	2台
ビデオマイクロスコープ	VMS-70（SCALAR）	1台
[化学分析室]		
品名	型番（メーカー）	数量
精密天秤	RC210P（Sartorius）	1台
化学天秤	Laboratory LC4200S（Sartorius）	1台
免震台		2台
全自動蒸留水製造装置	GSR-200（Advantec）	1台
ビードサンブラー	NT-2100（東京科学）	1台
ピストシリンダー型高圧発生装置	A1型（トライエンゼニアリング）	1式
マッフル炉	STR-11K（ISUZU 製作所）	1台
乾燥機（Dry Oven）	ANS-111S（ISUZU 製作所）	1台
超音波洗浄器	UT53N（SHARP）	1台
エアコンプレッサー	PA800S（日立製作所）	1台
電気泳動装置	Bio-Rad 他	1式
サブマリン型電気泳動装置	Mupid-exU（アドバンス）	1式
凍結乾燥機	VD-31 他（TAITEC 他）	1式
限外濾過器	XX80（MILLIPORE）	1台
HPLC 装置	PU-980 他（日本分光）	1式
吸光光度計	MPR・4Ai（TOSOH）	1台
アルミブロック恒温槽	DTU-1B（TAITEC）	1台
冷蔵庫	SMR-120YAG（SANYO）	1台
遠心分離機	CFS-300, CFA-12（IWAKI）	2台
マルチポイントスターラー	F-6A（TAITEC）	1台
ディープフリーザー	BFH-110（ESPEC）	1台
オートクレーブ	LBS-245（トミー精工）	1台
ボータブルクリーンベンチ	APC4 型（iuchi）	1台
乾熱滅菌器	DS-450（iuchi）	1台
サーマルサイクラー	TC-96GHbA（日本ジェネティクス）	1台
ドラフト	(ダルトン)	1台

[冷凍乾燥室]		
品名	型番（メーカー）	数量
大型冷蔵庫	ERA-Z30B	1台
中型冷蔵庫	RS-5203（日立フリーザー）	1台
インキュベーター	PCI-301（AS ONE）	3台
凍結乾燥機	RLE II（KYOWAC）	1台
[試料分析室]		
品名	型番（メーカー）	数量
蛍光 X 線分析装置	Primus II（リガク）	1式
試料固結装置（Briquetting Machine）	MP-35（島津製作所）	1台
走査型電子顕微鏡	JSM-5410LV（日本電子）	1式
金蒸着装置	JFC-1200（日本電子）	1台
臨界点乾燥装置	JCPD-5（日本電子）	1台
炭素蒸着装置	SC-701C（サンヨー）	1台
一眼レフデジタルカメラ（ボディ）	D70（ニコン）	1台
デジタルプロジェクター	V-1100Z（ブラス）	1台
[写真室]		
品名	型番（メーカー）	数量
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optipphoto2-Pol（ニコン）	1式
軟 X 線非破壊検査装置	CMB-2（ソフテックス）	1台
中判カメラ	Mamiya RB67（マミヤ）	1式
カラー撮影用照明	HMI-575（brnccolor）	2台
マクロ撮影装置	(オリンパス)	1式
一眼レフカメラ	F70, F90（ニコン）	2台
レンズ用デシケター		2台
紫外線撮影用レンズ	UV-Nikkor（ニコン）	1台
デジタル一眼レフカメラ	D1X（ニコン）	1式
フィルム用冷蔵庫	MR-18-H（三菱電機）	1台
暗室用具		1式
[化石ラボ]		
品名	型番（メーカー）	数量
コンプレッサー	(日立製作所)	1台
サンドブラスター	CH-4000（WULSUG）	1台
エアスクライパー（小型削岩機）	CP9361 他（Chicago Pneumatic 他）	4台
デンティストドリル	(Sverital)	2台
実体顕微鏡（エバーサイト付）	SMZ-2B（ニコン）	2台
集塵機	VF-5（AMANO）	2台
[実習実験室]		
品名	型番（メーカー）	数量
実習・研究用生物顕微鏡	CHT（オリンパス）	15台
偏光顕微鏡	LABOPHOTO 2-POL（ニコン）	7台
実習用実体顕微鏡	SZ40（オリンパス）	24台
透過型落射光顕微鏡	BX60F（オリンパス）	2台
ツルグレン装置		1台
エアサンプラー	LV-100（横河電機）	1台
[収蔵庫]		
品名	型番（メーカー）	数量
電気炉	MAX1200℃（石塚電気製作所）	1台
電気炉	MAX1500℃（石塚電気製作所）	1台
ボルトスライダー（トランス）	S-260-2X(200V)（Yamabishi Electoric）	1台
ボルトスライダー（トランス）	S-260-5X(200V)（Yamabishi Electoric）	1台
パワーコントローラー	(石塚電気製作所)	1式
パワーコントローラー	MODEL-SU（チノー）	1式
ロケットリマー（改）	A型IWAMOTO	1台
実体顕微鏡	SZH10（オリンパス）	1台
測微計測装置		1台
[学芸部]		
品名	型番（メーカー）	数量
夜間暗視スコープ	M-994（Litton Electric Devices）	1式
テレメトリー受信機	RX900（TELEVILT）	1台
テレメトリー受信機	FI-290MkII（ヤエス）	2台
実体顕微鏡	SZH10（オリンパス）	2台
実体顕微鏡	SMZ-10A（ニコン）	2台
実体顕微鏡	SZ61-1（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	ファールフォト EX（ニコン）	1台
[その他]		
品名	型番（メーカー）	数量
水中撮影写真機材	(ニコン / アンティス)	1式
骨格標本作成槽		1式
大型脊椎動物骨格標本作成用砂場		1式
携帯型 GPS	FG-0210（エンベックス）	3台
大型体重計	TRU・TEST SR2000（フジヤ商会）	1式

5.3. 面積表

[エントランススペース]			[収蔵スペース]		
室名		面積 (㎡)	室名		面積 (㎡)
エントランスホール		782	収蔵庫 1		1,260
	(救護室)	(15)	収蔵庫 2		77
	(幼児室)	(13)	液浸標本収蔵庫		96
	(ミュージアムショップ)	(26)	小計		1,433
	(ともしびショップ)	(35)			
	(ロッカー室)	(17)	[管理スペース]		
レストラン		202	室名		面積 (㎡)
小計		984	館長室		47
			第 1 会議室		42
[展示スペース]			第 2 会議室		42
室名		面積 (㎡)	管理課事務室		91
SEISA ミュージアムシアター		467	企画情報部事務室		83
1 階総合展示室		2,348	ボランティア・友の会事務局室		34
	(化石ラボラトリー)	(32)	学習指導員室		49
			司書室		39
3 階総合展示室		1,245	電話交換室		13
	(CPU ルーム)	(93)	更衣室		13
			警備員室		29
ジャンボブック展示室		581	(簡易宿泊室)		(14)
	(ジャンボブック編集室)	(45)	湯沸室		11
			総合案内員室		24
特別展示室		434	中央監視室		29
	(準備室 1)	(74)	機械室・電気室等		1,824
	(準備室 2)	(44)	倉庫		119
小計		5,075	トイレ		332
			搬入口スペース		70
[学習スペース]			その他(廊下・階段等)		2,166
室名		面積 (㎡)	小計		5,057
講義室		306			
	(講師控室)	(16)	[地下駐車場]		
			室名		面積 (㎡)
実習実験室		139	地下駐車場		4,800.14
ミュージアムライブラリー		302		(清掃作業室)	(32)
書庫		120		(トイレ)	(59)
小計		867		(機械室)	(34)
			小計		4,800.14
[研究スペース]					
室名		面積 (㎡)	カッコ内の数字は内数		
学芸員室		246			
共同研究室		39			
試料分析室		74			
化学分析室		44			
	(化学天秤室)	(5)			
クリーンルーム (1)		12			
クリーンルーム (2)		8	本館延床面積		19,020.14 (㎡)
標本製作室		173			
燻蒸室		11	連絡橋 EV 棟		43.86 (㎡)
乾燥室		9			
昆虫標本製作室		17			
冷凍乾燥室		39	総延床面積		19,064.00 (㎡)
大型標本製作室		72			
液浸標本製作室		13			
液浸標本準備室		13			
写真室		18			
暗室		16			
小計		804			

5.4. 平面図

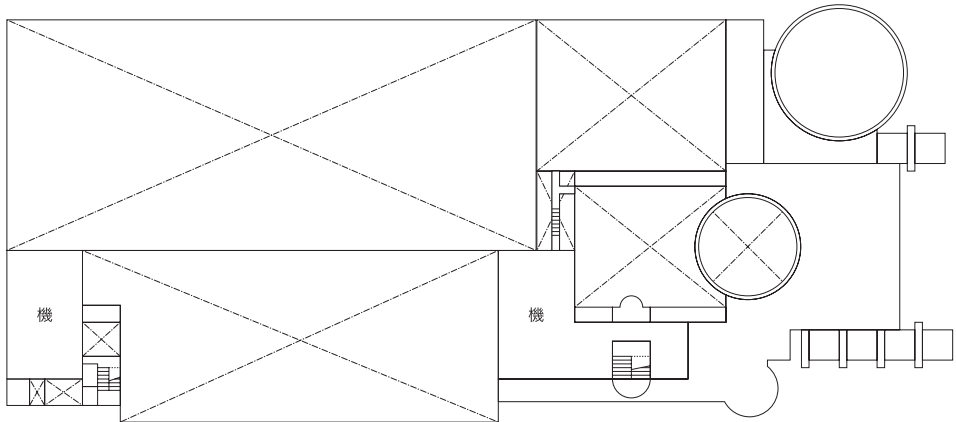


1 : 1,000 (図中の 1cm が 10m)

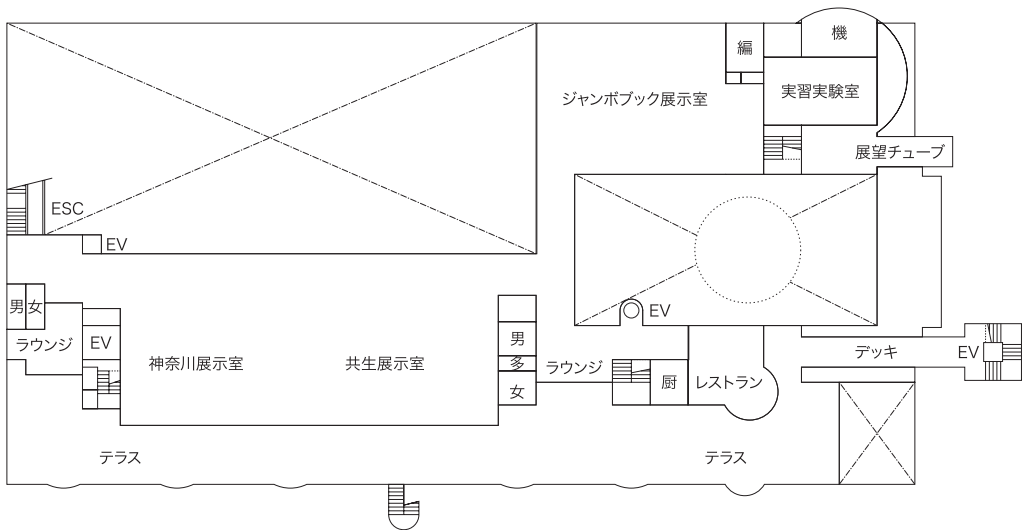
塔屋



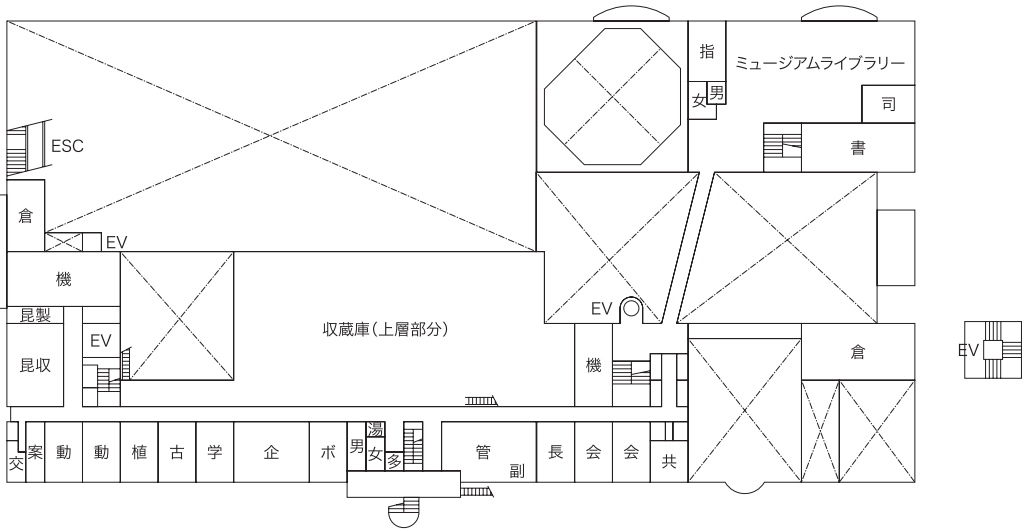
4F



3F



2F

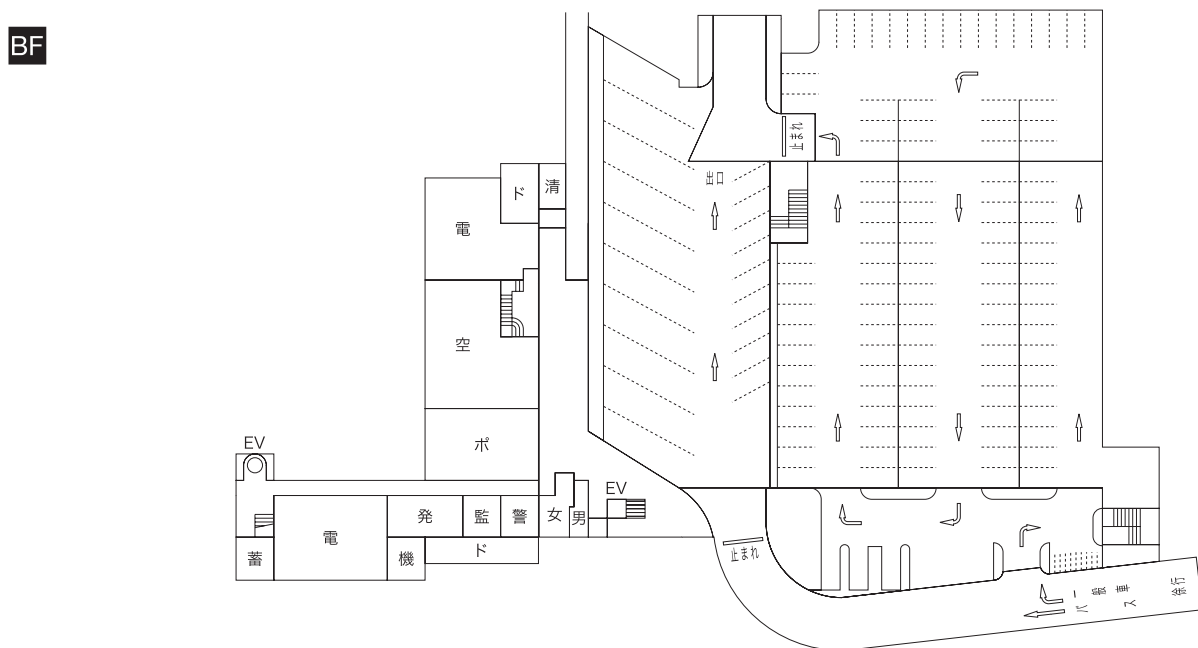
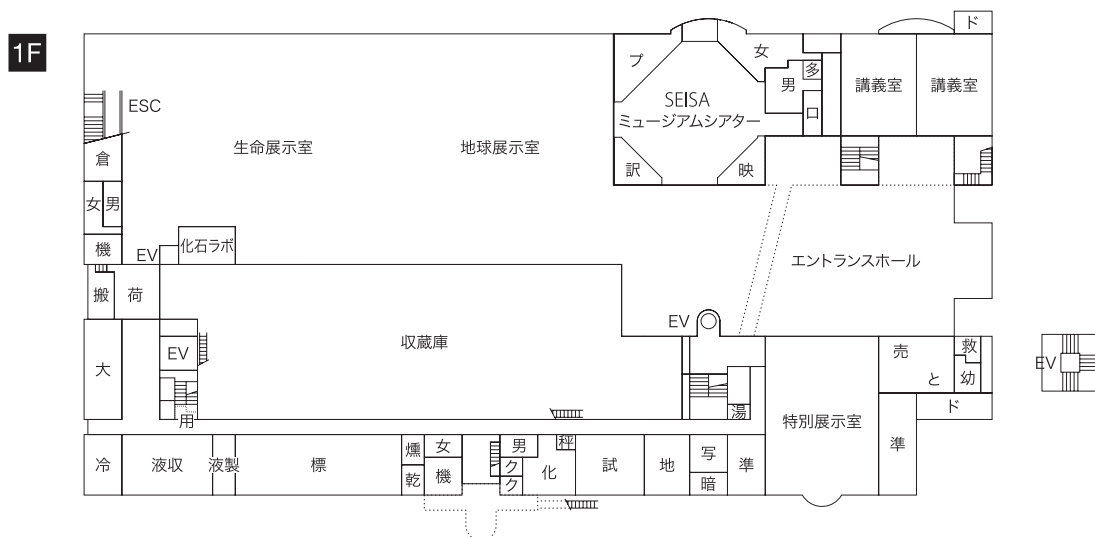


61,000 (mm)

121,000 (mm)



1 : 1,000 (図中の 1cm が 10m)



略字	フロア	室名
機	4 3 2 1 B	機械室
EV	3 2 1 B	エレベーター
男	3 2 1 B	男性トイレ
女	3 2 1 B	女性トイレ
ESC	3 2 1	エスカレーター
多	3 2 1	多目的トイレ
編	3	ジャンボブック編集室
厨	3	厨房
湯	2 1	給湯室
倉	2 1	倉庫
長	2	館長室
副	2	副館長
管	2	管理課
企	2	企画情報部室
学	2	学芸部長室
動	2	学芸部(動物)研究室
植	2	学芸部(植物)研究室
古	2	学芸部(古生物・博物館学)研究室
司	2	司書室
指	2	学習指導員室
案	2	総合案内員室
ボ	2	ボランティア・友の会事務局室
交	2	電話交換室

略字	フロア	室名
会	2	会議室
共	2	共同研究室
昆収	2	昆虫標本収蔵庫
書	2	書庫
昆製	2	昆虫標本製作室
ド	1 B	ドライエリア
地	1	学芸部(地球環境)研究室
売	1	ミュージアムショップ
と	1	ともしびショップ
救	1	救護室
幼	1	幼児室
ブ	1	プロジェクター室
訳	1	通訳室
映	1	映写室
ロ	1	ロッカー室
液収	1	液浸標本収蔵庫
搬	1	搬入口
荷	1	荷解室
大	1	大型標本製作室
標	1	標本製作室
液製	1	液浸標本製作室
冷	1	冷凍乾燥室
燻	1	燻蒸室

略字	フロア	室名
乾	1	乾燥室
化	1	化学分析室
秤	1	秤量室
ク	1	クリーンルーム
試	1	試料分析室
写	1	写真室
暗	1	暗室
用	1	調査用具倉庫
準	1	準備室
警	B	警備員室
監	B	中央監視室
清	B	清掃作業員室
電	B	電気室
発	B	自家発電機室
蓄	B	蓄電池室
空	B	空調機械室
ボ	B	ポンプ室

ご利用案内

開館時間

9:00 ～ 16:30 (入館は 16:00 までです。)

休館日

月曜日(祝日・振替休日にあたる場合は翌平日休館。また、夏季(7月19日～8月31日まで)は毎日開館します。)
館内設備点検の日(毎月の第2火曜日。ただし1月、2月については毎火曜日)
年末年始(12月29日～1月3日)

観覧料

下記表のとおりです。

このほかに、別途料金が必要な特別展を開催することがあります。

区分	個人	団体(20人以上)
20歳以上(学生を除く)	520円	410円
20歳未満・学生	300円	200円
高校生・65歳以上	100円	
中学生以下	無料	

20歳以上は平成26年4月1日より料金改正

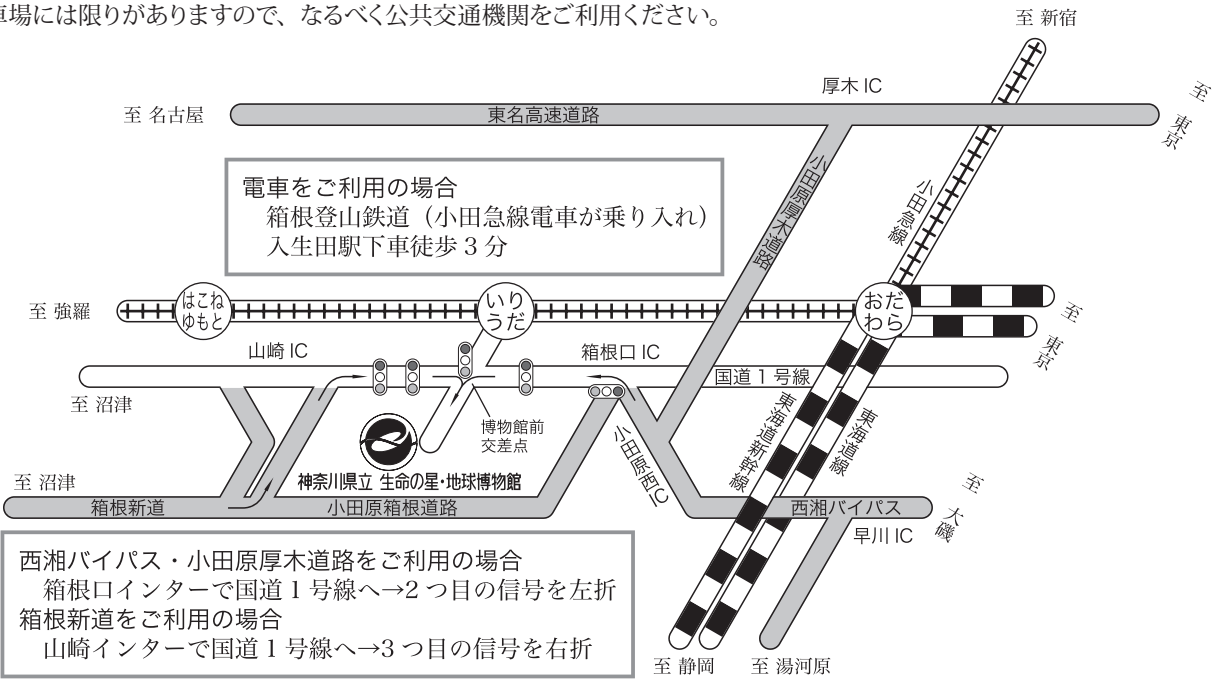
SEISA ミュージアムシアター

定時間帯に、観客参加型のインタラクティブクイズ映像を、上映しています。なお、博物館の基本テーマ「生命の星・地球」のガイダンス映像は上映装置の故障が生じたため、エントランスホールでDVDによる常時上映に切り替えて実施しています。

タイトル	通常期		春休み・夏休み・ゴールデンウィーク期間		
	第1回	第2回	第1回	第2回	第3回
生命の星・地球 奇跡の旅立ち	9:30～9:45	14:00～14:15	9:30～9:45	14:30～14:45	—
生命の星・地球 生命の輪舞	10:00～10:15	14:30～14:45	10:00～10:15	15:00～15:15	—
躍動する大地 花あふれる火の山 箱根	10:30～10:50	15:00～15:20	10:30～10:50	15:30～15:50	—
インタラクティブクイズ 怪人ネイチャーランドの挑戦	11:30～11:50	13:00～13:20	11:30～11:50	12:30～12:50	13:30～13:50

交通

駐車場には限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



神奈川県立生命の星・地球博物館年報 第19号(2013年度)

発行日 2014年11月21日
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 平田大二
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
電話 (0465)21-1515 FAX (0465)23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/>
印刷所 (有) 石橋印刷

編集担当 星野 進(管理課)・笠間友博(企画情報部)・山下浩之(学芸部)

Web版では8ページの「職員名簿」・39～45ページの「寄贈資料」について
氏名を一部省略しています